

勞者の榮譽を擔へる人であつた。

當主眞吉氏は先代庄左衛門氏の二男、明治十年二月五日に出生せる沈着温厚にして、質實明朗、高邁なる精神の持主にして君子的人物として其人格は村民の敬慕して止まざるものである。山形縣立莊内中學に學び、其明敏を稱せられた氏は推されて村長の重職に就き村政の改善發展に敏腕を揮ひ頗る功績あり。また郡會議員として地方自治、産業に貢献寄與せる處少からざるものがあつた。氏は元來民政黨に屬するも、事に當つては一黨一派に偏することなく、正しきにつく雅量あり、現に村會議員、方面委員、區長を兼ねて村民の輿望を双肩に擔ひ、晝夜倦むことなく公共公益に盡力してゐるが、就中方面委員としては銃後軍事後援に東奔西走、以て郷土部隊勇士の後顧の憂をなからしめんとして活躍してゐる。

長男一郎氏も亦莊内中學出身の明敏にして快活なる青年にして農業に精勵し、新知識を以て農事改善を企圖して頗る實績が高い。

黄金村

村會議員 石川 大八



當家は部落の舊家で、安永六年頃より
の記録は
存在する
も、それ
以前の詳
細は不明
であり、

代々農業に従事し、大八を襲名する家である。

先代林蔵氏は、寛厚な性格を持ち、農事に精勵して、比類なき手腕をみせ、優良なる品質の改良に成功し、村民に篤農家として畏敬された人である。

氏は明治十二年十一月十八日に生れし先代の次男で、部落民の人望頗る厚く、熱心な自治研究者で、農村行政問題には優れし識見を持ち、村行政に種々の刷新を畫策して、村民の公益増進、村内の開

發に腐心しつゝある。

現在村會議員、方面委員、農會評議員の要職を兼任して、自己の信念の實現に鞠躬盡瘁してゐる。殊に氏は、仁慈の心厚きため、方面委員を自己の天職となし疲弊せる村民に援助を與へてゐる。氏は、父君より豊富な血を受繼ぎて、農藝には深き趣味を持つてをり、曹洞宗に歸依し、篤信家と謳はれてゐる。

渡前村荒俣

村會議員 加藤庄右衛門



當家は由緒極めて深き名門にして、七

百年の往昔、さる合戦の落人として來れる武士あり、

當村を居住地と定めて歸農し、土地の開拓に辛苦盡力してよく村の基礎を築きしに始まる。爾後代々大庄屋として、當

地方に名を知られ、藩政時代苗字帯刀御免の家柄で、村の福祉發展に献身し、廣く村民の信望を受けてゐる。

當主庄右衛門氏は、先代庄太郎氏の長男として、明治十五年十月十五日生誕、性格質實にして至公至正を旨とし、さきに東田川郡電氣組合の書記に任ぜられて勉勵努力、よく業績を擧げ、退いて村内の治政に盡瘁せんと志し、現在政友會に所屬して、村會議員に選出され、又農會總代として、いづれもその職責を謬らす數々の功業を擧げて、尙大いに抱負經綸の實現に努力してゐる。

尙、氏は嘗て日露戰役に従軍し、燦たる武勳を樹て、凱旋、勳八等を賜はるの榮譽を有してゐる。

横山村竹原田

村會議員 坂尾 辰吉

村内第一の資産家を誇る坂尾家は連綿として家業創始以來三百年來の家憲を奉持して來た家門でもあり、當主辰吉氏は

明治元年五月二十日にその血を享け繼いで當家に生をうけた。

極めて温厚篤實なる村の大長老として村衆悉くの信望をあつめてゐる氏に、その主張とするところを訊けば、

私は農夫である。だから終始一貫農事の改良に一身を捧げ、農業を振興し、産業を開發することが農村に與へられた使命と更生の基本であると信じてゐる。

と語つた。眞に至言、率直なる金言で、この抱負主張を陣頭に翳して氏は今迄村治に貢献して來た一方、民政系の地方闘士として過去四期の村會議員の要職を完了して來たが、現在も猶その任を辭せずして鋭々後輩の指導に當りつゝあり又農村經濟更生委員として數々の實績を残してゐる。更に同村信用組合としても功勞多大、當年七十一歳の高齡に拘らずなほ壯者に敗けず奮闘してゐる。家庭に在つては家長としてよく家訓を垂れ、家族十名の團樂は常に霽々たる雰

圍氣をつくつてゐる。又、三人の使用人に對しても懇切なる愛撫を與へて養育してゐる。曹洞宗を信仰して信仰の念にも篤く、眞に氏の村内に在ることは重石であるの感が深い。

餘目町千河原

町會議員 金子清右衛門

當家は十二代連綿と續いた家系を有し代々農を營み、先代清次郎氏は代表的篤農家として著聞された人物である。

當主清右衛門氏はその長男として、明治二年十二月十二日出生、本年七十歳の高齡である。

氏は長年町政の振興には献身的努力をなし、先には區長として盡瘁、又、水利組合會議員を歴任、現在は、町會議員五期目、學務委員六期目を繼續就任中である。その生涯を賭しての業績は枚擧げなく、今尙七十歳の高齡をも厭はず、壯者を凌ぐ元氣を有し、多年の町政功勞者としての活躍は、全町民均しく敬慕と信

望をよせるところである。加ふるに温厚にして寛大、謹嚴なる人格者たる氏は、家庭生活にもその人格を及ぼし、一家ごとく協心、和氣霽々として平安なる家庭をいとなみ、模範的家庭として定評を得てゐる。

なほ氏は曹洞宗に歸依してゐる篤信家である。

狩川町

町會議員 日向 榮作

當家は其家歴いまだ舊くはないが、代々農を以て家業として篤農家の令名を以て近在に聞え高く、また郷土のために功勞多き公共精神に富める人物を出してゐる家柄である。

先代鐵治氏は部落總代たるのみならず推されて村會議員の職に在り村政に參劃して其抱負經倫を傾けて餘蘊なく、頗る顯著なる功績を残したる村治の功勞者であるが、農事にも精勵して篤農家として村内に重きをなし、家運を隆盛ならしむ

と共に、村産業に貢献寄與なせる處また甚大なものがある。

當主榮作氏また、温厚篤實にして正義感を以て一生を終始せんとする眞摯几帳面なる人にして、町民の信望を擔ひ、推されて現に町會議員、實行組合長の任にあり、町治、産業の向上發展に盡瘁し、全町一致山積せる難問題を處理解決し、國策の線に沿ひ銃後國民精神總動員の精華を擧げ、國難を突破し戦後に來たるべき諸問題に對處せんとして寧日なく、着々見るべき功績を残しつつある。かゝる氏の不屈の活動の基礎をなす堅固なる信念は、曹洞宗の深き信仰から生れたものである。

十六合村

村會議員 齋藤市右衛門

享保年間に始る當家は村内屈指の舊家にして、連綿と繼續せること十代、當主市右衛門氏は、明治二十八年十月に先代市右衛門氏の後繼者として出生した。

荒物雜貨商及農業を家業として家運隆盛であるが、營々家業を經營して其の基



先代市右衛門氏は村會議員の職に在ること實

に二十八年、村治の向上發展に貢献寄與せること頗る顯著にして、自治功勞者として村民の信望篤く、村の長老として畏敬せられた。

當主市右衛門氏は温厚篤實にして高邁なる精神の持主にして、推されて村會議員に就任するや、先代市右衛門氏の遺志を繼ぎ、晝夜村民の福祉増進、村勢の伸展に盡瘁し、其社會正義に基ける健實にして先見の明ある論議と共に益々氏の存在を村會に於て重きを加へつつある。曹洞宗を信仰することあつき氏の家庭は、頗る温和を極め、春風駘陽の感がある。

大和村古關

村會議員 工藤治右衛門

當家は土地の舊家にして、當主治右衛門氏を以てその七代目とし、代々の人物悉く公共公益に盡瘁せしを以て、村民の崇敬する處となつてゐる。殊に先代由藏氏は生涯を村治に捧げた有徳の士で、早くより區長に任ぜられ、又選ばれて村會議員に立つこと十有餘年の久しきに亘り村の福祉の爲、枚擧に遑なき數多の功業を遺して、深く村民より尊敬せられてゐる。

當主治右衛門氏は、明治十一年四月十一日の生れ、先代由藏氏に望まれて、養嗣子として工藤家に入った人、性格眞摯質實にして責任の觀念強く、態度謙恭懇勤にして、周囲より深く信頼せられてゐる。尊父の遺志を繼いで、銳意家業に精勵する一方、村内の自治に種々寄與してゐるが、昭和十二年六月一日の村會議員總改選に際し、衆望を擔つて村會議員に

當選、爾來職務に献身努力して、よく村民の期待を裏切らず、大いに經倫抱負の實現に努めて、頗る實績を擧げてゐる。なほ、氏は信仰の心篤く、曹洞宗に歸依してゐる。

廣野村

村會議員 菅原七郎兵衛

氏は民政系の才士で、頭腦、聰慧にして、謹懿な性格を備へ、旺盛な精神力ありて、事に當つて果斷なるため、甚だ村民の倚賴するところとなり、農會總代に就任せるときには、農村の開發に没頭して、村民の間を奔走し、卓越せる手腕を振ひて、よくその重責を果し、消防小頭としても、消防組織充實の實現に、活潑なる運動を始めた人で、此方面の功績などは特筆に價すべきものを遺した。

現在産業組合理事の要職にあり、村内の有能な人々を糾合して、事業の改善に盡力を重ね、新しき諸設備をほどこして業務成績の向上に寢食を忘れて活躍せる

ため、村民の受けし恩惠は多大なるものがあり、従つて氏の名聲も澎湃として高まつて來た。

氏は村會議員を勤続すること四期で、激しい氣性を以て村會を牛耳り、村會屈指の有力者である。自治五十周年記念には自治功勞者として表彰を受けた。

趣味は、釣、盆栽で、優れし手腕を示してゐる。

なほ當家の祖先は、代々名主を勤めて絶大なる權力を振ひし名門で、先代治七郎氏も、村會議員、衛生委員として、多年盡瘁した人である。

榮村家根合

村會議員 加藤彦右衛門

當家は家柄寔に舊く、系圖を失つて詳かならざるも、年代瞭になつてより既に十二代である。名舊家として徳望あり、肝煎等を勤め、何か事あれば、一村の總代として、事をなすが習はしとなつてゐた。



先代彦右衛門氏又村會議員を勤め、村治のため
に盡す事
多かつた
氏は先
代の長男
にして本

年六十七歳である。父祖の業を繼いで農を営み、馬耕を創めたる人として農事に貢献する事大きい。殆ど機械を用ゐらるゝなき日本農業の耕作方法は人力のみ多く要してゐたが、氏によつて馬耕の創められたは眞に多とすべく、最近頻りに畜力利用提唱の濫觴となつたかの觀がある。氏は會て消防組頭に就任、現に二期を通じて村會議員、學務委員、水害豫防組合委員、區長代理等に就任、村勢の發展のために盡し、少青年の教育に心を用ふる事深く、時には私財を投じてその活動に資する事も尠くない。濃厚篤實なる佛教信者にして曹洞宗を信じ、常に佛徳を讃へ、來世の幸福のため

めに祈る。従つて家庭誠に圓滿、家人より不快の聲を聞いた事がないとは、近隣の噂さである。

東榮村東堀越

村會議員 去渡 辰治郎



當家は村内の舊家にして、部落開拓の功深い家柄であるが、記録紛失の爲その詳細は不明となつてゐる。

氏の祖父は公益献身の念厚く、廣く全村の信望を集めた人格者で、區長、村會議員等に選ばれて、數々の治績を残し、今尙村民の記憶に多大の感銘を留めてゐる。

當主辰次郎氏は、明治十九年七月十一日の出生、性格穩健醇和なれども、内面剛毅頗る決斷に富み、責任の觀念固く、

事に當つては、必ず初志を貫くの實行力を藏してゐる。不幸、幼時に尊父の逝去に遭ひ、その頃より情に厚く志固き性格を培はれ、廣く公益に盡瘁せんと志を樹て、一意村の發展に努めて今日に及んでゐる。即ち、産業組合を創設して村内の産業振興に致々として研鑽盡力、その功業は廣く村民の感謝を受けてゐる。區長に擧げられて職責を盡すこと既に十一年の久しきに及び、その他村會議員、産業組合理事、笹川水利組合議員等の要職に歴任して、いづれも業績を擧げてゐる尙、氏の家族は九名、代々の宗旨を曹洞宗としてゐる。

押切村歌枕

村會議員 齋藤 伊勢治

押切村の近年の發展は目醒しい。その實を擧げて良き中心を爲すものは勿論當村の村政治にあるが、その村會議員の一人として齋藤伊勢治氏の名は非常な好評を呼んでゐる。

氏は明治二十五年生れの今年四十七歳の壯者で、不拔の精神力に伴ふ活動力は常に力行果斷の實を結んで、村内稀に見る人材として更に今後を期待されてゐる。氏はその他、村の青年團及び産業方面の各方面に亘つても献身的の努力を惜ま

ず、青年の良き指導者となり、銃後の赤誠を現はしては、出征家族乃至は戦歿家族の慰問に當り、氏の如き熱血なる士は當今珍らしい。因に當家は連綿として當主を以て十一代目を數へる舊家であるが、家庭も亦圓滿である。

山添村

村會議員 佐久間亦右衛門

當家は村内の舊家名門で、今より百五十年に同村の藤三郎家より分家し、當主にて六代を重ね、その資産は數十萬圓といはれ、屈指の素封家でもある。

氏は明治二十七年十月一日に、黒川村の名門成田國吉氏の次男に生れ、當家に



入籍せる人で、黒川小學卒業後、大正三年に歩兵第三十二聯隊に入營し、伍長勤務上等兵として、中隊の模範と賞讃され、豫備と同時に消防組頭、青年團評議員、在郷軍人分會評議員、同幹事、同理事を歴任し、現在村會議員に就任してをり、嘗つて消防組頭たりし當時は、その盡力は目覺ましきものありしたため、知事より表彰され、在郷軍人會に關係せし時には、同心團結を鼓舞し、士氣の涵養につとめし功勞者で、總裁より表彰を受けた。現在氏は村政に於る圓滿なる自治の發展を期して、眞剣に盡力してをり、又氏子總代をも兼ね、佛門にも深く歸依してゐる。

長男保氏は縣立農學校出身、次男初君は農學校在學中で、長女、次女、三女共

小學校に在學中である。

尙、氏の實父國吉氏は郡會議員、郡農會議員、農會長、村會議員を歴任せる篤望家で、實兄は黒川農會長、村會議員の要職に就任してゐる。

廣瀬村後田

村會議員 齋藤吉右衛門



當家は開祖以來三百餘年に及び地方きつての舊家にして後田上部落に於ける齋藤家の總本家である。代々農を以て專業とし、吉右衛門を襲名する家例であり、歴代の人物皆その名を辱めざるよう、家業に勵み、又村内の福祉に寄與する處甚大であつた。

殊に先代吉右衛門氏は、村收入役、區長、村會議員等の要職に長らく在任し、その間功業を遺すこと尠からざるものあ

り、今尙全村民より崇敬を受けてゐる。當主吉右衛門氏は、その長男として明治十年十月八日の誕生、性格穩健着實の人物にして、民政黨に所屬し、數々の公職に歴任して、數々の治績を樹ててゐる。即ち、さきに農事實行組合長、農會總代等を勤め、現在村會議員に選ばれて、愈々奉公の誠を致してゐる。

黒川村

村會議員 畠山 喜太郎



の舊家である。

代々農事改良耕作には熱心に意を注げる家で、

篤農家として畏敬され、當村内に於ける屈指

氏は明治九年八月八日に、嚴父喜太郎氏の長男として生れ、父君の嚴格な薰陶を受け、家業に精勵せるため、若くして區長の要職に推舉され、村内の開発に意を傾けて永年盡力をつくした。此間、氏は村治に關しては該博なる知識を獲得し、村治には確乎たる信念を抱き、一家の識見を備へ、後年、村内に飛躍する素地を培養したのである。

其後氏の名聲は、次第に村内に高まり學務委員、農家總代、衛生組合議員、天保堰水利組合議員等、各種の公共名譽職に就任して、生來の博識振りを發揮して水際立つた手腕を振ひ、村民の驚異的となり、その力量を最も高く評價され、遂に村會議員に推舉を受け、早くも議員中に確乎たる地位を獲得す。

氏の豊富なる經驗と、該博なる知識とを以つて、村行政の大御所的存在として君臨してゐる。

趣味は、園藝化學等で、その造詣も亦深い。曹洞宗を信奉してをり、熱心に佛



村會議員 齋藤 久太郎

當家は部落切つての舊家で、歴代農業に従事せる家柄である。嚴父萬吉氏は區長四期、農會

氏はその長男で、明治二十二年十二月二十二日に生れ、實行組合長、青年團支部長を多年勤續して、村民の絶大なる賞讃の的となり、顯著な貢獻を收めし人で現在では村會議員に推舉され、農村の發展策を建言して、議員中にその存在を認められ、一代の策士と謳はれてをり、政

友會に屬して、縣下の政界に雄飛してゐる。又氏は豫てより果樹、園藝の隆盛こそは、農村復興の第一歩なりとの抱負を抱き、田の外に數町歩に及ぶ果樹園を營み、不撓不屈の意志と眞摯さを以て、献身的な努力を續けその栽培に腐心してをり、村民にも奨勵して、當村の繁榮を企圖してゐる。家族は八名で圓滿なる家庭の持主でもある。

の名譽ある評言である。氏は巳之助氏の長男にして明治二十六年十月出生。日露戦争の折勇躍出征したが、直ちに媾和の喇叭嚙と轟き渡り一回の實戦にも参加せず凱旋したのであつた。氏はその時の口惜しきを切齒扼腕して物語るを常とする。日本國男子の誠に宜なるかなである。

渡前村荒屋敷

村會議員 菅原 藏作



當家は當村切つての舊家名望家菅原家の分れにして、分家以來既に六代を関す家柄である。

名門の別れは争ひ難く、代々農を精進、その謹直なる行動と、近隣に對する親切は、自らなる徳を現はしてゐるとは一般

目下日支事變酬の期にあり、東亞の盟主としての曙は既に時日の問題とされてはゐるもの、後門の虎ノ聯は虎視耽々として我權域をねらつてゐる。この國家重大の期に奉公の念厚き氏は過去の遺憾を再び胸に漲らし常に先頭に立つて報國の具現に盡すを怠らない。平常は溫和春の如き氏のこの熱意に人々は心から協賛し一村擧つて銃後の守り堅きものがある。

曹洞宗を信じ、家族七名、使用人二名質實なる生活と相俟つて人格の高きを覺

えられる。

横山村助川

村會議員 本間 久治



當家は開祖以來五百年にして、先代新十郎氏の時、西田川郡榮村より來住した。農家を家業と

し、字の長を長年勤め村治のために幾多盡して明治四十年七十三歳にて逝去した氏は先代の長男にして明治二年五月十四日生れ、父の死を悼み悲しむ間もなく家督を繼ぎ、村政に奔する所があつた。民政黨に屬し、村長、農會長、郡農會評議員、赤川水利組合議員、中川尻耕地整理組合副組合長、團耕地部長等々の經歷を経て、學務委員、七期を通じて村會議員の要職に在る。

壽齡古稀に達して尙矍鑠、村事に奔走

するは眞に目出度き極みといふべきであらう。

氏の幾多の功績中特筆すべきは中川尻耕地整理組合に關した事柄である。耕地整理は農村の發展甦生のために特に奨励さるゝ所にしてこれの完成は村民の生活安定を約束するものである。

氏は村民の要望を擔うて方針を確定し煩雜なる事務を處理し、官省との折衝を圓滑にし、その運行を澁滞なからしめたのは實に氏の誠意と人格の然らしむる所人々は今に至るも氏の功績に感謝を忘れない。

氏はまた忙中閑を娛しむ風流の士にして書畫を愛し、美術の鑑定に對しては一隻眼を有してゐる。特に古畫の鑑定が得意である。

禪宗を信じ、祖父の墓に詣でて感謝の念を致してゐる。

家族十名、使用人三名、長壽の家はまた團欒の家にして、家内は常に霽々たるものがある。

狩川町

町會議員 門脇 席吉



二百五十餘年前當家の開祖創家せるより連綿繼承し來たる土地屈指の舊家にして舊幕府時代には村總代を勤めたる家柄である。

先代與四郎氏の相續者として明治十一年七月生を享けたる虎吉氏は、資性溫和にして圓滿なる人格者にして、園藝に興味を持ち草木に心を寄せる優さしき心の持主である。多年に亘り幾多の公職に就き町政、産業の向上發展に寧日なく盡瘁し來たつたが、現に町會議員、區長等の要職に在り十年一日の如く東奔西走し、其心に専ら公共利益あるのみで、町治の功勞者としての衆望愈々厚きものがある曹洞宗の信仰者、信仰心頗る堅固なるも

のあり、當町有力者として氏の熱烈な郷土愛、犠牲的精神の由來する處のものである。

十六合村

村會議員 上林 清治



當家は、由緒深き家柄を有し、二百五十年以來の舊家にして、代々肝煎を務め

て、土地の治政に多大の寄與をなして來た家柄である。當主清治氏は、先代新藏氏の息として明治八年の出生、誠實眞摯の人物にして公徳心深く、早くより村政に携はつて、數々の功業を残してゐる。即ちさきに十六合村衛生組合支部長を務めし他、現任村會議員として盡瘁、亦、方面委員、區長、信用組合理事等の要職にあつて、い

づれも努力勉勵、廣く村民の崇敬を集めてゐる。殊に衛生組合に勤續三十年に及ぶ功績は、餘自署より表彰せらるるに至つてゐる。尙、氏の子息和助氏も亦、消防部頭を務め、更に愛孫善一君も青年團長の重職にあるなど、一家打ち揃つて村内各方面の福祉に盡してゐる。

大和村

村會議員 阿部新右衛門

氏は當家第十一代目の當主にして、先代新右衛門氏の次男として生れ、現在五十歳である。

當家は代々農業を營み、村治に残せる種々の功績を以て、村内に聞えし家柄で氏は莊内農學校卒業後は父君の新右衛門氏を輔佐し、その新知識を以て、農業に精勵せる人で、農事改良耕作には卓抜な手腕をみせ、優秀な成績を収めて、村民に範を垂れてゐる。現在信用組合理事に就任して、組合の強化を圖つてをり、尙一層の繁榮に向つて日夜職務に精勵を重

ねてゐる。

其外、實行組長、村農會評議員、吉田堰水利組會議員二期目の要職を兼任して、透徹なる判断と果斷な實行力を以て、水際立つた手腕を振つてをり、その名聲は諸先輩を凌駕するかの觀がある。

氏は非常なる抱負を以て村會に乘出してより、現在二期目に就任しつゝあり、其間、才氣喚發振りを發揮して、村會を潤歩し、赫々たる業績を残し、當村不世出の人格者として、議員中でも深く尊敬されてゐる。

佛教に對して信仰心厚く、曹洞宗を奉旨して深く歸依してゐる篤信家である。

廣野村

村會議員 澁谷 多郎吉

當家は村内屈指の舊家で、代々村會議員の要職に就任し、貴重なる功勞を残せる名門である。

嚴父源治氏は郡農會議員、村會議員を歴任し、農村行政に關しては深奥なる知

識を持ち、大御所的存在として、村事に巨大な足跡を印し村民に深く畏敬されし人である。

氏は莊内農學校第八回卒業生中の秀逸で、嚴父源治氏の長男として生れ、現在四十五歳である。幼時より讀書を好み、公事繁劇なる今日に及んでも、未だ嘗て廢懈せしことのない篤學の人で、非常なる識量あり、村内に於ける一切の公共事業に關係し、透徹せる判断と、果斷なる實行力を以て、熱心研鑽を積んで村内の繁榮に盡力してをり、殊に産業組合監事の要職にありし當時には、組合の刷新を圖りて、業務の成績の向上に努力し、他の主腦者達に事業の擴張を説いて盡力せるなど、その行動は人の意表外に出で、よく組合の今日の如き殷賑さをもたらしたのである。

なほ、農會改良委員、水利組合委員、農事改良副組長等を歴任して、現在は、産業組合理事、村會議員等の榮職にあり當村に於ける最も活動的な人である。

東築村東堀越

村會議員 叶野 多郎吉

當家は、土地の草創として仰がれる本家叶野家より四代前分家、一家を創立せるものにして、農を以て家業とし、代々業務に勵んでよく今日の家運を築くに至つたが、殊に先代岡太郎氏は、篤農家を以て知られてゐる。

當主多郎吉氏はその子息として、明治元年十一月九日の出生、資性剛毅にして志固く、内に沈着果斷の氣を藏し、事に當つては必ず成し遂げるの氣概あり、少年時より嚴父を輔けて家業にいそしみ、その孝養は村内の範とされたが、長ずるに及んで、公共に一身を捧げんと志を樹て、民政黨に所屬して村治に數々の寄與を致し、廣く村民の信望を享けて、村會議員に選出され、引き続きその任にあること既に五期、現在なほ在職して大いに抱負經綸の實現に努力してゐる他、産業組合役員を勤めて、村内の産業發展に

盡し、殊に農耕作改良に熱心を寄せてゐる。

家族は十一名を數へ、三人の使用人を置いてゐる。代々の宗旨は曹洞宗で、氏は祖先を祀ること極めて叮重である。

山添村丸岡

村會議員 小林莊左衛門

當家は遠くこの地に住し、村の開拓者と稱せらる。代々莊左衛門を名乗り、大地主であり篤農家である。土地開墾の難事と村治の功を認められて徳川時代には名主を勤め苗字帯刀を許された。明治維新となるや郷士として百姓總代を勤め、土地のために貢献す。

祖父莊左衛門氏は明治九年の地租改正を初め、種々の公共事業に與り、また村中組頭として盡瘁する所多し。

先代莊左衛門氏も亦村自治、村民の生活向上のために働き村人その功勞を稱へて止まず。

當主莊左衛門氏は積善の家、禎徳の先

代の長男にして明治二十四年の出生、四十八歳である。小學校卒業後縣立莊内農

學校に入り卒業後、近衛歩兵第一聯隊に入營、滿期除隊となつて歸郷、帝國在郷軍人山添村分會役員に推される。氏は以來父祖の功績の跡を繼いで何くれとなく村治のために奔走、事に臨むや率先して實行し、村の指導者として村民待望する所あり。遂に村會議員に推され學務委員を兼ねぬ。年齢を加ふるに及んで益々その活動性を發揮し、搗て人望篤きために赤水水利組合議員、青龍赤川水利組合議員として活動貢献す。現在の村會議員は八期を通じて重任したるものであり、丸岡區長をも兼任す。

なほ舊城主加藤忠廣公の遺跡保存會の設立の發起者となり、副會長に就任同會目的の達成に努めつゝあり。また養鶏事業の奨励に心を注ぐ。各方面から表彰さるゝ事數度。家庭は夫人との間に三男一女あり、長男正己氏は宇都宮高等農林學校に學ぶ。

廣瀬村黒瀨

村會議員 丸山 菊治



當家は、村内屈指の舊家として由緒極めて深き大宇富澤にある丸山七五郎家より、六代前に

分家、一家を創立せるもので、肥料及び呉服雜貨等、農村の必需品を商ひ、村民の利便に資するを以て家業としてゐる。當主は先代の長男として、明治十九年五月二十五日の生誕、幼名を治吉と稱したが、のち家例に従つて菊治を襲名したるもの。潤達にして犠牲心深く、民政黨に所屬して、早くより村政に盡瘁、さきに區長、消防部長等を永年勤続して、功業頗る大きく、表彰せらるること數回に及んでゐる。亦、選ばれて村會議員となり

現在その二期目にあつて、村の發展に努め、數々の抱負經綸の實現に盡力してゐる。

氏は亦、態度謙恭の人物で、篤く曹洞宗に歸依してゐる。

黒川村

村會議員 清村治右衛門



當家は村内の舊家として由緒深き、本家清和清太郎氏の分家に當る。祖先は遠く六百年前の

往昔、當村に土着して、荒蕪地開拓に當り、土地の草創として崇敬されし人物である。爾來代々農を營み、村の發展に多大の寄與をなして、全村の尊望を集めてゐる。當家は本家清和家より分家して五代、當主は先代治右衛門氏の長男として明治四年九月三日の出生、襲名して治右

衛門を名乗る。性格穩健醇厚なれども、よく實際的手腕に富み、公德心深く、亦小學校卒業後漢學を修めて、學問識見共に高き人格者である。早くより村政に心を寄せ、若冠二十七歳にして村會議員に選出され、爾來引き続きその任にありて大いに功業を残してゐる他、郡會議員に擧げられて地方政界に活躍し、村助役に推されてはよく村長を輔佐して遺憾なくなほ天保堰委員として、當村の水利問題に寄與せし功勞淺からず、村民の信望極めて厚いものがあり、高齢に及ぶ今日なほ、矍鑠壯者を凌ぐの元氣を以て、愈々村の福祉發展に盡瘁してゐる。

氏は、信仰心篤き佛徒である。

黄金村高坂

村會議員 石川 喜八

當家は團部落より來住、以來五代を閱す。世々家業を農とし、戸主は喜藏を襲名す。實父喜藏氏は村の農會開設に功勞あり、今なほ矍鑠として一家團樂の中心

をなす。



氏はその長男にして明治十二年十月十日の出生である。日露大戦に出征、戦功により勲八等を賜はる。

重厚篤實なる氏は戦役にあつて勇敢なる如く、治にあつて村會に在る時も亦、事を行ふに勇敢、村民、氏の業績を慕ひて村會議員として止まるを願ひ、昭和八年間勤務したる事があつた。國道より高坂部落に通ずる青龍寺川橋梁の改築は村民の殊の外協賛を受け、その功を稱讃さる。政友會系に屬し、されどたゞ政策に阿る事なく、よく村の實情に照して良き政策を布く事を努力せらる。

家族十名、使用人一名の質實なる家庭である。

狩川町

町會議員 岩浪 新助

明治十九年十月二十九日に呱呱を擧げ爾來岩浪家の家訓に順應して今日に至つた同氏の人となりは、純正無垢なる熱血の士である。而も同家は過去三百年以前より續く舊家で、代々の當主は何れも土地の開発に助成の力を惜しまなかつた人達であるが、當主新助氏も選ばれて區長更にその實績に照されて現町會議員に當選したのである。

その町政に携はること極めて熱心、村民の親切なる相談相手として、常に氏の叫ぶところに町の光明が伴うが爲めに、町會に於ける評判も嘖々として氏の人望は更に拍車を加へるばかりである。

而も現非常時の時局に際しては、良く町民を戒め、率先して銃後の固めを指導してゐる。

氏の努力こそ特筆すべきにて、當町の重要な存在である。

廣野村

村會議員 田村 多作

氏は、嚴父孫市氏三男として生れ、當年五十三歳の働き盛りの人である。嚴父孫市氏は農事に専心して、その態度の誠實さ、温情さを以て、村民に深く親しまれた人で、従つて當主はその温い愛情の許に成長して、騎兵聯隊に入隊し、精勵格勤の成績を残した。

歸村後は嚴父を輔佐し、家業の隆盛を願ひて、果敢なる活躍を始め、見事な實績を擧げしたため、父君の覚え目出度く、村民の間にも名を成し、消防組部長の要職に推擧された。

その後氏の活躍は、村民間に絶讃の的となりしもので、其の眞摯なる態度と相俟つて、村内に確固たる勢力を築くことゝなつた。而して勤続年間も多年に及びしため、縣より表彰を受けた。水利組合議員、在郷軍人分會長の要職を歴任その在任中、赫々たる令名を轟はれ、惜しま

まれて職を退き、現在は村農會評議員に就任せる外、産業組合理事の榮職にありて、組合の刷新には、才氣喚發なる數々の献策をなして、重要な役割を演じてをり、村會議員二期目を勤続し、村會等でも議員中を奔走して、烈しい氣魄をみせてゐる。

廣瀬村 後田

村會議員 岡部 清治郎

當家は、土地の由緒深き舊家として聞え高き、



岡部安治郎家より數代前分家、一家を創立せるものにして、代々農を以て家業としてゐる。

氏の嚴父清治郎氏は、生涯を村の開発に捧げ、自治功勞者として村内の先覺者である。

當主清治郎氏は、その長男として明治二十八年三月二十六日の出生、性格温和にして亦公共に盡すの心篤く、さきに農事實行組合長として、村内の産業振興に努め、大いに開發に資する處があつたが選ばれて村會議員となり、現在なほその任にあつて村治に盡瘁してゐる他、區長をも兼ね、亦、産業組合員等、各方面の公職に歴任して努力勉勵、大いに抱負の實現を期して活動してゐる。

氏は亦信仰心篤く、曹洞宗に歸依してゐる。

黒川村

村會議員 五十嵐權治郎

當家は村内屈指の舊家名門で、代々公名譽職に



就任し、村自治には赫々たる功績を残せる家

で、莫大なる資産を有し、村民の信望も頗る厚い。嚴父權治郎氏は村會議員、區長、學務委員等、村内の公職は全部歴任せる人で、終始公明正大の態度を持して公益の増進のみを圖り、その残せし功績は、比類を見出し難い程である。

氏は嚴父權治郎氏の長男で本年四十六歳になる。黒川小學校卒業後、補習科に學び、以後専ら漢學を修め、長じて大正二年、近衛歩兵第二聯隊に入營せる歩兵上等兵で、歸郷してよりは、消防部長、青年團長、在郷軍人分會幹事を歴任。

消防部長時代の氏の活躍は驚異に價する程で、消防部の充實を企圖して、優秀なる機材を設置して、村民の賞讃を拍し青年團長に就任せる頃は、有爲な人材の養成に腐心して、見事な手腕を揮つた。爲に現在は村民の絶大なる信望を擔ひて村會に乗出し、非凡なる才智を働かせて農村の振興に努力してゐる。

圓熟せる、清廉潔白なる見るからの人格者にて、眞に當村の代表者人物たるに

ふさはしき人である。

狩川町

町會議員 鶴巻 昌士



當家は開祖以來、三百五十年の歴史を持つ、町内の舊家で、嚴父熊次郎氏は、町内の發展を企圖して全生涯を費せし人物であり、稟性剛健勇快にして、謙讓の徳に富めるため、町民の深き感謝を受け、令名噴々たるものがある。

氏は明治二十三年九月十八日の生れで熊次郎氏の長男である。生來、潤達にして、聰慧なる性格の人であり、軍務に精進して、上等兵となりて除隊せるため、其頃のみき影響を受けて、旺盛なる精神力と、強固なる意志を持つてをり、その態度は極めて敬虔なる故、期せずして町民

の信望次第に厚くなり、遂に町會議員に推舉された。

非常なる抱負を持つて町會に乗出すやその存在は、町會に一種の新鮮な空気を吹きこみ、最善の努力を重ねて、町内の繁榮策を講じて、種々建言せるため、その名聲は早くも諸先輩を摩するものがある。従つて町民の熱烈なる支持を受けて二期目を勤続しつゝあり。

町農會總代、消防組副組頭、産業組合理事の要職を兼任して、遺憾なき盡力をなすつゝある。曹洞宗を信仰して、深く佛門に歸依してゐる。

廣野村

村會議員 橋本 榮治

民政黨に屬して、縣下の政界に中樞的地位を占めてゐる氏は、現在活動期の絶頂にあり、四十六歳になる。

村會議員には數回に亘りて當選するの榮譽に輝き、種々の要職を歴任して、村政に偉大なる足跡を残せる材幹で、嚴父

惣助氏の四男として出生し、幼時より至誠あり、明敏にして雄邁、潤達なる性格の持主で、嚴父に従ひて熱心に農事に精勵せる傍ら、村政に對して開眼されるところあり、眞摯な態度で、研鑽を續ける他面、嚴父の陰にありて智囊を巡らして體験を重ね、後日、村内に雄飛せんとする素地の培養につとめた。

其後相次いで、村會議員、學務委員の要職に就任し、村會にありても圭角を現はさず、圓滿なる人格者として、議員中に認められ、鬱勃たる氣概を冷靜な態度を以て包み、靜温の中に所信を述べ、農村の隆盛を願つて盡力せるため、村民には深く敬服されてゐる。

現在、村會議員、學務委員共に三期を勤続せる外、傷兵義友會委員として、傷兵の救済に萬全を期して活躍をなしてゐる。

又氏一家は、日蓮宗の熱烈な信奉者で家族は九名である。穩健清朗の氣風に満ち、圓滿なる家庭として定評あり。

廣瀬村

村會議員 田村 久太郎



當家は代々村治には非常に功勞のある家で、祖父先代は共にその生涯を村民の生活の向上に努力を重ねし人である。氏は嚴父久五郎氏の長男として明治三十四年一月八日に生れ、渡前小學校より縣立庄内農學校に學び、第十六期卒業の秀才である。

稜々たる奇骨を持つ、民政系の錚々たる闘士で、縣下の政界でも、卓抜なる手腕と、旺盛なる精神力を謳はれてをり、村内に於ても、青年團幹事、郡聯合青年團支部長、青年農會支部長の諸職を兼任してゐる。農村青年達の指導的立場にありて、將來の農村を双肩に擔つて活躍すべき有能な人物の養成に盡力し、その眞

摯な態度は、農村の青年層に絶大なる尊敬を受けてをり、名聲もまた隆々たるものがある。昭和四年には村會議員に推舉され、村會に於ても青年層の援助を受け、その勢も強大なるものがあり、よく青年層の意見を吐露して、村會を潤歩してゐる。氏は村會に於ける最少議員にして、その前途は洋々たるものがあり、氏の双肩には村民の多大の期待がかけられてゐる。

家族は四人で、幸福なる家庭を營んでゐる。

狩川町東野

町會議員 田澤 定治

當家は元祿時代以前の開祖にして、餘り古きため確實なる事不明なるも、正しき家柄として知られてゐる。代々酒造を業とし、老舗として重きをなしてゐたが三代以前より農業に轉じ、爾來農事の改良、農民の指導によつて部落民の尊敬を受けてゐる。

當主定吉氏は先代宇吉氏の息、明治四年十月出生、宇吉氏は、郡會、村會の議員として功績高かつたが、當主も亦消防組頭、町會議員を歴任し、現在なほ方面委員に選ばれ、更に町會議員を兼ねてゐる。

關係事業としては農會に參畫し、農會評議員に推され、時局の進展と共に、農業が工業方面と共に益々重きを加ふるに盡し、農民の生活改良、向上等に貢献する所尠くない。夙に政友會の政策を支持し町民にその政策の浸透に努めてゐるが氏は飽まで性至誠温厚、人によつてその態度を換へる事なく、事に當つて篤實なるため常に尊敬の的となつてゐる。

宗教として禪宗を奉じ、家庭圓滿にして殊に三女美彌子氏は芳齡二十歳、酒田高等女學校卒業の才媛にして、現在は家庭にあり、生花のお稽古を勵みながら家事を手傳ひ將來の結實を囑目されてゐる。一千五百餘坪の廣大なる住宅地は、當家の繁榮と未來とを物語つてゐる。

廣野村

村會議員 阿部 善吉

當家は、村内屈指の有力者で、歴代村治に盡せる功績は、永遠に輝くべきものであり、昔時は年番を勤めて、令名を轟ろかせし家である。

先代銀太氏は、當時の先覺者で、村會議員、村常設委員に就任して、透徹せる頭腦を驅使し、老練なる手腕を以て、村内を風靡せる人で、郡會議員に當選して郡會に進出し、その慧眼を以て種々の貴重なる献策をなせしことがあり、村の元老として村民の尊敬深かりし人である。

當主善吉氏はその長男で、當年五十六歳であり、民政黨に屬し、嘗ては、區總代會、同窓會等の創設を囑唱して奔走し眞摯な態度で同志の糾合を圖り、その成立に盡力したことがあり、農會總代、學務委員、土地質貸代議員を兼任して、赫々たる貢献を擧げ、現在では、暗渠評議員、産業組合相談役をなし、その智囊を

しばつて、献身的な努力をなしてをり、村會議員五期目を勤績して、輝しき閱歴と、豊富なる經驗とをもつて、村會の重鎮として仰がれてゐる。先般の自治五十周年記念には、自治功勞者として表彰を受けた。

氏は、釣、旅行など仲々多趣味な、豊かな情操の持主であり、眞宗を信仰してゐる。

廣瀬村 松尾

村會議員 加藤彦右衛門

當家は村内屈指の舊家にして、七代以前迄の記録は今に存するも、それ以前は詳かにせざるを憾とするが、當村の豪家加藤五七氏の分家と推察せらる。なほ此近在の加藤家は加藤清正の流れを汲むものと傳へられる。

氏は先代彦右衛門氏の後繼者として明治二十一年二月十九日に生を享け、資性剛健にして濶達、明朗快活を以て聞えた人、庄内農學校に學び、其頭腦明敏をう

たはれ、現役兵として軍務に服するや成績優秀にして歩兵伍長に累進した。弱冠二十八歳にして區長に就任、夙に農村經濟の向上發展は自給自足主義によらざるべからざることを主張し、村民の福祉増進、村勢の發展に盡瘁し、青年區長として好評噴々、信望極めて篤かつた。爾來赤川水利組合技手、松尾耕地整理組合委員等、幾多の公職に歴任し頗る顯著な功績を残して來たが、推されて現に村會議員、東田川郡電氣組合議員の任に在り、近き將來當村を双肩に擔ふべき中堅人物として村政、産業に盡力し寧日がない。

氏は民政系の人。魚釣を趣味とする傍ら廣く書籍にわたり識見を高めるのに怠りない。曹洞宗に歸依すること深く、また郷社貴船神社の氏子總代として、祖先崇拜、敬神觀音の振興に努め、國民精神作興に寄與する處多大である。

泉村 川行

元村長 小林 萬太郎

氏の養父萬太郎氏は、鶴岡市道形町に生れ、少年時代より勤勉力行、よく業務に勵んで産を



積み、長じて分家、一家を創立して泉村川行に居を定め、村内の資産家として種々寄與する處多く、廣く德望を集めて、全村民哀悼の内に逝去した。

當主萬太郎氏は、慶應三年の出生、頭腦明敏にして實行力に富み、慧達な手腕を讀へられる一面、剛健の心を藏する人材である。先代萬太郎氏に望まれて、當家に養嗣子となり、生涯を村治公共の爲に捧げてゐる。即ち、輿望を擔つて村長に推輓せらるること四期の久しきに及びその間、村の發展に盡すこと圖り知れず他に郡會議員を勤めること三期、亦農會員として職務に精勵、いづれも重責を果して遺憾がなかつたが、現在後進に道を

讓つて隱退、家にあつて悠々自適してゐる。

泉村市野山

元村長 齋藤與左衛門



當家は六百年前の開祖にあり、由緒正しき家柄である。家系圖、書類、記録等ありしも、何時の頃よりか紛失し、敬神、父祖の敬仰を宣揚せらるゝ今日、特に惜しまる。明治維新前は肝煎りを勤め、正しき家柄と共に名望家である。

實父與左衛門氏は四十二歳にして一家の悲嘆を後に逝去。氏は明治二十一年七月十三日出生、若くして父君の名跡を繼ぐ。縣立鶴岡中學校卒業、明治四十一年一月志願兵として山形歩兵第三十二聯隊に入營、歩兵少尉に任ぜらる。

氏は既に一年志願兵として入營中、在郷軍人分會長となり、歸村後青年團長、消防組頭、農會長、村會議員等に就任、特に村長としての功績は著しい。正八位の拜受者として、濃厚謹嚴、言語明快、村青年の間に殊に信望が厚い。民政黨系なれども殊更に政策に拘る事なく、是非々主義を執り徒なる紛争を避けらる。敬神の念厚く、我國古來の神道を奉じ、國威の宣揚と村内並に一家の安穩に祈願を籠めらる。家族五名、使用人三名、靜けく温き家庭を營まる。

狩川町三ヶ澤 學務委員 本間 己之助 當家は村内の舊家にして、その開祖は



三百年の往昔に遡り、部落の開發に多大の辛勞を致せ

し人物で、爾來引き續き農を家業とし、よく家運を隆盛に導くと共に、代々の人皆村勢發達に寄與し、當主己之助氏を以て八代を數へてゐる。

先代甚助氏は字總代を永年勤めて、深く部落の利福に資し、住民の尊崇を集めた人物であつた。

當主己之助氏はその子息として、明治二年十二月二十一日の出生、性格篤厚眞摯の人物にして、早くより共存共榮を理想として村の發展に努め、各種の公職を歴任して功績頗る甚大なものがある。即ち、村會議員に選出されしを始め、三ツ澤信用組合を創設、その組合長として住民の利便を圖り、學務委員に擧げられて教育施設を充實するなど、その間の功淺からず廣く全村民より崇敬されてゐる。現在村治の表面より勇退しをるも、なほ二十五年來の學務委員に在任して、餘生を公共に捧げんとしてゐる。

氏は禪宗に歸依すること篤く、亦、農村副業の研究かたがた農藝を趣味として

ある。

十六合村

農會長 國井 藤市

當家は村内の名望家で、當主にて四代を經し舊家である。

嚴父藤右衛門氏は區長の要職に就任して以來數年に及び、農村の更生發展策の確立に腐心して日頃傾倒してをり、自ら率先して範を垂れ、農業に精勵して、優秀なる農産物の生産に非凡なる才能を顯し、豊富なる體験を基礎に、肥料の利用等にも獨特なる手腕を發揮し、村民を指導して見事な業績を收めた。現在七十歳の高齡を以て、なほ矍鑠なるものあり農民の指導に盡力する傍ら、悠々たる生活を送つてゐる。

氏は、明治二十二年三月二十日に生れ山形聯隊に入營せる歩兵少尉で、歸村後就任せる在郷軍人分會長當時は、軍人精神の眞實を發揮して、敏捷なる行動を續け、優秀なる成績をあげて、近村にその

存在を誇りしものである。

現在農會長、消防組頭を兼任して巍然たる氣魄を以て活躍しつゝあり、最適任者として評判されてゐる。

趣味は書畫で、深き造詣を持ち、達筆を揮つてをり、佛法に歸依し、淨土宗を奉旨してゐる。

廣野村

學務委員 朝井 直治

當家は歴代肝入の要職にありし名門で當主は七代目である。

嚴父喜作氏は、助役、村長の要職に就任して、村中樞の營爲に水際立つた手腕を振ひて、村今日の如き健全なる伸展をもたらせし人である。郡會議員にも出馬し、革新的意見を發表して、地方自治に大なる足跡を印した。

其他、村内の公名譽職の數々を歴任した所をみても、村氏が如何に氏の誠意に感じ、又、才、學識が如何に秀いでしかは想見するに充分なるものである。

當主は明治三年十一月十二日に生れし

人で、その手腕、見識は、先代に追従する程のものがあり、村會議員として村會に席を置くこと三十二年に及び、村内に文化の恩惠の全からしめんとして、日夜腐心し、村諸般の事に太く貢獻なし、村民の信望も高いものがある。

現在、學務委員、中川水利組合議員、産業組合理事の要職を兼任して、村の樞要を一身に占め、産業組合の繁榮には、早くも顯著なる業績を擧げてゐる。爲に自治五十年記念には、多年の功勞により自治功勞者として村長より表彰を受けた氏は、曹洞宗には深く歸依してをる篤信家である。

常萬村余目新田

學務委員 渡部 長藏

先代長藏氏は曩に郡會議員、村會議員等を歴任した郡政村治の功勞者で、亦徳望甚だ高かつた。

當主はその男で襲名、氏を以つて四代

目である。明治十八年生れだから本年五

十四歳の活動旺りである。先代の衣鉢を繼いで、氏夙に修身、齋家よく公共自治に竭し、會つて衆望を擔つて村會議員の要職を二期歴任し、好評噴々たるものがあった。この外、氏は消防組に關與すること十五年の永きに亙り、これが改善向上に盡した氏の功績甚大である。組頭としてその統制宜しきこと、部内外の信頼絶大なるものがあつた。

現時、氏は推轡をうけて學務委員の要職に在り、銳意兒童の育英、學校改修等に力を致してゐる。

政友會を支持し、書畫、骨董に趣味深い。曾て消防協會より表彰された程で、信仰篤い氏は、曹洞宗に歸依してゐる氏の長男良吉氏は、本村の軍人分會長を勤めてゐた中堅人物で、目下出征中である。

八榮島村八色木

農會長 小鷹 龜藏

溫厚にして社交的なる氏は、政治に對して誇々たる論陣を布いても、人に反感敵意を抱かせる事なく、圓滑の裡にその主旨を首肯させるを常とする。氏はまた農村生活の安定を、單式農業經營より多角的農業經營に移行するの必要を力説す



氏は先代喜助氏の長男にして明治二十九年十一月の生れである。分家以來三代目に

や壯年の氏は、この新興の家の隆昌に鋭意努力してゐる。

農藝に趣味を持つ氏は、家業の農を營んで、習慣にのみ従ふのではなく、常に新智識を取り入れ、その實驗には敢て冒險を惜まない篤農の士である。四期を通じて村會議員となり今に及び、農會長、郡農會議員に歴任、政友會に關係してゐる。

る。米價の不安定、藪の動搖常なき市價が、如何に農民を脅やかすか、これ等は農村問題には重要な論題とされるが、氏の論旨も亦そこにあるのである。而して生産費の軽減のため、人肥、堆肥の使用をより奨励し、堆肥の増産についても教ふ所が多い。

家族九名、何れも明朗にして福々しく談笑の折は常に斷へない。使用人四名、亦仕事に熱心であり、別け隔てなき主人の徳に感謝してゐる。

山添村板井川

學務委員 佐藤與惣右衛門



同家は代々農業を営み、村内有数の資産家であるが、家名も古く寶曆九年七月以降の家系は

判然してゐるが、その以前の事は不明で

ある。その由緒ある同家の當主たる氏は明治三十二年八月十八日生れの、未だ錚々たる活動家であるが、先代の與惣右衛門氏に望まれて村内の上山添から養子に來た人で、よく先代の薫育を受けて、養家の名を益々泰山の安きに置く人材である。

氏は村立の小學校高等科を卒業後、農事を研究して家業に精勵してゐたが、身を軍籍に置いては、旭川工兵大隊へ入隊して、工兵伍長の肩章に輝き、その軍人精神をよく奉持して至誠稀なる人格を買はれて、在郷軍人分會長、區長代理、學務委員、農會評議員の各要職に選ばれ、村の中堅人物として敏腕なる實行力を發揮してゐる。家庭に入つては、既に養父なく、養母に孝をつくして、夫人との間に一男をもうけ、その他使用人共々、和氣藹々たる一家である。

黒川村

農會長 成田 孝次郎



當家は、松根備前守の子孫の流れをくみ、當部落に於ける最舊家で、代々村内の樞要なる地位

にありて活躍を續け、赫々たる業績に輝く家であり、村内の信望厚き家柄である。代々農業に従事し、殿父國吉氏は、村長、郡會議員、郡農會議員、赤川水利組合議員の要職に歴任せる人で、一村を指導して、農事の改良を奨励して、農村の發展に盡力し、産業組合組織の強化を圖りて、果敢なる躍進を遂げしめる等、その業績は燦として今なほ輝いてをり、自治五十周年記念には自治功勞者として表彰を受けし人である。

氏はその長男として、明治二十年三月十四日に生れ、近衛歩兵二聯隊に入營せる上等兵で、父君の遺志を繼いで、村政には早くより奔走し、父君の蔭にありて

縦横に智略をめぐらし、よく父君を助けて重職の遂行に萬全を期し、隠れたる智囊として、いつしか村民の間に噴傳され現在、農會長、郡農會議員、村會議員、學務委員の要職を兼任して、村政に盡力を續けてをり、又農業立國を稱へて、堆肥の増加、家畜の増殖、飼育等を奨励してゐる。

趣味は園藝化學で、曹洞宗の熱心な信仰家である。

横山村

農會長 志賀 嘉吉



多角經營に依り農家經濟の充實發展を意圖し、農藝化學に深き興味を持ち、研究と多

年をわたる體験に基き、農事耕作改良を企圖して實績多く、八名の家族と五名の

使用人を率ゐて農事に精勵して篤農家の令名を得る他、農會長の地位に在つて農村指導者として、村産業經濟の向上發展に顯著なる功績を擧げつゝある嘉吉氏は明治十二年五月十日に、三百餘年の家歴を持つ村屈指の舊家たる志賀家に、先代卯之吉氏の長男として生を享けた。

溫和なる一面、負じ魂の強い、研究心に富める、人一倍の努力家にして、かつての日露戰役に出征して、武勳を樹てて勳八等を賜はつた戰場生殘りの勇士でもある。村産業經濟の充實發展に強き關心を持つ氏は、農事耕作改良を企圖すると共に被害や地味の枯渴に對しては、灌漑施設の完備の不可缺なることを知り、かつて中川尻耕地整理組合耕地主任としても活動したが、現にまた中川水利組合議員として、三十五年の永きにわたり勤続し貢獻裨益せる處計るべからざるものがあり村民の氏に對する感謝は厚き信望となり推されて農會長たること十餘年、村會議

泉村玉川

學務委員 相澤久右衛門

相澤家は其創家の年代古記録消失して傳へる處なく、詳かにせざるを憾みとするが、家歴の明かなるを以てしても二百年に達する村内屈指の由緒久しき舊家にして、代々農を営み、當部落の資産家である。先代は篤農家として令名ありし人にして、農事改善に實績多く、當家の隆盛は先代に負ふ處頗る多い。

當主久右衛門氏は明治二十六年七月二十六日に出生した。資性明 潤達、細事に拘泥せざる雅量の持主にして、曹洞宗

に歸依すること深く、信念ある言動は人をして信頼せしむるものである。十二名の大家族及び三名の使用人を率ゐて農事に精勵し家名を繼いで篤農家として近在に重きをなす傍ら、學務委員の要職に在り、長期聖戰下國民精神總動員に、村教育に盡瘁し頗る功績を擧げてゐる。

また氏の次男は、暴支膺懲、東洋平和樹立の聖戰勃發するや、夙に出征し郷土の要望を双肩に擔つて、北支南支に砲煙彈雨をくぐつて、奮戰赫々たる武勳を樹てゐる。

十二名の大家族を擁する家庭は和氣霽々たる團樂をなし頗る圓滿にして近隣の羨望する處である。

十六合村

學務委員 成澤 彌次郎
勳八等功七等

當家は土地の舊家にして、農を以て家業とし、代々よく業務に精勵して、篤農家の聞え高く、當主彌次郎氏に至るまで十一代を閱してゐる。

氏は先代由藏氏の子息として、明治十年十月二



十四日の出生、性格剛毅瀟達にして一度び難

事に遭へば凛烈たる氣鋭の士となり、平常人に接しては溫和篤厚の人物である。

さきの、日露戰役には召に應じて勇躍征地に赴き、各地に幾轉戰、燦たる武勳を樹て、凱旋のち、榮えある金鷄勳章功七級を賜はり、更に勳八等に叙せらるゝの名譽に耀いてゐる。現在石屋業を営んで、業務に精勵する一方、村内の福祉發展に盡す處多く、學務委員に擧げられてよく職責を果してゐる。氏は、曹洞宗を崇信すること極めて篤い。

廣野村 廣野

消防組頭 大井 利雄

當家は代々戸長、年番を勤め、當村屈指の名門であり、現當主で九代を重ねる古い歴史を有してゐる。

先代利吉氏は、村自治制の功勞者、農村行政問題に就いては、殉教者的精神を以て、最善の努力を續け、その名聲は諸先輩を凌駕するの觀あり、晩年には、神職を奉じ、溫厚にして、清廉なる人格を村民に敬仰されし人である。

當主利雄氏は長男として生れ現在五十三歳であり、農會總代、區長等に就任して、優れし才能と誠實は、村民の間に絶大の信用を勝ち得、村會に出馬して初當選の榮譽を擔ふや、事態に對する深い認識を基礎に、新しき立場より、種々正言を吐き、村會に於て頗る威望があつた。尙氏は、消防關係に身を投じてより三十三年の永きに及び、現在、消防組頭に就任してからも十七年を経、消防關係に於ては當村の長老で、幾多の補強工作を實行し、消防署よりの感謝狀等も數回に亙り、現在その組織の優秀さは近村を壓するものがある。

禪宗を信奉して、佛教には深く歸依してをり、政友會の逸材として覇を唱へてゐる。家庭は六名で、長男利美氏は、今次事變に應召され出征中である。

長 沼 村

消防組頭 澁谷 善太郎

氏は、嚴父己之助氏の長男として明治三十二年二月十八日に生れ、當家の八代目の當主にして、當家は代々農業に従事し、篤農家として知られし家柄である。嚴父己之助氏は、區長等を務めて村民に深く畏敬されし人で、水利組合會議員の要職にあり、多年組合の繁榮に盡力せる人で、多大の貢獻を残せし功勞者で、秀れた組織力と理財的手腕を持てる氏は組合の偉大なる存在であつた。

當主、善太郎氏は歩兵伍長にして、質實剛健、稜々たる奇骨の持主であり、事理明暢にして、頗る威望ある人である。現在、長沼村水利組合會議員に就任して父君の遺志を繼ぎ、力強い迫力と誠意と

を以て抱負の實現に一路邁進してをり、村民の感謝の的となつてゐる。

尙、氏は消防組頭をも兼任してをり、率先して組織の強化充實を圖つてをり、その將來に 多大の期待をかけられてゐる。淨土宗の深き信仰家であり、圓滿なる家庭を送つてゐる。

押切村 對馬

方面委員 長 菅原 長之助

至誠公平、事に對しては常に襟を正してこれを検討し、以て果斷なる實行力に資すと云ふのが、氏の人格者としての面目である。先代の男として明治二十六年二月に呱呱の聲を擧げた氏は、當年四十六歳の分別盛りを以て村の人材と目されてゐるが、身を軍籍に置いて、嘗ては近衛聯隊に入隊して嚴格なる訓練を経た人であると知れば、その人と成りも親み知られる譯である。

同家は代々農業を營んで來た篤農家として約百三十年の歴史を誇る家柄である

が、その一方養蠶家としても造詣深く、常に農事の改良に努力して來た同家の後繼者として長之助氏は中興の當主として名が高い。政治に對しては嚴正中立、現在方面委員、區長を擔任して、村民の懇切なる善導に當り、殊に方面委員としての氏の特志振りは、村民の畏敬の的となつてゐる。

「村民は皆家族である」と云ふのが、氏の不拔なる精神で、その他各方面の調査員としてもその努力は、只管村の安寧に砕心し、氏の愛村の念は切實として燃えるばかりである。

將來村を背負つて立つ一人として、信任篤き氏は、一面禪宗に歸依して修養怠らざる日常を持つてゐる。

山添村 西片屋

學務委員 鈴木 彌治 右衛門

當家は元龜年間の創設にかかり、同部落に於ける、平藤家と並んでの舊家である。代々農を以て本業となし、先代實父

彌治右衛門氏は篤農家として名望を得て



た。當主は襲名して夙に村治開拓に參與、農村

の經濟更生は、村民一致團結して戦時下の時局に應ぜんとするに有りと、率先して勤勉努力をなし、如何なる難局をも打破せんと大いなる決意のもとに起てる氏は、村民敬慕の的にして、信望ひとへに氏の上に集まる所以である。

先には區長代理、青年團長を経て、區長として十六年間勤続し、現在は學務委員に推されて既に勤続四期目である。

氏は潤達にして磊落、また明朗なる紳士として好評ある村政有力者である。氏は以前は民政黨に屬してゐたが、現在は嚴正中立の立場を守り、當に公正無私を目標としてゐる。

又氏の長男は 三十二號隊所屬の機關

銃隊に入り、北支第一線に出動活躍中である。令息は直接戦場に、氏は銃後の農村の護りを固めんと共に奮闘をなし、長男を戦線に送つてゐる一家の心意氣また高からんも當然にして、家庭團欒和氣の霽々たる中に力強きものが感得されるのである。

黒川村

學務委員 遠藤 圖書

當家の開祖は、延元年間に、皇室の寶



物庫の番人たりし人で、足利尊氏の亂に、落人となり

て、流轉し來たり、當地に土着して、農業に従事せしもので、初代より代々圖書を襲名し、現今でも、一種獨特の家風がある。

氏は嚴父圖書氏の長男として、明治八

年十月に生れ、責任觀念強く、烈々たる愛國心の持主であり、軍人會館の新築、

村の道路改修、愛國婦人會等には、率先して數千圓に及ぶ寄附をなし、寢食を忘れて、献身的な努力を重ねし人で、此等の貴重な貢献は、村民のよく認めるところで、表彰も數回に亘つて受けてゐる。

現在、農事實行組合長、天保堰水利組合議員の要職に就任して、村民の生活向上に、孜々營々として盡力を續る傍ら、學務委員を兼任して、村童のために諸施設の改善を圖りて、有爲の人材の養成に盡瘁してゐる。

天臺宗を信奉して、熱心に歸依してをり、篤信家との呼聲が高く、村内有數の資産を有してゐる。

横山村助川

縣方面委員 齋藤 多四郎

當家の開祖は遠く寶曆年間に遡り、所謂草分けとして土地の開發に當つて來た舊家である。代々農を營み、中興の祖五

代目多四郎氏に至りよく家運隆盛の基礎を築いて、今日に及んでゐる。



當主は明治二年三月一日の出生、先代多四郎氏の時望まれて當家に養嗣子として入り、家例に従ひ、襲名して多四郎を名乗る。資性溫和なれども内に毅然として抜くべからざるの氣概を有し、又犠牲の精神に富んでゐる。日清戦役に出征し武勳を樹てて凱旋ののち、一身を捧げて自治に盡さんと志し、人望を負うて數々の要職に歴任、その功業頗る甚大なものがある。即ち、選ばれて村會議員たること二十餘年の久しきに亘り、更に郡會議員に擧げられ、尙衆望黙し難く郡長の樞

位に就き、又赤川水利組合委員その他の公職に歴任して、表彰を受けること枚擧に遑あらず、政界より勇退せる今日も尙老軀を提げて縣方面委員、東田川郡方面委員聯合會評議員、學務委員等兼職、貧困除去にも生命を捧げて盡瘁してゐる。尙、氏の一子は、今次の日支事變に召集を受け、勇躍出征して、目下第一線に奮戦中である。

押切村三本木

前村會議員 素封家 伊藤 多三郎

當家は約三百年前の開祖にして多三郎氏は約十代に當る。

先代雄吉氏は村會議員にして村治の爲に盡す所勤からず、溫篤なる人格と共に村民の尊崇する所である。

氏は先代の息にして明治二十六年五月七日出生、消防組長、農事實行組合員、蠶業實行組合員、區長代理、村會議員等の要職に歴任した。政黨關係は中立である。

村政に對しても常に研究を怠らず、その職務に對する熱意は眞摯なものであつた。幾多の業績を收めて村民の信望誠に厚かつたが、今は一切の公職を離れて家業の農に精進してゐる。

溫厚篤實にして敬神の念厚く、曹洞宗を信じ、子女の教育に對して非常な心を砕いた。社會に對しては有用の士であり村治のために奔走し、且一家の和樂を事とし、所謂齊家の士こそ氏の望む教育の目標である。

されば家庭至極圓滿にして和睦む事深く、長男は十八歳にして現役を志願し、目下幹部候補生に在り、長女は高等女學校を卒業した才媛である。

素封家として廣大な住宅地は約千餘坪古き庭園は名園として聞え、時折乞うて參觀する人は少くない。

山添村上山添

在郷軍人 分會長 佐藤 清藏

氏は當山添村長佐藤仁左衛門氏の令弟



に當り、分家して一家を創立してゐるが
本家は數
百年の往
昔に遡り
由緒極め
て深き家
屋を有す

る名門素封家ある。代々農を營み、又村
の發達に盡す處多かつたが、殊に祖仁左
衛門氏は、縣會議員その他の公職を歴任
し、廣く縣政界に重きをなして、數々の
治績を残せし人格者であつた。

清藏氏は先代仁左衛門氏の四男として
明治二十六年二月二十五日の出生、性格
温厚醇和にして而も内に毅然として抜く
べからざる堅志あり、尙、言語明快にし
て動作敏活の士である。莊内農學校を優
秀なる成績を以て卒業のち、大正二年
歩兵第三十二聯隊に幹部候補生として入
營、よく隊内の模範とされて、少尉に任
ぜられ、正八位を賜はつてゐる。歸郷の
のちも一意郷軍の指導に任じ、在郷軍人

分會長として努力盡瘁、よく職責を全う
して遺憾なく、殊に今次の支那事變に際
しては、淬勵して銃後援護に奔走してゐ
る。
氏に四男二女あり、未だ年齢幼きも、
いづれも頭腦優秀とされてゐる和樂の家
庭である。

十六合村

學務委員 上野治良右衛門

當家は三百年以上の歴史を有する村内
有數の舊家にして、代々肝入を務めて、
村内に幾多の功績を残せる家柄である。
先代常吉氏は二十一年間に及びて學務委
員を勤続せる人で、温厚にして清廉なる
見るからに人格者的人である。學務委
員として氏の果せる役割は偉大なるもの
があり、當村に於ける教育界の先驅者に
して、その見識と體験の豊富さは他人の
追従を救さないものがある。
氏は明治十三年十二月に、嚴父常吉の
男として生れ、先代の遺業を繼いで、學

務委員に推擧され、村童の教育には早く
より功績を重ねてゐる。

稟性、雄邁にして博學篤行の人、事理
明暢にして、村民の信望も厚く、よく先
代の令名を保つてをり、父子二代に互り
學務委員として残せる業績は又、村教育
界の歴史を飾る。

尙當家は一家より軍人四名を出して表
彰されし名譽の家であり、淨土眞宗に深
く歸依して、村内に篤信家として畏敬さ
れ氏の宗教に對する態度の篤きことは、
村民の模範とされてゐる。
靜謐なる家庭を營み、團樂を極めて羨
望の的である。

大和村小出新田

縣方面委員 齋藤 惣太郎

謹嚴、高潔を以て聞ゆる齋藤惣太郎氏
は、明治元年呱呱の聲をあげ、本年七十
二歳になる高齡の士である。
當家は農を營み、代々精農家として聞
えてゐる。先代を惣藏氏と稱し、村の世

話役などを務め、又温厚篤實なる人物と
の評があつた。

四代目當主たる惣太郎氏は、永年村勢
の發展に盡し、特に區長として、村民の
福祉増進と村政の圓滿なる發展に、生涯
を賭して努力して來たのである。

現在氏は七十歳に餘る老齡にも拘らず
尙噴々として縣方面委員に推され、全村
より父に對するが如き親愛を持たれ、何
事によらず相談をうけてゐる。更に高潔
にして清廉なる人格は、敬仰信賴の的と
なつてゐる。

目下、國土をあげて聖戰の折柄、日夜
各々の職務に精勵、國力の培養を以て、
銃後報國の完璧を期せんとは民の念願で
ある然して出征勇士の後顧の憂ひを無か
らしめんとし、全村一致團結して、農村
の更生と振興を計つてゐる。

又氏は家庭的にも圓滿なる人格を反映
して、一家は和合平和に満ち、模範的家
庭と賞され、當村の長老として確固たる
存在を示してゐる。



廣野村大淵 伊藤 龜吉

方面委員

當家は祖先より星を頂きて出で、月を踏
んで歸る
農事の家
である。
家をめぐ
る廣き宅
地はその
古き家柄を誇り、庭前に栽培された野菜
その他にも一家の勤勉が物語られてゐる
氏は先代辰之助氏の長男として生れ、
本年五十歳である。曾て朝鮮守備隊に參
加、君命を奉じて鷄林八道を露支の魔手
より守り、その安寧のために活躍した。
歸りて消防部長代理を勤むる事十一年、
農事實行組合長を十一年、農會代議員、
火災豫防組合長を兼ねつゝ更に方面委員
に推さる。

資性恭順にして人情の心深く、惻隱の
心なくしては困窮者に接する事の出來な



八榮里村 大沼 四郎

青年團長

當家祖先は、豊臣家の家臣にて大阪夏
の陣の落
人なりと
云ふ。創
家以來十
四代三百
餘年間繼
續した家系である。先代作兵衛氏に至り

分家し、現主四郎氏は二代目である。作兵衛氏は村政の大功勞者にて、村會議員學務委員、東田川電氣議員及び助役等を歴任し、多大の功績を擧げた。

當主四郎氏は、縣立庄内農學校の二期の卒業にて、大正三年三月二十三日生れ、當年二十五歳の潑刺たる青年である。資性快活明敏、農學校卒業後は、直ちに村政に參與、理想的農村を現出せんと、戰時局下の農村の更生は、先づ農村青少年の體位の向上、精神の總動員、一村の統一及び團結でなければならぬと、率先して實踐の途に邁進す、將來の當村を擔ふ人物と目され、多大の希望をよせられてゐる模範青年である。

現在の若さを以て、既に青年團長に推され、また方面委員を兼任してゐるを見ても、氏の識見、手腕が如何に信頼されてゐるか判明するのである。氏の如き有爲の青年が、郷土に對して眞の愛郷精神を以て臨むは、現今の農村にとつて必要欠くべからざるところにて、それ故に

期待されるところも大きいのである。家族は五人ありて、圓滿平和なる一家として好評を得てゐる。

東榮村中野目

陸軍歩兵少尉
正八位

佐藤 榮作



當村有數の素封家として著聞されてゐる。佐藤家は創祖以來八代約二百餘年を経て

々村の重要職を務め、名望高い家柄である。先代六右衛門氏は村治開拓の礎を築いた人物にて全村の徳望を擔つてゐた。その功績は、自治制五十周年記念に表彰され、今尙健在にて、村の將來の進展に意を注ぎ乍ら、悠々自適の境界を楽しんでゐる。

當主榮作氏は養子として當家に入りし人にて、明治二十六年出生、本年四十六

歳の錚々たる紳士である。縣立庄内農學校を卒業後、山形聯隊に入隊した歩兵少尉にて、歸郷後は村政の改革、發展に一身を捧げんと、殊に現時局下の農村更生に率先して努力してゐる。

氏は剛毅果斷、古武士の面影を有する潤達之士にて、曾て軍人分會長を務め、地方在郷軍人會の爲に多に氣を吐き、現在は、東榮村軍友會々長及び村収入役を兼任し、噴々たる活躍をなし、又信用組合に關係し、組合發展に資すること多大の存在は灼然として、その前途は全村より期待をうけてゐる。

尙、氏は多忙なる村政者としての餘暇には、ひとり燈下にて靜座、讀書に時を過してゐるは、正八位、歩兵少尉の氏の人格の床しさが偲ばれるのである。

八榮島村豊榮

農事實行
組合長 布川 鉀一

當家の祖は遡つて元祿時代に發し、當主鉀一氏に至るまで、實に十五代の多く

を閲してゐる。農を以て家業とし、代々いづれもよく業務に勵み、篤農家としての聞えが高い。分けても祖父は村の要職に就き、郡會議員にも推されて、地方自治に多大の寄與を残してゐる。

嚴父辰次氏も亦、自治方面に活躍し、祖父同様郡會議員に選ばれしを始め、村内の公職に歴任して數々の功業を樹て、今在尙矍鑠として村治に盡瘁、如上の勞は酬いられて、今回の自治制發布五十周年に際し、自治功勞者として内務大臣より表彰せられてゐる。

當主鉀一氏は、その長男として、明治三十六年六月の出生、資性潤達、活動的な人物にして、殊に郷土青年の修養向上に努力すること多く、その指導者として重きをなしてゐる他、農事實行組合長の要職に任じて、村の産業振興に努め、農事耕作改良に致々として盡瘁、着々として成果を擧げつゝある。

家族は八名、二名の使用人を置き、家代々の宗旨曹洞宗に篤く歸依してゐる。

廣瀬村

消防組頭
篤農家

寒河江 健八

當家は有數の舊家で、數百年の古い歴史を持ち、二百年前、寒河江五百作氏より分家せる家で、代々農業には優秀な成績を現し、篤農家として聞ゆる家柄である。實兄治兵衛氏は、收入役の要職に就任し、生來理財的頭腦にめぐまれし爲、當村の財政の運用には驚嘆すべき程の才能をみせ、村長を輔佐して、當村の繁榮に拔群の功績をあげし當村功勞者で、村内の有力人物である。

健八氏は、嚴父又七氏の五男として、明治二十四年二月十三日に生れ、實兄治兵衛氏に子息なきため、五男なるも相續人となりし人である。

氏は事理明暢にして、非常な練達家であり、村政には進歩的な知識の持主にして、農村の青年層には穩然たる勢力があり、嘗て青年團長の要職にありし當時は厳格な訓練をほどこし、情誼に厚い性格

があるため深く親しまれ、長く師表と仰がれしことがある。又消防部長として、機材の完備、組織の強化を圖りて、多大の功績を顯はせしため、現在消防組頭の要職に就任してゐる。

家庭は、賢婦型の優しき氣質を持つたトヨノ夫人との外に、長男正治氏は農業に従事してをり、長女きく子嬢は他家に嫁してをり、次女とよ子嬢、三女景子嬢は共に小學校に在學中であり、四女は苗子嬢といふ。

山添村

産業組合理事
方面委員 鈴木 常吉



勤儉力行
村の模範
的人物たる氏は、
今を去る
三百數十

年前當地に移住土着せるを以て始る由緒

久しき舊家たる當家に、先代保之助氏の長男として明治三十年三月十二日に生れた。

先代保之助氏は永年にわたり産業組合理事及區長を勤め、當村の中堅人物として村治に貢献寄與せる處多大なりし、村内の功勞者であつた。其遺志を繼ぎ、産業組合の發展を計り、村内の圓滿を希ひ産業組合たる外、學務委員、方面委員、區長代理、衛生組合常務員、産業統計員等を兼ね村治向上發展に盡瘁してゐる常吉氏は、濃厚實直にして言語極めて明快なる實踐力の強い人にして將來當村を双肩に擔ふべき人物として聲望がある。また東田川郡農會推肥指導教師たる氏は、農事耕作改良に強き關心を持ち、農家經濟を重壓する高價なる化學肥料に代るべき自給肥料研究の權威者として知られて居る。長期聖戰下銃後農村の生産力の充實發展を計り、聖戰繼續の負擔力を増進すべき秋、氏の活躍に俟つべきものは實に絶大である。ミハル夫人との間頗る琴

瑟相和し既に二男二女を得てゐるが、長女ユキ子嬢は鶴岡市立女子裁縫學校に在學中にして才色併せてゐる。

黒川村

學務委員 五十嵐治右衛門



當家は松根備前守の後裔で、二十八代を重ねし舊家である。當主治右衛門氏は、村役

場に三十餘年間勤續し、種々畫策をなして、施設の改善に努力し、列舉出來ぬ程多くの功績を残せし嚴父治右衛門氏の男として、明治十五年六月十五日に生る。聰慧な才氣充滿せる人で、嘗て烈々たる氣概を以て、失業救濟事業に没頭し、自ら部落の東部に白土工場を創設し、身命を賭して、東西に奔走し、その隆盛に盡力した。従つて村民の氏に對する敬服は

非常なるものがある。其後同工場は赫々たる隆盛をみ、その基礎も固りし爲め、大坂の武田氏に工場を譲渡し、現在は武田工場松根工場長として努力を續けてゐる。消防組頭、農會評議員、越中堰水組合議員の要職にありし當時も、農村問題に殉ぜんとする誠意に燃えて、當村の發展には偉大な足跡を残した。

氏は、終始嚴正中立の立場にあつて、少しも傾ることのない、正義感の強い人なるため、當村の重鎮として畏敬されてゐる。

横山村土橋

實行會 副會長 五十嵐多右衛門

當家は約六百年以前の創祖に遡る舊家にして資産家である。代々多右衛門を襲名する。農を家業とし、村で代表的な篤農家として聞えてゐる。先代多右衛門氏は字の元老である。氏は先代の長男にして明治四十一年二月二十八日生れである。十六代目を繼ぐ

第七師團第七大隊に入營、資性豁達にして明朗、正しき事の實行に逡巡せず、入營中もよく上官に進言しては用ひらるゝ事多かつた。規律正しく閑暇なき兵營に於て常に勉學を怠らず、酒保等の出入をも餘り好まず、模範的青年として好評を得てゐた。

除隊して、信用組合員となり、實行副會長、團村會計、字調査委員等に關係し年齢未だ若くして既に村治一方の人望を擔つてゐる。

現在耕地面積四丁二段歩、農事に關して常に研究怠りなく、その成績は村民の注視的である。更に尙荒蕪地の開墾を志し、その實行を目差してゐる。

運動、讀書に興味を持ち雨讀晴耕は氏の喜ぶ所、隱然たる村の青年教育家として青年間の信望は特に厚い。

家族六名、使用人五名、いづれも致々として農事に精進、澎湃として村に流れ入らんとしてゐる都會的風習に對して、氏の家庭、は一の堅固なる城壁を爲して

ゐるかの觀がある。

泉村西荒川

陸軍歩兵中尉 故 渡部 久助



當家は屈指の舊家として、著聞されるも元祿年間以前の記録なく詳かでないが、元祿以後は

連綿と繼續した家柄である。先代久七氏は家業たる農業に精勵する旁、村政改革に乘出し、村會議員を長年務めた評判の村治功勞者であつた。その外藤島町傳染病委員等を勤めた。その長男として生れた久助氏は、庄内農學校を卒業後、一年志願にて砲兵として弘前聯隊に入隊した昭和十二年八月二十五日、日支事變の初期動員をうけ、一家一村の名譽を擔つて勇躍出征、各地に激戦又激戦を重ねること幾度、終に山西省方面の奮戦の結果、

名譽の戦死を遂げて、從七位砲兵中尉になつた勇士である。

氏は生前、村の中堅人物として、軍人分會副會長、青年團長、青年學校指導員消防組部長等、多數の要職を歴任して活躍旺んであつた。が氏は要職にあつた許りでなく、農村發展の爲には寢食を忘れて盡し、殊に農事改良に理想を抱き、また一面寸暇を得ては讀書を愛し人格の修養に努むるなど、まことに濃厚篤實の資性は何人も好感をよせ、信望は偏に氏の上にあつた。

故に一度戦死の報傳はるや、全村民感謝と哀惜の中に、氏の靈に報いんことを誓ひ、一致團結して農村の更生發展にたちむかはんと努力してゐる。氏には一男二女の遺兒あり、實弟久哉氏初め家族の愛情の中に、心身共に健全なる成育を遂げつつある。

狩川町三ヶ澤

國防婦人會長 農會役員 高山 仁市

當家は土地の舊家にして、創立以來九代を閱してゐる。農事を以て專業とし、代々の人よく家業に努むると共に、土地の發展に多々盡瘁して、廣く住民の尊敬を受けてゐる家柄である。

當主仁市氏は明治二十二年十月一日の生誕、資性勇武にして態度端正、鶴岡中學を好成績にて卒業のち、入營して陸軍歩兵少尉に任ぜられてゐる武人の典型である。而も情に厚く、實行力に富み、初志貫徹の堅志を有し、さきに在郷軍人分會長として在任十二年の長きに亙り、率先して狩川町國防婦人會を創設、その會長として、今次の日支事變に際し、寢食を忘れて奉公の至誠を致してゐる他、農會役員、青年學校教導員、三ヶ澤信用組合役員等を務めて、努力精勵、いづれも職責を果して、關係方面の信望を受けてゐる。

氏の子息は今次聖戰に召集を受けて勇躍征途に就き、目下第一線にあつて奮戰中である。

氏は曹洞宗を信仰すること篤く、亦趣味として花卉を愛し、殊に菊作りには造詣が深い。

藤島町谷地與野

農事實行 組合長 草島 佳吉



當家はその創祖頗る遠く、約三百年の往昔に遡り、當地の草分けとして、荒蕪地の開墾開發に當り、以來代々辛苦經營、今日の豊穰なる部落の基礎を築くに、與つて多大の力ありし舊家である。

當主佳吉氏は、先代多郎右衛門氏の男として明治三十年三月十日の出生、創祖以來十一代目の主である。性格溫和にして人に接するに極めて淡泊、而も親切の心を内に抱いて、その徳義を近くより遠きに及ぼすの人である。尙公共心厚く、

職務に就いては精勵努力、よく衆望を集めてゐる。さきに消防組合に勤続すること二十餘年の長きに亙り、村内防火の重任をよく全うして、表彰せらるるに至つてゐる他、村内産業の振興に盡瘁し、現に谷地與野農事實行組合長の要職にあり農事耕作改良に資する點殊に大きく、その功業は住民齊しく讃へて已まない處である。亦、信用組合に深き關係を有して土地の融資に多々寄與し、五人組長を務めてよく職責を盡してゐる。氏は多年農村の多角的經營を主張して、その實現に邁進し、自身現に養鶏その他の副業に勵んでゐるが、未だ壯齡の氏に依つて拓かれる農村産業の前途こそ、期して俟つべきものがあらう。

家庭は九名、使用人を二名置いて、愉しいまどるをなしてゐる。

十六合村

方面委員 上野 清治

代々農業を家業として篤農家を以つて

聞えて來た同家に、四代目の當主となつて家運を中興しつつある同氏は、明治六年生れの至誠無比なる村の長老である。一人一業主義を體して専心農事の改良に全魂を打ち込んで村内の人格者の一人として村民の思慕の中に平和なる日常を送つてゐる。

實父清左衛門氏も村治の爲めには並々ならぬ功績を残した人であるが、氏も選ばれて現在方面委員の繁忙なる任を受け持ち、村の救済方面に慈父の心をもつて手を差し延べて、その人徳はあまねくその方面に行き亘つてゐる。その行ふところは積善徳行、信仰者としても曹洞宗に歸依して怠らない。

大和村廻館

軍人分會長 押切 光繁
歩兵少尉 正八位

先代勇助氏は、高齢なれど尙嘖々として現村農會副會長の要職にある村政功勞者である。曾ては軍人分會長、村收入役等をも勤績して來り、全村の信望と敬慕

をうけて、當村の重鎮として數へらるる有力なる存在である。

當主光繁氏は養子として入家し、庄内農學校卒業の謹直、眞摯の青年紳士である。氏の理想は村政の圓滑なる發展と、地方青年の健全なる向上にあり、現に推輓されて軍人分會長、要職に就き、更に青年訓練所指導員を兼ねてゐる。その熱心と努力は何人も敬服し、信賴するところにして、既に多くの業績をあげ、分會關係に於いては、數回に亘つて表彰されてゐる。

氏は正八位陸軍歩兵少尉の軍籍にあり素直にして誠實なる軍人的氣質は、更に好感を持たれて居り、氏の將來は洋々と拓かれ、全村の期待もまた氏の今後にかげられてゐるは當然にして、當村が誇りとする人物である。

尙、當家は開祖以來六百年間連綿として繼續したる家系を有し、當村の舊家と著聞される。家庭は父母健在にして、母堂は國防、愛國婦人會幹事及び農村婦人

會副支部長を兼任、農村婦人團體の爲に活潑なる活動を續けてゐる。一家ごとごとく村發展の爲に盡瘁してゐるのは、まことに羨むべくまた、模範的家庭との好評なるも宜なる哉である。

山添村

區藝組合長 伊藤 善吉



農家として知られ 實父倉吉 氏も農事の耕作改良には特

に意を注ぎ、秀れし手腕をもてる人で、區長をなして村民に尊敬されし人である。氏はその長男として、明治十八年十月二十四日生れ、明治三十八年には歩兵第三十二聯隊へ入營せる上等兵で、歸郷後は在郷軍人分會評議員、消防部員、農事實行組合長を歴任した。在郷軍人分會評

議員たりし時には、熱心に分會長を輔佐し、農村の青年達を指導して、心身の鍛錬、勤勞奉公の念を養成して、輝かき実績をもたらせし爲、山形縣分會長より表彰を受けた。

當家は代々農事には秀れし手腕に恵まれし家で、氏も父君の體験を基礎に耕作に種々改良を加へて努力せるため、氏の出品せる葡萄は博覽會で一等賞を獲得し東京府知事より一回表彰され、山形市長よりは二回も表彰され、各銀牌を賜はる又出品せる玄米も一等賞の榮譽を擔ひ、山形市長より一回表彰と同時に銅牌を賜はつた。

現在區長の要職にあり、園藝組合長を兼ねて、誠實さを高く評價されてゐる

狩川町

農事實行 齋藤 豊太郎

齋藤家は創立以來幾多の星霜を経過し來り、今日に至るまで二百餘年の間連綿として、相傳はる舊家である。世々農を

以て業とし、精勵勉勉大いに努め、貨殖甚だ堅實にして遂に今日の巨富を造成するに至つたのである。歴代篤農家を輩出して各々功勞少からず、先代金太郎氏亦たその例に洩れず、精農家を以て著聞してゐる。その功績は嚴として今に光輝を遺して滅するところがないといふ。

當主豊太郎氏は金太郎氏の長男にして明治二十五年三月十一日に出生した。傳統の久しきと家格の高きを誇る當家を相続してより、家業に益々精勵して怠らずその旁公共の事に奉ずること甚だ熱誠であつた。遂に擧げられて農事實行組合長の重任を擔ひ、組合の指導誘掖に全力を傾け、他組合との連絡提携、上司との折衝脈絡をして緊密圓滿ならしめ、その成績甚だ優秀にして他組合の模範と仰がれ令名噴々として謳はれてゐる。

氏はその資性極めて濃厚にして篤實、堅實にして精緻、堅忍にして熱誠であるを以て、志して成らざれば已まず、企て貫かざれば措かず、熱と努力の快男兒

にして凡て牢乎不拔の信念の士である。しかも清濁を分たす來るを拒まず、寛仁にして衆と和し、情誼に極めて深厚、特に義侠の心に富んでゐる。後進を啓發し同輩と協力し、先輩の禮節を失はず、まことに君子の風懷掬すべきものを有してゐる。曹洞宗を奉じて心魂膽力を修練して渾熟せる人物は和にして威あり、清にして高、深にして大、他日の雄飛は刮目して待つべきものがある。

榮村

農事實行 齋藤彌左衛門

齋藤彌左衛門氏は明治二十一年五月二十三日の生れである。舊家として聞えた當家の九代目を繼ぐ。

先代彌左衛門氏は村會議員を勤め、長く村政のために盡す所が多かつた。

氏は曹洞宗を信じ、養蠶、畜産の事に趣味あり、常にその實行の結果を他に語つて参考に資する事吝ではない。また消防部長の就任三十年に亘り、消防に關し

て何一つ通曉せざるなく、村政史には必ず幾頁かを割くに至る人物とされてゐる農事實行組合長となつては農事の改良を卒先して行ひ、その言定に眞摯にして、若し何人か疑問を發する時には懇切丁寧よく納得の行くまで説明するを常としてゐる。

氏は決して言の人ではなく、行の人である。沈黙よく豪語に勝つ、蓋し氏のために存在する言葉の如き觀がある。

八榮島村豊榮

稻場堰水利 日向 庄藏



當家は舊家名門として聞え高き日向三右衛門氏の分れにして、今日で、六代目である。氏は

同じ流れを汲む惣兵衛氏より出で先代憲次氏の跡を繼ぐ。

泉村

陸軍歩兵少尉 本山 勝太郎



當家は歴代名主を勤めし、村内屈指の舊家名門で、當主にて十二代を重ね願る威望ある家柄

で、又村内有数の資産家でもある。先代彌助氏は、消防組頭、村會議員、方面委員の諸要職を歴任せる熱烈な愛郷心に燃えし人で、蘊蓄を傾けて、農村の繁榮には日夜盡瘁し、嘖々たる令名を馳せてゐる。

氏は、明治四十年十月三十一日に生れ鶴岡中學校を卒業せる秀才で、責任觀念強く、堅忍不拔の精神の持主であり、軍務に精勵せる當時には、廉直で、情誼に厚きため、上官、部下の氣受よく、優秀なる成績を輝かした。従つて郷里にあつ

ても、在郷軍人分會長、青年學校指導員の要職にありて、よく農村の青年達に同心團結の精神の養成につとめ、進取明達を鼓吹して、眞摯な活躍をなし、青年層には絶大なる賞讃を受けてゐたが、今次事變に應召され、目下現地にありて果敢なる奮戦をなしてゐる。

信用組合員で、曹洞宗の篤き信仰家でもあつた。

母堂は横山村の資産家坂尾辰吉氏の娘で、淑かな慎しみ深き氣質の人であり、夫人は鶴岡高女出身の才媛で、豊かな教養あり、近代的な性格の持主である。

狩川町

青年團長 板垣 武

常家は村内屈指の舊家にして、由緒深き家歴を有し、その祖は遠く遡つて寛永年間に發する。代々北館侯に出入を許され、土地の福祉發展に盡して、住民の徳望極めて厚いものがあつた。

當主武氏は、嚴父久治郎氏の三男とし



て大正四年一月六日の生誕、天資潤達にして明快幼時より頭腦明晰を稱され長じて庄内農學校に學んで、秀拔なる成績を以て卒業のち、その智識を郷里に齎らして、農事耕作改良に研鑽、先驅者として種々實行してゐる業務熱心の青年である。早くより村内の範とせられ、さきに青年團副團長の位置にあつたが、此の度推されて青年團長となり、郷土青年の先頭に立つて、農村振興の實を擧げんとしてゐる。氏は未だ年齢二十三歳の若冠、その將來を期待さるゝこと至大なるものがある。

氏は亦信仰心篤く、曹洞宗に歸依してゐる。

十六合村

總代 上野 久三郎

氏は明治三十年十二月の生れ、嚴父久助氏の男にして、八代目の當主である。當家は代々農業を營める舊家にして、嚴父は村會議員に推舉され、理論よりも行動を尊び、不撓不屈の精神の持主で、村會に於ける氏は、冷靜な態度を持し、事に當つて侃侃正言し、村會を牛耳りたる人である。又生來謙嚴實直なる爲、總代にも推舉されし人である。

大和村

青年團長 太田 孟

古記録の消失して詳かに傳ふる處なき

を憾みとするが、村内屈指の由緒久しき



舊家たる當家に、先代慶太郎氏の長男として大正二年

十月八日に生れた孟氏は、鶴岡中學を経て農業大學豫科を卒業、更に友部國民高等學校に學べる、頭腦明晰にして俊敏、磊落明剛にして、新進氣鋭の農村指導者である。暴支膺懲、東洋平和樹立の聖戦が遂行せられてゐる、非常時局下にあつて、挺身國難に赴かんとする青年國士、現に青年團長にして、皇國農民團役員たり、村傳來の隣保共助の美風を基調とし村民の生活慣習の革新向上を計り、鞏固なる學村一致の體制を築き以て銃後國民精神總動員に力強き貢獻をなさんとして村青年層の先頭に立つて晝夜奮迅の活動を續けてゐる。實に氏の如きは其將來の大成就目して待望すべく、當村を其双肩

に擔つて立つべき前途有爲なる青年として村の長老の讚嘆囑望する處、また村青年層の敬慕の的である。氏は一面多趣味の人にして、圍碁を良くし、また旅行、登山に興味を持ち、その識見を廣くすることに倦まざると共に將來に備へて身體の訓練にも怠りない。また氏は曹洞宗に歸依すること深く、その信仰心頗る堅固たるを以て聞えてゐる

東榮村 關根

産業組合長 加藤 俊吉



萬治九年よりの記録は嚴として舊家なるを示してゐるが開祖に就いては詳かでない語り傳へる所によれば、當村草分の舊家である。明治初年の頃一時染物業を營んだが再び農業に歸り、篤農の家である。先代九郎

氏は明治三十年十二月の生れ、嚴父久助氏の男にして、八代目の當主である。當家は代々農業を營める舊家にして、嚴父は村會議員に推舉され、理論よりも行動を尊び、不撓不屈の精神の持主で、村會に於ける氏は、冷靜な態度を持し、事に當つて侃侃正言し、村會を牛耳りたる人である。又生來謙嚴實直なる爲、總代にも推舉されし人である。

右衛門氏は長年村會議員に就任、村政に盡す所多かつたが、昭和九年惜しくも病を得、村民の哀悼の裡に逝去、送葬の盛大はよくその生前の功績を物語るものがあつた。

氏は先代の息にして明治二十七年十月三日生れである。庄内農學校を卒業後、東京農大専門部農科に學んだ。在學中より秀才の聞え高く、農藝化學を得意とし歸村後の斯道の活躍を期待されてゐた。

氏は現東榮産業組合創設に奔走し、結成さるゝや推されて組合長となる。學務委員を兼ね、産業の發展と共に學校教育の充實向上を信條として活躍してゐる。別に政黨關係なく、只管産業自治體のため盡す事、農藝化學研究の結果を實地に移し、その應用範圍の擴大に盡す事、その事が氏の所謂趣味といふべきであらう。産業組合の設立、その他の功績によつて表彰さる。家族六名、使用人七名の賑はしき家庭にして、一家の親密は、誠に美はしい。

横山村

方面委員 勳八等 小林與左衛門

其家歴の舊きこと數百年を誇る當家は當堤野部落に於ける最も由緒ある舊家である。代々専ら農業を營んで来たが、先代與左衛門氏は當主の伯父に當る人にして温和なる力行家、營々農事に精勵して篤農家の令名あり、近在の信望厚かりし人であつた。

當主與左衛門氏は明治十二年十月二十五日の生れ、資性温厚篤實にして禪宗に歸依すること篤き一面、かつての日露戰役に出征、砲煙彈雨の間をくぐつて力戰燦然たる武勳を樹て、勳八等を賜つた勇士である。農藝に深き興味を持ち、日常研究並びに實驗をして倦むことなく、高き學識と深き體験に基き農事耕作改良に實績多く、九名の家族、四名の使用人に率して農業に精勵する傍、消防組役員として二十年間勤績し、村消防組の器具完備、組織充實に貢献せる處多大にして、

表彰せられるの榮譽を擔ひ、現に方面委員並びに學務委員である。暴支膺懲、東洋平和樹立の聖戰勃發するや、銃後國民總動員の精華を擧ぐるべく、銃後軍事援護に夙夜東奔西走、郷土部隊勇士に後顧の憂なからしむることを期して活動する

外、困窮者の良き相談役として其の救護更生に盡力して着々として顯著なる功績を收めてゐる外、學務委員としても銃後國民精神總動員に寄與せる處また多大なものがある。

狩川町

區長 鈴木 伊四治

當家は土地の舊家にして、開祖は約五十年前の往昔に遡る。代々農業を營み多々自治に寄與して來た家柄である。

當主伊四治氏は、先代岩藏氏の息として、明治九年六月の出生、資性醇厚實實公共犠牲の精神頗る厚く、恭順謙遜の心篤い人格者である。さきに總代に擧げられて精勵勤勉、努力してよくその職責を

全うし、推されて區長となり、現在その任にあつて、孜孜として職務に盡し、土地の人々の尊敬を集めてゐる。

氏は又、信仰心極めて篤く、曹洞宗に歸依してゐる。

家族は、實子十一人の多きを數へ、下男一人を置いて、賑かなまどろをなしてをり、又、一家打揃つて夫々業務に勵んでゐるが、殊に長男(四十二歳)は、消防部長として町内防火の重任にあり、又農事實行組合長を勤めて、土地の産業自治を初め、多くの公事公共に盡瘁、將來町政を双肩に擔ふべき人物として、大いに期待されてゐる。

八榮里村茗荷瀬

區長 高山彦右衛門

當家は當村に於てもなかくの舊家として知られてゐる。開祖の頃の事は系圖なきため詳でないが、享保年間以降の記録より見ても古き歴史を有する家柄である事が判るであらう。



祖父の頃一時製糖業を營んだ事があつたが、代々農業を營み、模範的農家として村民の尊敬

をうけてゐる。

氏は先代彦右衛門氏の息にして明治二十七年七月七日の生れ、大正三年仙臺輜重隊に入隊、温厚にして潤達なる爲上官の信用殊更に厚く、兵營内の改良すべき事など幾多進言して用ひられる事も少くなかつた。除隊後も軍隊的生活を捨つる事なく、謹直にして道義的なる行ひは友人先輩の讃へる所、青年團支部長に推されて献身活躍した。

氏はまた政治に就いても疎からず、村會の動き、村民の義務遂行、協力に關しても注視怠る所がない。政友系に屬し政治的諸説に對する批判は鋭いと言はれる。産業組合評議員に推薦され、昭和

九年より區長に就任、氏の政治的敏腕はますます圓熟さを加へて來てゐる。

家族四名、使用人三名の靜かな家庭で長男は縣立庄内農學校に在學中である。

常萬村中堀井

區長 土屋 鳩見



當家は代々敬神の念厚く、神ながらの道を家の教へとしまた神職に從事して來た家柄である

官主として村民の信望厚く、敬神の念を自ら普及する所多かつたのである。

先代眞佐夫氏は家業を繼いで神職に従事、兼ねて收入役を二十ヶ年勤め、村長を二期を通じて勤績、名村長としての名が高かつた。

氏は先代の長男にして本年四十六歳、莊内農學校に學んだ。在學中深く農事に

心を潜め斯業に就く事を決心した。卒業後神職を辭する事に心を決め、生活の道として日本生命保險株式會社特約店を始め、農業に精進するを課業とした。

氏の篤學、誠實なる人格は村民の信望する所となり、區長に推された。職に在る事二期、村民の生活に關しては事の細大に拘らず相談相手となり村會に對しては區民の要求を代表して具陳、村民は氏を慈父の如く叔伯の如くに親愛してゐる會て産業理事に就任、産業の開發に諸種の提言する所があつた。

農事に趣味を持つ氏はまた植木盆栽を娛しみ、珍奇なる盆栽は村を訪る、者の觀覽に供してゐる。家に祀る神棚には常に燈明が斷えたり事がない。

東榮村上中野田目

上中野目區長 富樫 丑五郎

當家は、村内有數の舊家として由緒深い同名富樫家より分家せるものにして、

その創祖以來既に七代約二百年を経る。

る。歴代

の人物、

陰徳を施

すこと厚

く、村民

より崇敬

されてゐる家柄である。農を以て代々の家業としてゐる。



味としてゐる。

山添村

區長 菅原 專治

約六百年來の家歴は傳へられて明瞭なるも、それ以前は詳かにしないが土地屈指の由緒久しき舊家にして、代々農を以て業として來た。

先代金治氏は温厚にして信望高かりし人、家業に専念して農事改善に精進し、篤農家として近郷に重きをなした。

當主專治氏は温和にして實直、神佛の信仰極めて篤く、曹洞宗に深く歸依して信念に生きる農村の模範的指導者として絶大なる信望を擔つてゐる。農藝を強く愛好し、農事耕作の改良に苦心を注ぎ二町餘の田を七名の家族と二名の使用人を以て自ら耕作に精勵し、篤農家の聲名を得る傍、村政にも意を傾け、區長として昭和三年以來勤續し、其間非常時局に殉じ、國策線に沿つて献身活動せんことを決意せる憂國の士たる氏は頗る顯

著なる功績を擧げて來たが、長期聖戦から、長期建設への銃後農村に今後氏の活躍に俟つべきものは甚大である。

氏は元來政治的には嚴正中立にして人物本位をモットーとした來。政黨政治が衰微の途をたどり、舉國一致を以て此の非常時局を打開すべき秋、當村を双肩に擔ふべき人として氏の存在は益々重きを加へてゐる。

黒川村

青年團支部長 菅原 權吉

當家の開祖は記録の詳細に傳へる處なきも、今より五百年前當地に移住し來り代々農業を營み、五郎右衛門の名を襲名も來れる、由緒久しき土地屈指の舊家である。

祖父五郎右衛門氏は區長、村會議員等の公職を多年に亘り勤め、村政に功勞多かりし人にして、先代五郎右衛門氏もまた、村會議員、區長、方面委員、學務委員、耕地整理委員等を歴任し、資性温厚

先代五郎次氏は聰明敏腕の士として、周圍より多大の期待を受けてゐたが、不幸業半ばにして早世、當主丑五郎氏は、その子息として明治十年十二月の出生、尊父の遺志を繼いで公益に盡すの心深く種々村の公益に寄與する處あり、さきに村會議員に選出されて、多くの功業を残し、又區長を勤めること既に四期、十二年の久しきに及び、現在なほその任にあつて職務に精勵してゐる他、部落協議員、村信用組合員としていづれもよくその要責を果し、村の向上發展に努めてゐる。氏は曹洞宗を篤く信仰し、又園藝を趣

篤實にして良く村民を指導し、村民の福祉増進、公共事業に盡力せられし君子人であつたが、耕地整理組合長、村會議員等に在職中病に斃れ、村民氏の逝去を愛惜して已まなかつた。

長沼村

區長 板垣 武

すること篤く、信仰心鞏固なるを以て聞えてゐる。

憾むべくは古記録の消失して傳へる處詳かならざるも、村内の由緒久しき家柄にして、七郎右門氏はかつて村長、郡會議員等の公職を歴任し、地方自治の發展に頗る顯著なる功績を遺し、當村の長老として村民の信望極めて厚いが、老いて益々豐饒たるものがあり今尙村會議員として村政に關與し、餘生を抛つて長期聖戦下の銃後農村に在つて、山積せる難問を處理解決し國策の線に沿ひ銃後國民總動員の精華を上ぐるべく東奔西走寢食を忘れて席の温まることなき活躍を續けて村民の感謝と驚嘆の的となつてゐる。

武氏は明治卅二年の生れ、嚴父七郎右門氏の風格を繼いで、磊落明朗にして質實剛健、頗る公共精神に燃え、不撓不屈初志を貫徹せんば止まざる氣慨あり、

山添村板井川

消防小頭 篤農 五十嵐 吉治

當家は曹洞宗を其宗旨とし、代々信仰心の堅固なるを以て聞え、其家庭は和氣霽々たる團欒の談笑絶ゆる時なく、近隣も羨望する頗る圓滿な家庭である。

當家は代々農業を營み、開祖は數百年



以前と云はれて、當村に於ける代表的舊家として知られてゐる。先代茂次郎氏は、村治開拓に

現に青年團支部長の任に在り、村青年層の指導者として、村傳來の隣保共助の美風を基調とする村民生活習慣の改善向上に盡瘁すると共に、銃後農村國民精神總動員強化に裨益し、當村長老より將來村を双肩に擔ふべき人物としていたく囑望せられてゐる。また氏は曹洞宗を信仰

盡力せる外、農業に精勵し、村内の徳望厚き人物であつた。

當主吉治氏は同村西荒屋の名門より養子として來りし人にて、温厚篤實、農業の改良と振興に専心努力し、氏こそ實に篤農家として恥ぢざる、眞に土を愛し、郷土を愛する人物である。

然して大地の如き寛大さと、穩健さと勤勉努力とは、氏の天性の稟質といふべく、氏の終日は土と共にあり、氏の生涯も亦土から離れることがなかつた。故に氏は「農村の父」として村民より親愛と信望を一身にうけてゐるのは尤もなことといはなければならぬ。更に氏は村民に懇望されて消防の發展に盡力し、現在消防小頭としてよく職を果してゐる。

なほ氏は政黨的には嚴正中立をたて、曹洞宗に歸依してゐる篤信家である。家族は母堂壯健に在し、夫妻圓滿、氏の孝心深きも定評ありて、一家平安なる家庭をいとなんでゐる。義弟幸治氏は、青年團長として活躍、有爲の青年と目さ

れてゐる。

押切村

區長 勳八等功七級 風間 銀藏

先代與作氏の次男として明治十四年四月三日に



出生した氏は、當家の六代目に當つてゐる。

當家はかつて村内愛宕神社敷地八十二坪を寄附せし敬神の念に篤き家柄にして、氏はかつて日露戰役に出征するや、荒蕪たる滿洲の野に砲煙彈雨をくぐつて皇國興隆のために奮戰、郷土神の加護を得て赫々たる武功を樹て、歩兵伍長に昇進すると共に、勳八等功七級を賜り晴れの凱旋をするを得た譽ある勇士である。剛毅磊落にして人情味に富み、正義、公共のためには身を挺して進まんとする熱情家かつて統計調査員、國勢調査員、實行組

合長として東奔西走寢食を忘れて公共公益のために盡瘁し村民の信望愈々厚きを加へ、現に區長、方面委員の職に在るが好評噴たるものがある。殊に長期聖戰統後國民總動員下に於て、銃後軍事後援、貧窮者の救護に縦横に活動する氏の貢献寄與は頗る顯著にして、今後の活躍を一層期待せしめる處多々ある。

廣瀬村 松尾

區長 勳八等 伊藤八郎兵衛

當家は村内屈指の舊家にして、開祖は遡つて三百餘年の往昔とし、當部落の開

拓に獻身せし家の一つである。爾後農を以て家業と定め、代々よく生業に精勵、篤農家として



顯はれてゐる。歴代の戸主八郎兵衛を襲名する家例である。

當主は先代八郎兵衛氏の時、望まれて當伊藤家に養嗣子となり、家例に依り襲名して八郎兵衛を名乗るに至つたもの、その出生は明治十六年五月十六日、潤達にして内に堅實の志操を藏し、言語明快動作活潑の人物である。さきに弘前山砲隊に入營、現役中日露戰役の勃發に遇ふや、勇躍從軍して各地に轉戰、武功を樹て、凱旋のち、勳八等に叙せらるゝの光榮に浴してゐる。

郷に戻つて以來は、村の發展に寄與する處多く、さきに耕地整理委員を勤めてよくその實績を擧げ、現在なほ老軀を提

げて區長の任にあり、愈々職務に勉勵して土地住民の尊敬を集めてゐる。

なほ、氏の長男信夫氏は、現役入營中



長男 信夫 氏

今次の日支事變に遇ひ、欣然征途に就い

て勇躍奮戰中、名譽の戦死を遂げし報道ありたるも詳細はなほ不明である。

山添村

大日本武徳會 士 五十嵐九兵衛

先般宮域内に於て催されたる御大禮記



念並に、皇太子殿下誕生奉祝の天覽試合に、山形縣代

表選士として出場し、又第三回全日本柔

道選士權大會に東北地方代表選士として出場し優勝して、畏くも 天皇陛下、梨本宮殿下、宮内省より御下賜を賜る光榮に浴し、また大會長嘉納治五郎先生、陸軍大臣、中山博道氏より優勝旗を贈られなどの榮ある戦績を持ち郷土の譽を高く擧げた氏は今より四十四年前、資産數十萬を有する土地屈指の大農地主たる五十嵐家に先代九兵衛氏の長男として生れた。當家は其開祖當地に移住し來て土着せるに始まり、數百年間連綿繼承せる由緒久しき舊家たる本家五十嵐家の分家にして、既に六代を経るものである。先代九兵衛氏は永年に亙り村長、郡會議員、縣會議員を歴任し、縣會議長にも就任せる民政黨莊内支部長にして縣政界の長老たりし人傑であつた。

剛健にして尙武の氣性に富み、古武士的風格を持てる當主九兵衛氏は精力善用自他共榮の精神徹底を抱負として、多年黙々として武術日本精神を廣く郷土の青年に實踐躬行を以て指導し來たり國民精

神作興に絶大な功績を遺し來たつたが、現に大日本武徳會教士として莊内柔道有段者會頭、講道館文化會莊内支部長の任に在り、長期聖戰の非常時局下にあつて益々國民精神總動員のために活躍してゐる。

氏は農科大學出身の知識人にして、その長女は東京實踐女子専門學校に學び、才媛にして、次女は鶴岡高女、長男は鶴岡中學に在學中の何れも明敏を以てきこえてゐる。

黒川村

區長 菅原 與三郎

當家は四五百年を閑したる稀有の舊家で歴代篤農家を以て鳴らせし家柄である。當主與三郎氏は、嚴父與兵衛氏の長男として、明治八年二月十日に生れ、日清、日露の兩役には、各地に勇猛果敢な奮戦をなし、赫々たる殊勳に輝やきし人で、その功績により、勳八等に敘勳された。其後父君と共に農事に精勵し、不撓不



屈の精神と、不拔の實行力を持ち、見事な實果を輝かし、在郷軍人會評議員に就任してよりは、會長と協力して、郷軍の重責を遂行して、遺憾のない成績を収めた。

十八年間に及ぶ區長の要職にあつては村民の絶大な信用を基礎にして、縦横に驥足を伸ばし、村民の福祉増進に、數々の寄與をなしたので、村民は深くその功績を稱揚してゐる。なほ現在氏は耕地整理組合長をも兼任してをり、嘗て、農事奨励の功により縣より表彰された。實父與兵衛氏は區長を勤績して、農業に努力せる實行家で、本年八十七歳の高

齢にも拘らず、尙矍鑠として、壯者を凌ぐの概を以て、後進の啓發に當つてゐる。家庭は十五名で、圓滿なる生活を營んでゐる。

黄金村 上山谷

上山谷區長 齋藤 孝之助



數百年引連綿と續いた家系を有してゐる當家は、舊家として著聞されるのみならず、精農家として近村に知られてゐる。實父春吉氏は殊に代表的篤農家として名望が高かつた人物である。

その男として明治十九年生を得た當主孝之助氏は、本年五十四歳になる。早くより村政開拓に意を用ゐる、中でも消防組に對しては功勞多大であつた。十七年間消防部長として勤績し、尙上山谷區長と

しても現在迄十七年を數ふるのである。更に氏は區長たるの外、方面委員、學務委員等を兼任し當村々政の有力者として信望され、よく村民に敬従さるるところであるが唯に氏の功績の偉大さによるのみならず、温厚玉の如き人格の然らしむる故であらう。

當村今後の圓滿なる發展は氏の如き人物に俟つところ多く、前途の活躍を期待されてゐる。

一家は七名にて、氏の人格の反映は、和氣藹々として笑聲家に満ち、常に春風の吹きよすが如き家庭をつくつてゐる村民羨望の的である。

渡前村 平形

區長 富樫 鐵五郎

代々、二宮尊徳の報徳に私淑して、農業に精勵してゐる家で、氏は明治十一年六月二十一日に、嚴父清次郎氏の次男として生れた。

先代は徳義心深く、名利に恬淡な人物

なりしたため、氏も又剛健勇壯にして、廉直な性格を備へ、村民にも深く親しまれ二十七歳にして早くも區長の要職に就任せる人で、身命を賭して、自己の信念を實行せん熱意を以て、農村行政問題に没頭し、秀れし才能と、誠實さを以て、嘗て同村内を風靡したこともある。

其後村會議員に推舉されて、村會に初登場するや、氏は區長の要職にありて、研鑽克苦した體験を基礎に、種々の畫策を以て村會に臨み、侃々正言し、目覺しき活躍をなせしため早くもその存在を認められた。又耕地整理委員當時の盡力も見逃し得ないものがある。

現在は衛生委員の要職にある外、農會總代を兼ねてをり、その村政に残せる功績は枚舉に遑なき程で、當村の發達史に印せるその足跡は評價すべからざるものがある。

趣味は庭園で、深き知識を持つてをり民政黨内に於ける偉材として、縣下政界に、令名を輝かしてゐる。

黒川村

從七位 澁谷 繁



當家の開祖は最上義光の臣下で、代々苗字帯刀を赦されし名門にして、六百年前最上家没落と同時に、西村山郡白山石村より當地に來たりて、農業に従事せるものである。嚴父定五郎氏は村會議員、郡會議員を多年勤績せる功勞者で、謙遜心の強い徳望家であつた。

氏はその長男で、當年四十六歳にして縣立農學校卒業後、大正二年に一年志願兵として、歩兵第三十二聯隊に入營せる豫備少尉で、後備召集により後備中尉に昇格した。

生來、穎敏にして才智に富み、豪放さを持つた正義感の強い人で、質實健剛を

旨とし、嘗て在、軍人分會長に就任せる時には、堅忍不拔、協力一致の精神を植ゑつけ、精神教育に専心して、信望を厚くし、名分會長と謳はれ、表彰を受けた。其後何等村の公名譽職にも就任せず、村政に參與せることもないが、氏は常に陰にあつて助言をなし、農村の發展に盡力してをり、又民政黨に屬して、縣下政界の中心人物として、活躍をなしてゐる。長男は安部小學校に在學中で、父君の厳格な薰陶を受け、孝養心が厚い。

狩川村

區長 佐藤 忠藏



當家はその創立頗る舊く、遡つて三百年前の祖に始まる農を以て專業とし、代々よく家業に精勵して、篤農家の聞え高く、亦土地の開拓に當り、村の發展に資し、よく全村の信賴する處となつてゐる。

殊に先代惣治氏は、生涯を自治に捧げ、町より高く表彰されてゐる人物である。當主忠藏氏は、その子息として、明治十九年の生誕、性格質實眞摯にして、公益精神篤く、亦實行力に富み、確實堅剛の手腕を稱されてゐる。即ちさきに區長代理を務めること八年、大いに治績を擧げ亦農事實行組合に深く關係して、功業高く、町より表彰せらるゝの榮に耀いてゐる。尙現在、區長に推輓せられて、銳意職務に勉勵してゐる他、農會總代、區衛生組合支部長、信用組合評議員等の要職に在任して、いづれも重責を謬らす、功績頗る顯著なものがあつて、全村内より讚へられてゐる。更に日支事變勃發に當り一家を率ゐて銃後の護りに盡し、村青年の士氣の振興に亦努めらる。

氏は尙曹洞に歸依して、菩提寺の爲多大の寄與をなしてゐる。

八榮里村 拂田

拂田區長 池田庄左衛門



創祖以來十八代を経たる當家は、當部落の最舊家と目され、代々農を以て本業となし、精農家として定評ある家柄である。初代は最上郡方面より移住し來れるものと謂はれる。先代庄左衛門は農に精勵せる傍、村政に參與し、村會議員區長等を歴任した功勞者である。

當主庄左衛門氏は家名を襲ひ、父の志を繼いで村政の發展に獻身的努力をなし其の圓滑なる遂行に當つた。温和、着實なる資性はよく人の知るところにして、何事も氏ならではと信賴され、消防部長在郷軍人評議員を経て、終に村民の絶對支持を得て區長に就任、現在に至つたも

のである。氏はその他、方面委員、産業組合理事、自治管理委員、負債整理委員等の村政各方面に亘つて活躍をなし、業績赫々たるものがある。

尙氏は曾て近衛二聯隊に入隊した軍籍を有してゐる。政黨的には以前民政黨に共鳴して活動したが、今は嚴正中立を旨指して活潑である。

家族は七名にて、一家和氣霽々として平安に満ち、模範的家庭と羨望されてゐる。

東榮村

區長 叶野 正平

當家は代々部落の中心要職に就任して村政の刷新に絶大なる功績を輝かせし家にして、數代前に於ては、當地方村民に今尙その令名を謳はれてゐる程の漢學者を出だせし由緒ある家柄である。

當主は明治八年八月三日に生れ、十四代目の家督を繼ぎ、幼時より致々として鑽研を重ね非常な博覽家で、又友情に富

み、懇切信義にして、他人に對しては鄭重さを以て應接し、爲に、村民の氣受もよく、不言實行を旨とし、強大な實行力あり、村内に於ける信望も厚く、壯年の頃、推輓を受け區長代理の要職に就任し村民の福祉増進を願ひて、鞠躬盡力せし人で赫々たる業績を残す間もなく、その功績により村會議員の顯職に推舉されて非常な抱負を持つて村會に出馬し、民政系に屬して權謀を振ひ、確固たる地位を築く外、村會に明朗な空氣を注入し、その名聲を馳す。

現在は區長、笹川水利組合議員、産業組合議員の諸要職を兼任して、組合の強化に意を注ぎ、諸施設を刷新して、組合事業の繁榮をもたらし、村民に絶大な信用を勝ち得てゐる。

子息達は雄志を抱いで鮮滿方面に渡り華々しき成功を収めて、活躍を續けてゐる。大陸政策は國家伸展のために國是のうちにも重大たるものその行爲や誠に慶に値する。

廣瀬村 細谷

農事實行 組合長 庄司 乙一



當家は村内屈指の舊家にして、その由緒極めて深きも、系譜なき爲、詳細の點は判明してゐない。代々農を以て專業とし、村の發展に盡力して來た家として、村民の信望を得てゐるが、殊に嚴父伊之助氏は、區長及村會議員等に任ぜられて數々の功績を擧げ、自治功勞者として、今尙讚へられてゐる。

當主乙一氏は、その長男として明治二十七年四月二十五日の出生、性格實直穩健にして、獻身犠牲の心頗る厚く、さきに消防組合部長として、村内火防の重任に當り、よくその職責を全うして遺憾なく、現在推されて農事實行組合長の要職

にあり、農村の発展は多角的農事經營にありとの抱負の下に、殊に養蠶その他の副業開拓に努める處多く、農村經濟改革の先驅者として村民の信頼を受けてゐる氏は曹洞宗に篤く歸依し、亦家族はすべて十名、使用人四名を置いてゐる。

長 沼 村

區 奧泉湧右衛門

當家の五代目當主伊之助氏は天保義民として、令名一世に名高い人で、當主は八代目、當村内屈指の舊家。

氏は嚴父音吉氏の長男として、明治九年十月二日に生れ、生來數理的な明晰頭腦を持ち、事務家肌の人であり、収入役に就任して優秀なる成績を収め、長く勤続して、名収入役と畏敬されしも、現在は區長の要職にあり、農村問題に殉ぜんとするの誠意を抱き、村民の願はんとする所を聞いて、種々刷新を圖つてをり、爲に村民感謝の的となつてゐる。

方面委員をも兼任して、疲弊せる農村に新生面を開くことに、日夜奔走をいたし、爲にその高德は赫々として輝いてゐる。曹洞宗を奉信して、篤信家との聞えも高い。

押 切 村

區 長 田村 國保

當家は當村の舊家にして既に十三代を關してゐる代々農業を営み神職を兼ねる



敬神の家である。先代美種氏また平野神社の官主であつた。

氏は先代の息にして明治十五年八月生れである。先に山形師範學校を卒業、長年初等教育に携はつたが、後區長、農會

評議員、産業組合幹事となつて村治のために盡した。教員としての力を充分蓄積した氏の抱負は直接教育界を退いた後も常に教育方面に注目し、その區長たりし時も青年の勉學を常に奨励する事を怠らなかつた。目下父祖の業を繼いで農と共に平野神社官主である。

廣瀬村猪俣新田

區 長 成澤 龜太郎



當家は村の舊家にして、代々農を以て業とし來たること當主まで八代である。其創家の祖は泉村鎌田成澤八兵衛家より分家したものと傳へらる。先代龜太郎氏は村會議員の職に在ること多年、村治の向上發展、盡瘁し頗る功績あり、村會の重鎮として絶

大なる衆望を擔ひ、大正十四年七十二歳の高齡を以て逝去した。村民之を哀惜すること篤かつた。

當主龜太郎氏は明治十七年一月四日の出生、かつて日露戰役に出征するを得て滿洲の曠野に幾轉戰、殊に鐵嶺方面の戰鬪に赫々たる武勳を樹て勳八等を賜はつた忠勇の士である。農事耕作の改良を以て多大の興味となし、かつ其體験深き氏は、農事に精進して郷村を驚かしたる實績を残し、推されて農會總代ともなり、村農産業の發達に多大の功績を残したが、また昭和六年區長に就任して村民の福祉増進、村勢の發展に顯著な寄與をもたらした村民の厚き信望を擔つてゐる。また産業組合役員としても、隣保共助の美風を基調とする同組合の伸展を通じて村産業の發展のみならず當村の生活習慣にも資する處甚大なものがある。曹洞宗に信仰心厚き氏は、元來民政黨系に屬するも、事に當つては社會正義に基き批判行動する信頼し得る人として定評を得てゐる。

黒川村 梳代

區 長 成田 藤太



當家の由來は極めて舊く、桓武天皇の延暦年間に祖先の業績の傳へられる由緒久しき近郷屈指の舊家にして、梳代部落最古の草分である

氏は明治十九年十月十五日先考六郎左衛門氏の後繼者として生を受けたが、六郎左衛門氏は早逝したので、叔父仙太郎氏に薰育せられる處多かつた。

藤太氏は温厚篤實、先見の明ある人一倍の努力家、夙に當部落は山奥の僻地に在るを以て部落民の經濟的向上は山林原

野の開拓に依つてのみあり得るを確信、營々として經濟に従事頗る實績を擧げてゐるが、また其間區長の要職にあること四期に及び村治、産業の向上發展に盡瘁し貢献裨益する處甚大なるものがあり、且當村の將來は氏の識見及手腕に待つべきもの多きを以て、その信望愈々厚きものがある。東北地方農村の經濟的更生が重要な國家的問題とせられる秋、殊に長期聖戰下農村生産の擴充發展の急務が叫ばれるに當り、氏の如き先驅者の任務は重大なものがある。

黄金村 谷定

區 長 阿部 久治郎



本家は黄金村の素封家阿部久兵衛氏にして、既に二百年餘を閱する舊家である。氏は阿じ流

れを汲む先代阿部甚兵衛氏の男にしその家督を継ぐ。實父甚兵衛氏は四十年間に互り村役場に勤め、篤實なる収入役として評判が高かつた。

久治郎氏はかの日露大戦の折上等兵として参戦、轉戦また轉戦、幾多激戦の中をくゞり、赫々たる武勳は戦友間に知らるゝ程にて凱旋の曉、其功により勳八等を賜はる歸りて在郷軍人会、消防部長等を勤め在郷軍人の訓練指導、村内安全のために盡さる。現在區長、農事農工組合長に就任村の爲に盡さるゝ事多し。

氏は政友會の政策に共鳴し、温良にして寡言の人なれば表面諤々の言はなさざれ共、想ふ事内に深く、村政その他の批判に對しても温厚なる言葉を以てする。佛教を信じ曹洞宗に深く歸依し、家庭亦信仰の氣漲る。家族七名よくまた氏の氣質をうけ近隣に對しても和平であり、舊家の氣品自ら身に備はるもの言はれてゐる。また讀書の趣味は有名にて博覽の人常識豊である。

長前村和名川

區長 高橋 三藏

當家は村の草別けにして由緒正しき家柄である



家系圖、書類及び記録等ありしも紛失し一般に惜まれてゐる。氏は高橋家に入りて三助氏を父と仰ぐ。

明治十年三月八日出生である。養父三助氏は區長及び區長代理を勤め、明治初年の時局多端の折村政に盡す所多かつた。氏は日露戦役に歩兵三十二聯隊附にて出征奉天會戦に参加、その功勞により勳八等を賜はる。昭和八年より區長に推され今日に至る。

氏はよく政治を解し、民政系に屬す。寡黙謹直にして人と争ふを好まず、政策に對しても口角泡をとばして論ずるより

も靜に説いて實行せしむる態の人である

書籍に親しむを喜び、折あればそれを繕かれるが概ね道を説き、産業に精進したる人士の傳記を好まる。曹洞宗を信じ家庭また信仰篤く、家族七名使用人三名は和樂して親愛の氣横溢す。

狩川町

區長 日向 金治郎

當家は村内の舊家にして、開祖以來當主金治郎氏に至るまで、八代を閲してゐる。歴代他地方の庄屋に當る肝煎の重職にあつて、土地の利福に寄與する處淺からず、住民の崇敬深い家柄である。代々農事を以て家業とし、篤農家の聞えが高い。

當主金治郎氏は、先代平四郎氏の長男として、慶應三年の出生、性温和にして質實、公德心に富み、責任の觀念固く、一身を捧げて土地の福祉を念じ來つた奇特の人である。高齢に及ぶ今日尙元氣壯者を凌ぎ、農會總代として産業に多々資

してゐる他、區長の任にあること前後三十年の長きに及び、その間の功業枚擧に遑なく、廣く住民の感謝の的となつてゐる。氏は亦曹洞宗に深く歸依する佛徒である。

八榮里村近江新田

區長 菅澤彌右衛門

當家は本部落の舊家にして最近開祖三百年祭を行はれた。累代農を家業とし、村のために盡さるゝ事多し。元來地主は小作人のために土地を貸與するのみならず、農事改良の指導、率先してその事に従ふものとされるが當家も亦良地主として村民が敬慕する所である。

當主彌左衛門氏は先代の息にして明治十八年十一月十五日生れである。大正八年以來區長に選ばれ、村治の事に寧日なし。氏は亦農事に關しては卓見、抱負を抱持し、農村の發展、生活上のために心を用ひらる。肥料問題は特に最近農産

物生産費輕減のために問題とされてゐるが化學的肥料購入を少くする爲に推肥の増産をはかる。また米價の行き詰り、養蠶事業の多難に當り、農村の單純經營より多角經營への目標に則り、氏も亦之に注目、方案を作り、漸次實行をなし村民の協賛を得てゐる。

氏は温厚篤實、一事に對して倦む事なく、完成を見ずんば止まざる不屈の精神を持つてゐる。政治に對しても亦熱心、政友會系であり、その政策の普及に對して銳意當られる。家族は八名、和氣靄々として一家の團樂は人の羨む所、家族に圍まれての氏の政談は蓋し親しみ深きものがあると言はれる。

東榮村川尻

區長 佐藤 久治郎

當家は部落に於て遠く舊古に遡る佐藤三右衛門家の分家にして、當村に來住以來既に六代を閲す。農業を營み代々篤農の士として知られてゐるが、先代久治郎



氏の町長としての勤績は相當長いものがあつた。氏は先代の長男として明治三年五月二十一日

日生れ、父祖の業を繼ぐ。側ら當村に雜貨商を營み、資産家である。

曾て村會議員、學務委員、方面委員等の要職に就きその活躍が目醒ましきものとされてゐる。幾多の功績のうち特記すべきは現東榮高等小學校創設時の苦心であらう。最近に於てこそ小學校教育の重要性が叫ばれてゐるものゝ、これの實現には仲々に多難の路を経ねばならなかつた。氏は寢食を忘れ頑強に説き、豫算の案出に苦心し、村治の遂行と相俟つて教育事業の充實を期したのである。

希望成つて學校落成し、氏は一切の公職を後進に譲つて悠その生活に入つた。だが村民の切なる懇懇黙し難く、區長の

職に就き今日に及んでゐる。
既に古稀に近き氏は尙壯者を凌ぎ、閑日月適の境にあるといふものゝ、民政黨に關係し、農藝化學を研究し、農事の發展に盡してゐる。曹洞宗を信ず。

押切村上組

區長 庄司辰吉



庄司家はその創立以來幾多の星霜を経過して今日に至るまで代を重ねること十代に及んでゐる。舊家であつて、家風亦た勤儉力行にして資産頗る豊澤である。代々農を以て業とし豪農の名門にして、遠近の敬仰して措かざるところである。先代源藏氏は殊の外精農家にして令名最も顯はれ功績著大なるものがある。今に至るも村民の追慕してやまざるを、以つてもその人格を推

して知るべきである。

當主辰吉氏は源藏氏の長男にして、明治十三年三月二十五日に出生した。當家第十代目を相續してより家業を精勵するの傍ら公共の事に奉仕すること甚だ熱誠にして、その財力と信用、その人格と識見、その才幹と學識とを以て、常に全村の指導誘掖に任じ至誠盡忠の高士君子として心服されてゐる。今や區長の任にあつて自治の第一線實務を擔ひ、自治の主旨を徹底し部落民の善導に全力を傾注して、その成績甚だ優秀である。特に縣は氏に囑託するに方面委員を以てした。生來多血的にして慈仁義俠に富みたる氏は、歡んで之を甘諾し、隣保相扶の貴き使命に没頭して、方面事業の普及徹底と、その達成に盡瘁しつゝあつて、令名高く近郷に謳はれてをり、且つ尊崇をあつめてゐる。

氏の家庭はかくしてつねに春風駘蕩として和氣霽々、圓滿具足して隆々と繁榮しつゝあるのである。

廣瀬村後田

後田區長 齋藤 助治郎



當家は今より四五百年前の開祖にして代々農業を營み、篤農家として徳望高き齋藤 徳右衛門家の分れである。氏は先代助次郎氏の息にして分家以來既に七代を関する舊家である。明治九年十月一日生れ、小學校卒業、現兵役改正以前の事として兵役に關係がない。農事に關しては多年の経験により著しき手腕を有し、農事實行組合長に推される。教ふるに懇切、指導に當りて叮嚀、人格は村民の慕ふ所、村會議員に懇望される。現在區長として村民の相談相手となり、一般またよき相談相手と言ふ。村民は公私に拘らず氏に教へを乞ひ、その言に従つて危惧する事がない。大いな

る人格者といふべきであらう。

民政黨に屬すれども所謂政客肌の人ではなく、飽まで質實、朴訥なる篤農家である。温顔は子女も親しみ、人の氣風を柔げる。

家族六名、使用人三名、三戸の分家がある。常に氏を訪ひてその健康を祝す。氏は村民を慈しむと共にまた家族近親を愛憐し、氏の温顔、怒聲を聞きたる人なしといふ。

黒川村

區長 渡部九左衛門



當家は村内稀にみる舊家で、詳細は不明なるも天明時代よりの記録あり、代々農業に精勵し

九右衛門氏の男として生れ、力と稱せしが、後ち先代の名を襲名す。

氏は家業に熱心な眞面目なる青年で、施設を改善して、耕作の改良に盡力し、農事の多角的經營を心掛け、卓拔な手腕を振ひて、見事な實果をあげ、家業の盛大さを齎せし人であり、その純眞朴訥な、謙讓心に富める性格は、村民の絶大な信用をかち得、區長、方面委員等の重職に就任し、困憊せる村民等には深く面倒を掛けて、その更生に盡力せるため益々その名聲は喧傳され、現在では信用組合評定委員の要職を兼任して、組合の強化、事業の擴張を圖り、その成績の向上に腐心してゐる。尙父君は、政友會にありしも、氏は中立を確守して、縣下の政界に活躍してをり、家庭には十四人の家族あり、靜謐なる生活を送つてゐる。

狩川町

區長代理 門脇 甚之助
農會總代

篤農家として聞えてゐる。
氏は、明治二十七年九月二十日に嚴父

當家の開祖は頗る古く、三百餘年の往昔に遡り



部落の草分けとして辛苦荒蕪地の開拓に當れ

る舊家の一家にして、爾來農業を以て立ち歴代の人物銳意家業に働んで、よく今日の家運を築いてゐる。別けても先代治郎兵衛氏は、献身奉公の念厚く、村の公職に幾多歴任して、甚大の功績を残し、村民感謝の的となつてゐる。

甚之助氏は、その子息として明治二年の出生、性格醇厚にして恭順謙遜の態度深く、亦、公共心が頗る厚い。早くより村治に種々盡瘁してゐるが、殊に火災豫防組合長として在任實に二十年の久しきに亘り、村内の警火に當つてよく重責を果してゐるのは、全村舉つて感謝を捧げて已まぬ處である。その他尙、區長代理として現在四期目にあり、亦部落總代、

農會總代、區衛生組合長等として、いづれもその職責を全うし、功業淺からざるものあり、老軀を提げて愈々村の發展を圖るに努めてゐる。

氏の家族は十一人を數へ、長男啓次郎氏は、尊父を助けて家業に勵む一方、統計調査員等を務めて村政に盡してゐる。

東榮村無音

區長 今野 龜藏

氏は明治六年三月八日の出生、先代嘉右衛門氏の時、望まれて當今野家に養嗣子となつたが、のち氏自身、一家創立の目的を以て分家したものである。

氏の性格は誠實眞摯、堅實にして勤勉孜々として家業に努めて倦まず、その精勵ぶりは夙に全村の模範とされ、篤農家としての譽れが高い。早くより一意専心して農村振興の先頭に立ち、農事耕作改良に辛苦研鑽を積んで、數々の新生面を開き、また荒蕪地を開拓して美田となし悪地を化して良畑となし、その考究を率

先實行、先驅者として、ありとあらゆる苦酸を嘗めて、よく村民の耕作方法改善に努めし功淺からず、現在全村は學つて氏に教へを仰ぎ、長老として敬仰措かざるものがある。

氏は恬淡にして名譽心なく、周圍より推さるるも、名譽職に就くを肯んじなかつたが、最近に至り、衆望默し難く、區長の任に立つて、部落の福祉を圖るに努めてゐる。

氏は曹洞宗を信すること篤く、亦農藝に多大の趣味を有してゐる。

狩川町

區長代理 後平 喜一

後平家はその創立頗る舊く、開祖は今より遡つて二百五十年餘に及び、實に當村の草分けである。當時微々たる一村落として、荒蕪踏み入る餘地を存せざりし當村に移住し、少數有志の先頭に立つて辛苦開墾の難業に當り、原野を切り拓いてよく今日の美田をなすの基礎を築いて

る。爾後引き続き、代々の人物皆、村内の農業經營に一身を捧げ、孜々として努めて倦まず、以て現今の平和境をなすに、與つて圖り知れざる寄與を致してゐる。

殿父五助氏も亦、早くより篤農家として顯はれ、父祖の志を享け繼いで家業に勉勵、全村民の畏敬を受けてゐる。

當主喜一氏は明治四十年の出生、未だ三十歳早々の青年である。性格質實にして沈勇の氣象を藏し、深く信賴を集めてゐる。望まれて當家に養嗣子に入り、よく養父に孝養を盡して、近在の範とされてゐる。亦少壯早くも嚮望されること高く、此の度區長代理に推され、尙將來を頗る期待せられてゐる。

家族は五名を數へて、和氣藹々たるまどろをなしてゐる。

十六合村境與屋

醫家 齋藤 光

亡夫醫師久悅氏は、日本醫科大學卒業

後、東京泉橋病院に勤務、特に外科を長年研究し、歸郷後醫院を開業し、懇切と篤學によつて村民の信望を蒐め、前途有爲の青年醫師として尊敬一方ならぬものがあつたが、不幸開業二ヶ年餘にして急性肺炎にて慌しく逝去せられた。

夫人光さんは明治四十二年四月四日の生れ、西田川郡榮村中京田の資産家の令嬢として鶴岡高等女學校卒業、嫁して琴瑟濃かにして、長男良一君(十歳)、長女チエ子(十一歳)、次女敬子(十歳)さんの一男二女を擧げ、春風の如き家庭であつたが一夜にしてこの不幸に逢つたのである。光夫人はこの愁嘆の裡に雄々しく決意し、嘆き深き養母キョエさんに仕へ、子女の生育に盡し、未亡人として清き生活にあり、村民の間にこの健氣なる夫人の日々が女性として母性としての典型として欣慕されてゐる。

狩川町荒鍋

篤農家 大瀧 一彦



當家は徳川幕府以前より當地に居住し農村開發のために盡し來つた由緒ある大瀧七在衛門家

の分家である。當家も亦舊家の分れとして代々農を營み殖産の道を怠らなかつた

氏は先代彦造氏の息として明治四十五年三月の出生である。庄内農學校に學び研鑽を積む。氏は幼より園藝に興味を持ち、父及使用人の働きに交じつて手傳ひ等をするを喜びとしたが、長じて益々その趣味が嵩じ、自ら進んで農學校に籍を置いたのである。されば在學中も理論に熱心なるは元よりの事、實習には自ら率先して事に當り、些の懈怠を見せた事がなかつた。成績優良、最も好もしき農村指導者としての嚮望を擔ひ、歸郷後も決して先輩、指導者の期待を裏切る事はない。曹洞宗を信じ佛得を體得し、人を責

十六合村

篤農家 坂本武左衛門

先代武左衛門の名を襲名した當主は、明治元年生れの村の元老であるが、當主をもつて七代目、由緒深き家門を有して村内に重きをなしてゐる。

その同家の名譽を永劫に記念するものに、嘗て、明治天皇東北御巡幸の砌、數ある土地の名家かく撰ばれて、特に御接待役を仰せつがつたといふ榮與を擔つてゐる。

篤農家として常に農事の改善に餘念の

ない氏は、一方村治に携つても、元信用組合理事、元村會議員として數々の實績を残して来たが、現在は總ての公職を辭して、専心農事に従事する傍ら、亦稀に見る信仰深い佛徒として、その名は地方の佛教會に尊敬を拂はれてゐる。氏は往時天臺宗の本山に籠り、不拔なる修養を積んだ結果、その悟道を認められて、彰道の僧名を與へられた程の積善の士である。氏のその信念は、將來益々佛徒として徳善を積むべく怠らないが、その嚴父の後を繼ぐ長子武七氏は庄内農學校卒業後、家庭に在つて父親を補佐しつつ農會の技師を勤める一方、村治に參與して現村會議員の列に在る前途有爲多幸の士であり、坂本家の家名は益々泰山の上に置かれてゐる。

常萬村福原

素封家 阿部 鎌吉

當阿部家は今を去ること三百餘年前に創立せられて、代を重ねること十二代に

上れる舊家である。代々豪農にして貨殖に長じ巨富を累積して財力を以て著聞、縣下屈指の名門である。然も貧困を救恤し窮厄を解助し、その施せるところの陰徳は枚擧に遑あらず、その恩惠餘徳に浴して更彩蘇生し、國家郷土に貢献せる者決して少に非ず、まことに當家こそ積善の家と敬仰さるゝや宜なる哉である。先代清行氏は村會議員として多年にわたる村政の第一線に在つて脊贅擁護し、氏は指導裨補し、その功績宏大にして全村の感謝推服して措かざるところである。今に至るものその道徳を追慕さるゝこと切なるものがある。

當主鎌吉氏は清行氏の長男にして當年五十一歳である。さすがに傳説を承けて氣品徳風は燦然として輝き郁々として香つてゐる。

その人格は圓滿にして崇高、その識見は時流を抜いて犀利たるものがあり、才幹手腕は全縣下にその比儔を見ないところである。いかにも仁慈の涙、任俠の血

は、衆に秀でてゆたかにして、よく人情に通じ、世態を透観して餘すところがない。まことに長者の風があり、君子の雅懷がある。謙抑自ら持して和光同塵、敢て名利を追はず、今や區長代理の任にあつて、村政の實際を指導功成して倦まむ怠らず、部落民の福祉を増進してやまず村民の厚生に資するところ多大なるものがある。氏は信念の人にしてまた修養力行、精進不退轉の士である。曹洞宗を奉じてその信仰は極めて敬虔である。今や氏の主張は一村の指針となり、その徳望は洽なく村内外に満ち溢れてゐる。

東榮村

篤農家 今野 嘉作

先祖創家以來連綿繼承すること十一代を以て當主に至る。當部落の最舊家である。先代嘉右衛門氏は不幸にして早逝したが、祖先是當村の自治功勞者の光榮を擔へる人にして村治に貢献裨益せる處甚大であつた。

當主嘉作氏は明治四十年一月六日の出



生、郷土 小學校時代より秀才をうたはれ、後縣立庄内

農學校に學んで愈々學績同輩に抜きん出で、各方面に前途に多大の期待を持たれてゐる有爲の青年にして、濃厚篤實、思想堅固なる當村青年の中心的模範青年として信望を擔つてゐる。

氏は農藝化學研究に興味を持ち、廣く書籍にわたり識見を高めて怠ることなく當村の新知識として農事耕作の改良、農産品種の撰擇、或は自給肥料の増産に顯著な實績を収めて、七名の家族と共に、三名の使用人を率ひ、農事に精進して篤農家の令名噴々たるものがある。推されて青年團支部長、消防組部頭の任に在り村勢の伸張にまた顯著な功績を擧げつゝあ。また氏は曹洞宗に歸依して信仰心

極めて篤い。

廣瀬村廣尾

舊家名門 加藤 三七

當家祖先是週れば遠く三百五十年の昔加藤清正が末孫、山形縣東田川郡丸主として酒井公より一萬石を拜領せし名閥であるが、故ありて歸農、農業を本業として、今



先代正英氏

日に至つたものである。祖々父母

に子供なく、鶴岡市の工藤高助氏の二男を貰ひ、當家に成育された人が、祖父正英氏である。氏は、家業たる農業に従事し、二十五歳にして部落民の推輓ありて戸長となり、以後村長、村會議員、郡會議員、縣會議員正副議長、衆議員議員等郷土功勞者たるのみならず、憲政の第一人者として赫灼たる名聲を馳せ、當縣屈

山添村

舊家名門 平藤 一郎

平藤家は其開祖及古き由來を詳かにしないが、記録に傳へられる處のみにても

六百餘年に及ぶ當部落の最舊家にして、



幕政時代に苗字帯刀を許されたる由緒正しき家柄、代々

々與左衛門と稱した。家は、農を以て業としたが、先代寅藏氏は進取の氣象に富む事業的手腕の持主にして、當村の重鎮であつたが、黒川村に白土工場を創設し地方産業の發展に顯著な功績のあつた大功勞者であつた。

當主一郎氏は先代寅藏氏の長男として明治二十二年五月五日生を享けたる、資性明朗潤達、豪放磊落にして敬神崇祖の念篤く、村社を私財を投じて新築し、且つ昇格に寧日なく盡力し、敬神思想を振興するに甚大なる功績を持ち、氏子總代を務めてゐるが、また曹洞宗にも歸依すること深く、修仰心厚きを以て聞え、菩提寺の檀徒總代であつて、長期聖戰非常

時局下國體明徴、國民精神作興の急務が

叫ばれる秋、氏の貢獻裨益せる處賞讃すべきものがある。また氏は先代の遺風を繼ぎ、七名の家族、四名の使用人を以て農業に専念精勵し來たり、篤農家として聲望がある。

黒川村

篤農家 阿部 彦美

當家は、村内の由緒深き名家として知られる



故彦七氏 本家阿部彦左衛門家より分家一家

を創立せるものにして、開祖以來當主を以て八代目とする。代々農を以て家業とし、篤農家として知られてゐる。

嚴父彦七氏は、殊に徳望を收めること深く、推されて村長となり、數々の治績を擧げて、齊しく村民より崇敬を集めた

人格者たり、亦先立つて祖父音吉氏は、

部落の開拓者として、辛苦荒蕪地の開墾に當つて、よく多くの美田を得、亦村内の治政に盡瘁して、村會議員、區長、水利議員等の要職を務め、村の發展に資する處が甚大であつた。

彦美氏は尊父彦七氏の長男として、大正十年十月十日の出生、元氣潤達な青年にして、現在縣立庄内農學校在校中であるが、頭腦明晰にして性格謙恭、よく両親に孝養を盡し、村内の模範的青年として、その前途を刮目期待されてゐる。

渡前村

篤農家 菅原勝右衛門

當家は村内の舊家にして、當主は其七代目に當る。農を以て代々の業としたが、先



代目に當る。農を以て代々の業としたが、先代家業に

狩川町

篤農家 阿蘇庄右衛門

當家は當地方に聞えた由緒らしき豪家庄右衛門氏まで十一代目であり、代々庄

長く村政に參與し、舊家の尊嚴を偲ばせつゝ、悠揚迫らざる人格は、職務の適確なると共に村民の信望する所であつた。

氏は明治二十八年一月一日の出生である。父の名望を繼いで家督を受け家業の農を營む。山形聯隊に入營、歩兵伍長となつて除隊した。

曹洞宗を信じ、且敬神の念篤く、神社總代に推され眞摯にそれを勤むる事は、人々の賞むる所である。

氏は、朴訥なる篤農家にして華しき事を好まず、常に沈黙の裡に正しきを行ふ事等特色とする。農事改良に對しては研究また深く、村民はまた氏の資性をよく知つて心から氏の訓へを乞ふ事を常としてゐる。

家庭誠に靜慧、夫人よく夫の職務を助け、村民との交際の圓滑なるは、一しほ氏の尊敬を深むる所以と評判が高い。

十六合村

素封家 度部利右衛門

當家は十六代榮々と續いた名門にして吉方部落に於ける草分の舊家として知られ、又屈指の素封家である。

先代は利右衛門氏と稱し、村治開發に盡力、温厚、圓満なる人格はよく村民の支持を得、村政の要職に就き、殊に十六合村長として赫々の名聲を馳せ、また多大の信望を得た人物である。當村今日に至る礎は、先代の努力に負ふところ極めて多く、村治開拓の恩人として悉く感謝されてゐる。

當主は利右衛門を襲名、大正二年十二月十二日呱呱の聲をあげた當年二十才の青年である。資性、温雅なれど明朗、農村改革の理想に燃え、藤島農學校を卒へると同時に、農業の實踐を以て、眞の愛

精勵する傍、村治にも意を注ぎ多年に亘り、區長、中川水利組合議員、農事實行組合長等の要職を歴任し、村民の福祉増進、村勢の伸張に頗る功績あり、當村の中堅人物として衆望篤かりし人である。明治三十八年七月十七日に生を享けたる當主勝右衛門氏は、温厚にして明朗なる模範的青年として當村の長老に其將來を囑望せられてゐる人、庄内農業學校に學び、頭腦明晰を以て諸輩に抜きん出た二十期卒業生である。

學生時代スポーツ選手としてうたはれた氏は、家族七名、使用人三名を率ひて農事に精勵、新知識に依る農事改善を企圖し實績頗る多く、篤農家として聲望を得ると共に村民の自覺を促し、推されて農事實行組合會計幹事として益々村産業の發達に盡瘁し、將來當村を双肩に擔ふべき新進として、其存在重きを加へてゐる。

また氏は曹洞宗に深く歸依し、信仰極めて堅固である。

郷家であると共に、そこに発展を見出すのであらうとの信念によつて、率先して断行、更に地方青年との一致協力を計り以て一丸となし、農村更生を目指し、専心努力をなしてゐる。

氏は選ばれて産業組合の理事となり、着々の業績をあげてゐる。故にその若さと努力は、全村より、將來を背負ふ有望なる青年として、期待と囑望に満されてゐる。

なほ氏は若年に似合はず、書畫を好み終日の活動の寸暇には、藝術の境地に己れを洗練するの喜びを持ち、床しき人柄が偲ばれるのである。

鷹瀬村

篤農家 伊藤孫左衛門

當家は村内屈指の舊家にして、正確なる記録の傳ふる處はないが、初代は土地の豪家たる加藤三七家と同祖と口傳あり即ち加藤清正の流れを汲むものである。代々農を以て業として來たが、先代熊吉



氏は七十四歳の高師を完うしたる篤農家として近郷に令名高き人であつた。
當主孫 左衛門氏

も先考の遺風を繼ぎ、熱心なる農藝研究家にして、資性温厚篤實なる人、現に七十九歳の高齡にして極めて壯健、多年東北地方農村が、冷害、病虫害のため農作物に甚大なる被害あるを憂へ、農事耕作改良、農産品種の撰擇等を鋭意研究すると共に、高價なる化學肥料が農家經濟を壓迫するのを除くため、自給肥料増産に盡瘁する等、實踐頗る舉り、篤農家として近在に重きをなしてゐる。

氏は子女一名のみなるを以て、當村より養繼子を迎へたるが、愛婿又熱心なる精農家にして、養父孫左衛門氏を扶けて家業に精勵してゐる。まに令孫は鶴岡中學出身の秀才にして、明朗快活なる模範

黃金村

舊家名門 阿部 甚兵衛



當家は七百年を往に舊家で、苗字帶刀の名門の家柄で、代々村自治に残せる顯著なる功績を以て謳はれてゐる。祖父長兵衛氏は村役場収入役を勤続すること四十年に及び、人と交るに圭角を出さない、廉直な人でその誠實さは高く評價され、村民の間に絶大な信用を勝ち得、徳望家として敬慕されし人にして、其間數回に亘る勤績を獲得した。氏が村長に就任してより、當村よ目覺ましい躍進振りを示し、又郡會議員として、政友會の重要地位をも占めてゐた。

當主長兵衛氏は、實父甚吉氏の長男と

して、明治三十八年二月十四日に生れ、縣立莊内農學校出身の秀才で、質實剛健にして、圓熟せる壯年であり、青年團長消防部長、農會實行委員の要職に就任せる當時は、村治に幾多の貴重な貢獻をなしてをり、現在、黃金村土地調査委員、在郷軍人分會長の要職にある外、消防組頭、青年團長を勤續してをり、政友會の錚々たる闘士として、縣會副議長の公職にありて活躍をなしてゐる。

山添村上山添

篤農家 佐藤與治左門

氏は慶應生れの大長老で、村民齊しく畏敬して



あるが、氏は黒川村大字成澤、劍持家から當

家に養子に來たのである。實家も亦黒川村の舊家名門で、佐藤家も亦村内一流を誇る家庭である。

氏は温厚篤實、嘗て村の助役として八年勤務の經歷を持つが、現在は當年七十三歳の高齡を家庭に在つて自適し、一切の公職から引退してゐる。

尙氏の遺業を繼ぐ子寶又多く、長男元信氏は高等商船學校卒業の海軍豫備大尉として、現在船長となつて出征中であり次男は陸軍歩兵少佐、三男も又醫學士として現在東京芝區に於て開業してゐると云ふ秀才揃ひで、その他の三子も、何れも品行方正、學術優等の秀才ばかりで、皆前途を囑望されてゐると共に、氏の幸運は村民の等しく羨望してゐるところである。

廣瀬村

篤農家 三浦 藤助

當部落は今より五百餘年前、他方面より三戸移住し來り、原野を開拓して各農



業を營みしに始り、今日七八十戸の村落に發達し來れるものなるが三浦家傳説的三戸の一たる

草分けとして由緒久しき家柄にして、村内一流の素封家である。先代藤助氏は家業に専念精勵し、農事耕作の改善を企圖し實績頗る舉り、村民の自覺を促したる篤農家であつた。

當主藤助氏、先代藤助氏の後繼者として明治二十八年四月十六日に出生、郷土小學校卒業後、現役兵として仙臺工兵二大隊に入營し、其成績拔群、品行方正なるを以て工兵上等に累進した。

郷村に在るや、資性温厚篤實にして人に範たるべきを以て推されて青青年團支部長に就任し村青年層を卒ひ、村傳來の隣保共助の美風を基調として村内生活の改善作興に頗る功績があつた。一時病を

得て公職を辭し、家庭に専念療養に努めざるを得なかつたが、曹洞宗に深く歸依し、堅固なる信念を確立する一方、先代遺風を繼ぎ農事に精勵、篤農家の令名を得ると共に、病また快癒に向ふを得た。其家庭は頗る圓滿にして、病の氏を扶けて和氣霽々たる一家、郷村の羨望する處である。

八榮島村八色木

永慶寺住職 山田 敬全

明智有徳の高僧として、近在に聞え高



き師は、
明治四年
五月十五
日北海道
の地に岳
降、幼少

七歳の折、慈母に死別して、深く心を痛め、爾爾來宗教に心を寄せて、越前の本山永平寺に修養を積むこと幾久しきに互り、溷然大悟の道を得て、大正二年四月

當永慶寺の前任職大斧素順師の遺言を奉じ、當寺の住職となりしもの。智を磨き徳を積み、深く檀徒の信望を集めて、尙數々の陰徳を施すこと圖り知れぬものがある。

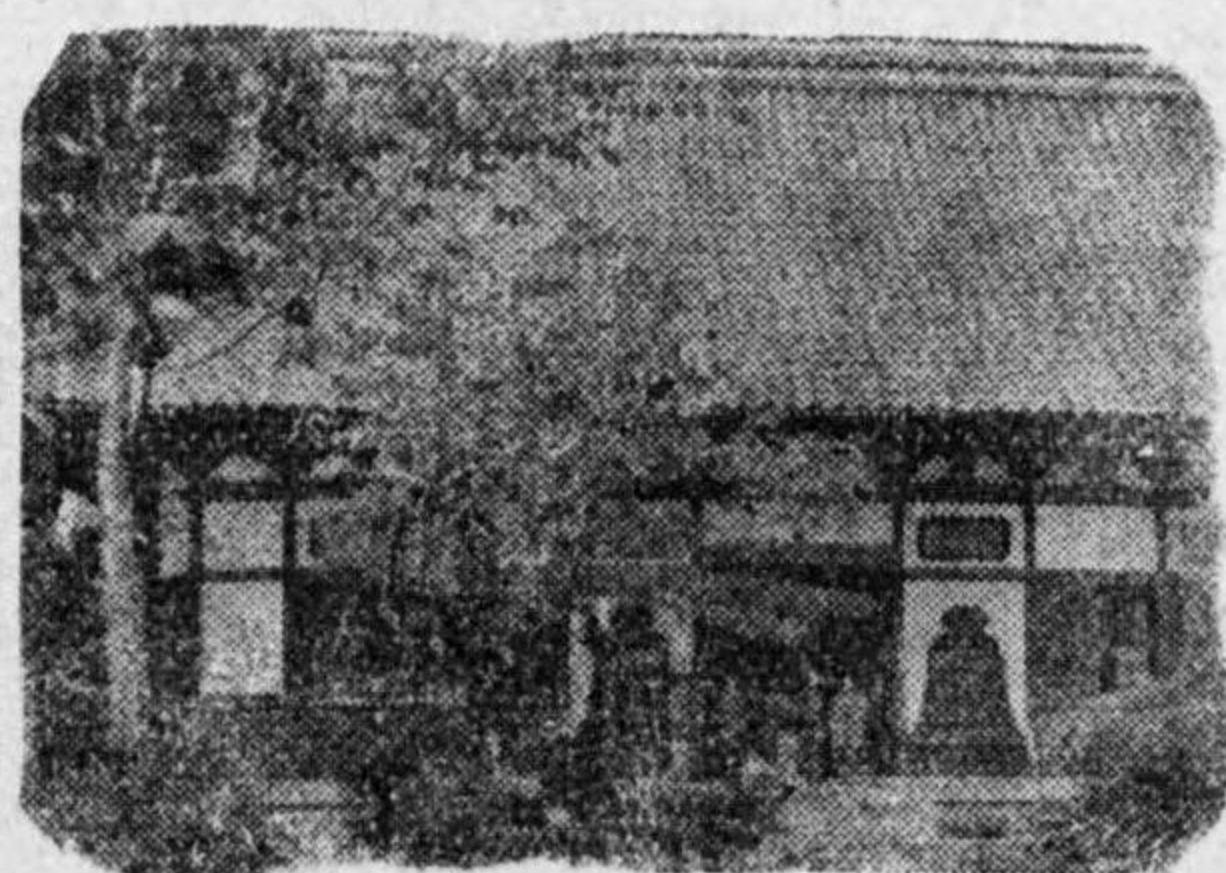
師は殊に社會公共事業に奉仕の念篤く、さきに方面委員を務めて、貧窮の除去に努め、亦子弟の徳育に當つて、幾多の名士を出してゐる。

家族は四名を數へ、次男は師の志を繼いで佛前に身を捧げるべく、越前の本山永平寺に於て修業中である。
因に當寺は曹洞宗を宗旨とする。

狩川町三ヶ澤

白狐山光星寺

當山は一千餘年の往昔貞觀年間の開基に係はる。恰も住寶波傳密公九師僧正、東北巡化の砌、當國羽黒山に錫を留めし時、瑞雲半空に躡びけるを見て靈地の所在を信じ、そこに至る道筋定かならざるを以て、日夜十一面觀音を念じたりしに



間峻嶮をいとも樂々と越えて護國寺賀神王菩薩大辦財尊天の安座せる靈場

着く。僧正大いに喜びて恭しく此處に一字の梵刹を建立、觀音菩薩、大辨財天、吒枳尼天の三尊を安置す。老狐はその後も僧正に従つて守護を怠らざりしかば、僧正深く感銘して永く老狐、眷屬を扶持すべしと遺言せられしに依り、今日に至るまで毎月七齋日(一日、八日、十日、

十五日、十七日、二十三日、二十八日)

には供物を献することとしてゐる。

尙、當寺の開山は今より三百餘年前惠通禪師に依りしもの、禪師高祖承陽大師の勝蹟を追ひ稻荷大明神を歡請して當寺鎮守に祀りしより、累代の慣例として住持交替毎に明神の禰位を奉納し來つてゐる。當山には八靈跡あり、即ち、住寶嶺、倒竹、宇賀の森、白狐澤、光明堂、星池、虎石、燈明石である。

當寺の建物は本堂、庫裡その他があり大正年間火災を蒙つて、再建のものである。寺寶として名刀一口を存し、一年五回の行事、いづれも敬虔に行はれる。現住職前田鶴隆師は、明治十一年六月二十日の出生、開祖以來二十八代目に當り、聖德明智の高僧にして、檀徒間の信望極めて篤い。

現在、檀徒總代は、乙坂儀藏、金内米藏、日向勝右衛門、日向金次郎の四氏、

之に當つてゐる。

齋 村

瀧水山田種院

當院の本尊は延命地藏頭王尊にして、曹洞宗に屬する名刹であり、開基開山は昌山受孫大和尚である。

開基は元和元年にして、寺堂は二百四十餘年前の建築にかゝり、物故破損甚しき故、大正十三年、檀家協力して大修繕を加へた。境内は四百坪餘で、新設墓地を接續して、新井貫首親下御親筆の三界萬靈塔があり、寶物には慈覺大師自作なりと傳へられる、觀音大菩薩の木像がある。檀家は百二十戸に及び、檀家總代は阿部亮信、阿部四郎右衛門、阿部三右衛門、丸山四右衛門、阿部作右衛門、菅原久一郎の諸氏である。現住職は落合通泉氏である。

住 職

落合通泉

先住職松田法藥師は明治四十年操行亂し、負債重みて自暴自棄と

なり、寺院の什物等を賣り、逃走の醜態



を演じしため、檀家が本寺玉川寺に登りて、住職に後

任をの撰定を求め、明治四十四年五月、現住職落合氏の就任をみるに至つた。氏は非常なる熱意を以て就任せるや、直に荒廢せる院を修理し、負債の辨濟を講じ、一千圓を投じて、田種院の財政の基礎を固めた。大正十年未曾有の大水害に遇ひし時、大半の田畑と建物動産の損失を受けしが、其復舊工事費の負擔額は一反歩當り二百圓餘にして、換地處分に至る合計三千圓餘の整理費にして既に千五百五十圓餘の負擔金を完納し、大正十四年には境内を擴張して開山堂を建設し昭和三年には竣功をみ、又墓地を擴張して前記の三界萬靈場を建立し、檀家一同に墓籍を配給して祖先の靈を弔せしめ、

自己の手元金一千圓を投じて寺院内部を改修するなど、氏の行爲は檀家の崇敬の念を集めてゐる。爲に、昭和九年六月四日には管長、秦慧昭氏より表彰され、安陀會衣壹肩を賜はつた。

泉村荒川

金澤山荒川寺

當寺は歴史に名高き羽黒街道に近く、此地方きつての古寺として、當地一圓に互り、多數の信徒を有する名刹である。宗派は曹洞宗を奉じ、遡つて遠く七百餘年前、聖僧の令名高かりし相庭海旬大和尚の開山に係はる。爾來歴代の僧侶に數々の名僧智識を出し、厚く地方人民に惠徳を施して、信望頗る篤いものがある。當寺は建築物として、本堂並に庫裡を有し、境内廣く、亦墓地の設備が整つてゐる。他に寺領として、山林、田畑を有して、寺の基礎は頗る固い。行事は大磬若講が盛行に舉行される。他益並に正月に、敬虔な佛事が営まれ、

近在の老若男女、相携へて恭順參詣に來る者が多い。

尚、當寺は末寺として、村内玉川寺を有してゐる。

住職

前田海旬



師は、碩學明智の聞え高き聖僧にして、弘化元年の岳降、本年九十五歳の高齡なるも、老來愈々健在にして、廣く陰徳を施し、近在住民の崇敬を受けてゐる。

泉村

國晃山玉川寺

當山は曹洞宗派に屬し、約七百年前の法治年間に開山せられたるものにして、朝鮮百濟の人、法明弘性の開山に係ると傳へられ、中頃楠正成の流山を汲む南西謙宗なる人、寛正年間に來り當山を地方

に於ける最有力寺になしたるもので、其末寺は當地方一圓に十九ヶ寺あり、また其本山は越後村上の耕雲寺である。六千二百餘坪の廣大なる境内には、本堂、庫裡、山門、鐘樓等林立し、本堂は明治三十三年に改築落成したるものである。寶物また多數傳へられ、當寺は羽黒山の下にあり、古式の火打ち式が毎年十二月に執行せられるのを始め、五月に大磬者、孟蘭盆、等の年行事極め壯嚴に執行せられ、近村の善男善女の參詣するもの雜踏を極む。檀家は近在にわたり二百餘戸に及んでゐる。現住職は齋藤玉秀師

住職

齋藤玉秀



師は明治二十五年十月七日に生を享け、縣立鶴岡中學校卒業後、約八ヶ年開宗門上の研鑽修業のため關東を始め諸國を

巡り、大正六年嚴父の逝去にあひ、法燈を繼ぎ住職となつた。高邁なる學識と有徳重厚なる人格を以て宗門に重きをなし曹洞宗局長たると共に泉村寺院代表を務めてゐる。また方面委員として社會事業にも貢献せる處甚大である。師は考古學研究者として其名は専門家間に著名にして、附近より採掘せる石器數千を集めて時代、石種別に分類し、標本箱に入れて陳列せるが、石橋、石刀、石矢等専門家の垂涎おく能はざる珍品頗る多い。

十六合村

村會議員 日下部作右衛門

日下部家は幕府三百年の覇業を訪りし徳川氏の重臣酒井家の御用係りである。舊く三百五十年以上を閱して、今當主に到る。

氏は明治元年五月二十日岳降す。武辨の家に生を受けて、幼少の頃より武士的教育を受けて、廉潔を尊び、學に志し、漢學を修めて熱心であつた。儒教に心を

傾くる他、先進國の狀勢を知るに關心深



く、明治變革期の動搖限りなき進展期に氏の村勢開發に對する決意は、一層堅かつた。

會て皇國が一國を賭する覺悟で、正戦のために開始したる日清、日露の大戦に出征し、赫々たる武功を樹て、勳七等を賜はつた。一身に輝く武功の譽與は、氏子總代の仕事より、數多の村内に於ける各事業の幹部的任務に推され、至る所に氏の才腕は要求された。現在産業組合長方面委員、村會議員等の要職を兼任し、剛直と數多の經驗は村治の事に盡す事甚

大である。微々たる一寒村より一意普通教育普遍化し、中央文化を明ねし、且大きくは物産愈々増大の村勢發展史は實に氏の踏み來つた世路でもあつた。氏は今や村會の長老たるばかりでなく村の生字引として親しまれ、その夫子的風貌は剛をの氏をして、好々翁たらしむる。閑暇あれば書を繕き、青年と膝を組ん 歐亞の問題を論ず、今に客氣を失はざる尊敬すべき人である。

廣瀨村

小學校長 大川 賢藏



廣瀨村々治當局者は年々教育事業に腐心を重ね各種の方策を用ひその普及向學熱の高揚に盡して來たが仲々思ふに任せず、遺憾とする所であつた。然るに現校長大川賢藏氏

赴任するに當り、多年教育事業に携り、經驗に富み、且斯道に對する卓見を有する氏は、村長齋藤健三郎氏、助役神益善氏協力の下にその抱懐する意見を實行する事にした。

齋藤村長、神林助役共に村吏員として十數年を勤続し、村勢に通曉する事深ければ、大川校長の人格、識見を絶對に信用、教育を氏の意に委ねたのであつた。

重任を負へる氏は現在までの劃一的なる教授法、無味乾燥なる教科書詰込み一點張りを廢し、スポーツを獎勵し堅實なる興味を附加する方法にて全生徒の勉學に對する喜びを植ゑ付けたのである。缺席兒童に對してはその理由を知るに努め家庭を訪問し、生徒をして教師の懷に入る様に導き、その鞠育宜しを得たれば、漸次所期の目的を得つゝあり、村民の喜びをかち得てゐる。

氏は更に小學兒童に對するのみならず青年教育にも亦關心深く、氏の書齋は好學の徒の書庫と言はれて親しまる。

西田川郡

縣の西端にありて日本海に面し、東は東田川郡につらなり、南は新潟縣岩船郡に接し、北は最上川下流を隔て、飽海郡に對してゐる。南部は概して山岳重疊するに反し、北部は赤川の流域を占め、庄内平野の一部をなしてゐる。藤倉山、鏡岳、飯森山、湯山等が南部にそびえ、菅野代川、温海川、小國川、關川などはこの山地に源を發し、西流して日本海にそゞぐ。大山川は北部の平野を北流して赤川に合し、更に最上川に入る。

東西四里餘、南北十二里十二町、この面積三二・一七八方里である。

鐵道羽越線により郡内の交通は至便である。また加茂港は本縣中酒田港に次ぐ良港にして船舶の出入多く、北部赤川は頗る舟楫の便がある。縣道は鐵道に沿ふて南北に走る。

いはゆる庄内三郡の一にして、慶長六

年、最上義光が上杉氏と矛を交ひ、西田川郡ほか二郡を己の有となしたが、三代にして封を失ひ、元和年間、酒井氏がこの地を支配し、爾來悠々二百餘年、以て明治維新に及んだ。

郡内社寺名勝舊蹟の主なるものには、湯田川温泉、田川館址、關川、念珠ヶ關、温海温泉、暮坪立岩、三瀬、由良港、縣社氣比神社、同荒倉神社、尾浦城址、大平山、善寶寺、縣社稻尾神社、湯野濱温泉、袖ヶ浦、飯盛山などがある。

大山町

鶴岡市の西北一里の地に位し、廣袤各一里、西方に海岸丘陵存するも、土地概ね平坦である。羽越線大山驛及び庄内電鐵北大山驛あり、善寶寺、湯野濱温泉へはバスが通つてゐる。面積一四・六方軒人口七千二百三十人である。

加茂町

大山城は一に尾浦城ともいふ。豪族武藤氏の居城にて、後、上杉景勝、最上義光が城代を置いたが、家光將軍の時、酒井忠勝の庶子備中守忠解一萬石の領地となつた。その後、代官所置かれ、次で酒井家御預けとなつた。この地は山形地方に於ける清酒の名産地として知れ、元祿の頃、一千石以上の醸造あり、寛政十年初めて江戸に輸送、享和元年には松前箱館藩より御用酒特命せられ、慶應三年頃は一萬石、明治十三年頃は三萬石の醸造高となり、大部分は北海道に送られる。

大山町の西にあたり、日本海に面して本縣第一の漁港をなし、東西半里、南北二里、面積一〇、五方軒にして全町山地に掩はれ、耕地に乏しく、中央高館山麓には湯野濱温泉がある。この温泉は庄内電鐵湯野濱驛の西北七軒、自動車の便あり、古來奥羽三樂境の一にかぞへられた所で、胃腸病、婦人病に特效がある。

加茂は一に類湊といひ、古歌に
君をのみ顔の港に待わびて
こひしき波の立たぬ日ぞなき

といふのがある。港口は北西に向ひ廣くはないが、千石積以下の和船漁船は南東の暴風を避難し得る。人口五千三百人弱を有し、町には縣水産試験場、加茂郵便局、銀行支店、水族館などあり、旅館遊樂の設備も多い。産物は鱈五萬圓、鱧二萬六千圓、鯛四萬圓、鰯九萬圓等の漁獲物が主である。

東郷村

本村は縣の北部に位し、廣袤は東西約一里、南北一里二十八町、地勢は平坦にして田畑多く、尙原野、山林を多少存してゐる。戸數五百餘、人口約三千八百、住民は概ね農を以て生業とし、主要産物は、米、麥、蕎麥、大豆、小豆、菜種、馬鈴薯その他の蔬菜類等あり、養蠶も行はれて、繭の産が多い、交通ひらけて車馬の往來繁く、教育、衛生の設備整ひ、

榮村

本村は鶴岡市の北に接し、東西、南北各三十町、面積八、九方軒の小村にして東は赤川に面してゐる。古くは京田組と稱したところで、赤川の沿岸には湯野澤鑛泉がある。播磨、中京田、小京田、本田、平田、湯野澤等の部落を合併して成り、戸數二百四十餘、人口千九百二十人を算し、耕地は田六百二十餘町歩なるも畑地は二十七町歩に過ぎない。農産物の年額は二十

京田村

二、三萬圓を前後し、うち二十萬圓餘は米である。鶴岡市に隣接するが故に交通の便は比較的良好である。村内寺院には安養寺、永傳寺、勝傳寺、大鏡寺、長勝寺、普門院等あり、いづれも曹洞宗に屬す。一千三百四十二町歩餘の面積を有して鶴岡市の西方に位する本村は、往古京都に運送米を作り出せる爲に、現在の京田の名起りしものと傳はつてゐる。舊酒井藩の所領地にして、納税完納の模範村として數次に互り表彰を受けてゐる。區域は十一大字に分けて、戸數は三五六、人口一、八七〇人に及んでゐる。大部分の住民は農を主業となし、主要産物は米、麥の他に大豆、小豆、馬鈴薯、園藝農産物等で、米の三七二、九六一圓が最高價額である。一方教育方面を見るに就學總兒童數四二八人にして、青年學校は男子のみ一二三人となつてゐる。尙特

筆すべきは、大正十一年創立の京田圖書館の事にて藏書冊數五三一冊に及び、巡回文庫を毎月各部落に出してゐる。

大泉村

本村は鶴岡市の西に接し、庄内平野の一部を占める。面積一七・八方軒、人口四千四百五十人をかぞへ、大山驛より半里、鶴岡驛より一里、共にバスが通ひ、交通至便である。鶴岡市史に、大泉は最上川南の莊號にして和名抄に田川郡大泉郷の私墾莊田に起るとあり大泉莊は東鑑並義經記に見ゆれば、文治(後鳥羽天皇の御代)以前に立てられたるなるべし、武藤氏久しくその地頭たり、云々

と見え、近世は淀川組と稱し、大字井岡には古社遠賀神社がある。また村内には寺院多數あり、眞言宗圓藏院、同井岡寺曹洞宗延命寺、同地蔵院、同清鏡寺、同善住寺、同桑願院、同天翁寺、同寶圓寺同寶藏寺、浄土宗淀川寺、眞宗隆安寺などがこれである。

袖浦村

本村は赤川の西岸に位し、東西一里、南北四里の狭長な地で、面積三九・六方軒、人口六千九百四十人である。西は日本海にのぞみ、北方は酒田市と共に最上河口を扼し、部落の大部分は海岸の砂丘上に散在する。

即ち郡西北の極隅にして、酒田港と相對抗し、鶴岡市より六里餘、渡船場をなす。漁業者多く、漁獲は鱒を以て最となす。また柿の名産地として著はれる。河口の船路は時として變換することあり、故に入船を以て業となすものもあり、これを水戸教といふ。桃隣の句にかほるとは、この風か袖の浦

とあり、海濱一帯は袖の浦と一般に呼ばれてゐる。

酒田市及び餘目町から二里半、餘目町へはバスの便がある。

西郷村

湯田川温泉の地と知られる本村は舊藩酒井家の所領地にて、明治二十二年の町村制實施の際には村名を大字名に改へ、

湯田川村

山驛へは自動車の便がある。

役場を大字湯田川に指定せられしが、明治四十一年に至りて役場を現地の位置に移して現在に至つた。

人口一、六二二人にして、戸數二九一の數を示し、村民の職業は温泉地のため農業は九二戸にて、次いで商業六八、工業四〇、交通一一、公務自由業二七、その他五〇となつてゐる。主要産物は米九一、七三六圓の外、孟宗、牛乳、果實、菓子、用材等を擧げられる。村内には數々の公私團體あり、スキー倶楽部は役場内に置いてある。

因に湯田川温泉は泉質反應微弱アルカリ性にて、主治効能は腦出血、腦神經の諸病、眼病、婦人病、リニューマチス等で、交通便、鶴岡驛より二里、水澤驛より一里、大山驛より二里、定期自動車も通る

田川村

本村は後三年の役の時、源義家と清原氏の戦ひし古戰場として傳はり、當時の郷士田川太郎累代の墳墓地なりと稱する

ものがある。また武藤氏と本庄氏の戦ひし地にて、徳川時代には酒井氏の所領であつた明治に至りて、二十五年に湯田川村と分離して現在に至つた。

本村は特に木材の産出多く、村内に製材工場が四ヶ所あり、以つて木材業の盛大な地である事が察知される。交通便にして水澤驛まで三〇町、鶴岡までは三里である。本村はまた、安産地藏菩薩の所在地として著聞する。

豊浦村

本村は加茂町の南にあたり、日本海にのぞみ、背後に藤倉山を控へ、山威海洋に迫るの地である。

景行天皇の時、武内宿禰が勅命により由良の巖窟(八乙女島)に至りしに、天樂海陸兩方より響き來りしにより、怪しんで窟の中に入らうとした時、鹽土翁が忽然として現はれ、宿禰の間に答へて「彼方の巖嶺はうがやふきあへずの命鎮護の峰なり、辰嶺は玉依姬基瑞の靈場なり」

とのことにて、宿禰はこれを天皇に奏上し、玉垣を寄進し、これを皇納原の三神と號すとの記録がある。

面積二九、一方村にして、人口四千六百八人弱を算し、縣社氣比神社、由良、義經の笈などの名勝多く、自動車の便あり、海水浴場がある。

温海村

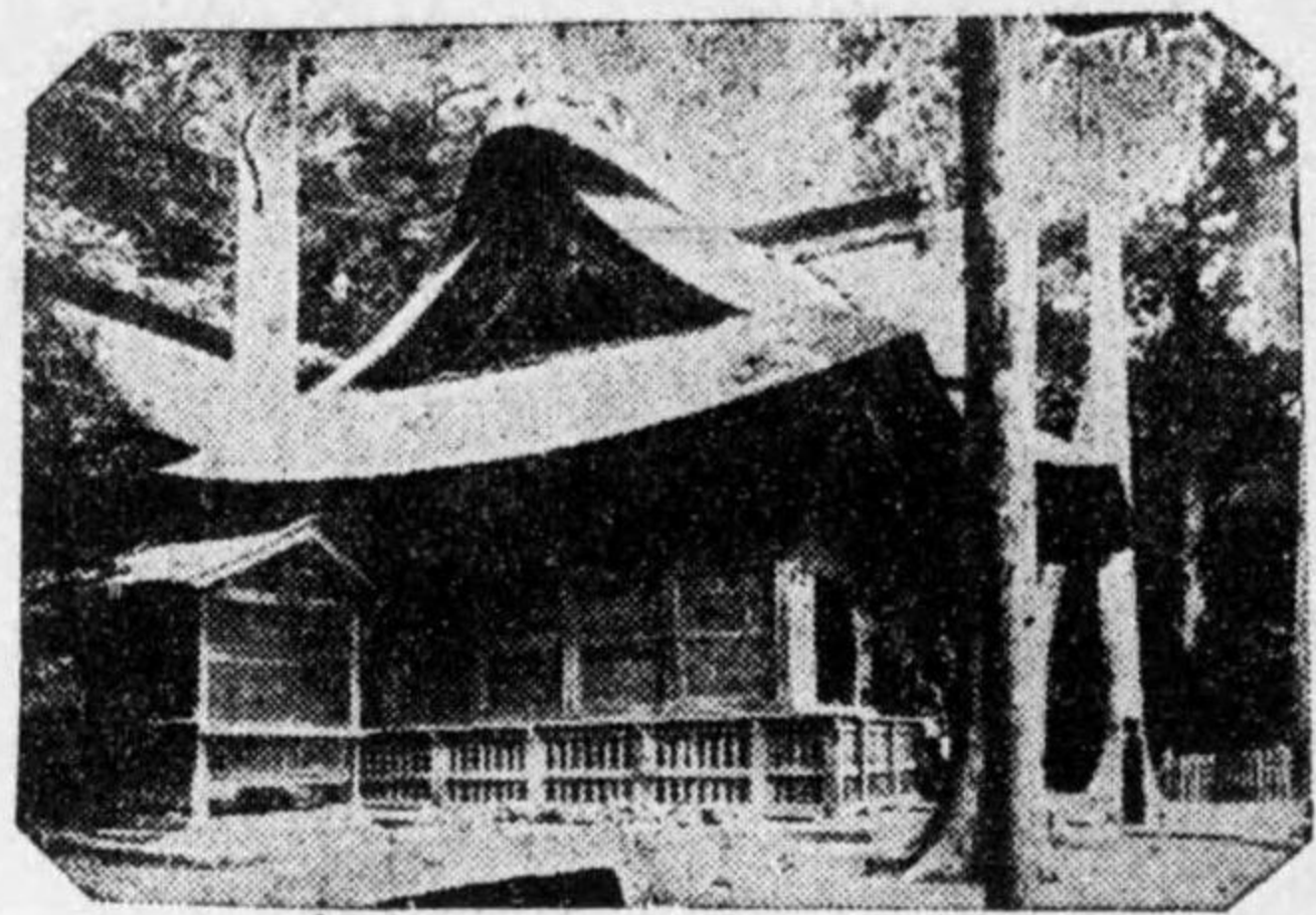
本村は郡の南端に位し、南は念珠關村に接し、東は福榮村及び山戸村につゞき北は豊浦村に隣り、西は日本海に面し、温海、一霞、小菅野代、五十川等の部落より成り、面積四一・三方村、人口約五千二百人である。

羽越線に沿ひ、温海、五十川の二驛を有し、温海温泉は驛の東南五軒半、自動車の便あり、硫黄性食鹽泉で、腹痛、胃腸病に効あり、古くは温海七色と稱し、天候により温泉の變色する奇現象がある。

上郷村西目

社 荒倉神社

當社は西倉山中腹の景勝絶佳の間に鎮座し、祭神として保食大神、天照皇大神、素戔鳴尊、大己貴命、事代主命、大物主大神、日本武尊の諸神を祀つてゐる。



その由緒は遡つて天正天皇の養老元年、伊勢外宮より勸請して創建弘仁元年に再建、貞

觀十二年改造、天文三年三月再建、明暦元年更に造營、その間數々の歴史を閲し

今日に至つてゐる。

當社は靈驗顯著なるを以て、參拜者相踵ぎ、例祭四月十七、十八兩日、祈年祭三月二十一日、新嘗祭十一月二十三日、秋例祭八月十八日、湯の花祭六月十八日、風祭八月八日、年越祭十二月十七日等、いづれも諸式に則り、盛大に舉行される。

社 司 佐藤保紀

氏は敬神の念篤い有徳の神官として、廣く氏子間に仰がれる人格者である。謙恭至厚社前に奉仕すると共に村内の福祉を願ふこと深く、村會議員、學務委員、方面委員等、各種の公職に歴任して、村治に寄與する處計り知れざるものがあり、その徳は村内全般に及んでゐる。

豊浦村三瀬

縣 社 氣比神社

當社は祭神として、保食大神、仲哀天皇、神功皇后、應神天皇、武内宿禰、日本武尊、玉妃尊の七神を崇祀してゐる。



その由緒は極めて深く、遠く神代の頃より境内神池の邊に保食大神御鎮座の處、後更に三韓征伐の縁故に依り、神功皇后初六柱

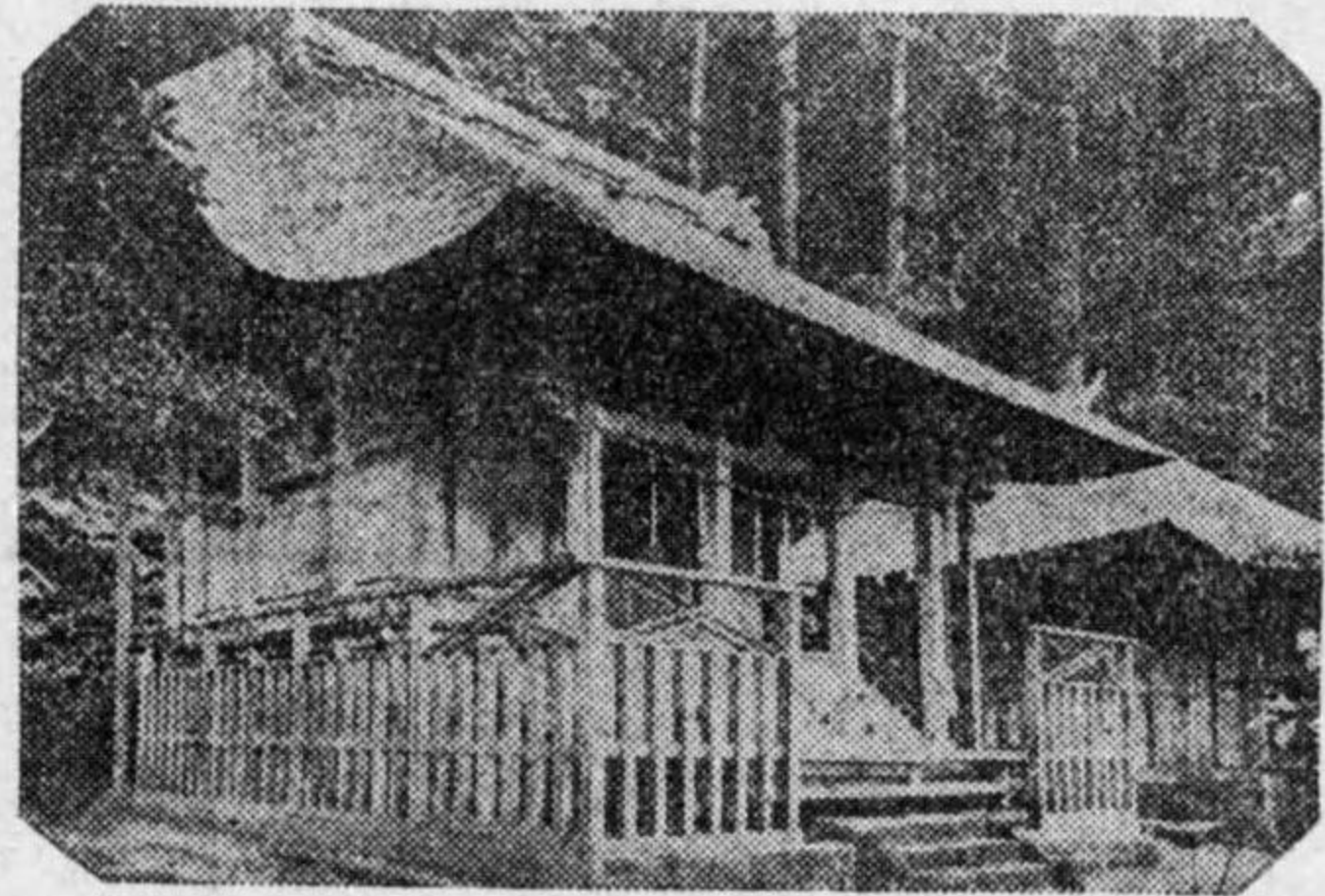
の神を祀つたもの、古來三韓征伐の由縁に依り、源義經公の參拜、北畠顯信卿の參拜以下、數多くの武將が尊崇を寄せて甚大なる寄進及び社殿造營等のことがなされてゐる。明治九年縣社に列せられ、靈驗あらたかなるを以て、地方人士の參拜する者頗る多い。

境内廣く、内に社殿として、本殿、東

殿、西殿、南殿、北殿、社務所等がある。例祭は毎年四月十二日に舉行し、他に秋祭九月三日、祈年祭三月二十一日、新嘗祭十一月二十三日、養蠶祭五月五日、田植祭五月八日等の行事あり、特に武を尙ぶ當社は、陸軍記念日三月十日、海軍記念日五月二十七日に祭事を擧げ、尙毎年一日、十五日を月次祭としてゐる。當社の氏子数は約八百戸、社司を石塚清氏とし、氏子總代に白幡龍助氏外六名を置いてゐる。境内に數々の由來深き遺跡名勝あり、氣比臺の神池及び義經公遺跡をその主なるものとする。現社司は石塚氏である。

田川村田川 郷社八幡神社

當神社は、中座譽田別尊、左座玉依姫命、右座足仲彥尊、息長足姫尊を祭神としてゐる。創建年代詳でないが、上古田川河の水上に於ける上津瀬に鎮座し、其後年月を経て、元正天皇の靈龜年間、坂



野下村 永年間舊領主酒井氏の領となりてより、社領檢地四十石餘の出高その儘寄附せられ併せて百石餘高となつた。明治九年十一月郷社に列せられた。境内六千四百九十四坪餘(官有地第一種)にして老松古木鬱然として枝を交へ幽邃閑寂實に最適の神域である。當社の寶物として元正天皇の靈龜年間上津瀬鎮座の時よりの神寶十滿珠、金塵一振(源義家奉納の品)鏡二面(後鳥羽天皇の文治年間源義經奉納)その他旗、畫十文字槍、薙刀、劍等が藏寶されてゐる。古器物として鏡二面、鈴二個、扁額二面がある。寛治年中後三年の役の古戰場として知られてゐる。現在氏子数は三百餘戸で、氏子範圍は廣く田川村五大字の外、大山町の二字に及んでゐる。

ふとて今尙崇敬篤い。中古堀河天皇の寛治初年鎮守將軍源義家が清原武衡、家衡等を征伐の節、戦利非ず、義家即ち八幡宮に祈願を凝らし神助を蒙りて首尾よく賊を平定したので、その報賽として上記の社地より當地へ遷座し奉り社殿造營の上、金塵を奉納したと傳へられてゐる。其後代々の領主亦崇敬篤く、元和六年最上源五郎家信社殿造營し、明正天皇の寛

伊人、松浦多右衛門の諸氏が熱心に支持してゐる。

社司 鈴木政紀

慶應三年生れの氏は本年七十三歳の高齡なるも豊饒たるもので、曩に當田川村小學校に長たること實に二十八年間銳意第二國民の育英に盡瘁してきた氏の功績亦優大なるものである。人格高潔にして温情溢れる氏は、また村民一同の敬慕を一身に集め、現在は方面委員をも兼ねてゐる。

東郷村

縣會議員 東郷村長 小林房吉

當村の初代村長去つて故小川又次郎氏は、郡會議員、縣會議員などの顯職に就き、縣下に名だゝる政治家で、その手腕力量は最も高く評價され、不出生の傑物とさへ謳はれたほどの人であつた。明治二十二年五月より大正六年六月迄、村長として村治に終始し、當村今日の村是の基礎を固め、村第一の自治功勞者であつ

た。氏は常に郡會、縣會等に奔走しつゝ、あるの關係上、明治三十六年來は、鈴木與惣右衛門氏を名儀上の村長として、采配は自ら振つてゐた八面六臂の人でもあつた。

そして當村助役は、歴代名實共に優れし事務家を他村より拔擢し、女房役となすの習慣があり、大正十四年八月、小林氏現村長に就任するや、その女房役として、元小學校長、郡視學を歴任せる川村治郎氏をこれに就かしめ、以て銳意村自治に盡瘁してゐる。

現村長は、明治十一年十二月二十三日の生れ、天資英邁にして博學篤行の人であり、公共事業には、身を賭して盡力し赤川水利組合議員を兼ねし自治功勞者であり、嘗て初代村長小川氏が任中、明治四十四年二月十一日の紀元の佳晨に當りては時の内務大臣平田東助氏より模範村として表彰を受け、以來、平和な優秀なる村たるの名聲を維持して、その育成に盡力してきた。

氏は更に昭和十年九月に縣會議員に當選し、堂々たる貫祿を以て縣會に君臨しすべてを實行へ振りかへんとすの意氣込みて邁進してゐる。

大山町

大山町長 本間治右衛門

當家は由緒極めて深き家柄にして、その祖は遠く數百年に遡り、歴代數々の漢學者國學者を出して、當地方に聞え高い名門である。亦、農を以て家業とし、篤農家として莊内三郡の範とされてゐる。

先代延吉氏は幼時より聰明、周圍より囑望されしも、不幸夭折して業績を残さなかつたが、祖父は漢學者として秀で、殊に親に孝養篤きを藩主酒井公に賞せらるゝこと二回に及んでゐる。

當主治右衛門氏は、先代延吉氏の長男として、明治十四年十二月十日の出生、父祖の血を享けて資性衆に勝れ、早くより識見卓越の士たり、公共精神深く、一身を町内の治政に捧けて今日に及んでゐる

る。即ち、明治四十年、若冠二十七歳にして町會議員に選出されしを始め、消防部長、水利組合議員、農會長、青年團副團長、在郷軍人評議員等、數々の公職に歴任して、功業顯著なるものあり、大正五年町助役に推されてよく職務に任ずる事十年、大正十五年に至つて衆望默し難く町長に就任、引き続き在任して今日に及んでゐる。常町の重鎮である。

氏の長男一郎君は近衛騎兵として入營次男相三君亦入營、滿洲守備隊に赴いてゐる。

加茂町加茂

加茂町長 飛塚 虎次

氏は青年時代より、常町の發展、擴充に理想をもつて、一意専心の盡力をなして來た。その間實に二十年の長きに亘り生涯を捧げての町政上の功績は著しいものである。

氏は明治二十四年三月十日呱呱の聲をあけた、本年四十八歳になる。質朴にし

て活動性を有し、推されて加茂町長に就任、尙加茂衛生組合長、加茂火災豫防組合長を兼任してゐる。

當町日を追つての漸進的發展は、町長たる氏の努力に因るところ甚大であつたがそれ許りでなく、尙今後の振興が、氏の双肩に期待され、囑望されて居るは、全町民舉つて氏への信頼が如何に絶大なかが肯づけるのである。

その功勞は、自治制五十周年記念に際して表彰された。實に氏は模範的町政家たるは言ふを俟たず、その献身的努力と共に人を容れるの寛大さは氏に接する人をして胸襟を開く緩やかさを感じ、何か心豊かなものを與へるのである。氏の徳望の高き所以であらう。今後益々氏の活躍を期待して已まない。

氏の家庭は家族一同洽和して樂む、平和なる景は羨望されてゐる。それも家長たる氏の人格の齎らす結果であらうと推察するも嬉しきことである。

大泉村森片

大泉村長 皆川 健藏

氏は明治二十五年七月十五日先代茂右衛門氏の三男として生る。家は常村切つての舊家であり、資産亦多し、先代茂右衛門氏は大泉村々長、並に郡會議員となり政治家として聞えてゐた。

氏はまた郡會議員、縣會議員に出馬し政治家として嚴父の名を益々高くする所があつたが、現在は村長として専ら村政の改革に努力し、方面委員の實績を擧げる事に餘念がない。方面委員の職は困窮者の味方として、至難の業とされてゐるが、豪毅にして言語明晰決斷力に富む士は快刀亂麻を斷つが如く良方面委員として村民に慕はれてゐる。而も縣會、郡會等に參劃し、當局者の事情を微細に亘つて知悉する氏は、己の意の儘に行つて而も規を超えない練達之士である事を忘れてはならない。二弟あり、豊治、富之丞といふ。長男哲郎氏は東京高等農林學校

に學び、卒業して家事を手傳ふ。父に似て霸氣横溢、學び得たる所を以て農民のよき相談相手となつてゐる。斯の如く代々公のために盡すを以て衆望一方ならず、積善の家に餘慶ある事は村民口を一にする所である。

西郷村馬町

須佐太郎兵衛

當家の鼻祖は武藤家の家臣にして、寛文元年頃以降の記録は現存してゐるが、それ以前は史料敬逸して不詳であるのは遺憾にたへない。子孫は農に歸して土著し、世々農を以て業とし勤儉力行して貨殖に巧妙、豪農にして巨富を擁せる名門たるに至つたのである。歴代英傑を輩出し農に匿れて敢て名利を追はず、陰徳を施して憐憫洽く、全村内外の悉く敬仰してやまざるところである。代々名主を勤めて苗字帯刀を免ぜられてゐた。先代もその最後の名主を勤め、特に農政に通過し功績顯著なるものがあつた。

當主太郎兵衛氏は先代の長男にして、明治三年の出生である。家風に從ひ太郎兵衛を襲名したのであつた。夙に村自治産業の上に周旋奔走し、収入役にあけられて多年勤績して村財政を擔當し、これが整理と安定の確立とに關して拔群の大功があつた。その後推されて西郷村長の要職に就き今日まで前後十箇年間、村政を双肩に擔つて盡瘁し、村礎益々鞏固にして村民福祉は愈々増進助長されてゐるのである。氏はまた郡農會議長および、村農會長を兼務して努力し全力を傾注してゐる。郡村民の感謝讃嘆して措かざる

ところにして、その功勞極めて多大である。西郷尋常高等小學校の新校舍建築は工費五萬八千餘圓を投じた大工事にして、これがため氏は日夜奔走して碎心粉骨するところあり、その竣成の功勞は主として氏の赤心報國に歸すべきであるとして全村の深謝して措かざるところである。なほ各種の功勞により表彰を受くること多數である。氏は最も熱誠なる民政

黨々員ではあるが、現職に就任してより常に不偏中立を節守して毫も侵すところなくその節操の明確なるは益々人をして推服せしめてゐる。資性濃厚篤實の人格者にして一村の長老である。

大山町

町會議員 柴田三郎兵衛

當家は祖先の年代は不詳なるも當町の舊門として聞えてゐる。當家は祖父を以て中興の士とし、代々地主として榮えて來たが、先代龜次氏に至りてより質屋を經營して來た。當主五郎兵衛氏は、明治十八年九月三日に出生、當年五十四歳の活躍期である。氏は資性濃厚なる上に圓満なる人格を有し、町政の發展を目指して町會に參與、大正十五年町會議員に當選して以來、今日まで既に勤績十三年に及んでゐる。その他多數の要職に推されて、奮闘努力、それらの功績は枚擧げられなく、町内の有刀者として重んぜられてゐる。尙當家は地主たる傍ら山形貯蓄銀

行の代理店を営み、信頼絶大なるものである。

氏は町政功勞者としてのみならず、民政黨を奉じて、斯界の活躍も期待されるなど、才腕、識見共衆に優れ、加ふるに熱と努力を以て邁進する氏の如き人材を有するは、まことに當町の誇りとすに足る。

殊に氏は繁忙なる町政家としての餘暇には、農業に親しみ、その改良振興に努力し、又浄土宗を奉じて、當町専念寺の檀家である。

家族は五人にて一家團樂、平安に満ちた家庭として好評をうけてゐる。

榮村本田

村會議員 菅原 金七

當家は本田部落の開拓に當りし由緒深き舊家にして、代々の人物よく家業に勵み、篤農家としての譽れが高い。

嚴父半吉氏は、區長として精勵努力、種々村政に盡せし人物で、深く村民の徳

とされてゐるが、現在八十四歳の高齡を保つて、尙矍鑠壯者を凌ぐの元氣がある。

當主金七氏は、その長男として、明治十一年二月八日の出生、さきに日露戰役に從軍して武勳赫々たるものあり、凱旋のち勳八等に叙せられてゐる勇士である。郷に戻るや、各種の公職に就いて功勞多く、現在村會議員、衛生組合副組合長等を務めて、愈々村治に盡瘁してゐる。

大泉村

村會議員 佐藤 憲治

當家はその由緒極めて深く、佐藤備中守の末孫に當る。五代前より醫術を以て世に立ち、代々の人物仁を意として廣く村内に施術し、全村の信望頗る篤いものがあつた。

先代は資性衆に勝れ、幼時より聰明の譽れ高く、帝大醫學部を出て歸郷、村醫として村内の健康保全に盡し、殊に傳染病豫防に努めて全村民より深く畏敬されてゐる。

當主憲治氏は、その子息として、明治二十二年七月五日の生誕、資性濃厚にして謙恭慇懃の態度を持ち、よく徳望を収めてゐる人物である。然して農業を以て生業とし、村政に盡瘁して、甚大の貢獻を残してゐる。さきに各種の公職に歴任して、よく職責を全うしたが、現在選ばれて村會議員となつてゐる他、學務委員として教育方面に盡すこと深く、亦方面委員として、村内の貧窮除去に努め、いづれも手腕を謳はれて、刮目してその將來を期待されてゐる。

氏は信仰心極めて篤く、浄土眞宗に歸依してゐる。

袖浦村

村會議員 元木 新兵衛

當家の開祖は天正年間と謂はれ、三百年以上の家系を有する舊門名閥にして、代々村の肝入りをつとめて來た。先代を新兵衛氏と稱し、當主は慶應三年に此の世に生をうけ、當年七十三歳の高齡であ

る。氏は資性濃厚着實、然して、高潔なる人格者として全村より信頼されてゐる。

氏高齡をも厭はず、尙村政に參與、唯氏の念頭にあるは、村政の圓滿なる發展と、村民の福祉増進に外ならない。村會議員及び區長の要職に推されて永年勤續に及んでゐる上に、更に方面委員として種々の相談に豫り、村民は何事にも一度は氏のところへ持ち來りてその見解を仰ぐといふ、實に當村に於ける偉大なる存在である。又氏は浄土眞宗に歸依して、信仰心深く敬神崇祖を根本精神としてゐる。その精神は、村政上のみならず家庭に於いても、外では徳望の村政者として内では濃厚なる一家の長として、圓滿平和なる家庭をいとなみ、模範的良家庭の定評がある。

西郷村馬町

村會議員 學務委員 阿部 大八

本家阿部藤左衛門氏より分家せる家で、代々大八氏を襲名し、當主大八氏にて、

七代を重ねる、當村の名門である。

氏の嚴父大八氏は村長を勤續すること五期に及び、人格識見共に秀で、その生涯を當村の繁榮の爲に盡瘁せる人で、大正十五年十二月二十二日、六十五歳を以て逝去せし際は、村民は、痛くその死を惜み、村葬を以て送りしをみて、氏が如何に偉大なる存在であつたかを想像することが出来る。

當主は明治二十一年十月七日に生れ、莊内中學校を卒業せる逸材で、父君の赫々たる名聲を固持して、鞠躬盡力し、方面委員としては、その設置當時より奔走を續け、事業の基礎を固めて、華々しき躍進をもたらせる人で、學務委員をも兼ね、優秀なる村童の輩出を願ひて、各種の改善に努力、大いに貢献するところがあつた。

昭和二年村會議員に出馬して以來、父君の遺志を體して、その實現に不屈の盡力を續けるなど、父子二代に及ぶ、數々の功績は、燦として、村史に輝くに違ひ

ない。

趣味は和歌にある。しかも天才肌の詩囊は綿々として盡きるを知らない。一家は曹洞宗に歸依してゐる。扇惠夫人との間に一男一女あり、長男良作君は莊内農學校に、長女芳惠嬢は小學校に在學中である。

湯田川村田川湯

村會議員 松田 彦兵衛

當家の開祖は遡つて和銅年間の往昔に始まり、代々温泉旅館を經營して今日に至つてゐる。

先代久吉氏は、區長等の公職を務め、村政に多々寄與貢獻して、廣く衆望を集めた人物であつた。

當主彦兵衛氏は、その長男として明治十九年七月十八日の出生、性格實直誠意にして公共精神頗る篤く、選ばれて村會議員に立つこと二期、現在尙その任にあつてよく職務に盡してをり、亦家業に勵んで、今日の繁榮を築いてゐる。

氏の經營する旅館は、トキワ屋と稱し湯田川温泉。指の旅館にして、一年約三千にのぼる客を招び、雇人五名、いづれも懇切丁寧を旨として、業務に従事してゐる。

因に、當温泉は、鶴岡驛より定期自動車あり、遠く和銅年間の創始にして腦貧血、眼病、打身、切傷、脚氣、リウマチス、その他諸病に特效あり、白鷺の湯と稱して、聲價全國に洽なく知れ亘つてゐる。附近は名所多く、由豆佐賣神社大日山長福寺、楠公の廟、馬場山スキー場、その他がある。

田川村坂ノ下

村會議員 菅原 岩治

當主岩治氏は先代庫吉氏の男にして明治二十三年一月二十日出生である。庫吉氏は豊臣時代よりの舊家にして四百年以上も正しき家系を保つ菅原常雄氏より分れ、農及養蠶を業とす。先代は區長として令名高かりしが氏も亦村會議員に選ば

れ、惜まれて現在は第三期目の村會議員である。先は消防部長に任じ拾年以上も勤務した事もあり、今は養蠶實行組合理事を兼務す。日本の輸出産業の太宗たる生糸業の繁榮は養蠶事業と相俟たねばならぬ事は誰しも知る所であるが、氏も亦こゝに着目し、養蠶實行組合を組織して蠶繭の多收獲、改良を計ると共に、養蠶家の生活安定のために盡力す。濃厚なる人格は宜く人と交はり、多難の村政、養蠶組合の運行はまた爲に圓滑に行はれ、村績見るべきものが多い、佛教に歸依し曹洞宗を信仰す。

上郷村

村會議員 小松 末吉

土地展指の舊家なる當家は、その創家餘りに古く、初期の家祖を詳かにしないが、記録の明かに傳ふる處を以てしても元祿年間の性翁常晃侍士の名が見えてゐる。代々農を以て業とし、先代は篤農家として令名あり、農事改善に實績多く、



村民の福祉増進にも種々貢献せる處甚大であつた。

末吉氏は

明治二十二年十二月十日に出生、資性明朗潤達にして、明敏を以てきこえてゐる人。縣立庄内農業校を優秀なる成績を以て卒業後、明治四十三年近衛第二聯隊に入營、軍務に精勵し、好成績を擧げて歩兵伍長に累進し、除隊した。家業たる農業に精進し、先代の遺風を繼いで新知識による農事耕作の改良に新機軸を出し、村民を刺戟し自覺を促すこと多大にして推されて農會總代、耕地整理組合議員になるや猷身的に村産業の發展に盡瘁し、頗る功績があつた。また消防組小頭、國勢調査員として功勞があり、村民の信望愈々篤きを加へ、現に村會議員として村政に參畫せる外、農會評議員、水澤堰普通水利組合議員を兼ね村勢の向上發展に

盡力してゐるが、氏は元來民政系の人なるも事に當つては社會正義に基いて批判行動する一黨一派に偏せざる雅量あり、農村指導者として信頼し得べき人物として其存在重きを加へてゐる。殊に暴支膺懲の聖戰勃發するや、軍事救護議員に就任、銃後の護りの強化のため寧日なく活動し、郷土部隊勇士に後顧の憂なからしめることを期してゐる。

榮村

村會議員 富樫 重治



當家は村内屈指の舊家にして、土地開拓に従事、辛苦今日の村を

築くに盡した由緒深き家柄にして、代々の人物、家業に勵み、篤農家として顯れてゐる。

先代久治氏は亦、父祖の志を享けて、早くより村治に盡瘁、村會議員として種々治績を残してゐる。

當主重治氏は、その長男として、明治十五年の出生、資性質實にして責任の觀念頗る固い人物である。さきに村収入役を務めること八年の久しきに及び、よく職責を全うして過らなく、信望を集めて村會議員に選ばれ、現在その五期目であり、亦區長代理を務めること十八年の長きに亘つて、數々の功業を残し、全村民より崇敬を受けてゐる。

大泉村

村會議員 水口 萬吉

水口家が大泉村に家を興した時代は殆んど小部落であつた。初めより農業に従事、開墾に力を盡し、村の開拓に努めた功績が大きい。當主萬吉氏は先代萬吉

氏を實父とし、明治十六年九月十六日の岳降である。先代は區長、村會議員、學務員等に任じ、村民に慈父の如く仰がれてゐた。氏は家名を襲名し、村事に奔走する事久しい。殊更に學業等の閱歴はないが、識見常に卓越し、村民の師表として高評あり、推されて村會議員、區長代理となり、青龍寺川水理組合員として活躍す。氏は常に實實剛健を旨とし、私利を顧みず、公共事業に心を砕き、村政のために盡力する一方家庭にあつてはよき主人であり、召使に對してさへも將來の事に至るまで心を掛く。召使亦氏の心を汲み表裏なく仕へ、長年仕へる事を以て誇りとす。春風駘蕩たるその家庭の和樂は村民の規範となつてゐる。宗教の念殊に深く代々曹洞宗を信仰し、菩提寺の寄進を怠らずその修理、勸説に對しては卒先して參加するを常とす。

西郷村

村會議員 佐藤 石之助

土地の舊家としてきこえてゐる田村佐藤傳次郎家の分家たる當家は、創家以來當主に至るまで五代、代々農を營み、石之助の名を襲名し來たつた。先代石之助氏は營々として家業に精勵し、家運を隆盛ならしめると共に篤農家として名譽を得る他面、區長代理、村會議員等公職を歴任して村民の福祉増進、村政の向上發展に頗る功勞ありたる名望家であつた。

當主石之助氏は明治二十五年十二月二十五日に生れたる思慮分別共に圓熟したる働き盛りの壯年、資性質實謹嚴にして温厚謙讓なる人格を有し、禪宗に歸依すること篤く、其處に由來する確固たる信念ある言動は郷黨の異常な信望を擔つてゐる。農藝に深き興味を持つと共に倦まざる農事耕作に對する研究は其農事改善に頗る實績擧り、先代の遺風を繼ぎ篤農家の名譽を得る傍、消防組小頭として二十年勤続し、時代の進歩に伴ひ消防事業の充實發展に貢献する處甚大にして村民生活の安寧維持に頗る功績あり、後先代

の後を繼ぎ村會議員に推されて村政に參與するや、其抱負經綸を傾けて餘蘊なく村會に氏の存在重きを加へ、來るべき次の時代の農村を双肩に擔ふべき人として其活躍を期待せらるゝもの絶大である。

上郷村西目

村會議員 難波 八兵衛

當家は村内屈指の舊家にして、開祖は三百數十年の往昔に遡るも、詳細は不明となつてゐる。但し八代前よりの記録は歴然として存し、その舊き家系を誇つてをり、代々の人物皆家名を辱しめざるやう、家業に勵み、また村の發展に盡してゐる。

分けても先代八兵衛氏は村治に寄與する處篤く、村會議員、區長等の要職に擧げられて、孜々として努力精勵、數々の功業を残して、今尙村民の腦裡に深く尊敬の念を留めてゐる。

當主八兵衛氏は先代の長男として、明治十二年十一月十五日の出生、家例に従

ひ襲名して八兵衛を名乗つてゐる。性格温和にして恭順謙遜の態度深く、尙公共犠牲の精神に富み、村の福祉發展に多々盡して來た點は、村民齊しく讃へて已まぬ處である。高齡に達した今日愈々嬰鑠として、壯者を凌ぐの活動力を示し、村會議員に選出されて大いに抱負の實現に努めてゐる他、區長に推され、水利組合議員に任ぜられて、いづれも職責を全うしてゐる。

家族は五名あり、使用人五名を置き、平和なまどるを作つてゐる。

尙氏は趣味として釣を好んでゐる。

上郷村

村會議員 諏訪 八太郎

當家は四百年の昔、遠く信州より來住せる草分の名家、諏訪庄太郎家の分れである。

庄太郎家は往時名字帶刀御免の家柄にして村の名だゝる有力家である。當家も亦代々八太郎を襲名し、先代は村會議員



區長、農會副會長等を勤務した。氏は先代の長男にして明治二十

家族十二名、使用人二名、質實なる家庭である。

袖浦村

元村長 高橋 久夫

二年十二月二十四日出生。縣立庄内農學校を卒業した。在學中より農事の改良には極めて深き研究心を持ち、その收獲の時に當つて學理と實際とに就て考へ、更に研究を進める事を怠らなかつた。されば卒業して歸るや農事實行組合長に推され、また村民の懇望黙し難く消防組頭を六ヶ年勤めた。

更に區長代理、青年團顧問に望まれ、村會議員の多忙に寧日がない。温厚にして社交的なれども聰明且不屈の精神、内に籠れば交際に墮する事なく、人との交り誠に明朗である。民政黨の政策に共鳴しそれを支持しされど政策實行に對しては批判を怠らない。顎々の言はなさずともよく村政を善導する所以である。

西郷村

村會議員 阿部 多右衛門

現村會議員(六期)方面委員、學務委員區長、砂子山水利組合議員、横堰水利組合議員を肩書として村治に奔走してゐる氏は、ために晝夜を分たぬ精勵を勉めてゐるが、氏の活動家としての實行力は、等しく村民の一驚に價してゐるところである。

而も氏は篤農家としての家事を忘れることなく、創祖以來三百年を誇る阿部家十代目の當主として、祖先の名を恥かしめず、家運を起して來た。現在六十二歳の長老である。氏の村治に對する意見は種々あるも、先づ一致共力の團結心をもつて村の發展向上に當らなければならぬと云ふのが、村衆に對する希望で、氏の提唱に従つての各自の共力は、近年頗る同村の産業開發に好成績を見せてゐる。當家の現在農作耕地は、田四町歩餘、

畑二町歩餘、山林三町歩餘を有して居る村でも屈指の地主であり、使用人は四名、なほ圓滿なる家族六名を數へる氏の一家は日夜團樂の聲絶えることなく、極めて和やかである。民政系に屬し趣味は魚釣りである。

上郷村

村會議員 遠藤八右衛門

當家は代々八右衛門と稱し當部落の舊家である。



農を家業とし、父祖相繼いで農事の改良に貢獻す。先代

八右衛門氏は長年區長に勤務し、寡言實行の徒として村民に敬慕せられた。

氏は先代の息にして明治九年生れ、當地の學校を卒業後約四年間上郷村小學校に奉職、良訓導として父兄生徒間に信望が厚かつた。後、上郷村収入役として二

十四ヶ年勤務し、引續き助役八ヶ年、衛生組合長を勤めらる。

既に六十路の坂を越えながら今尚矍鑠として壯者を凌ぎ、今尙村會議員、方面委員、藥師神社氏子總代、満足講總代等を勤めらる。佛教を深く信じ曹洞宗に歸依し、佛事に關してもまた率先して事にあたる。多くの經驗と圓熟したる人格は村民仰いで師となし、人氣頗る良好である。民政黨系に屬し、その政策を説く時には村民一様に耳を傾け、氏の意見は實に村民に對して大きな影響がある。殊に方面委員の職は一般の喜ぶ所であつて、如何なる面倒なる事と雖も親身になつて相談される。佛教徒であると共に、敬神の念厚き氏の人格の流露とでも言ふべきか。

されば表彰されたる事數多く、有徳の人といふべきであらう。

湯田川村

農會長 白幡五右衛門

電話三十八番

氏は先代五右衛門氏の男にして明治二十二年八月生る。當家は初めて陸奥の國より銅を獻ぜられしによつて年號を和銅と改められしといふ。元明天皇の御宇以前よりの家柄にして農業に従事す。當時特に獎勵せられて開墾事業に盡し、農業の開拓に努め村の長として村民の爲に心を砕いた。積善の家として譽れが高い。氏はこの榮譽の家に恥ぢず、幼より資性濶達、明敏なる頭腦は將來を期待されてゐた。長じて温厚にして篤實、人格の聞え高く推されて村會議員、各名譽職につき、その業績に觀るべきものが多い。現在は農會長として農事の改良、農民生活の安定のために寢食を忘れ、農事の指導者としての評判が専らである。宗教を信じる心深く、眞言宗に歸依し佛陀の徳を自らに躰徳せんとする功徳の人である。

先代五右衛門氏は曾て村長の名譽職にあり湯田川村隨一の舊家にして資産家、篤農家の名と共に村民の胸に誇りとして

語られてゐる。

和銅年間前よりの舊家なればその家門の分れは多く、いづれも本家五右衛門氏を中心として、ます／＼その礎を固くしてゐる事は喜ぶべきである。

上郷村矢引

村會議員 佐藤彌七

當家の祖先は村内の三役として要職に



就いた舊家名門の流れを汲む。開祖の年代は詳でないが凡そ今より

三四百年前であるといふ。先代は早世した爲に際立つた公職等の經歷がない。

氏は小學校卒業にして、兵役關係がない。長く消防部長を勤め村の安全のために盡す所多かつた。現在村會議員、區長農會總代等の要職に就き村治のために盡してゐる。民政黨系に屬し、村政に對し

てその政策がよく具現さるゝ事に努む。

舊家に生を受けた氏は明敏なる中に悠揚迫らない所があり、温厚にして篤實、特に言語明晰なるは人に好感情を持たせるに充分である。氏は日常の行動を先づ父祖の名を恥かしめない事におき、四恩に感謝する事が厚い。近隣に對して常に親切、高振る事なく接し、交際頗る圓滿である。

家族六名、使用人一名の質實な家庭であつて、長男廣彌氏は二十四歳、縣立莊内農學校を卒業、今家郷にあつて青年團長を勤めてゐる。父の血を受けて温良なれど、若き血潮はその眉宇に漲り、濶達なる行動は青年團長としてよくその任務を盡してゐる。政治に對しても研究する所あり、村民の屬望する青年である。

西郷村

村會議員 阿部太郎左衛門

氏は一度卓を叩けば滔々として聴衆を魅力する雄辯家として聞えてゐる。而も

性率直、快活にして剛健なる氣風は特に村内の青年に人氣を博してゐる。同家は地方でも有數の資産家であり、地主としての人望は厚いが、これを證明するものは、氏の祖父に當る人の仁徳で、村民はその徳を偲んで、それを永遠に記念すべく、記念碑を建立して現在猶も一度の追悼祭を執行して、當日は村人殘らず参拜して盛大なる式典を行つてゐる。而も當主を以て十二代目を數へる舊家名門であり、その昔は名主をも勤めた同家の家系は、益々萬代不易の重さを加へるばかりであるが、代々襲名の家憲を守つて當主となつた太郎左衛門氏は、その卓才雄辯の手腕をふまつて、過去縣農會議員、郡農會議員、赤川水利組合議員を経て、現在は村會議員の外に學務委員、方面委員、その他多數の村治の要職に得意のその雄辯をふるつてゐる。人に接する感も又好く、民政黨の地方有志として、氏の村に在ることは至寶である。家族使用人も多く、氏の家は常に活況を呈してゐる。

上郷村大廣

村會議員 八幡 泰次



當家は三四百年前當地來住したものであると口碑として傳つてゐる。しかし歴史詳かでないが、たが八代前の祖、神葬以來八幡神社の記録により判明した。部落九十餘戸中の舊家名門にして代々農業を營む。

實父吉右衛門氏は人格ある政治家として地方に聞えたる人である。村長數十年間を勤め、耕地整理組合長、村會議員、衛生組合長その他村内に事あれば何かと委員に推された。

されば氏も亦父の跡をうけて農會總代衛生組合長、區長等を勤め、氏子總代、村會議員は今に及んでゐる。氏は小學校卒業後漢學にて鍛へられた

る士にして篤實温厚、内に颯爽たる氣概を籠め、言語また極めて明快である。身を處するに謹嚴、人に求むる事誠に少い。民政黨に屬してよく政論を談じ、人々はその一言を聞いて裨益する事が多い。村内の圓滿なる自治、農事の改良、青年の善導は氏の多年抱懐する主張であつた。事局多端の今日特にこれ等の強化こそ必要として一層拍車をかけ、その實行を期待する事が大きい。家族十五名、用人一名にしていづれも農事に精進、銃後の守りの鍛鍊を怠らない。

西郷村

學務委員 阿部長右衛門

當家は遠祖詳かならざるも、相當の舊家で代々長右衛門を襲名し、篤農家を以て聞えた家柄である。先代長右衛門氏は廉直にして、寛厚な性格の持主であり、村の名公職には一切就任せず、専ら農事に關心を深めし人で、耕作の改良では村内の先輩格で、卓抜なる手腕を揮つてゐる。

當主は明治三十二年四月三日に、先代長右衛門氏の男として生れ、郷土の小學校を卒業せし後は、先代の指導の許に農業に精進を続けし人で、爲人、重厚にして識量あり、生命を賭して、自己の信念に邁進せんとする、烈々たる氣魄あるため、夙に村内に隠然たる勢力をもち得。其の後、青年團馬町支部長の要職に就任し、村青年間に質實剛健の精神を醸成し、和協心の涵養に努めて、最善の努力を續けたため、赫々たる數多の功績を挙げ、氏に對する信頼の度は囂然として高まつて來た。

現在氏は三川堰水利組合議員の職務にある外、學務委員にも推舉を受け、又教育方面にも關心してをり、教育界に進歩的な意見を吐いて、教育事業の發展向上に盡力してゐる。家庭には貞淑なる夫人との間に四男あり、和氣霽々として平安を極め、靜謐なる生活を送つてゐる。

大泉村

農會會長 木村 九兵衛

木村家は土地の舊家にして、舊幕時代は藩に仕へて、文武兩つながら並び稱されし由緒多い家柄であるが、系譜紛失のため、詳かにするを得ない。歸農して當村に落着いてより、歴代の人よく家業に勵み、又村治に甚大の寄與をなして、全村より尊仰を受けてゐる。

當代九兵衛氏も亦、父祖の名譽を辱しめず、その篤厚醇良の人格を以て全村より讃へられる人物である。村内隨一の資産家として、又、由緒正しい素封家として、識見を磨き、徳を積み、表面に立つこと少きも、陰に於て村政に多々盡瘁、寄與すること圖り知れぬものあり、さきに郡農會長を勤めて名會長の名を擅まゝにしたが、現在尙村農會長として令名高く、學務委員に任ぜられて、よくその職務に精勵してゐる。氏は又、實業界に深き關係を有し、鶴

岡銀行頭取の樞位にあり、尙鶴岡電氣株式會社重役に推輓されて、業績頗る顯著なるものあり、業界の重鎮として、その名近郷に聞えてゐる。

西郷村馬町

軍人分會長 青年團長 太田 重治

當家は本家太田八郎右衛門氏の祖より分家、一家を創立せるものにして、本家は土地有數の舊家たる由緒を有し、聲價は高く知れ亘つてゐる。當家も分家してより既に八代を數へ、代々農を營み、よく生業に勵んで、今日の家運隆盛の基礎を築いてゐる。先代八郎兵衛氏は、家業熱心の人物で、孜孜として努めて倦まず精農家としての聞えが高い。

當主重治氏は、その子息として明治四十四年四月九日の出生、性格潤達明快にして而も内に剛毅の氣性を秘め、責任感の頗る固い青年である。さきに庄内農業學校を優秀な成績で卒業のち、志願兵として入營、砲兵少尉に任官してゐる。

湯田川町

一新會長 今野 民彌

電話 二番

郷に戻るや、尊父を輔けて家業に精勵、その孝養は村内の範と讃へられ、衆望默し難く、在郷軍人分會長の要職に就いて、よく郷軍の指導に任じ、又、青年團長に推されて、村内青年の意氣刷新に努め、その功業淺からざるものがあつたが、今次の日支事變勃發に遇つて名譽ある召集を受け、欣然征途に赴いて、目下第一線に勇躍奮戦中である。家庭には兩親及び令弟あり、舉つて氏の武運長久を祈つてゐる。

一新會は湯田川温泉向上發展のため設立された會である。湯田川温泉は和銅年間の開湯と言はれ、古來より庄内の代表的温泉として知られてゐる。以前田川の郡、田川温泉と稱へられ唯行政區劃改正で現在の名に改められた。往時庄内藩主や藩士、酒井藩士をよく來り遊んだ所、古松軒の來遊記にも「百軒ばかりのよき

町にて温泉凡そ十六ヶ所、家々綺麗なる湯坪あり」とあり、金峯山の麓にありて翠巒三方を繞らし、一方遙に鳥海山の秀峯を仰ぐ景勝の地である。

當家は代々温泉旅館で先代は政友會系の郡會議員であつて村でも中心人物であつた。氏も亦郷社由豆佐賣神社掌を勤め、三期を通じて村會議員に當選した。村政のためによく盡し、ともすれば淫情に流れ勝ちの温泉の風習を肅正し、保健及娛樂のためのよき場所たらしめんとして發起して一新會を組織したのである。組織なるや會長に推され、日々その目的遂行のため盡してゐる。

資性濃厚、篤實なる活動家で村政の中心人物として村民の崇敬をうけてゐる。因に一新會は基礎なかく、強固にして土地發展に寄與貢獻する多大なるものがあり、その會員は次の人々である。

五十嵐屋 五十嵐茂八
石倉屋 庄司隼人
穂積屋 太田理太夫

やま旅館	佐藤とよ江
ときわや	松田彦兵衛
たみや	今野民彌
瀧湯屋	大塚甚内
目の湯元	大瀧九兵衛
司屋	庄司彦右衛門
大國屋	佐藤ゆき江
富士屋	大井多右衛門
御殿	今野玉記
鷺見屋	松田久左衛門
七内	大井七内
宮五館	宮田五郎左衛門
朝日屋	大井與右衛門

田川村

農會長 榎本與惣太

氏は與左衛門氏を父として明治四十五年一月十二日生る。氏は幼時より覇氣に富み、讀書を好み四百年以上榮譽を以て續いた榎本家の世嗣として兩親は元より村民よりも期待されて成長した。果せる哉、長ずるにつれて公共的事業に志を傾け、農民の生活向上、安定には缺くべからざるものとされる。業組合、農會を組織し、推されてその會長となり、氏は未だ若年なりと雖も學識卓見は衆に拔んで村會議員、學務委員の要職をよく全うしてゐる。特に村政、小青年教育には心を用ひ學校設備の充實、教員の爲の改善には人知れず心を砕く。されば村政に對してもよくその事を強調し、他議員協力の下にその實を擧げてゐる。

資性濃厚なる氏はよく兩親に仕へ、外にありてはよき政治家であり、事業家ではあると共に、家にあつては誠に兩親の命之從ふ從順なる子である。兩親の恩愛に報ゆるに己に課せられたる諸々の公共の仕事に立派に爲し了せる事であるとし、兩親が己のためには社會に毅然たる面目を擧げる事だと信じてゐられる様である。村民は氏の業績を矚目して見、將來の發展を喜びを以て翹望してゐる。

上郷村

元村會議員 石井善七

當家は當部落に於ける屈指の舊家にして代々農



令息 善七 氏の名を襲名して來た。先

代は篤農家として近在に重きをなした人また村のために盡瘁し、村民の福祉増進に貢獻する處甚大であつた。

當主善七氏は明治三年の生れ、未だに壯者にまさる嬰鑠ぶりは近隣の驚異とする處であるが、濃厚篤實、人一倍の努力家にして人情深く、多方面の人々に親しまれると共に信望が高い。今は公職を辭して悠々自適し花鳥を友としてゐるが、かつては多年に亘り村會議員、區長、農會長等幾多の公職を歴任して村政に參畫し、村治、産業の發展に頗る顯著の功績を残してゐる。

令息善藏氏は郡聯合分會副會長、在郷軍人分會長を勤め郷軍の第一線に在つて

活躍してゐた。豪放磊落、典型的武人肌の人として、その人格の高潔を以て畏敬せられてゐたが、暴支膺懲の聖戰勃發するや、夙に陸軍歩兵中尉として出征、北支中支に幾轉戰、砲煙彈雨の死線をくぐつて赫々たる武勳を樹て、その忠烈なる武勇は當村の誇りして、他町村に輝いてゐる。

溫海町

方面委員 清野鐵臣

先祖は最上延澤城主能登守の家臣で、



城主が熊本に左遷され臣下離散して、庄内に移り、後酒井侯に仕へた。莊内藩櫛

引通納方手代、六石二人扶持、御手擬二十五俵を食みし家柄である。氏は慶應元年正月十三日生れ、小學校を卒業したに過ぎないが生來、自然科學、歴史には秀れし天分あり深き造詣の持主で、多年教員を奉職なすも、社會事業には特に關心を抱き、現在、方面委員、社會教育、少年教護委員の要職を兼ねて、町内の淨化に盡力してゐる。

尙特筆すべきは、大正元年八月簡易博物館を創設し、以來二十七年間獨力經營してゐること、清野家正系の業として社會の爲に、又當地が溫泉場なるため湯治客の便を圖りて、無料で縦覽させてゐる。陳列品は歴史九一〇、礦物岩石二五四、植物八〇七、動物五九〇、化石其他三千に近く、皇室及び郷土資料には特に意を注ぎて蒐集してゐる。

又圖書館の計畫を圖り、新聞切抜帳、近世日本國民史、日本歴史、皇室、理科に關するもの、外、氏の刊行せる莊内天保義民、孝子慶玉研究資料、溫海溫泉談

未刊の孝子富繼永昌直右衛門事蹟を基礎に準備を重ねてゐる。

自叙傳は、十二年前より執筆してをり死後に出版せんとしてゐる。

上郷村大廣

元村會議員 五十嵐祥太郎



當家は三百餘年前の舊家にして口碑として傳ふ外詳かなる記録なし。草分けの家として世民の信望をあつむ。先代長作氏は長年區長として村治のために奔走す。篤農家として知らるゝと共にその謹直なりし行爲は人々の記憶に新である。

氏は長作氏の長男にして明治二十年十一月十六日生れ、明治四十年横須賀海兵團に入團す。入團中よく上官の命を守り海國軍人の氣風を養ひ、期間過ぎて歸る

や村會議員、區長等に推さる。氏は剛健にして社交的の一面を持ち民政黨系に屬して自治を論じ、時の政黨の動きに對しても批評疎ならず、着實なる中に鋭鋒を収む。意見聞くべきものが尠くない。

氏はまた農村文化の向上に深く心を致し、陰に陽に村民の人格向上に努力す。人格の向上はまづ教育の普及にありとし小學校の缺席者の絶無を期してゐる。青年教育にも心を注ぎ、その方策を披瀝してよく参考に供する。

大泉村

軍人分會長 齋藤太治右衛門

當家は十二代も打ち續く正しき家柄にして代々農業に従事す。氏は區長として功績ありし太郎治氏の息にして、明治三

十二年出生、陸軍中尉の兵役にあり。家に精勵の傍ら村會議員、學務員、軍人分會長の要職につく。村政に盡すは勿論ながら、次の時代を背負ふ若人の教育事業には夙に心を傾け、卓越せる識見と實行力とは、除々にその成績を表はしてゐる。更に時局多端の折柄在郷軍人の強弱は銃後の守りを左右するものゝ一要素として觀るべきは論を俟たないが、氏は分會長として、よくその統制と訓練を怠らず、村政、教育界の革新と相俟つて銃後の守りの堅からん事を期してゐる。公共事業に對しては冷靜犀利ながら、一面釣植木の趣味を解し、破顔一笑する時は童子をも親しましむ。曹洞宗を信じ、その書籍に親しむ事多し。

西郷村長崎

農會長 照井仁作

同家の開祖は約五百年以前と推測されるが詳ならず、元祿以後は歴然として代々の篤農家として同村に重きを爲してゐる

る。先代仁作氏も農業の傍ら又村政治にも携つた功勞者で、村會議員の職にあつて活躍したが、一方、學務委員としても方面委員としても、村民の畏敬を蒐めた人である。

その積善の後を繼いで仁作を襲名した當主は明治二十四年生れの壯齡で、師表を村内に垂れて信望の深き人、現在農會長、方面委員、長崎區長、學務委員、水利組合議員の要務を兼帯して、日夜多忙の劇務にも拘らず黙々として倦むことを知らぬ活動の士として各方面の評判が良

い。就中方面委員としての氏の努力は、同村の救済方面に多大の貢献を遂げてゐる実績のほどは枚擧に遑なく、農産業開發の提唱實行者である。此の面目は、更に果實の栽培にかけても非凡なる才能を有してゐる。而も唯に栽培家としてばかりでなく、その移出出荷の増加統制を叫んでやまず、村の先覺者としての名を博してその方面の一家を爲してゐる。過去民

政系の闘士であつたが、現在は中立を守り、趣味に生きては釣魚を唯一の楽しみとしてゐる。

上郷村

青年團支部長 難波富三郎

當家は土地屈指の舊家なる難波利左衛門家の分家であるが、創祖以來家統を繼承し來れること當主を以て八代、代々農を以て業とし近在に篤農家として令名ある家柄である。先代は老來尙矍鑠たるものがあつたが、家督を讓つて悠々自適、人の羨望する樂隱居の身であるが、かつて村會議員たること多年、村民の福祉増進、村勢の向上發展に盡瘁し頗る顯著な功績のあつた人である。

當主富三郎氏は郷土小學校卒業後、家業に精進し、廣く書籍を読み絶えずその識見を高めるに怠りなく、農事耕作の改良に深き造詣と體驗を持つて、東北地方特有の冷害、病虫害等の災害を克服して農産品種の選擇、自給肥料の増産等にも

意を注ぎ、實績多く夙に篤農家として知られ村民の自覺を促し、村産業の發展に貢献する處多大なものがある。濃厚謙讓恒に中道を進み、その高潔なる人格を以て當村青年層の模範として村の長老から囑望せられてゐる氏は、嚴父は民政系の人であつたが社會正義に基き政治的には嚴正中立の立場をとり、青年團支部長、消防組部員として村傳來の隣保共助の美風を基調として村民生活習慣の改善向上に盡力してゐる。祖先崇拜、敬神の念に篤き氏は曹洞宗に歸依し、其信仰心堅固なるを以て聞えて居り、當家の菩提家は眞源寺である。其家庭は和氣霽々たる團圓の笑聲に満ち、近隣の羨望の的であるが、家族は六名、其の他使用人が三名である。

大泉村

方面委員 松浦榮治

榮治氏は酒井家入城の折より大庄屋として名字帶刀の名譽ある家柄に生る。村

會議員、青龍寺水利組合議員等の要職に在りし孫八氏の息にして分れて一家を成す。明治二十九年生れ、宗教の志篤く曹洞宗を信じ正義に厚き氏は早くより貧しき者の味方であつた。一方に富の増大を專にする者あると共に、その日の糧にも困窮する者あり、かゝる經濟的不安は遂に階級闘争をまで醸すに至つた。されば政府は貧しき者の相談相手として方面委員を設置し民心の安定を期した。斯の如き政府の眞意を汲みその實績を擧ぐるは一に方面委員の肩にかゝつてゐるがその人を得るを至難とされてゐる。然るに生來溫情にして同情深き氏はよくその任に在り、村民よりは慈父の如く慕はれてゐる。植木に興味を持ち、家庭は常に和氣霽々たるものあり。

袖浦村

區長 佐藤 繁松

佐藤家は創家以來幾多の春秋を重ねて今日に至り、十二代を數へる舊家であつ



殊に先代多七氏は、
孜々として
業務に精勵
よく今日の
資産を築く

て、農を業として勤儉大いに努めて資産豊澤なるものがあり、家門つねに篤農家を輩出してゐる。先代西蔵氏は特に精農家として著聞しその功績多大であつて、全村常に氏を敬慕してやまなかつたのである。

榮村湯野澤

區長代理 篤農家 上野 仁助

當家は土地の舊家にして、開祖以來當主を以て五代目とする。農を以て專業とし、代々の人よく家業に勵んで、篤農家として聞え高き家柄である。

に至つてゐる。

當主仁助氏は、その長男として、明治十八年三月一日の出生、性質溫厚眞摯の人物にして、早くより村治に献身し、村勢の發展に多々寄與して、現在區長代理衛生委員の要職にあり、孜々として努めて倦まず、その精勵を村民より齊しく讃へられてゐる。

氏は信仰の念極めて篤く、曹洞宗に歸依して、菩提寺に種々寄與する處がある。家庭は頗る圓滿、和氣霽々として樂しみに満てる樂をなしてゐる。氏は又趣味として釣を好んでゐる。

京田村西京田

區長 高橋 金兵衛

當家は村内の舊家として知られる本家高橋家より分家、一家を創立せるものにして、開祖以來、當主を以て四代目とする。

先代金兵衛氏は殊に村の發展に貢献する處尠からず、各種の公職に歴任してよく職責を果し、全村民より廣く信頼された人物であつた。

當主金兵衛氏は、その長男として明治七年の出生資性誠實眞摯にして責任の觀念頗る固く、さきに永年村収入役として村財政の確立に貢献した。信任厚く、現在區長に推されて勉勵、孜々として職務に努め、土地住民の崇敬を受けてゐる。氏は又信仰心深く、曹洞宗に歸依してゐる。

大泉村

區長 阿達又右衛門

當家祖先は文明二年寅年の開祖にして今日まで二十四代打ち續いてゐる。武藤家の郷士として村に重きをなしてゐた。

氏の實父又三郎氏は阿達又之丞幸守氏の三男にして分れて一家をなし、又右衛門氏を儲く。氏は明治二十年六月生る。舊家に育つて温順にして悠揚迫らず圓滿なる事春日の如き人格者として知らる。先代又三郎氏の區長の後を襲つて推薦されて就任、農會評議員を兼ね。釣に興味を持ち、自然に遊ぶを好み、曹洞宗を信ずる氏の人格はよく無ヶ敷農會の事業を圓滑にし、漸次實績を擧げつゝあるは人皆の觀る所である。阿達家は舊家として村民に敬仰されてゐるのみならず、代々の主またよく村民の爲に己を空しうして盡すを以て敬慕されてゐるのである。

榮村平田

區長 菅原五郎右衛門

當家は開祖以來九代打ち續く舊家にして深く曹洞宗に歸依す。代々農を業として村の農事改良、農家の向上に力を惜まず、歴代人格の士を輩出して村の有力家である。先代五郎右衛門氏は氏の實父にして、

村會議員、區長に歴任し、村民のよき相談相手として慕はれてゐた。當主五郎右衛門氏は明治三十六年二月十日誕生家名を襲ふと共に區長に選ばれ、村の繁榮のために寧日なし。

氏は家業を勵み、村政の宜しきに努むる他、殊更に事業、政黨等に關係せざるも、資性温厚にして着實、人に對して飽まで親切なる爲に村内に隱然たる勢力を持つてゐる。村民何か事あれば必ず氏の意見を聞く事を常とする。氏の言動は實に、村の暖き光りであると言つても決して過言ではない。村民の欣慕はそれを物語つてゐる。

大泉村上清水

上清水區長 加藤彌一郎

當家は元祿以前より連綿として續く舊家で、農家としての實を遺憾なくあけて來た歴代の當主を持つてゐるが、現當主加藤彌一郎氏は當年三十五歳の前途尙洋々として輝く村の闘士である。大泉尋常

高等小學校を卒業後ひたすら家業を生かして農事の改良向上に全力を挙げて來てゐるが、昭和十二年四月一日推されて同村の區長(戸數八十一戸)に當選した。

その人として至誠は常に正しきを正しとして、義勇奉公の精神を持ち、その何事にも熱心なること、温厚なること、既に村内の人望を擔つて將來の村政治の立役者として約束されてゐるが、氏の祖父故吉十郎氏も戸長を勤めた人、又故伯父氏も村會議員、學務委員を勤む。實父彌五右衛門氏は猶健在で、同村の消防組小頭を勤めて居り、その血を享け繼ぐ人として、彌一郎氏の今日あることは當然たるべきことで、ひたすら氏の今後の精進こそ村人は期待してゐる。

榮村湯野澤

方面委員 大川源治

當家の開祖は頗る古く、五百年の往昔に遡つて山緒深い家歴を有し、農を以て家業としてゐる、代々の人物よく家業に



家柄である。

嚴父源助氏は、殊に公德心深く、村會議員、區長等の要職に歴任して、數々の功業を樹て、廣く全村の尊敬を集めてゐる。

當主源治氏は、その長男として、明治三十六年一月二十八日の出生、性格誠實眞摯にして、恭順謙遜の態度厚く、又公共犠牲の念に富み、早くより村内の福祉發展に努めて、衆望頗る大きなものがある。又至公至正の人物として信頼厚く、方面委員に任ぜられて、村内の貧窮除去に盡瘁し、學務委員に擧げられては、よくその職務に勉勵してゐる他、區長として、土地の開発に努める處少くない。氏は壯齡未だ三十六歳、村の將來を双

勵み、又土地の政治に種々貢献して、厚く村民の信望を受けてゐる

榮村湯野澤

勳入等 大川伊三郎



當家は土地の舊家にして、開祖以來數代、農を以て專業として、代々の人よく家業に努め、又村政に多々貢献して、廣く全村より尊敬を受けてゐる。

先代定治氏は殊に公共的精神に富み、村の發展福祉に多々盡瘁して、種々の功業を残してゐる。

當主伊三郎氏は、明治十六年三月二十日の出生、もと郡内東郷村の人であつたが、先代定治氏に望まれて、當家に養嗣子として入籍し、よく養父に孝養を盡して、村内の範とされてゐる人物である。資性温厚なれども、内に剛毅の心を潜め、

志操頗る固く、村民の信望極めて厚い。さきに日露戦役に際して名譽ある召集を受け、勇躍出征して燦たる武勳を樹て、凱旋のち、勳八等を授けられた士である。

夷敵を征した勇武の氏は、郷にあつては公德心頗る深く、ことさらに表面に立つことは少いが、村治に献身盡瘁して、人望極めて厚いものがある。現在すべての公職より隠退してゐるが、村の顧問格として仰がれてゐる。

大山町

來蘇堂 栗本醫院

電話 大山一五番

當家は土地の舊家として家歴古く、開祖以來當主に至るまで、十八代に及んでゐる。その第三代目より醫術を以て生業とし、爾來連綿仁を意として病魔の治癒に當り、土地住民の信望極めて厚い。

當主安雄氏は明治二十九年二月十五日の生誕、幼時より聰明の萌しあり、鶴岡中學を好成績にて卒業後に慶應大學醫學



栗本安雄 主院

部に學び、深く研鑽を積んで卒業のち歸郷して家業を繼ぎ、爾來孜孜として業務に精勵、よ

く今日の發展を招來してゐる。當院は、内科及び小兒科を専門とし、従業員すべて四名、入院設備あり、近くの湯濱温泉に毎日出張してゐる。

院長安雄氏は、町内の信任を受けて、大山小學校醫、大山青年學校醫等を勤め精勵努力、よく町内の青少年の健康保全に多大の献身をしてゐる他、町消防組合醫の重職に就いて、愈々名國手としての譽れが高い。

氏の令夫人は貞淑の人として知られ、間に子供四人あり、平和な團圓をなしてゐる。

氏は又趣味として、テニス、ランニング等の運動を好んでゐる。

加茂町加茂

實業家 尾形六郎兵衛

電話 加茂六番・八番

當家は創家以來代々六郎兵衛氏を襲名現主を以て六代目となす、四代が當家中興の人物であつた。當家は以前酒井藩の御用商にて舟を有し、旺んに活躍、莊内地方の住民間に信望高い一家である。

先代六郎兵衛氏の四男として、當主は明治卅四年五月廿九日此の世に生をうけた。氏は天性剛毅果斷にて、自己の信念に邁進する積極的活動性を有してゐる。

鶴岡中學卒業後は實業界に乗出し、終始一貫、社會の共存共榮を理想として活躍、氏の性格は如何なる苦難にもひるまず、終に今日三十八歳の若さを以て、有望なる青年實業家として、信任されるに至つた。現在氏は鶴岡米穀取引所理事、莊内北洋水産販賣會社社長たるの外、尾形商事株式會社社長、樺太共同魚業株式會社監査役、莊内遠洋魚業組合長等の要職に推されて兼任、その卓越の手腕、力

量、識見を具し、赫々の名聲は、今や氏の上に灼然としてゐる。

氏の献身的努力は、關係事業各方面に歴然たる足跡を残し、當町發展の一助はまことに我が尾形六郎兵衛氏の力であつたといふも過言ではない。今後、益々當町の圓滿發展を氏の双肩に希望するは、全町の期待であり、囑望する處である。

家族は七名、豪放なる氏の氣風を反映して、健全明朗なる一家を營んでゐるは氏の家庭人としてのよき人格を現はすものである。

田川村田川

天理教山名大
教會東教會
酒田宣教師長

上野兵藏

當家は代々農業に精勵して、夙に篤農家として聞えた家柄であり、氏は、明治四年三月二十四日に生る。

初め、家業を継ぎしよ、運輸業を創始して、之が成功に努力し、自動車を以て當地方の特産物たる材木、木炭及び薪等の運輸に従事してゐるが、明治三十一年

七月十三日に至つて、天理教の信徒となつた。

氏は生來、非常な熱情家であり、穎悟にして洽聞強識の人物で、その態度は、敬虔そのものである。天理教に入信してよりは、熱心に研鑽を積んで、蘊奥を究めしたため、天理教山形縣教友會第八支會長、山形縣教友會地方委員、天理教事務局委員、山形縣事務局委員、よのもと會山形縣地方委員等の要職を歴任し、その間宣教に當つては、その博識と、冷靜な態度より成る、人格の崇高さに打たれて、入信する者が殖え、絶大なる名聲を博した。爲に現在では天理教山名大教會東支教會酒田宣教師長の要職に就任してゐる。

又田川村振興會顧問として、農村の繁榮に盡力せし功績顯著なるものあるため、昭和四年には、山形縣方面委員の顯職に就任した。昭和十年に退職するまで、氏の貢献するところ頗る甚大なるものがある。

榮村

篤農家 佐藤丹造

氏は明治二十五年二月に、嚴父圓造氏の男として生る。當家はその開祖を慶長年間に發し、當村屈指の舊家にして、代々農業に従事せる家で、その村内に及ぼせる功績も多大なるものがある。

嚴父圓造氏は篤農家として、村内に鳴らした人で、資性寛裕温恕にして、純真朴訥、情愛の深い性格の持主であつた。研鑽刻苦して家業に勵み、年々家業を盛大にし、仲々の資産家でもあり、村民より親しまれて、區長に推擧され、よく村民の言を聴取して、村治に顯著なる功績の數々を残せし人であつた。

氏は郷土の小學校卒業後は、父君の嚴格なる薰育を受けて成長し、父君を助けて家業に勵める人で、父君の明敏なる頭腦と豊富なる體驗を受け継ぎ、農事にも幾多の改良を加へて優秀なる成績をあげ、村民の間に範を垂れてゐる。

仁慈に富める氏は、村民の爲には熱心に努力してをり、村民に深く親まれてをり、曹洞宗の深き信仰者として知られてゐる。

上郷村

篤農家 齋藤藤治郎

當家は約二百年、八代にわたり家統を受け継ぎ、代々農を以て業として來た。先代藤治郎氏は家業に精進し、篤農家として令名あつたが、また村治にも意を注ぎ區長として、また耕地整理委員として隣保共助の美風を基調とする村民生活風習の改善向上、村民の福祉増進に貢献裨益すると共に、灌排水施設の完備に盡瘁し、災害や地味の枯渴豫防等に頗る顯著な功績を残した名望家であつた。

先代藤治郎氏の後繼者として明治三十五年に生を享けた當主藤治郎氏は資性明朗其言語明晰にして力あり、村青年中の雄辯家として知られてゐる。家名を受け継ぎ七名の家族と一名の使用人を率ゐる

加茂町

山形縣水族館

當水族館は羽越線、日本海岸加茂港、荒崎の勝景の地に在り、昭和五年八月工費約三萬二千圓を以て竣工したる鐵筋コンクリートの二階建近代的構造を誇る吾

國でも、獨特の新味を持つてゐるものである。其構内一千餘坪、ガラス張魚槽大中小併せて十九個、外に丸形及角形の大水槽三個にして、鹹水及淡水の魚貝凡て二百餘種にバツクはいつでも海底河底其儘の實景を現してゐるから、魚公の蕃殖状態、游泳の實況等趣味の教育として、其興味頗る多きものがある。館内には陳列賣店が設けられ、海の名産、おみやげ物、食料品等を販賣し觀覽者の便宜を計つてゐる外、食堂、休憩室、娛樂室等の諸設備を完了して觀覽者は全く楽しく過し得て不便がない。また水族館見物の記念に寫眞部の設備もあり好個の想ひ出を迅速に撮影してゐる。開館日時は毎年四月一日より十一月末日迄、毎日日出の頃より日没の頃までであるが、八月は特に夜間開館をなし、夜の海底の美しさをのばしめる外、當水族館の裏磯に海水浴場を設備して一層の興をまさしめてゐる。入場料は大人一人二十錢にして小人一人十錢、團體には特に割引の制度がある。

當水族館より電車及バス連絡で約五分途中の爽快なる風光を愛でつゝ、東北地方に知られたる湯野濱温泉に至る。各旅館共に設備完了し、遊客の待遇また極めて懇切、而かも宿泊料の低廉なるを以て遊客に悠々湯野濱温泉の醍醐味を満喫せしめる。

水族館館主 阿部松五郎

氏は先代與十郎氏の長男、山形縣水族館主たると共に湯野濱温泉組合長を兼ねてゐる。水族館を経営し文化事業に貢献せる功績は多大なものがあるが、また當地方の繁榮隆盛を見るに至れるは氏の機を見るに敏にして、事業經營の才能に秀れたる手腕に依るものである。

湯海村

湯海温泉

春は湯海嶽の秀麗、全山の新緑に點綴する山櫻、つゝじ、秋はあつみ川の清流



新野助藤氏

名物炬燵と四季とにどりに楽しさの溢れる湯海温泉は



齋藤長兵衛氏

日に七色も色が變ると云はれる湯海温泉は、硫黄性鹽

類泉で温度攝氏五十度乃至七十度多量のラヂウムエマナチオンを含有し、皮膚病、關節炎、婦人病、花柳病、腺病、外傷、胃腸病等に頗る適確な効果がある。旅館を中心とした新興協會が組織せられ、湯海温泉を繁榮發展せしめ、一層遊客の旅情を慰むることに努めてゐる。

新興協會長

新野藤助

氏は協會長たる外、町會議員、學務委員、區長を兼ね湯海温泉の繁榮發展のために寧日なく盡瘁して頗る功績あり各方面から異常の信望を擔つてゐる。明朗潤達にして、敏腕家を以てきこえてゐる。

旅館組合長

齋藤長兵衛

濃厚篤實にして、ただ湯海温泉の向上

發展のみに専念、十年一日の如く盡力し來つた功勞者にして、當地の有力者たる氏は旅館組合長たる外、當新興協會副會長を兼ねてゐる。

湯野濱温泉

龜屋ホテル

當温泉は、縣下唯一の海邊にある温泉として名高く、鶴岡市外にあり、鶴岡驛より電車の便があつて約二十分の距離である。氣候は頗る温暖、嚴冬に於ても積雪數日にして消え、東北地方に稀らしき處と知られてゐる。亦、近海より魚獲多く常に新鮮なる魚を客膳に供して頗る喜ばれてゐる。東北の別府と稱され、田山花袋の紀行文にも、日本屈指の佳境として推稱されてゐる。

附近は景勝頗る佳く、名所に富み、殊に海水浴場は、海岸一帯白砂の理想境をなして、夏期來遊の客が多く、善寶寺は故有栖川宮殿下御祈願の寺として聞え、加茂港が近く、そこに在る水族館は本邦

に於ける模範的なものとされてゐる。尙七寶原はよき散策地である。

龜屋ホテルは、當温泉内でも隨一の大旅館として知られ、部屋數百十二室を有し、諸設備よく整ひ、従業員七十五名の多きを數へて、繁榮を極めてゐる。主人阿部松五郎氏は誠實眞摯の人格者にして當町發展に多々貢献し、町會議員、當温泉組合長、山形縣温泉組合長、郡會議員等を歴任して、よく政治に盡瘁せるを全町内より感謝され、深く崇敬を集めてゐる。

榮村

篤農家 菅原宇之吉

當家の開祖は慶長年間の人にして、代々要職に就任し、村治には幾多の功績を残せし家柄にして、篤農家たる名譽を擔ふ家である。

氏は嚴父五右衛門氏の男として生れ、現在七十二歳の高齡を以て、尙壯健であり矍鑠として、後進の指導に當つてをり

本田部落に於ける顧問格として重きをなし、村民の尊敬を一身に集めてゐる。

稟性篤實謹慤にして、剛健勇武の人であり、知己に對する情誼に厚く、氣宇瀾達にして、潔白なる人柄は、村内稀にみる人格者である。従つて區長に推舉され農會議員に歴任し、其間、村民の爲に鞠躬盡瘁せる爲、太く村民の感謝するところとなる。

其後村會議員となるや、氏は熱烈なる氣概を以て、時代に則して種々の改革をなさんとし、村會に於て熱心に活躍す。氏は佛教に深く歸依してゐる篤信家で、曹洞宗を信奉してをり、趣味として農事を擧げる等、氏の面目躍如たるものがある。氏は農事に従事することに限りなき樂しみを見出し、耕地に立つ時、常に生き甲斐を感じることを誇つてゐる。誠に氏の存在こそは當村の名譽である。

榮村

篤農家 小南彌五郎

當家は代々篤農家として、村内に知られ、開祖は遠く慶長年間に當る舊家に於て、代々農業を営みて今日に至りし家柄である。

氏は明治九年十二月十四日に生れし、嚴父彌五兵衛氏の男である。幼時より孜孜として勵める努力家にして、不言實行を旨とし、早くより嚴父を助けて熱心に農業に従事せる人で、激しい氣性を持つた廉直なる人である。

私利に恬淡な見るからに人格者らしい風格は村民に多大の信頼を寄せられ、區長代理に推擧され、此頃より氏の村治に對する關心は急ピツチで増加し、熱心に村民の生活の充實、村民の開發に意を注ぎ、東奔西走して、赫々たる功績を擧げてゐる。

氏は嘗て消防小頭たることあり、消防關係に於ける功績は、村内に於いては氏の右に出づるものがないと云はれる。

曹洞宗を信奉して信仰心深く、住職と相交厚くして、村内に奇特な人として、

畏敬されてゐる。

西郷村

龍澤山善寶寺

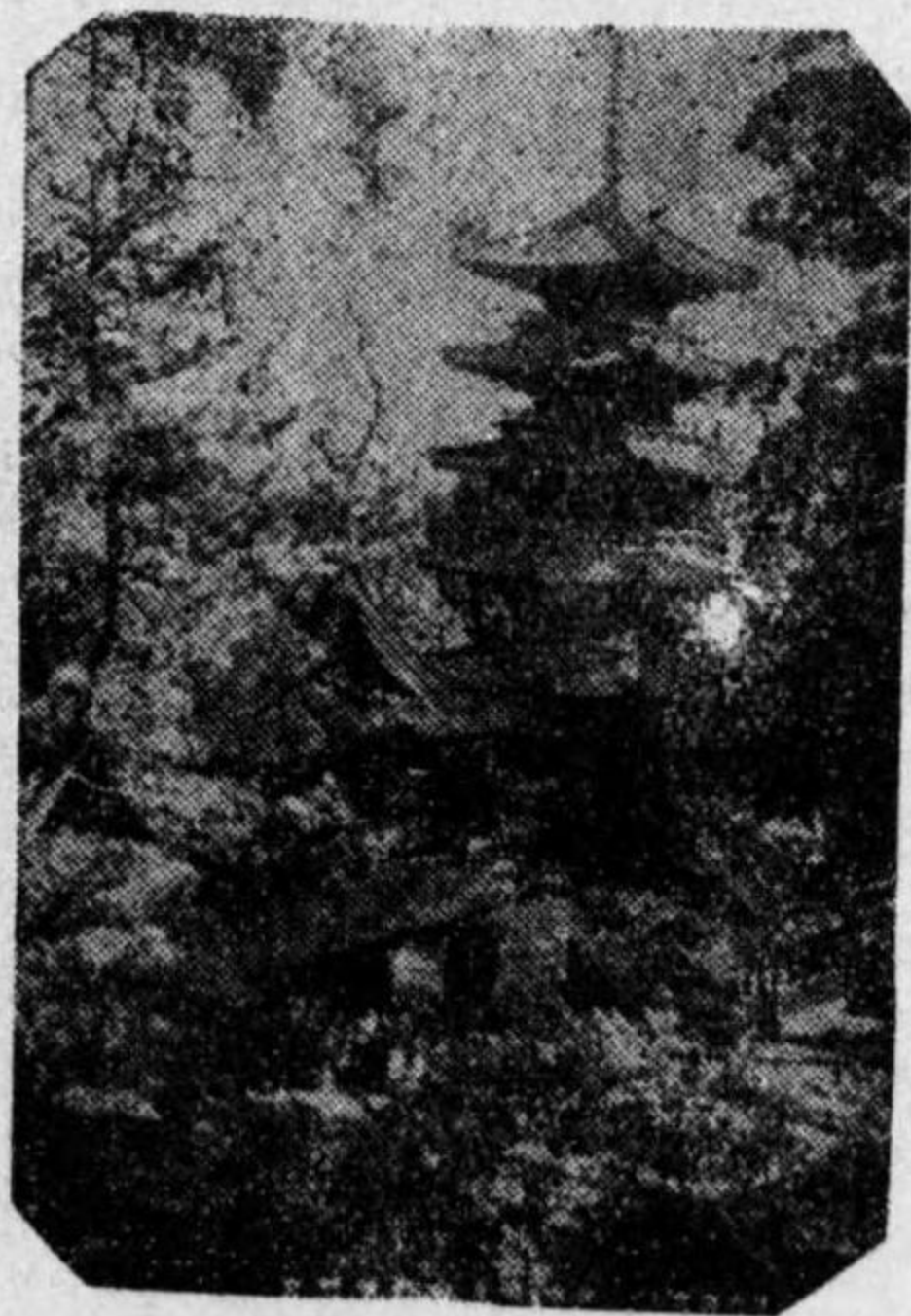
龍澤山の守護、龍宮兩大龍王尊出現して茲に千年の春秋を経ぬ。その由來は千年の古往、二龍出現のことに初まる。佛



祖の法身今に在して靈驗あらたか靈山の法燈赫灼として今日に及ぶ。當山は巖山紹碩禪師を以て崇敬開山とし、太年淨椿禪師を以て傳燈開祖とし、更に龍王殿を創建、龍道龍王、戒道龍女の二尊を請して晨昏に之を祀る。

第二十六世大雲老師の代に、有栖川宮

特旨を以て御紋付紫御幕二張並に御挑燈等を寄贈され、文化二年には善寶寺と親書せる額を賜ひ、明治十五年には龍王殿の額を賜ひ、長く御祈願所とお定めになつた。



本堂及び庫裡衆寮は、約二百年前第二十世應傳大和尚の時の建立になり、彌勒堂は第二十三世喝禪大和尚の創立、龍王殿は第二十九世中興大和尚再建し、五百羅漢は第三十一世觀了老師及第三十二世不傳大和尚に依り建立されたものである。同じく總門も不傳老師に、山門は第三十三世禪山老師の再建、又五重大塔

も師に依つたものであるが、其の後棟梁山本佐兵衛氏精魂をつくし、淨財を投ずること十餘萬圓、遂に莊嚴なる大塔の出現を見たのである。

大山町西町

鎮護山專念寺

當寺の本尊は阿彌陀如來で、淨土宗に屬する古刹である。開山は叡善上人にして、昔時京都大本山百萬遍知恩寺第二十

九代目の住持たりしが、人皇百六代正親町天皇の勅命により、元祖大師直きく御開眼の肖像及び大師肉附の御舍利並に恩賜の御衣御綸旨等を奉じて、邪徒退治の爲、關東、東北を巡化し、到る所法益を蒙らしめ、特に尾浦の城主武藤出羽

の太守義氏公の特請により、大山に來錫し、鎮護國家の大道場を創建し、大いに地方民衆を勸化された。天正三年十月に宮中に佛事行はれるため、綸旨を以て、還召せられたが、羅病され、遂に當寺に止まりしものである。

當寺の寺格は小本山で、等級は別格二寶物には、勢觀坊源智上人の作になる元祖大師法然上人の御木像の外、元祖肉附の御舍利、正親町天皇恩賜の御衣、並に、聖德太子御作と傳へられ且武藤家の守護佛である黒本尊阿彌陀如來がある。

現住職は二十八世大澤和南氏で、氏は明治五年に生れ、米澤市の出身である。學德兼備の端正な風格の持主で、村民の敬服も偉大なるものがある。

溫海町

溫泉山長徳寺

當山は曹洞宗派に屬し、其開山は數百年前なるも記録の傳へる處なく詳にし

ないが、元祿十五年十一月三日に仁室元堯と稱する、徳僧 記録の傳ふるを見れば、其開山の舊きこと窺ふ事ができる。開山當初は天臺宗派に屬したるも現在は曹洞宗派に屬することになつた。當山の末寺に大山町正法寺がある。廣大な七堂迦藍並び立ち老杉鬱然として繁茂し、幽邃の感を懐かしむるものがある。寺寶として傳ふるもの數點あり、また世に名高き孝子慶王の碑境内に在る。行事としては毎年一月三日に大法要あり、近村の善男善女の參詣するもの頗る多く、其雑踏甚し。檀徒は湯溫泉一般にわたり百五十餘戸に及んでゐる。

住職

和島泰順

高邁なる學識、有徳重厚の人格を以て檀徒の信仰頗る篤い師は、

また縣方面委員に任じ、社會事業に従來顯著な功績を残して來たが、日支ト變勃發するや銃後軍事援護に東奔西走、以て武運長久、皇軍の勝利を夙夜祈願して頗る熱烈なものがある。

東村山郡

本郡は縣の東部に位し、東は宮城縣柴田郡、隣り、西は最上川及び山地を以て西村山郡につづき、南は南村山郡と交はり、北は北村山郡と境する。廣袤東西七里十六町、南北三里餘、面積二〇・九七六方里あり、地勢は、東部宮城縣境及び西部西村山郡界に於て山岳多く、中央は所謂村山平野の中心を占め、就中最上川須川、馬見ヶ崎川流域の地は、丘陵高低の起伏あるも、概ね平坦にして沃野拓け土地高燥にして地味豊沃である。

較的良好である。

農業及び養蠶業は生業の主なるもので製糸、機業、工藝細工品、醸造等の工業物もまた莫大である。その外農産に屬する果樹の栽培も盛んにして、林産物、畜産、水産物も少くない。

社寺名勝舊蹟の主なるものには天童城址、縣社建勳神社、同愛宕神社、寶珠山立石寺、觀月庵、佛向寺等がある。

長崎町

天童町

本町は舊幕時代には長崎村、達磨寺村向新田村の三ヶ村に分れてゐたが、明治二十二年町村制實施の際、合併して最上村とし、同三十年九月長崎町と改稱し今日に至つた。東西一里十町、南北一里十七町、面積〇・八五八方里あり八町役場は大字長崎に置く。戸數千百戸、人口七千餘人を算し、職業別に見ると農業最も多く、商業・工業がこれに次ぐ。

小學校は一校、學級尋常科二十四、高等科六に分れ、兒童千五百人、これを三十三人の教員が指導してゐる。産業組合町農會のほか、農事改良、養蠶各實行組合、養鶏、農馬、養豚、耕牛、綿羊の各組合あり、その他の公益團體には隣保協會、戸主會、軍人分會、衛生組合、消防組等がある。神社は十、寺院は八を有し、郷社八坂神社は文明年間の創立、健速素盞鳴尊を祭神とし、疫病の治癒に靈驗ありといはれる。

交通は、鐵道奥羽線が國道に沿うて山形市より來り北村山郡神町驛に至る間、漆山、天童等の諸驛を置き、また山形市より西村山郡左澤町、白岩町等に通ずる鐵路は縣道に平行して郡の西部を貫き、山邊、長崎の驛を置く。道路も國道縣道より分岐する支線は、郡内樞要を連絡しまた輕便鐵道仙北線あり、交通の便は比

本町は舊幕時代には長崎村、達磨寺村向新田村の三ヶ村に分れてゐたが、明治二十二年町村制實施の際、合併して最上村とし、同三十年九月長崎町と改稱し今日に至つた。東西一里十町、南北一里十七町、面積〇・八五八方里あり八町役場は大字長崎に置く。戸數千百戸、人口七千餘人を算し、職業別に見ると農業最も

天童氏の城下町として發達した當町は戸數一四一五戸、人口一八九〇人を有し、男三千八百五十人に對し、女八千五百人といふ以上を數を示してゐる。製糸が盛んで、機械製糸だけでも年約三十萬圓を産する状態にあり、また將棋駒は當村の特産にして、天童駒の名は全國的に有名である。その他米、繭、鯉、大小

豆、麥を主産物とする。

町には町農會、郡農會、耕地整理組合、軍人分會、青年團、産業組合等の團體、區裁判所出張所、郵便局、町役場、警察署實科高女、小學校の官公衛學校がある。名勝舊蹟も多く、縣社建勳神社、同愛宕神社、招魂社、吉田守隆碑及び觀月庵佛向寺、村社熊野神社、天童温泉、天童城址、天童藩城址等は主なるもので、天童温泉は明治四十四年七月に初めて噴出し、鑿泉にして、天童驛より自動車その他交通の便がよい。

大寺村

本村は山邊町の西に接し、西部は山地にして東部は平地をなし、縣下有數の梨の産地として著はれる。

大寺、北垣、杉下の三大字を合せて成り、面積八・八方軒、戸數約三百二十、人口二千餘の小村ではあるが、自治に産業に教育に見るべき成績を挙げ、平和な優良村とされてゐる。

大郷村

耕地は田百二十餘町歩、畑九十餘町歩にして、農産年額約七萬圓、うち五百萬が米である。副業では養蠶が主に行はれ年收繭高四萬圓に達する。村に安國寺あり、夢窓國師の開基にて足利氏が邦内六十餘國に一國一ヶ寺宛建立した時の一である。この他寺院には天臺宗常照寺、同龍藏寺、曹洞宗正福寺、同世尊庵がある。

ほり、その他菓製品、木製品あり、養鶏も盛んである。氣候は比較的高温にして降雨多く、冬季は寒氣酷烈にして降雪が多い。道路は大字中野を中樞として扇狀に發達する。農事改良組合(一〇)養蠶組合(一〇)牛馬組合(二)養鶏組合、有畜農業實行組合、養兔組合(三)、村農會、産業組合等が組織される。

出羽村

本村は東村山郡の中央に位し、南は山形市及び金井村、西は山邊町並に大寺村西北は長崎町、東及び北は白川を隔て、千歳・出羽・明治の三村に隣接する。東西四・一軒、南北四軒にして、面積九・二方軒である。中野、船町、成安、見崎今塚の五大字より成り、地勢は須川、白川の沖積地にして、土地平坦、頗る豊饒耕地は總面積の六割餘を占める。九百戸五千八百人が擧つて農蠶業に従事し、米の年産一萬五千餘石、繭二萬八千貫に

本村は山形市及び天童町の中間に位置する農村にして、漆山、七浦、千手堂の三大字を有し、面積六・八方軒、人口三千五百有餘人である。大正十三年、大火災に遭ひ、鋭意復興に盡力して併舊の村勢を示すに至り、殊に村農會は優良の故を以て選奨された。

大字漆山の出張陣屋は、弘化三年より館林藩秋元氏の支配となり明治維新に及んだ。漆山館は最上氏三代修理大夫満直の三男右馬頭満頼の住居した跡である。天臺宗吉祥院の本尊千手觀世音は國寶に

大字漆山の出張陣屋は、弘化三年より館林藩秋元氏の支配となり明治維新に及んだ。漆山館は最上氏三代修理大夫満直の三男右馬頭満頼の住居した跡である。天臺宗吉祥院の本尊千手觀世音は國寶に

指定されてゐる。同寺は天正年間の開基にして、寺内に義經の子胤若の墳墓がある。日月輪古碑及び衛守塚は共に史蹟の指定をうけてゐる。

奥羽本線漆山驛は村の中央にあり、また縣道を通じて天童町及び山形市へはバスが往復する。

千歳村

郡の南部に位し、東は楯山、鈴川の兩村に接し、西は大寺村に、北は出羽村に、南は山形市に接する。奥羽街道の要害にあたり、山形平野の中央を劃し、地味肥沃である。馬見ヶ崎川は村内を貫流して耕地を灌漑し、穀類、野菜、果樹の栽培に適する。

村は長町、落合の二大字より成り、住民は農業を主とし、商工業がこれに亞ぎ村役場は大字長町にあり、小學校は高等科併置校一、巡査駐在所、郵便局あり。電話も架設されてゐる。

明治維新前、長町は山形水野領、落合

は土合領であつた。神社に熊野神社ほか村社三社あり、寺院は稱念寺、泉福寺の二ヶ寺を有し、舊蹟には慶長年間最上義光が落合伯耆守をして築かしたといふ落合城址がある。

鈴川村

本村は山形市の東北に接し、東部は丘陵をなし山林原野多く、西部は平坦にして市に接する部分は小市街をなす。上山家、印役、雙月、下山家、高原等の大字を有し、面積一〇方料、人口六千四百をかぞへる。

村に佛母山金勝寺あり、最上氏の舊廟所にて、元祖兼頼朝臣の嫡男直家が、應承年中に開基せるもの。最上直家の墓及び同満直の墓は共に史蹟として指定されてゐる。また名勝には盆山、國司塚あり社寺に郷社神明神社、深澤不動、長松寺寶徳寺、無量庵龍泰寺がある。

鈴川とはもと山家の溪の名であつたのを村名にしたもので、養鶏の盛んなこと

他を壓し、縣下屈指の模範的養鶏場は本村にある。山形市に接するが故に交通の便良好である。

藏王高湯温泉

山形驛から東南一六軒、乗合自動車五〇分のところにある。

靈峰藏王山の山麓にあり。海拔九〇〇米、東に三寶荒神熊野嶽、刈田嶽北に烏用の峰をめぐらし、西の一方のみ山形平野に展けてゐる。

土地高燥、空氣清淨、水清く、酷暑の候といへども八〇度を超ゆることなく、避暑に絶好の土地である。

天童温泉

この温泉は、奥羽本線天童驛より東へ八〇〇米のところであり、乗合自動車で三分かゝる。

當温泉は慢性リウマチス、慢性神経痛、婦人病などに素晴らしい効能がある。

天童町

天童町役場

天童は往古村山と稱せしが、平安朝時代村山は郡名に改めらる。天童と稱せし年代詳か。らず。室町時代應永七年斯波頼直成生莊より移城し來り天童氏を稱す歴史を閲する幾變遷、近接せる北目、老の森、久野村は天童と共に領主代り或は廢され明治維新に至る。縣政布かれて天童を町として、北目、老野森、久野本は村として夫々獨立、後二十二年町村制の施行と共に一町三ヶ村を合して天童町と總稱す。

町の面積八百六十二町餘、地目田、三百六十六町餘、畑、三百五十六町餘、宅地十八萬四千六百坪餘、山林四十三町歩餘、その他八町餘である。

現在戸數千四百十五戸、人口七千七百九十七名、内男三千八百五十、女三千九百四十七名である。職業種類別に見れば商、工業、農業、自由業、交通業、そ

の他有業、無職業等の順にて商工業の小都市たる事が肯かれる。

作付反別は小作農地壓倒的多数にして主要産物米二十萬八千三百圓餘、繭一萬二千二十圓餘、鯉三千圓餘、機械製糸二十七萬五千七百八十七圓餘、大豆三千八百七十五圓、麥六千六百六十一圓餘、將棋駒三萬八千二百圓餘である。産業團體として天童町農會、愛宕沼耕地整理組合、天童信用購買販賣利用組合(天童農業倉庫)、天童信用購買利用組合、天童將棋駒信用購買販賣利用組合等があり、尙産業啓發指導團體として東村山郡農會がある。當事者教育に心を用ひ、小學校一、天童實科高等女學校、天童青年學校あり、また私立圖書館を設け勉學の資に供す。和漢洋書千五百五十二冊を蔵し閱覽人員延數千六百十五名を數へる。

淨水、下水略整ひ、傳染病罹病率少きは以て多とすべく、町の安寧秩序警備は警察署を以てす。

社會事業殊の他完備し、救護法による、

救護施設、公益質屋、職業紹介所等の設けありて一般民衆の利便に供す。

町會樞軸は町長一、助役二、收入役一、書記九、町會議員十八名を以て構成す。名所舊蹟多く、織田信長を祀る縣社建勳神社あり天童城山に聳え、其他社寺、天童城址あり、尙天童温泉、温泉として名あり、觀光、浴客の徒にて賑はふ。

大寺村

大寺村信用購買販賣組合

當組合は明治四十五年の設立に係り、



高橋久四郎氏

大寺村全村を其區域とするもの、其組織内容成績を紹介すれば、組合員數二四〇名(一口十五圓)にして、組合理事は四名、現組合長は高橋久四郎氏、第四代目の組合長に當

る。貸付総額は七四、〇〇〇圓に達し、販賣価格は三、五〇〇圓、利用料は六月三十日現在四六〇圓に達してゐる。又其他當組合は共同作業場を經營して組合員の作業能率増進に資してゐるが、明治四十五年設立以來當組合の村産業經濟に貢献せる處は甚大にして漸次組合員を増して今日の隆盛を致し、其村經濟に於ける重要性は著しく重きを加へるに至つた。

當組合の四代目現組合長たる高橋久四郎氏は、かつて収入役、村會議員等の公職に在り、村政に盡力して幾多の功績を残せし先代久四郎氏の長男にして、明治二十七年の出生、資性質實温厚、沈着緻密なる勤勉家にして、時勢の變遷に敏なる練達の士である。かつて消防組頭を二期、信用組合理事、衛生組合長を歴任、愈々當村に於ける功勞者として信望を擔ひ、推されて、現に信用組合長たる村會議員たること二十餘年、學務委員を兼ね村民の福祉増進、村政の向上發展に對する顯著なる功績は幾多の表彰をうけ、長

期聖戰下の銃後農村に、要する意義を有つ信用組合長としての氏の活躍を期待せしむるものである。

因みに高橋家は村屈指の舊家にして連綿繼承すること十代にして當主に至るも、長男富一郎氏は山形縣師範在學中の秀才の譽れ高き青年である。

長崎町

縣會議員 石澤 博

當家は新に分家として創立せられて三代、代々酒造業を營み、土地屈指の素封家として聞えてゐる。

先代博氏は町會議員にして、郡會議員にも選ばれ、郡參事會、郡會議長を勤めたる地方政界の元老として畏敬せられた人、其地方自治、産業に貢献寄與せる處甚大にして枚擧の煩に堪へず、絶大の信望を擔ふと共に、家業に精進し幾多酒造に關し新機軸を出し、醸造する處の芳酒好評噴々として販路を遠く開拓し家運を隆盛ならしめた。

當主博氏また先代博氏の後を繼ぎ縣の民政黨重鎮にして縣會議員たり、また町

會議員學務委員消防組頭等の要職を兼ね資性沈着温厚にして識見高邁、時勢の變遷に先んずる明敏と機に應ずる柔軟性ある手腕を持ち、公共精神に燃えた熱情家にて精力家である。多年に亘る災害と經濟的不況の爲め疲弊困憊せる本縣農村の經濟的更生に、東北六縣經濟更生の國策の線に沿ひ、其抱負經綸を傾けて至誠誠私一身を抛打つて東奔西走、刻苦奮闘しつゝある氏は、また町會議員として町治産業の向上發展を通、町民の福祉増進に寧日なく盡瘁し頗る顯著なる功績を残しつゝある氏は、これまでに其功績に對し表彰せられること數次に及び近き將來に於て國會にも打つて出づべき政治家として益々信望を加へると共に、確固たる地盤を築いてゐる。

因に氏は、曹洞宗のあつき歸依者にて家庭又洽歡和し清朗なる一家を營んでゐる。

出羽村

村會議員 大内 仁右衛門



當家は分家以來既に十一代連綿と續いた舊家柄にして、先代仁右衛門氏は、村政今日の基礎をなした人物

にて全村より自治功勞者として信望され其の職務は村助役、村會議員、學務委員部並總代等各方面に亘り又業績枚舉に遑なき有であつた。今も氏の名聲は村民間に響いてゐる。

當主はその男として明治二十八年に生れ、本年四十四歳、錚々たる紳士である氏も父君と同様、農村更生と振興を目指して、特に困難なる現時局下農村の状態を熟考、全村一致團結して事に當るを念願としてゐる。氏は村の公職に就いては曩に、消防部

長、部落青年會長等の要職を勤績し、各方面に於て卓越の手腕を振ひ、又専心の努力は種々の功績を擧げて來た。そのみならず、現在は村會議員に推され、その他農會總代、部落副總代等の職にありて、旺んに活躍中である。

未だ四十四歳の澹刺たる氏は、今後の活動こそ期待、囑望されるところにて、氏の存在は、當村の發展上に重要な位置を示してゐる。

尙政黨的には、氏は嚴正中立を奉じ、明朗農村の出現に努力してゐる。

家族は、夫人は愛國、國防兩婦人會員として、農村婦人團體の爲に大いに氣を吐き、長男見三君は、目下中學二年生、頭腦明晰にて將來有爲の令息として知られてゐる。

千歳村

村會議員 片山 清七

消防組頭として其深き蘊蓄と多年の體験に基ける、卓越せる敏腕を以て消防事



業の機具の完備、組織機構の充實を計り今日の整然たる村消防組を

統率し村民の生活及資産を磐石の泰きに置く氏は、千歳村外三ヶ村傳染病組合評議員として、村民生活の安寧確保に多大の功績を有してゐる。また信用組合理事として村經濟に貢献裨益せる處甚大である氏は、部落副總代として隣保共助の美風に基き部落民生活習慣の改良向上に寧日なく盡力する等、公共公益のために至誠滅私、専心献身的に活動する處絶大なる衆望を擔ひ、推されて村會議員にも就任して村政に參畫することとなり當村の重鎮として動かすべからざる氏の地位を築きつゝある。

氏はかつて消防副組頭、農村評議員、郡農會豫備議員、家屋調査員等に歴任しても頗る顯著なる功績を残して來たもの

である。

明治二十五年十月、先代清九郎氏の長男として當家七代目の後繼者たるべく生を受けた氏は、溫和なる一面負けし魂の強い人一倍の努力家にして、烈々たる正義感に燃えた熱情家、その高邁なる人格は人の推賞するは、又厚く時宗を信仰して其信仰心堅固たるを以て知られて居り檀家總代である。

其家庭は頗る圓滿なるは、近隣の羨望する處にして二男三女を恵れた子福者である。

因に、先代清九郎氏も村會議員を始め幾多の公職に在り村政に關與し多大なる功績を残せし村自治の功勞者にして、衆望篤き人であつた。

鈴川村

村會議員 仁藤 瀧三

溫厚にして活動的、高邁なる精神の持主として村會議員中の逸材たる氏は、眞面目なる力行家にして政治的には厳正中

立、専ら社會正義に基いて行動する不偏不黨の雅量有する、明快にして整然たる論議を以て村會に於ける雄辯家として知られてゐる

三百餘年連綿繼承せる由緒久しき土地屈指の舊家たる當家は、篤農家として名聲あり、村産業に貢献裨益せる功績甚大なるを以て人望極めて厚かりし先代多吉氏の長男として、氏は明治二十七年一月十三日に生を受けた。後現役兵として軍務に服して、歩兵一等兵である。氏は、現に村會議員たる外、農會總代、部落副總代、衛生支部長、養蠶實行組合長、農事實行組合長、農會評議員等の諸公職を兼任し村政の向上發展に夙夜盡瘁してゐるのであるが、就中村生産機構の重要地位を占める氏は、長期聖戰から長期建設への銑後農村の生産力の充實發展、聖戰繼續負擔力の増進を勞力並びに物資の總動員下に遂行すべき農村指導者として寢食を忘れて盡力してゐるのであるが、多年に亘り氏の此方面に残せし顯著なる功

績は氏の活躍の成果を保證するもの、全村の氏に對する待望は多大なるものがある氏がかつて納税に關し表彰せられたことがあつた。曹洞宗の歸依者にして、其家庭は春風胎蕩、頗る圓滿にして四男一女を恵れし子福者である。

長崎町

町會議員 渡利 彦市



渡利家は土地屈指の由緒久しき舊家に於て、其家柄の明かなるものを以てしても六百餘年に溯り得るを見ても、其創家の舊きを推察せられる。

先代彦市氏は當年七十三歳の高齡にして愈々嬰鑠たるものがあり、現在は悠々自適して移り行く自然に詩情を托してゐるが、かつて町會議員として二十餘年勤績し、町勢の發展に貢献する處甚大であ

つたが、また更に郡會議員にも就任、郡

參事會員として郡政要樞に參畫し、地方自治に頗る顯著なる功績あり、地方政界の重鎮として信望篤きものがあつた。

當主彦市氏は資性俊敏にして磊落、半面溫情豊なる人、公共精神頗る篤く、先代彦市氏の志を繼ぎ町會議員に就任するや夙夜町政の改善發展に、また學務委員として町教育の向上發達に盡瘁し其卓越せる手腕は着々見るべき功績を残して來た。

また元來氏は政友系なるも事に當つては正義感に基いて行動する一黨一派に偏せざる宏量を持ち、其社會正義に基く理路整然たる侃々の論議と相俟つて町會に於ける氏の地位は動じ難く近き將來當町を双肩に擔ふべき人として衆望極めて篤きものがある。

氏の一家は眞宗に歸依すること深く、其家庭は和氣の霽々として笑聲堂に溢るるの圓滿振りにて近隣の羨望する處である。

出羽村 漆山 那須 義八

村會議員

明治二十二年呱呱の聲をあげた義八氏は、當年五十歳の壯年である。氏は資性濃厚篤實、圓滿なる人格者にして、村政の圓滑なる發展の爲に専心努力して來た氏の腦裡を往來するは、村民の福祉と農村經濟更生に盡るといふも過言ではない。

既に氏は村政者として赫々の名聲をあげ、今日までの業績も多數に上り、曩には村會議員に就任、又國勢調査員たること二回、その時の成績優秀に依り、内閣統計局より感謝状を受けてゐる。

現在は村會議員として、勤続十四年に於ける。その他消防組長、方面委員、農會役員、裁判所調停役員等、村政多方面に亘りて盡力、更に農業倉庫に關し、よく精勵恪勤して業績をあげた。尙活動期にある氏は今後多大の期待と囑望をかけられてゐる。

千歳村

村會議員 會田 文七

當家は當村の舊家と目されてゐる那須家より先代義八氏分家して創家、義八氏は家業に精勵する傍、戸長を始め、縣會議員、郡會議員等の要職に選れて、その手腕と識見の卓越さは、衆のよく認めるところであつた。

その志を繼いで當主また村政功勞者たるも當然である。當主は養子として入家し、穩健なる人格と勤勉なる努力は出で、は村勢の展に資するところあり、入りては一家繁榮の礎をなしてゐる。

家族は和氣霽々として平安に満ち、模範的家庭として定評を受けてゐる。

氏は當年七十歳の高齡にして、村會議員を勤続すること三十有二年今尙嬰鑠として村政に關與しつゝ、あるのは實に驚異すべきである。資性濃厚篤實にして公共精神に燃え、正義を以て公共公益に終始献身せんとする眞摯なる老紳士たる氏も

かつての日清日露の兩戰役に出征、滿洲の曠野に砲煙彈雨をくゞつて皇國興隆のために赫々たる武勳を樹て勳八等を賜りたる忠烈なる勇士たる半面を持ち、うち

に藏せられたる氏の烈々たる熱情と實踐力を伺はしめるのである。氏は現に村會議員たる外、衛生委員として三十餘年、

土木委員として三十二年、或は學務委員信用組合役員、在郷軍人特別會員、消防組合特別會員として村治、産業に貢献せざる處、其向上發展に頗る多大の功績あり幾多表彰せられたることあるも、特に堤防改修に顯著なる功績あり、村民

の福祉増進に貢献寄與せる處甚大にして言ひ盡し難きものがある。然も此等公職に多年在職せる間何ら政黨に關係することなく、専念自治の本意に基き不偏不黨、公平無私の態度を以て活動せるは氏の高潔なる人格を實證せるものと云ふべきである。

氏は先代儀助氏の次男として生れ、家統を繼ぎ、分家し新たに當家創立三代目

の當主になりたるもの、氏の愛婿は現役軍人にして軍曹である。

大郷村中野

大郷村 佐藤次郎八

二百年の家系を有する當家は、代々名



主を勤めた名門である
治郎八氏
は明治九年十一月五日
出生、當年

六十三歳の高齡なれど、農會長初め村會議員、學務委員、郡農會役員等を兼任してゐる村政赫々の功勞者である。曩には村長、助役、村會議員、學務委員、分會長、消防組頭その他の要職を歴任して來た。その間公共事業への寄附は十數回に及び、校舍建築を初め種々の業績を残し其の表彰されること多數に上つてゐる。當村今日の漸進的發展をみたのは、唯に氏の永年の努力の賜によるのである。

産業組合長 佐藤治之助

治郎八氏の長男たる氏は、明治三十五年一月三十



一日生れ、三十七歳の錚々たる紳士である。氏は實に剛

毅果斷、寡黙實行、然して戰時下の農村に於ける國民精神總動員運動を起し、各々の職責を完ふし、一層精進村力を倍養せんとの信念に邁進してゐる。氏は大郷村信用販賣購買利用組合長及び消防組頭等の要職を兼任してゐる。先づ消防組頭就任以來消防の改善は勿論、特筆すべきは、一時事業不振にあつた信用組合の一大改革を斷行、僅かの年月にも不抱、現在では名實共に縣下一の優良組合と謂はれ、更に組合青年會の大改良をなし、その結果は模範的青年會として賞讃を得てゐる。尙氏が組合長就任以來

村内各戸一日一錢貯金を奨勵し、目下好成績をあげて居り、引いては全村の圓滿なる發展を促進してゐるものと云ふべきである。非常偉大なる功勞といふべきであらう。非常時下の農村を背負ふ氏の如き人物を有するは、當村の幸といふべく、父子共に全村民より敬仰と信望をよせられてゐる。又氏は半面、文藝的素質に恵まれ、詩短歌に、銃後愛國の赤誠を歌ひ赤心縷々たるものがある。

出羽村

農會長 大内清三郎

村會議員 勳七等



當家は村内大内家の總本家たる由緒久しき、土地切つての舊家にして、其家歴の明らかなるものを以てし

ても六百餘年の昔に溯り得ることに依り

如何に創祖の舊きかを推察するに足る。祖先は佛教に深く歸依し佛道の研鑽深く漢學に造詣淺からざる學者、人傑を輩出してゐる。珠算の名人として近郷に聞え高かつた先代清三郎氏は村會議員、農會副會長たるばかりではなく、助役を経て村長に數期在職せる當村の自治功勞者の榮譽を擔へる人にして、村民の福祉増進、村政の發展に貢献せる功績は枚擧の煩に堪へざる處である。

當主清三郎氏もまた夙に農會副會長、



軍人分會長 土地賃價 格調査員等 幾多の公職を歴任し、學務委員た

ること十數年に亘り、現に養蠶實行組合長、農會長等村生産機構の重要地位にあり長期聖戰下銃後農村の生産力の伸張のために力を致し、聖戰繼續の負擔力を増

進し郷土より出征の勇士に後顧の憂をなからしむべく縦横に活躍しつゝあり、更に、村會議員として村政に關與すること十有六年、村會の重鎮として幾多功績を残し來たつたが、また部落總代として傳來の隣保共助の美風に基き、部落民生活習慣の改善向上にも貢献せる處甚大である。氏は其顯著なる功績を以て表彰せられたること既に數次に及び、其温厚實直健實なる勤勉家にして、眞宗を信仰すること深く、信念ある信頼すべき人として村民の信望極めて篤きものがあり、次の村長として囑目せられてゐる。

氏は明治十二年先代清三郎氏の長男として生を受け、長じて軍務に服し、日清日露の兩戰役に出征するを得て、赫々たる武勳を樹て勳七等を賜はつた忠勇の士である。

夫人は志操堅固の譽れ高き人、愛國、國防兩婦人會副會長として銃後婦人の第一線に在つて雄々しく活動してゐる。また圓滿なる家庭を營み好評である。

千歳村

在郷軍人
分會長
歩兵少尉

設樂 八助

資性剛毅潤達、ま、俊敏にして磊落、
反面温情豊なる氏は、宗教に歸依するこ
と深く、其確固たる信仰より得たる信念
を以て一生を終始せんとせる眞摯なる人
にして村民の信望は、めて篤きものがあ
る。歩兵少尉たる氏は在郷軍人分會長の
職にあること七年の長きに及び、皇國の
世界史上に雄飛すべき皇國發展途上の非
常時局の郷軍の第一線に在つて活躍し來
たり燦たる功績を残し來たつたが、昨昭
和十二年暴支膺懲、東洋平和樹立の聖戰
の勃發するや氏の職務は重きを加へ、夙
夜専心銃後國民總動員強化のために目覺
し活動を續けてゐる。

氏は明治三十二年三月三十一日先代八
助氏の長男として出生、當家は部内設
樂家の總本家にして、十一代前まで其家
歴は明かなるも、その初期は詳かならざ
れど當村内に知らるる如き、由緒久しき

屈指の舊家である。

先代八助氏は在世中、信用組合長、村
會議員等多数の公職を歴任し村治、産業
の向上發展に貢献寄與せる處甚大であつ
たが、就中耕地整理、堤防完成、上水道
改修等、灌排水施設の完備に依る村生産
機構の充實發展、村民の福祉増進に頗る
功績があり、また鐵道の驛設置問題にも
盡力し文化交流等の發展にも功勞顯著な
る、村治功勞者にして、當村の重鎮とし
て長敬せられることの厚かりし人であつ
た。

出羽村

横濱
市立病院
内外醫師

大内 玄濯

大内家は創家以來五代の間、代々繼い
で醫師であり、而かも人傑を出し郷村の
向上發展に盡瘁し多大の貢献寄與をなし
たる村内唯一の由緒正しき家柄である。
先代玄濯氏は宏遠なる學識と圓滿なる
人格とを並び備へ醫業に精勵して名醫と
しての譽を得歎身的に醫療のことに當つ

て病家の深き感謝と信望を擔つた他、

郡會議員、村會議員、學務委員、部落の
世話役等の諸公職を歴任して郡政、村政
に顯著な功績を残したが就中水害豫防工
事橋梁の架設等に多大の盡力を致し地方
民の福祉増進に、産業交通の發達に忘る
べからざる功績あり、また郷土小學校内
奉安殿を建設し國民精神の作興に資する
處甚大なるものがあつた。

當主玄濯氏は先代玄濯氏の長男として
明治三十七年に生を享け、慶應大學醫學
部に學んで醫學を研鑽、俊才をうたはれ
た氏は優秀なる成績を以て卒業後、慶應
病院内科に勤務して益々醫術の蘊奥を極
め、六年前より横濱市の病院に移り、内
科醫として、其沈着温厚にして適確なる
手腕とを以て横濱市立病院の中堅醫師と
して重きを加へてゐる。氏はまた眞宗に
深く歸依し、其學識技能に加ふるに宗教
的信念を以て醫療のことに當り、絶大な
治療成績を挙げ聲望篤く將來の大成をい
たく囑望されてゐる。

因みに氏の祖母は現在尙稀なる高齡
を保ち壯健にして玄濯氏の大望を見守つ
てゐる

出羽村

舊家 半澤 久次郎



代々庄屋
名主等を
勤めし土
地屈指の
舊家にし
て由緒正

しき家柄であり、代々久次郎なる名を襲
名し郷村のために絶大の貢献寄與をなせ
る人物を出して來た。

祖父久次郎氏は明治二十二年市町村制
發布せられるや初代村長に就任せる名望
家にして、後にも村會議員を始め幾多の
公職を歴任し頗る顯著な功績を残し、當
村切つての自治功勞者の榮譽を擔ひ、今
にして尙村民に思慕せられてゐる人であ

つた。夫人は、當年六十三歳の高齡にし
て極めて壯健かつて日露戰役當時、婦人
會に於て活躍、銃後の護りに目覺しき功
勞あり有功章を賜つた女丈夫である

先代久次郎氏はまた村會議員、農會長



東村山郡
聯合會青
年團、部
落總代等
の公職を
勤め、資

性沈着温厚にして、頭腦明晰なること群
を抜き、烈々の公共精神に燃えたる人に
して、夙夜村民の福祉増進、村勢の伸張
に盡瘁し其卓越せる手腕を振つて功績頗
る甚大、村民の譽望を一身に擔ひ未來の
村長として各方面に囑望せられしも不幸
にして早逝した。

紙子夫人は貞淑にして聰明を以て聞え
た人、久次郎氏の亡き後を引き受け當主
久次郎氏を扶けて家業を護ると共に、出
ては國防愛國兩婦人會長を務め、銃後

婦人團體の充實發展に盡力して寧日なく
當村婦人の敬慕の的である。

當主久次郎氏は未だ未成年にして家督
を繼ぎ、山形中學を卒業後更に勉學を續
け父祖の遺忠を繼ぎ當村の爲めに盡力す
べき日に備へてゐる。温厚にして明敏、
まこと快活明朗なる孝心の念に厚い青年で
あり、當村長老の其前途に多大の期待を
おく處である。

赤津村

村會議員 大石仁右衛門



氏は明治二十三年三月十七日六代に亘
る本村切つ
ての舊家に
先代仁右衛
門氏の男と
して呱呱の
聲をあげた

累代篤農家と聞く、農耕を以つて生業と
してゐた。
光代仁右衛門氏は眞摯なる人格と熱烈

なる才腕によつて村會議員に選ばれ、又消防にも關係して、村勢の發展に寄與する處甚大であつた。

當主の仁右衛門氏も亦、嚴父の素質を受け継ぎ、幼時より頭腦明敏を以つて聞え、稟性、濃厚篤實にして高邁なる精神を有し、政治的手腕にも優れてゐた。爲に推舉されて村會議員の要職に就くや、寧日なく鋭意専心、献身的功勞を續け、村民の福祉増進に極力盡瘁してゐる。

その外、氏は養蠶實行組合長、信用組合幹事、三郷堰水利組合長、信用組合職にも従事し、翕然たる村民の信望を双肩に擔つて旺んに活動してゐる。その活動振りには壯者を凌ぐ氣概を示し、益々今後の氏の盡力に期待がかけられてゐる。氏は又、信仰の念極めて篤く、曹洞宗に歸依し、趣味は植木盆栽などでその園藝に關する造詣定に深いものがある。

寺 津 村

村會議員 太田庄四郎

明治十五年一月十四日先代松次郎氏の長男として呱呱の聲を學ぐ。當家三代目を繼ぎたる嚴父松次郎氏は濃厚篤實にして信仰篤く、眞宗に歸依し、隣人に對して親切を極めた人である。農耕の精勵怠らず、その結果は常に村民の羨望を受くる所であつた。

氏は幼時より堂々たる體軀を有し、資性また剛健、一度決すれば敢行せざれば熄まぬ態の氣概を有した。歩兵の兵役にあり、日露の役に應召を受け歡呼の聲に送られて勇躍出征した。幾山河轉戦して常に功業に先んじ、血盟の戦友に對する骨肉の兄弟も及ばず、具さにに戦塵の勞苦を恬めて目出度く凱旋した。氏は武運豊にして微傷をだに負はず、叙されて勳七等青色桐葉章を賜ふ。この誠忠と武勳とを物語る功勞章はいよゝゝ村民の信望を擔はしめ、明治四十年より村會議員に推され、就任してその産業の伸展、政治的平穩を期して活躍した。その間郡會議員二期を兼ね、俊敏なる手腕は郡勢開發

にも又盡す事多かつた。更に現今學務委員、方委員、三郷堰水利組合議員となり、愈々發展の途にある村治に盡す所甚大である。三郷堰水利組合に對する氏の寧日なかりし熱意的奔走は特に村民の感謝する所である。政友會に屬しその政策は氏の徳望によつて村内に普及され地方政界に名が高い。

西 村 山 郡

本郡は羽前國中央より稍西寄りに位置し、東は北村山郡及び東村山郡に交はり北は最上郡、西北は東田川郡と境し、南は西置賜郡に接する。廣袤東西十一里二十一町、南北八里二十町、面積六〇・八三九を有す。

鳥海大山脈は、南に延びて羽前三山の一なる月山を起し、西は越後山脈の支脈が縦斷して山岳重疊し、東境には朝日岳がある、河川は、最上川が郡の東部を北流し、寒河江川及び月布川の二川は、西境に源を發し、諸溪流を合せて郡の中央を東流し最上川に注ぐ。平地はこれら河川の流域にあり、郡の東部は山形平野の一部を劃してゐる。

郡の東方にある町村を除いては一般に交通不便の地多く、鐵道左澤線、三山電鐵等あるも二三の市街地を連絡するに過ぎなす。

往古、阿倍比羅夫が蝦夷征伐を行つた頃、當地はすでに王化に浴してゐた。天正年間に至つて最上氏の支配を受け、徳川時代の末の頃は、新庄領、松山領、館分領、館林分領、棚倉分領、幕府直轄等に分領されてゐた。

産業は、農業及び養蠶を主とし、都邑の地には製糸業が盛んである。農産物は米・麥・豆類を主とし、梅・櫻桃・林檎・柿・栗等の果實類も尠くない。用材、薪炭材等の林産物は本郡の特殊産物にして石材その他の鑛産物にも富む。

名所舊蹟の主なるものを挙げると、寒河江城址、平鹽熊野神社、百目木、長岡山古戰場、臥龍橋、葉山、左澤城址、浮島、慈恩寺などがある。

寒 河 江 町

當町は郡の東南部に位する都邑にして

寒河江、高屋、島の三區より成り、面積一・一九方里を占める。東及び南は最上川を隔て、東村山郡成生・寺津・豊田の三村及び長崎町に隣り、西は柴橋・高松の兩村に隣接し、北は西根村につゞく町の西方に長岡山の丘陵あるも、土地概して平坦にして水利の便よく、交通は縣道が町を中心として三方に走つて山形市谷地町 左澤町等に通じ、鐵道はこゝに寒河江驛を置く。

主要物産は米、清酒、草履表、繭、果實、生絲等である。町役場は大字寒河江にあり、その他官公署に土木出張所、營林署、蠶業取締所支所、區裁判所出張所郵便局、穀物検査所、郡農會等あり、町教育會、農會、軍人分會、消防組、その他産業團體も組織され、社寺舊蹟では郷社八幡神社、村社小森御嶽神社、寒河江城址等が特に著名である。

白 岩 町

東は醍醐村、西は西山村、南は高松村

北は大蔵村に接し、東西約一里半、南北約三里半、面積五・〇六七方里を有し、戸數九百三十戸、人口五千六百五十人を擁す。米、草履表、木炭、繭を主産物とし、特に草履表は本村が誇りとする特産物である。産業組合が組織され、經濟状態は頗る圓滑である。

小學校は白岩、田代、幸生の三校あり白岩校にのみ高等科が設けられる。就學歩合良好、各校施設充實し、兒童學業は優良である。青年學校も三校、いづれも女子部を設置する。

名所舊蹟としては臥龍橋、白岩城址、白岩義民の墓、種蒔櫻、城址の松、上野温泉、厚鹽湯などあり、臥龍橋は文政十年の建設、長蛇の狭洞に入るが如き奇觀いふべからず、また明治戊辰役の古戰場として名がある。上野温泉は皮膚病、痛風、婦人病に特効がある。

谷地町

本町は西村山郡の東西隅に位し、東西

一里二十九町、南北一里十四町餘、明治二十九年四月より幾廢合の村を統一して谷地町と改稱、大正二年より水道竣工す戸數二千二百九戸、人口一萬三千三百三名(男八千三百二十、女八千四百十六)但し寄留人四千名餘を除く。灌漑の便ありて農家最も多く、米、豆の生産多きは勿論、繭、草履清酒も亦産額尠くない。されば兩羽銀行谷地支店を初め金融機關三、谷地購買販賣利用組合その他四の産業團體あり、各種工場九、會社六ヶ所ある。山形區裁判所及郵便局、農産検査所始め警察署は三ヶ所寒河江署の管轄に屬す。他消防組一、自營消防組十八を數ふ醫師十名、齒科醫四名、産婆七名を以て衛生の事に參與二十七名の傳染病患者に對し死亡者五名即ち十八%餘を今年度出した。町會は町長初め助役、収入役、書記議員二十四名其他で構成す。

宮宿町

町内を十八大字に區別して、一、〇七

一の戸數、人口六、四六一人に及ぶ本町は面積また廣く三、五七〇町歩に及んでゐる。住民の大半は農を家業となし、次いで養蠶、工業、水産、林業これに次ぎ近年蠶絲界の不況に依り、養蠶の生産額減殺されたりと言へども、更に有畜業の獎勵大に行はれ、就中、綿羊、豚、牛狸の飼育逐年發達しつゝある。各種團體の數多く農事實行組合二〇、農會一、養蠶實行組合二一、水利組合一、産業組合四、漁業組合、養豚組合、養鶏組合各一にして、外三組合がある。小學校は五校あり、兒童數一、三一八人、青年學校一教育會一、青年團二、圖書館二となつてゐる。また職業紹介所があり、住民の便となり、郷倉は十五に及び、寄託米穀數量一、五三七・二九である。

大谷村

本村は古來大江氏の所有であつたが、天正十二年最上氏に併合せられ、元和八年幕府領となり、文政六年白河領となつ

て明治初年に及んだ。明治十年粧坂村を合併して大谷村と稱し、同二十年玉ノ井村大谷村、中澤村、大暮山村、大沼村の五ヶ村を併せて大谷村となし、舊村を五大字とし今日に至つた。

田二〇六町歩、畑二六〇町歩、山林一二九八町歩あり、戸數六百十戸、人口四千百人を算し、農家がその大半を占める。小學校は一校、十三學級編成にて、大暮山、大沼、川通の三分教場あり、兒童總數は七百五十人となる。青年學校には女子部の設けがある。諸團體に村農會軍人分會、男、女青年團、戸主會、信用組合、納稅組合、耕地整理組合等あり、産業は農を以て第一とし、米の年産五千五百餘石、その他蔬菜類、桑葉、木炭、草履表の産が多い。

本郷村

本村は古來松嶺藩の所領なりしが、明治二十一年四月町村制施行により、舊村十三ヶ村を大字として本郷村を構成す。

溝延村

即ち、本郷、十八才、顔好、材木、橋上小漆、楢山、月布、大鉢、荻野、堂屋敷鹽ノ平、所部等である。面積三千二百二十四町餘、戸數七百一十一戸、人口四千五百四十九名(男二千八百三十八、女二千七百二十)主産業は農を絶對多數とし、商業之に次ぐ。従つて生産額も梗糯米に多く蠶繭木炭また多し。産業團體も養蠶實行組合の三十を最多として五種ある。官公署はすべて本郷に在り、村長、助役、収入役各一名、學務委員五名常設委員十三名、區長二十二名、村會議員十二名を以て村政を掌る。教育關係の建築物は尋高小學校二ヶ所、分教場一及び本郷東、西青年學校二ヶ所、青年團あり社寺亦多けれど醫師一名もなく、産婆五名あるのみは衛生上一考を要すべきであらう

西里村

施と共に二村合し、溝延村と稱す。大字溝延、舟戸、田井の三ヶ村にして面積東西三千五百米、南北三千米である。戸數六百九十一戸、人口男二千四名、女二千八百一十一名計四千二百十三名を數ふ。教育に關する設備比較的多く、尋高小學校は元より、青年學校あり圖書館あり教育會、男女青年團等ありて文化向上に意を用ふ。生業農をは絶對多數としてその生産額も亦米、豆を最多とし、繭、草履の副業的産物之に次ぐ。産業團體は農會養蠶組合、農事實行會等あり、郷倉作業場等の設けがある。溝延村に官公署の總てが集中し、村長一、助役一、収入役一郡書記四、學務委員四を設く。歳出は役場費の外教育費多きは注目に値する。且銚後奉公の團體また設けらる。

當村は元溝延村、田井村の二ヶ村より成り寒河江の庄に屬した。領主並に村勢の盛衰幾變遷あり、明治二十二年村制實

本村は天文年間以來最上出羽守の所領地にて、のち鳥井左京保科肥後守の領するところとなり、寛永十年には幕府領と

改り、代官所が置かれた。その後屢々役所の併合等行はれ、慶應三年役所を長岡に移し、明治初年には民政局の支配に属した。現在の村勢を見るに、六九四、三七二の山林を最多として、田地畑地等を約四三四、〇〇〇を有し、戸数は六三四、人口四、二〇三人である。住民は大部分農を家業となし、耕地反別三三五一となつてゐる。主要産物として挙ぐるは米、繭、草履表にして、草履表は一、一四二、〇〇〇足を産した。農業伸の一大動力たる産業組合は四四五人の組合員を有し、出資口數四二七である。教育盛んにして、就學兒童數七五五人、青年學校一三三人の數にのぼり、時局に即せる教育に見るべきものが多い。

川土居村

縣下のトップを切つて、大正四年造林更生計畫を始めし。本村は、爾來着々と豫定のコースを邁進して理想の彼岸に到達せんとしつゝあり、即ちその造林經營は

他に類のない義務造林である。村民一同一致共同して、この目的に邁進し、その造林に依り表彰數次に及んでゐる。また農業盛んにして、人口四、三五四戸數六〇八は大部分農業を主に營み、養蠶また盛大である。産業の助成機關にして、經濟の動力たる産業組合は、四二五人の組合員を有して口數四九六、貸方計は一三七六、〇〇、借方は一二〇八四、五八の數字を出してゐる。前記の義務造林を見るに、其面積一八二、二八〇〇に及び、植栽本數四七三、九八〇となり毎年一ヶ年一戸に付杉五十本の植栽が義務となつてゐる。

本城は、南朝の忠臣大江時通が、足利氏に抵して度々斯波兼頼と戦ひし時、處々に城壘を築いて防禦に備へたが、本城もその一つである。正平二十四年、時茂敗れて一族の多くは狩川で戦死したが、弟の時氏のみ病に依つて免かれ。時氏遂に足利氏と講和して本城に居し、氏を寒河江と稱したと云ふ。

幾度の戦ひの跡又遷變の跡、軍將の紅涙を巡りしも今は昔、當寒河江城址は寒河江町寒河江にありて東西八十六間、南北に七十八間は本丸の址にて尙殘濠が遺存し、外廓は現に桑田や民家の敷地となつて、大部分は學校その他の敷地となつて

寒河江城址

後最上氏のものとなつたが、元和元年最上氏改易となり、次いで鳥井左京亮が之を領した寛永十三年幕府領となり代官陣屋を置いて、明治維新に及んだものである。

寒河江町

寒河江町役場

古來楯南、楯北、楯西、西根の四村を寒河江と稱し、寛永年間村稱を改めて寒河江庄に属したが、明治十四年寒河江村と改稱、更に明治十六年一月に至り、町制の施行を見て寒河江町となつたものである。

本村は面積約一方里半、東は東村山郡藏増村、西は西村山村高松村、南は東村山郡長崎町、北は西村山郡西根村と夫々境し、土地展けて田畑多く、また多少の山林原野を残し、他は概ね宅地と成つてゐる。

戸數は約二千、人口は一萬二千餘を算し、住民は農業を營む者最も多く、工業及び商業を營む者之に次ぐ。交通は鐵道が通じて便利よく、産業發達し、衛生その他の設備頗る整つて、住みよき町をなしてゐる。産物は、米穀類、繭等を主とし、酒造、製材も行はれる。

町内に於ける官公署の樞要なるものは警察署、土木出張所、營林署、蠶業支所、登記所、郵便局、農産物検査所、驛、役場、中學校、郡圖書館その他を數へ、亦寒河江城址、長岡山古戰場、巨石文化遺蹟、寒河江公園等の名所舊蹟がある。

白岩町

白岩町役場

明治二十二年、白岩、留場、田代、幸生村を合併し白岩村と稱し、同三十三年白岩町と改稱した。東は醍醐村に、西は西山村、南は高松村、北は大藏村に境し戸數九百三十、人口五千六百餘人を有してゐる。

當村は、概ね農業、養蠶に従事し、近時家畜家禽の飼育旺んである。次いで交通業、商、工、鑛業に就く。白岩信用販賣購買利用組合外、衛生、納税、各組合有畜農業、農事改良養蠶各實行組合、米穀共同受檢、草履表共同生産、負債整理各組合などがある。

宮宿町

宮宿町役場

學校は、白岩尋常高等小學校、田代、幸生各尋常小學校、白岩、田代、幸生青年學校官公衙に、白岩町役場、郵便局、農會、寒河江營林署白岩擔當區あり。その他山形電氣株式會社白岩發電所、恩賜郷倉組合、報恩郷倉組合一、農村共同施設作業場五あり、その他諸設備充實漸次發展を遂げつつある。

本町は西村山郡の南端に位し、白鷹山の支脈は南方より中央に縦走し、その周圍に部落點在し、土地の高低甚しく、約七割は山林なれど、土壤肥沃にして、概ね農に従事し、東部を縦貫するところの塗橋川より、鮎、鮭、鱒等の水産物多く舟筏の流通便である。當町はもと東五間川村と稱されたが、

昭和三年四月一日町制實施により宮宿町と改稱された。

戸數一、〇七一戸、人口六、四六一人
生業別に見るに農業に八一五戸、商業に一五〇戸、その他工業、交通業、水産業者これに次ぎ、當地方は養蠶旺んであつたが、近年養糸界の不況に依り生産額輕減して來たが、副業及び畜産業の奨励多に行はれ、綿羊、豚、牛、狸等の飼育遂次發達しつつある。

字上宿に當役場あり、行政の區劃十組字に及んでゐる。

農會、水利組合及び養蠶組合、産業組合初め各種組合多數あり、小學校には宮宿、和合、送橋、水本、上郷、以上五校青年學校、男、女各青年團、町立私立各圖書館郵便局その他職業紹介所、托兒所社會事業團體等寒河江警察署管轄の巡査部長派出所一それに巡査駐在所が二ある

社寺佛閣には村社九社、八寺院、宮宿公園豊龍山等の名所舊蹟多く、初代町長今井五郎八氏より、現町長鈴木與一郎氏

に至るまで十八代を経、漸進的發展を遂げつつある。

大谷村役場

大谷、玉ノ井、中沼、大暮山、大沼の五ヶ村を合併して當大谷村となる。戸數六百餘、人口四千二百人を有し、概ね農に従事、又養蠶業旺んにて、夙に養蠶地として著名なり、近時畜産も發達し、主要産物は、穀類、蔬菜、桑、木炭、草履表、炭薪等。

大字大谷に、當役場、郵便局、駐在所あり、大谷尋常高等小學校は、大暮山、大沼、川通に各分教場を有し、尙、青年學校あり、軍人分會、青年團、女子青年團愛國婦人會信用組合納稅組合、耕地整理組合等の諸團體漸次發展、充實の途上にある。

村長 昌昌太郎

當村大沼に縣社稻荷神社ありその境内に浮島の名勝とて、沼を遶

りて蘆の群落をなし沼上に鳥嶋散在せる神境、名勝地として内務大臣より指定され、今大沼公園とてその風光明媚を愛でられてゐる。その他白山、秋葉、八幡、稻荷の四村社及び、萬福、昌城、福壽、觀音の眞言宗の四寺院曹洞宗に永林寺あり

本郷村役場



當村東西を横斷して、月布川流れ、東南に鹽野平東北に市ノ澤等の部落を作り月布川沿岸は土地概ね肥沃なり

北方、南方は大半山嶽連なる戸數七百餘九割まで農業に従事し、次いで養蠶業盛んにて、米、大豆、小豆その他草履表木炭、水産、果實等、主要産物に數へらる。産業諸團體には、信用郷倉、作業場製炭各組合、農事、養蠶各實行組合等あり。大字西里村に、村役場、駐在所、消防組、尙愛國婦人會、水利、納稅、衛生火災豫防各組合等を有してゐる。

學校は、本校東部西部兩尋常高等小學校及び大鉢分教場、同じく東西兩部青年學校、男女青年團等、教育方面の施設整備されつつある。

神社、佛閣は、四村社に一無格社、五寺院あり、特記すべきは漆川古戦場の史蹟にて、寒河江城主大江氏一族最後の場として著名である。

西里村

西里村役場

本村は元白山堂組、中島組、天滿組、兩所組の四ヶ所より成れる村落なりしも明

治五年九月四ヶ所一團となり西里村を構成す。村史は天文年間以前は詳ならず、以後山形國司最上出羽守より鳥井左京保科肥後守の所領地なりしが、寛永十五年幕府領に代り代官所を柴橋に置く。その後屢々役所の併合あり、明治維新に至り政府の支配下に移り、變遷を経て今日に至る。

土地は民有地と官有地に別ち、民有地田二百六十七町歩餘、畑六十六町歩餘、宅地九萬六千三百二十五坪、山林六百九十四町歩餘、原野三町歩餘である。

戸口計六百三十四戸、内農業三百五十一戸、を最大として工業、商業の順となる。人口男二千七百三人、女二千五百三十五人、計五千二百三十八人、而して出生百九十八人に對し死亡九十七人、四％強に當る。

産業方面より檢すれば自作兼小作農戸數百四十二戸、小作農二百二十五戸、自作農四十七戸、主要物産は米の十七萬二千圓、繭一萬五百二十四圓、草履表三萬

四千二百六十圓とし、他家畜家禽等である。農作物に對する金肥消費量大豆粕硫安その他にて四萬九千三百四十四圓等であり、如何に農家が金肥の爲に多大の消費をなしてゐるかが肯かれるであらう。故に自ら西里村信用購販組合加入者四百五十五名の多きを加へ、郷倉作業場の亦設けあり村民の利便を謀る事多し。

教育は旺んにて小學校、青年學校、青年團等あり、尋常科缺席率男六・一二％女六・七八％は少しく考ふる所あるべく教育指導者團體と教育あるは注目に値する。警備は寒河江管轄西里村駐在所、消防組にして消防組に公設、私設がある。醫業開設者只一家、傳染病院一、而して傳染病患者皆無なりしは幸ひである。村政吏員は村長以下六名、學務委員六區長八、選舉有權者衆議院七百九十三名村會議員有權者七百九十一名である。

川土居村

川土居村役場

本村は西村山郡の西方四里寒河江川に沿ひ、東西四里二十町、地勢南に山を負ひ、北に傾斜し、農耕極めて不利である。交通は本村吉川、原、沼山を直通する寒河江間澤線及び本線より分岐する海味停車場線がある。更に北山形驛より左澤線あり、間澤驛より僅か七町の處に村役場村政の牙城として建つ。先に吉川村、原村、沼山村入山村を組合村と稱し沼山村に役場をおいたが、明治二十二年町村制發布と共に合併、役場を現所の川土居村に設立した。

本村は戸口六百八戸、現住人四千三百五十四人、作付反別民有地二千四百二十三町歩餘、國社寺有地四百九十三町歩餘である。内自作農百一戸、小作農二百三十五戸自作農兼小作農百九十九戸、自作農共一戸當り約八反歩の耕作である。主要物産を米とし、繭、生糸、木炭、木材、畜産等にして全産額三十九萬七千五百二圓の巨額に達してゐる。

農作不便の地にこの成績は實に産業組

合發達の貢獻の賜であらう、即ち養蠶實行組合、有畜農業實行組合、共同作業場郷倉等を含む産業組合にして、組合員數約農家戸數の九パーセント近くを組織す。農事技術の向上を主目的とする農會も亦盛んである。

本村に特筆すべきは奉仕的造林計畫であらう。本村更生のためである。初め大正四年この實行を決定、賛否交々の村民に趣旨を徹底せしむべく、委員達の熱意烈々たるものあり、遂に全村の賛成を得て着々進行この特色は貧富に拘らず一ケ年一戸五十本の杉苗を義務的に植栽し公平なる權利と義務を負ふにある。

就學兒童七百六十三名、就學歩合九十九パーセント、頗る順調、尋常科より高等科に進む者、男子は殆ど卒業者と同數女子は卒業の約半數より高等に入學しない。教師全村男十六、女七、計二十三名である。

青年學校は就學率男九十九パーセント餘、女九十八パーセント餘、計九十八バ

ーセント餘である、教師全部三十四名、銃後國民の養成を主に旺んである。

公益團體に赤十字社川土居村委員部、愛國婦人會、軍人後援會、國防會等あり國防會員壓倒的多數にして三百名を有す寒河江警察署轄川土居村巡査駐在所警備に當り、消防組員百二十三名、動力ポンプ三、手動四を以て安寧に當る。比較的衛生方面宜しく傳染病罹病率少なきは慶賀すべきである。

歳入三萬三千六百八十圓、歳出、三萬一千五百圓、村長鈴木金之助氏、助役荒木勵氏等共に老練の才腕を振つて村治の充實に致々として勵む。殊に村長鈴木氏村政二十ヶ年の經驗者、歳入歳出機宜に適したるも當然の事であらう。

本村景勝の地多く、大沼湖あり、長沼湖あり長沼遊園地あり、諏訪神社がある長沼湖に「此の郷や平和のまゝに沼の秋」の句碑がある。

花本聽秋の作である。

北谷地村

北谷地郵便局

當郵便局は昭和十三年七月一日の開局に係はり、創立以來日淺きも、北谷地、新吉田、岩木、吉田、の各部落に亘つて廣く利用の便を齎らし、現在早くも郵便貯金の加入口數一千六百口を數へる他、逐次成績向上の途を辿りつゝある。

現在従業員は二名、局長を堀繁藏氏とする。

局長 堀繁藏

氏は先代勇藏氏の息として、明治二十三年三月二十五日の生誕、

元農事を營み、亦土木事業に係り、村内の福祉に努めたが、選ばれて村會會議員となり、多年の主張たる郵便局設置を要望、その實現に直往邁進の熱意を捧げて、本年七月開局の運びに至つた。の現在局長として鋭意業務に勵み、土地の利便を圖るに努めてゐる。

氏は亦曹洞宗に歸依して、信仰頗る篤

大谷村

大谷村信用購買販賣組合

明治四十一年九月に創立された當組合は、農村の貧困を救ふには經濟的團結に俟つの外なしとして、組合長及び役員に献身的努力により、漸次充實を來し、組合員の加入増加も逐次促進し、着々と本村更生の基礎を築きつゝある。當村重要産業たる養蠶も良好、現非常時下の組合の任務重く、組合員一致團結、國力を培養せんとしてゐる。

當組合出資總額、昭和十二年十二月に於いて二萬七千二百圓、組合員四百六十六名、一口金額二十圓、昨年度に於ける事業の狀況は、貯金總額一萬圓の増加を見販賣部は繭を除き七千餘圓、購買部は四千餘圓の増加を見たるは喜ばしく、利用部は前年に比し三百圓の減額をみたが、之は事業不振に非ずして、出征遺家族に對し利用料半額の奉仕をなしたる爲にて

實質的活動狀況は活潑であつた。

當組合は地方の模範組合として、昭和十一年五月二十六日附で、山支會長より表彰をうけた程にて、現組合長の尊父二代目鈴木清助氏は殊に功勞多大であつた。

組合長 鈴木清助

氏は父君清助氏を襲名、現組合長に推され、體健、篤實、なる人格はよく組合の圓滑なる發展を促し、衆望を擔つてゐる。が氏は事務的方面に餘り干渉せず、主任たる白田岩夫に任せ、白田氏また組合長を授け、氏の事務的才腕は、組合の積極的活動に多大の功績あり今は一切の事務を處理して信任されてゐる。

西里村

西里村信用購買販賣組合

農村更生の必須政策として産業組合は夙に唱道され、各縣にその設立を見しも微々として振はざる状態にあつた。歐洲

大戦以後好景氣を招来し人々頓に戦争景氣に酔つてゐる最中に大正十四五年の恐慌は人心を不安のどん底に突き落とし、更に昭和二年の金融恐慌、同五年の農業恐慌等相次ぐ恐慌に、人々の経済的氣構へは著しく變つて來た。斯くして産業組合の必要は身を以て叫ばれ、政府また奨励事としてゐる。本組合もまたこの不安の波に打勝つべく結成されたものである。

現在昭和十二年度組合員數は農業二百八十一人を初めとして總數四百十九人、出資口數六百九十五口、前年度に比し脱退者八、加入者二十名の増減である。出資拂込高本年度五百二十圓、拂戻高千五百六十圓、本年度現在高一萬三千九百圓である。

準備金及特別積立金は七千五百十八圓、借入金中央金庫より、二萬九百圓あり、事業成績を見るに利益部門に於て、六千八百九十九圓、損失部門に於て七千四百六圓差引損失金五百七圓なるも、之には貸付金未收利息一萬六千六百六十二圓、預金

未收利息十圓等がある。

信用部の事業成績としては本年度内の貸付金二百九十七件、三萬八千六百六十一圓、償還は三百五十九件、四萬七百九十圓に達す。本年度末現在の貸付は四百二十一件七萬二千八百九十三圓である。一方貯金は本年度受入高十一萬二千五百二十圓本年拂戻高十萬八千四百九十六圓にして本年度末現在高は六萬六千三百七十九圓を數ふ。

更に販賣部に至つては託委販賣價格は米、一萬一千四百二十四圓餘、草履二萬二千三百二十二圓、計三萬三千七百三十六圓餘に達す。購買部に於ては産業用品として諸種肥料六千三百六十七圓餘、飼料二百三十一圓餘、計六千五百九十九圓餘に及び、經濟用品として米、麥、魚類、文房具、新炭等三千七百圓餘、農業倉庫部としては保管料百三十二圓餘、小作米取立料三十九圓、その他計百七十七圓餘にしてそれに要する費用五十八圓餘差引百十九圓九錢の利益を得た。

當組合は専務理事原田勸雄氏、理事鈴木榮三郎氏を初めとし、樋渡重松、高橋儀平、森宇助、後藤末太郎、佐々木周藏、庄司正幸の諸氏、監事和田重見氏、阿部彌平氏を以て構成す。

事業成績に見る如く未だ充分の利益を見るに至らずと雖も、よく組合員の利便に供し、村勢開發に資するは偏に老練なる幹部諸氏の手腕と組合員の協力によるものと言ふべきであらう。

西山村

西山村信用購買販賣利用組合

當組合は産業組合法による法人組織である。出資一口五十圓、保證金額八萬九千九百五十圓、組合員數は五百四十八人職業別に見て農業の三百五十一人を最大として商業四十八、工業二十五、その他三十、法人二十八の割合である。

總出資口數千七百九十五口、昨年度より加入者六十六名増加口數として十六口の減少である。而して出資拂込現在數は

拂込高四千三百十圓拂戻高四千二百五十圓現在高八萬七千九十一圓餘である。準備金その他の積立金二萬二千二百三十二圓を示す。更に財産目錄を見ると資産二十八萬二千四百九十三圓餘、負債十六萬四千三百三十五圓餘差引十一萬七千七百五十五圓餘の利益を見てゐる。更に事業報告を見るに、利益勘定貸付金利息、購買益金、預金利息その他にて一萬九千九百六十五圓餘、損失即ち維持費貯金利子等一萬四千三百九十圓餘差引五千五百七十五圓餘の利益を示す。

次に信用部を見るに貸付金及その償還を一括して本年度末現在高十六萬二千二百圓餘、組合員貯金十二萬千九百六圓餘を示す。

更に購買部の成績は肥料、農具より醬油、薪炭、砂糖に至るまで買入價格四萬八千三十八圓餘、賣却價格四萬六千六百二十三圓餘、本年度末現在八千八百二十一圓餘である。

價格は木炭數量に於て七千四百七十二圓、前年より三倍の増加、價格千八百五十九圓餘、前年より四倍の増加である。組合は組合員の利益を第一義におくものなれば貯金等に於てもその利率引き下げのこの時期に於て一ヶ年定期預金年四分、半ヶ年利率年三分八厘、當座預金は普通貯金團體日歩九厘住宅貯金は日歩一錢一厘である。而して配當金は年四分の割である。

斯の如く當組合の成績良好郡内に於ける組合に比し一頭地を抜き、且醬油醸造等をなすつゝあるも異數にして、組合長代議士佐藤啓氏、専務佐藤茂助氏、理事飯原啓介氏他九氏の如何にその發展につくしつゝあるかを如實に物語るかの觀があるであらう。

寒河江町高屋

町會議員 武田 健
青年團長

武田家は由緒極めて舊き名門にして、往昔高屋城ありし時、その家老として城



主に厚く用ひられし家歴を有する遠く系譜は詳らかならざるも、十

六代前よりの記録殿として存し、歸農後も當地方屈指の素封家として、代々の人物よく町民より崇敬を受けて來た。

殊に尊父武夫氏は、郷土青年の指導に當り、郡聯合青年團分會長として數々の治績を残せし人物で、町内の堅固なる氣風氏に負ふ處甚大なるものがある。

當主健氏は、その子息として、明治四十年二月十四日の出生、潤達明朗にして活動力旺盛、而も責任感頗る厳しき少壯紳士にして、町内青年の信望厚く、選ばれて西村山郡聯合青年團長の要職に就き現在その第二期目を勤めてゐる他、町會議員、町青年團顧問等として、多々盡瘁してゐる。

令配芳子夫人は貞淑賢明の譽れ高く、

氏は趣味として、讀書、スポーツ等を好んでゐる。

高松村八鍬

村會議員 菊池 健

當家は當村隨一の舊家にして信望普き名家である。當村々社鹿島神社との因縁淺からぬ家柄にして先代健次郎氏社掌として奉仕す。氏は村長、村會議員、郡參事會員を勤め、自治に對し非常なる功績を残し、大正十四年八十歳の高齡ながら尙饒鑠たりしを溘焉として逝去。村政多端功績經驗多かりし翁の盡力指導を俟つ事多きに幽明境を異にし村民舉つて追慕の念深かつた。

氏は明治十七年八月一日の出生、先代の男、幼より社會に貢獻し、村勢開發に盡すは人としての本分なる訓育を受けつゝ成長す。氏人と爲り濃厚にして正義に富む熱血の士、長ずるにつれて嚴父の教へを反獨し、それを實行するは孝の第一と決意するに至つた。村山農學校卒業後

高等學校に學ばん希望を自ら斷ち家郷に歸つて家業に努む。

若くして學務委員となつて教育向上の事に盡し、高松村信用組合理事に就任して村金融事に參畫しその利便を圖る。斯くして氏の才腕人格は衆望を擔ふ所となり村會議員に就任、懇望黙し難く今日に至る。

三十代の間正しき血統を傳へて功績を積む光榮の家に後を受けて益々家名を擧ぐ。曹洞宗も亦父祖の信する所氏苟せず各種に亘つて檀家として盡力する事亦多し。

高松村八鍬

村會議員 國井 新太郎

當家は六代連綿と續きたる舊家にして先代太之助氏は精勵克苦の努力家として信望を得、米穀卸商を開業、今日繁昌の基礎を作りたる人物である。更に村會議員及び高松商業組合長に推され、よく職務を完了した。

その長男たる當主新太郎氏は、明治十七年十月六日誕生、本年五十五歳になる父君をの後繼承して家業督勵の傍、運送商を經營、日を追ふて隆昌を極めてゐるは、氏の識見、手腕の如何に卓越してゐるかが推察され當村に於ける有力なる存在として、重んぜられてゐる。

氏は曾て日露戰爭に参加した勇士にてその殊勳に依り、勳八等に叙せられ、歸郷後は繁忙なる家業の傍、尙、村政に參與村會議員、學務委員産業組合監事、村山米移出商組合代議員、西部米穀商組合理事等、各方面に亘りて勤續種々の業績をあげてゐる。

尙氏は資性濃厚謙讓なる人格は、全村内に好評を得てをり、然も商才に長けた紳士として、今後の活動を益々刮目されてゐる。

長男庄一氏は、本年二十四歳、寒河江中學卒業後、父君を援けて家業に盡力、將來有望なる青年である。一家は春胎蕩、清明なる家庭を形成し

てゐる。

溝延村田井

村會議員 今田 覺太郎



先代善五郎氏は、夙に自治功勞者として信望されたる人物にて區長代理、農會總代等を長年勤續した。その

長男たる覺太郎氏は明治三十三年四月十一日生れの本年三十九歳の壯者である。農事研究に厚く、濃厚、質朴なる資性は村民間に人望極めて深く、村民の支持多大、村會議員、村農會總代、區長代理信用組合評定委員、自警團田井團長、農事實行組合長等村政各方面の要職に推輓され、當村に於ける有力なる存在として重要視されてゐる。

氏まだ三十九歳の若さにて斯くの如く活躍旺んなるは才腕、識見の如何に優れ

てゐるかが、推察される。當村の將來を背負ふの士であらうと、刮目期待されるところである。

寒河江町

町會議員 學務委員 加藤 八兵衛

當家は町内の舊家にして、創家以來七代を閱してゐる。代々總代として土地の治政に盡す處淺からず、元徴々たる村なりし當地をして、町にまで發展するに一臂の力を添へてゐる。

當主は先代八兵衛氏の長男として、明治二十年二月二十三日の生誕襲名して八兵衛を名乗る。天性衆に勝れ公益精神深く、亦實行力に富み、明敏な手腕の持主として知られる。衆望大きく選ばれて町會議員となり、引き續き五期の久しきを務め、現在尙その任にある他、學務委員として教育方面に資すること三期に亘り亦、縣小作協定委員、病院組合長等の要職を勤めて、努力精勵、よく甚大の治績を残してゐる。尙、寒河江物産市場の發

起人として盡瘁し、産業組合の創立者として功勞多く、組合理事に現任してゐる更に寒河江製菓卸賣協定委員を兼ねるなど氏の明敏は繁務多々益々辨するの勞を致して、些かも倦む處なく町民齊しく、畏敬の念を寄せてゐる。

家族は、令配よし子夫人との間に長男(二十九歳)あり、妻女を迎へて七人の愛孫を儲け、賑かな家庭をなしてゐる。

溝延村田井

村會議員 眞木 丑松

春は花、秋は黄金の實りの壽きに人々はその目出度き半面のみ見るべきではない。農民の汗、勞苦によつてその結實こそが可能であつた事を思ふべきで當家もさうした篤農の家の一家である。代々農を家業として近隣に範を垂れつゝ、その農事に盡す所多大であつた。

氏は先代嘉助氏の長男、明治十四年二月一日生れである。幼より學問を好み明敏なる頭腦は一を聞いて十を知り、父を

手傳ふ田野の仕事にも讀書の事を忘れる事はなかつたといふ。

常々村政に對して批判怠らず、友人と會してよく村内の向上發展を論議する。今養蠶實行組合長、農會總代、村會議員の要職に歴任した人である。

寒河江町

町會議員 佐藤 忠藏

當家は土地の舊家として知られる本家



より三代前に分家、一家を創立せるものにして篤農家の聞えが高い

先代文作氏は、公共精神に富める人物にして、町政に寄與する處多く、選ばれて町會議員となり、數々の功業を残してゐる。

當主忠藏氏は、その子息として明治二十年九月一日の誕生、性温和にして責任

觀念強く、嚴父の遺志を繼いで早くより町内の發展に盡し、町會議員に選出されること二期、現在その任にあつて愈々献身の勞を致し、町民の衆望を得てゐる。

家族はしげる夫人との間に一女あり、養嗣子勝君は、今次の日支事變に應召出征、目下第一線に勇戦中である。

溝延村田井

谷地町外五ヶ村 大水利組合會議員 今田 富太郎



先代吉太郎氏は長く村會議員を勤め、村議有數の士として認められてゐた。昭和七年在職のまゝ、溢焉として逝去、村民の哀惜限りなく、葬儀の盛大は生前の功を物語つて餘りあるものがあつた。氏は吉太郎氏の長男にして明治

二十五年四月一日の出生である。村山農學校を卒業し、直ちに一年志願兵として入營した。體軀堂々。謹嚴實直、勉學怠らざりし氏は入營中の成績も芳しく歩兵伍長に任ぜられて除隊した。歸りて軍人分會役員、消防組小頭、青年團副團長を勤めた。夙に剛健なる青年養成の抱負を持ちたる氏は、その衝に當るや、緻密なる方策をたてその實行に邁進した。青年は氏の人格と熱心たる指導に信望をおき父兄の如くに親しむる。氏は今土木委員、谷地町外五ヶ村水利組合會議員として活躍してゐる。

寒河江町

町會議員 大沼 長兵衛

當家は土地有數の舊家として聞え高く

當主を以て十五代を閱する。染織業を家業とし、代々の人皆業務に勵んで、よく今日の隆盛を築くに至つてゐる。亦、土地の發展に多々協力して、住民の徳望頗る篤いものがある。

當主は先代長兵衛氏の長男として生れ、襲名して長兵衛を名乗る。資性温和醇厚にして誠實真摯、志操頗る固く、責任の觀念厳しく事に臨んでは沈着果斷、必ず初志を遂ぐるの手腕あり、さきに西村山郡耕地整理組合に深く關係して甚大の功績を残し、衆望を負うて町會議員に當選

現在その任にあつて、町の福祉發展に盡してゐる。氏は既に齡六十歳を數へるが老來愈々矍鑠として、壯者を凌ぐの元氣を有し、一意町政に參與して、年來抱負の實現に努め致々として倦まざる精勵ぶりは、町民の齊しく讃へて已まない處である。

氏の令配フジ夫人は、貞淑賢明の譽れ高く、家族すべて十一名、霑々として和氣溢るる團樂をなしてゐる。

氏は曹洞宗に歸依すること篤く、亦、趣味として盆栽に造詣が深い。

西山村海味

西山村 青年團顧問 佐藤 宗一



氏は明治四十一年の出生、本年三十一歳の有爲の士である。かの山形縣選出、國民同盟に屬する佐藤代議

士は氏の伯父、養は、相續者となる。明治大學に學び法政經濟を専攻し業を卒へて家郷に歸る。在學中より經理の事を特に研究、實業界に飛躍せん志を抱き家にあつて農業經營の事に當る。

當家は當村切つての大地主、小作人と間に紛擾らしきもの一度もありし例なく地主の範を以て近郷に聞ゆ。氏は先に西村山青年團長に推され、青年の好學士氣の振興に努めその指導者となりて好評

噴々更に、今日團顧問に懇望され、終始その教導に努む。

西山村郡海味所在、金、銅を發出して有名なる高旭鑛山は氏の經營する所、日支事變に際し金を筆頭とし金屬類の暴騰に著しくその利益顯しといふ。且同村内に水田開墾中にして三、四ヶ年後には三四十町歩の水田となる見込、村勢開拓の一助として村民の翹望する所甚大である。氏は温厚着實、沈着よく重大事に處して動搖の色を見せし事なく、長老青年に似氣なき氏の豪膽を嘆賞す。閑暇あれば明窓の下に淨机に倚り書を繙く氏の將來や實に洋々たるものである。

溝延村

田井區長 日下部 紋藏

當家は代々農を本位とし、先代長藏氏は、村會議員を務め、自治功勞者として知られてゐる。その長男たる紋藏氏は五代目にして、當年七十歳になる。氏は當村に於ける最古參の區長にして



三十代より早くも村の名譽職に就き、爾來三十有年、村政發展の爲に、一身を賭して盡瘁し、現在七十歳の高齡とも見えざる程の、潑瀾たる壯氣を有し、然も謹嚴眞摯なる人柄は、克く區民を指導し、納税の如きは、村内の模範とされ自治制五十周年記念には、村當局より功勞者として表彰されてゐる。曾ては村會議員として四期間勤続し、又農會評議員をも勤め明治四十年に現在の養蠶實行組合を創設の功勞者である。現に區長たるの外方面委員を勤めて居り實に當村に於ける元老として堂々たる存在である。

三 泉 村

消防組頭 渡邊 豊太郎

當家は村内屈指の名家として、その由

緒極めて深きものあり、即ち舊幕時代は代々庄屋の要職を勤めて土地の利福に盡瘁して來た家柄である。家業を農事とし篤農家としての剛えも高い。

溝延村田井

區長 眞木長太郎

先代新吉氏は一代目を繼ぎ、只管新興の家を起さんとして農業に孜々として努力した人である。従つて農事に關しては研究厚く、秋の實り仕事に近隣の話となつた。

氏は新吉氏の長男にして明治二十一年十一月十一日出生、三代目を繼ぐ。

剛健にして體驅堂々農事に鍛へた氏は適齡に至つて美事に合格、歡呼の聲に送られて勇んで入營した。歸りて農會總代となり二期を通じて村會議員となる。

資性恬淡にして物に拘泥せず、男性的な剛毅の人故に村議として人望篤きものがあつた。今區長、養蠶實行組合長に就任世治の事に些の懈怠なく盡瘁してゐる

また父の志を繼いで家業に従事す、家産の豊かならん事に努力す。曹洞宗を信じ、佛和に熱心である。

寒 河 江 町

素封家 椎名五兵衛

當家は土地の舊家、開祖以來四代、一



長男通藏氏

門の人々 生業に勤んで、よく今日の家運を築いてゐる

當主五兵衛氏は明治二年八月二十一日の出生、ひととなり誠實眞摯、責任觀念極めて強く、柔温厚なれども、内に毅然たる志操を抱き、深く周圍より信賴されてゐる人材である。寒河江町役場に奉職すること三十有餘年の久しきに及び、努力精勵、孜々として極めて倦まず、職務忠實ぶりを上下より讃へられ、その間些の過ちなく、誠に吏員中の模範的人物で

ある。

氏の長男通藏氏は勅任官として府中に赴任し、次男歩氏は大連に在り、大陸經營の先驅として献身職務に従つてゐる。尙、當家は前村長椎名氏と親戚關係を保つてゐる。

氏は亦、曹洞宗に歸依して、その信仰極めて篤い。

寒 河 江 町 蓮 寺

當寺は本尊を釋迦牟尼佛とし、曹洞宗を宗旨とする。その淵源は頗る遠く、開山は詳らかにせざるも、開基は佐藤六郎兵衛の奉ずる處となつてゐる。代々名僧智識を出して、土地住民の信仰篤く、當寺の行事に際しては、參詣する善男善女が相踵いで盛大を極める。

當寺の本山は永平寺、總持寺を仰ぎ、本寺として、町内の福泉寺を有してゐる。當寺の境内は約六百坪、建物として本堂々、庫裡あり、寺領として田畑並に山林

若干を算し、檀家は八戸八十を有する。

現住職は明德高識の譽れ四隣に傳へられる奈良崎徹瑛師で、明治十三年九月十九日の出生、開祖以來十五代目に當り、當村民の信望極めて篤い。

谷地町松橋

慈 眠 寺

當寺は永亨年間中條駿河守藤原長國の開基で知仲和尙の開山である。十一面觀世音菩薩を本尊に戴き、鶴見總持寺は本山であり、同じく曹洞宗を奉ず。

遠く歴史を繙き、足利義教時代永亨年間に創設された當寺は老杉老杉畫尙暗く安政年間改築された本堂、庫裡、山門等に配して由緒ある舊寺の莊嚴を偲ばせる毛壇の如く美しく植ゑられた花畑、明治十九年建立の觀世音同二十九年建立の鐘樓はその間を縫うて劫々に趣捨て難いものがある。

寺領もまた多く、耕地七反五畝二十一步、山地四町二百四畝十三歩である。

開基中條家へ鎮守將軍家より賜はりし書類四葉を一幅にまとめたもの一軸、寶徳年中のものと言はれる開祖智仲和尚の自畫賛一軸、開祖着衣の袈裟一杖、古畫中如來三幅、豐臣秀頼の書一幅、達磨像の古畫一幅、古銅不動尊一體、古銅毘沙門一體、釋迦如來木像一體、當時緣起一體等は當寺の誇る寶物である。尙本尊觀世音菩薩は惠心僧都の作と言はれ參拜者をしてその卓越せる藝術に眼を睜らしめる。

檀家百五十戸、中條駿河守の墓提所として近隣に有名である。

住 職
葺原 義正



現任職葺原義正師は本年二十六歳、駒澤大學に佛學の研究を積み禪に精進し佛徒としての將來を囑望されつゝ、昭和十三年四月當寺二

十五代目を繼ぐ。温厚篤學の師である。

高松村八鍬 長 泉 寺



當寺は開基開山詳かならざれども歸依する檀家次第に増加し漸々盛を加ふるに至る釋迦牟尼如来を祀り、

曹洞宗に屬す。當村の素封家大正二年莫大なる資財の寄進をなし開基檀家となりたるものにして、引續き寺院昇格にも盡力をなし、曹洞宗寺院として最高の格式たる常恒會（年二回執行）を執行する寺となせしといふ。
本寺を高櫛の瑞龍院とし、境内面積約五百三十六坪、堂宇建築物凡そ約五百年を経過したりと言はる。
行事に常恒會、江湖會、大般若祈禱を執行す。檀家二百七十五戸。

住 職
宇野 泰音

住職宇野泰音師は當年四十四歳駒澤曹洞宗大學を卒業、佛學の研

鑽極めて深く、宗教批判またよくする所である。當寺の法燈を繼ぐ二十六代目、現宗務所長二期を勤む。
更に方面委員、社會教育委員たり、人格極めて高潔にして近隣の村民より慈父の如く慕はる。師と膝を交へて宗教を論じ、社會を談じる好學の青年訪る、者多し。

直木 丑松 氏



溝 延 村 役 場

農業を第一位に商業、工業、水産業の順に、村民それぞれ従業、精根をこめていそしみつゝ



氏郎太豊野清長村

ある本村の産業は、全く躍進的に進境を見せて、一村の慶福が溢れてゐる。戸數七百餘、人口四千三百弱、小學校の外に溝延青年學校、溝延村圖書館があり、教育會、青年團、女子青年團、婦人會、佛敎會、少年赤十字團等の各種の團體があり、團長並に會長をはじめ、團員會員一致協力、會のため、團のために活動、好成績を示現してゐる。
現村長清野豊太郎氏の父君も亦、村長とし寄與、貢獻する著大なるものがあり且つ縣會議員に當選して、縣治の上にも

偉大な足跡を遺し、今なほ村民並に縣民からその徳をたゞへられてゐる。
豊太郎氏、現職に就任して以來日夜を分たず勵精、村績を高めつゝあり、村民の信望、ます／＼厚きを加へてゐる。

谷 地 町 役 場

本町の民有地は一千四百四十餘町歩、官有地は三百六十餘町歩を擁し、最近の戸數は二千三百余戸、人口約一萬四千をかぞへ、農を本業となすものその大部分を占め、農蠶兼業、水産業これに亞ぐの現況である。

今本町の町長は堀米則吉氏である。氏の家は舊家であり、また地方に聞えた資産家であり、信望極めて大なるものがあつて、町内に殊に重き存在をなしてゐる氏は自ら驕らず、温順且憐愍の情に富み町民の信望を負うて幾多の名、公職を経て、町長に推薦されたもので、町民は、大なる朗待を以て氏の動靜を刮目してゐる

西 里 村

農 會 長 樋 藤 三 徳

樋家は當村隨一の舊家にして素封家と聞ゆる家柄である。代々農を家業とし農事に精勵、模範を垂るゝは勿論乍ら庄屋の名譽を擔うて苗字帯刀の名家としての徳行に於ても師表に出づる事が多かつた。先代三徳氏は村治に盡す所多く、村會議員として活躍、村民の感謝を受けた氏は明治十四年十月出生の先代の男である。戸主となつて家名の三徳を襲名す日露戰爭勃發に際し、砲兵伍長として出征偉軀堂々として戰場に馳驅、多大なるその功によつて勳八等に叙せらる。

戰場にあつて更に宗教心を強め深く眞宗に歸依し、宗祖の教へし他力本願はます／＼信念となつて氏の人格を成すに大なる要素となつた。家郷に歸つて農會副會長、村會議員に就任し、更に助役、軍人分會長等各種の要職にありしが、今農會長を専らにし農事の指導に盡力す。

最上郡

本郡は羽前國の北隅にあり、地形恰も桐の葉のやうである。東西十三里二十八町南北十一里二十七町、面積一五〇方里あり、郡内狹隘ならざれども山地多くして平坦の地少く、ために耕地に恵まれな

い。東は宮城縣玉造郡、北は秋田縣雄勝郡、西は飽海郡及び東田川郡に接し、東南は北村山郡、西南は西村山郡につづいてゐる。

養老元年十月、始めて陸奥出羽按察使官を置いて兩國のことを監察せしめ、同七年九月多治比真人宗主出羽國司となり寶字五年藤原惠美朝臣が陸奥出羽按察使となり、超えて同七年藤原田磨が按察使となつた。往古、東奥を以て蝦夷の巢窟となし或は鎮守將軍、或は鎮狄將軍等をして鎮めしめ、また國司守護等をして治めしめた。寛治年間藤原清衡が奥羽押領使となり、その子孫相嗣て當地方を支配

の産地として知られてゐる。

大藏村

したが、建久年間葛西清重が奥羽奉行となり、後、安達氏、源顯家の一族、葉室中納言光顯等を経、足利氏に附つて最上氏が當國を領するに至つた。延文元年八月斯波修理大夫源兼頼が山形に入部してからは、本郡も同氏の領するところとなり、兼頼の子直家の第六子兼義の子孫が本郡清水に城を構へた。それより七代の孫大藏大輔義氏に至り、宗家最上義光のために亡び、後、新庄に最上氏の家臣日野將監が居住したと傳へられ、天和七年最上氏の除封まで同氏一門の所領であつた徳川二代將軍秀忠の時、戸澤右京亮政盛は最上一郡に村上郡の一部を併せて六萬石を賜はり、爾來子孫相承けて明治維新に及んだ。

本村は最上郡の南部に位し、北に最上の清流あり、また源を月山に發する銅山川（一名烏川）は南境葉山に發する祓川を合せ北流して、要ノ松の所で最上川と相合し、西流する。北は稻舟、舟形の二村、東は堀内村及び北村山郡の一部に接し、南は南村山郡に隣り、西は八面、古口、角川の三村及び東田川郡につづき、三郡六ヶ村に接する大村である。文明慶長の頃は清水氏七代の領地であつたが、後、最上氏に歸し、元和年間戸澤氏の所領となり明治維新に及んだ。大藏なる地名は清水氏七代の城主大藏大輔義親に因んだものである。名所舊蹟に當み、大藏城址興源院、村社八幡神社、肘折温泉、石抱温泉、地藏倉、肘折耶馬溪、小松淵、若水川の炭酸水、御沼等は廣く知られる。肘折温泉は天下の名湯にして、諸病に効驗著しく、殊に骨折に顯著な効果を持つ

てゐる。

大藏村

大藏村役場

本村は最上郡南部に位し、北に最上川の清流がある。清水、合海、南山、赤松四ヶ村の合併村である。慶長年間清水氏の領地たるも同氏没落後、最上氏に歸し元和年間戸澤氏の新庄に轉封せらるゝやその所領となりて明治維新に至る。幾多曲節を経て明治二十二年始めて前記四ヶ村合併、大藏村と稱し、同年六月村會議員を選擧完全なる自治體とす。大藏村の稱は清水氏七代の城主大藏大輔義親に因みたるものである。

本村面積は東西三里十町、南北六里十二町、作付反別二千七百二十町歩餘である。本村民他町村所有地は國有林一萬七千

十六人、男三千六百九十八名、男三千七百五十八名を數ふ。地味比較的肥沃にして農耕に宜しく且副業發達して村民は裕なる生活を營む。

學校に小學校、大藏青年學校あり、就學率誠に良好に、欠席率尋常男三、一六パーセント、女七、五九パーセント、高等男四・〇二パーセント、女八、二五パーセントである。七十一名の教師教育訓練に努め特に女兒の教育に盡す。大藏青年學校また教員十七名、その他の指導を得て銃後國民の訓練をうけてゐる。教育會青年團等あり、その教育熱旺なる事郡下隨一である。

本村は自作兼小作農家壓倒的多數にして四百二十戸、小作農百八戸、自作農九十六戸である。主要産物米を主とし養蠶家畜、各種工場生産物等全産額八十七萬四千圓餘の巨額に達してゐる。

産業團體に大藏産業組合、大藏村水利組合、大藏村農會、最上郡産馬組合大藏區、養蠶實行組合、農事實行組合大藏村

養兔組合等あり、各所に郷倉あり、農事及指道團體として活躍、村民の生活向上のために努む。

直接國稅、四千九百七十四圓餘、縣稅一萬三千二百二十一圓餘、村稅二萬八百四圓餘一戸平均三十圓餘、納稅組合を設け滯納者なきを期し、且納稅に苦しむ村民の肩を安んせしめてゐる。

村政の樞軸村長の他史員及び學務委員十名、保安及安寧に新庄警察署管轄清水肘折駐在所二ヶ所、消防組を以てする、名勝は本郡の地、特に温泉に恵まれ石抱温泉を雄とする。肘折耶馬溪の奇岩九州のそれにも比すべく、若水川の炭酸水の湧出は全國隨一のものとする。

北村山郡

本郡は羽前國の北隅にあり、東は宮城縣加美、宮城、名取の三郡に隣り、西は山地及び最上川を以て西村山郡に續き、南は東村山郡に交はり、北より西にかけては最上郡と境する。東西九里三十町、南北八里、面積三八方里に及ぶ。

東北西の三境は山岳重疊して峻嶺を極むるも、中央最上川流域の地は平坦にして田圃連り土地高燥、且つ地味肥沃である。關東嶺は郡の東南陸前との國境に峙ち、その高峰を風倉山と呼ぶ。嶺に一トネルを穿ち以て仙臺への通路とし、いはゆる關山越がこれである。郡の三分の二は山地である。最上川は郡の西部を北流して米澤市の東を過ぎ、諸川を合せて米澤平野を洗ふ。郡内主要耕地は、殆どその灌溉するところに係り、その沿岸はまた奇勝に富む。

鐵道奥羽線は羽後街道に沿うて天童驛

より來り最上郡舟形驛に至る間、神町、東根、楯岡、大石田の諸驛を置く。縣道は郡内主要町村を結び、バスを通ずるもの多く、交通の便がよい。

生業の主なるものは農業とし、養蠶業がこれに亞ぐ。煙草耕作、工業もまた盛んに行はれる。農産物には米、大小麥、大小豆、蕎麥、煙草、馬鈴薯、粟その他があり、林檎、櫻桃等の果實も少なくな。最上川をはじめ、郡内諸川に於ては鮭、鱒、鮎、鯉の漁獲がある。織物製絲は各地方に行はれ、清酒及び醬油の醸造は縣下に於ても名高く、その他茶種油や杉松桐の良材を産出する。

楯岡町

當町開設の事蹟については記録に徴すべきものがない。只口碑に傳はる處によれば、往昔最上川水路開けず、當地方一

東根町

體渺茫たる湖水をなせる當時、山の根なる湖岸の道筋に村落の生ぜしもの、抑も常楯岡町の始めにして、其後僧行基古川を開き、水路を通ぜしより、陸地表はれ漸次人家増加するに至りしものである。承元年間前森氏楯岡城を築いて入城以後、本城、最上、山邊の諸氏を経て楯岡氏に至つたもの、楯山に築城以來城下に一の部落を爲し、之を本郷と稱した。その後阿部、秋元氏等の所領となり明治に至つたものである。明治三年山形縣に置かれるや楯岡湯澤は第五大區二小區の所轄となり、次で第三大區三小區、二十二年町村制實施後楯岡湯澤を合して楯岡村となり、二十五年楯岡町と改稱し今日に至つたものである。

郡の南部に位し、東南は本郷、山口の二村に接し、東北は大富、小田島、西郷の諸村及び楯岡町につき、東北は山脈を負ひ、西南一帯は耕地拓けてゐる。郡

内第一の都邑で、且つ東根温泉を以て世に知られる。

地味は肥瘠相半ばし、商工業のほか農業も盛んに行はれ、穀物、蔬菜、煙草、果實等を産し、養蠶も隆盛である。大字東根は秋田街道及び宮城街道の要衝にあたる。鐵道奥羽線は町を南北に通じ、神町、東根の二驛を置き、神町驛よりは輕便鐵道が分岐して西村山郡谷地町に通じてゐる。

高崎村

本村は北村山郡の東南部に位し、南西北は東郷村及常盤村、東は宮城縣宮城郡及び名取郡に接し、東北方は山を負ひ、西南は平地に屬する。大字は觀音寺、名和新田、大江新田、關山の四川に分る。面積一二六軒餘、平地は全面積の七分の一である。

本村の主要産物は、米、繭、葉煙草、薪炭である。

本村は明治三年山形縣に屬し第三大區

第三小區となり、同五年名主を戸長に改めた。同十七年七月四ヶ村を合し、觀音寺外三ヶ村組合戸長役場となり（戸長岡田清八郎、村山和十郎就職）同二十二年四月町村制實施と、同時に高崎村と改稱し、今日に至つたものである。

小田島村

本村民所有の田は二一八町二三〇六、畑三一八、九八〇三、宅地一一八、一一坪、山林五、三五〇三、原二二、七〇六一九である。

現在戸數は六三六戸、内、男二、〇二八、女二、〇五一、計四、〇七九人で本村民は、農業を主とし、副業に養蠶を營んでゐる。小學兒童の就學歩合は、九九パーセントで良好である。

神社四、寺院一〇、を數へる。

當村村長は石垣吉藏氏で、助役缺、收入役に奥山八藏氏が當り、書記五名、學務委員七、區長七、村醫一、學校醫一、村會議員は定員一二名の處、現在は一〇

名である、戰時體制下の現時局をよく認識し、村長以下村民一體になつて、銃後農村の護りに鋭意盡瘁してゐる。

長瀨村

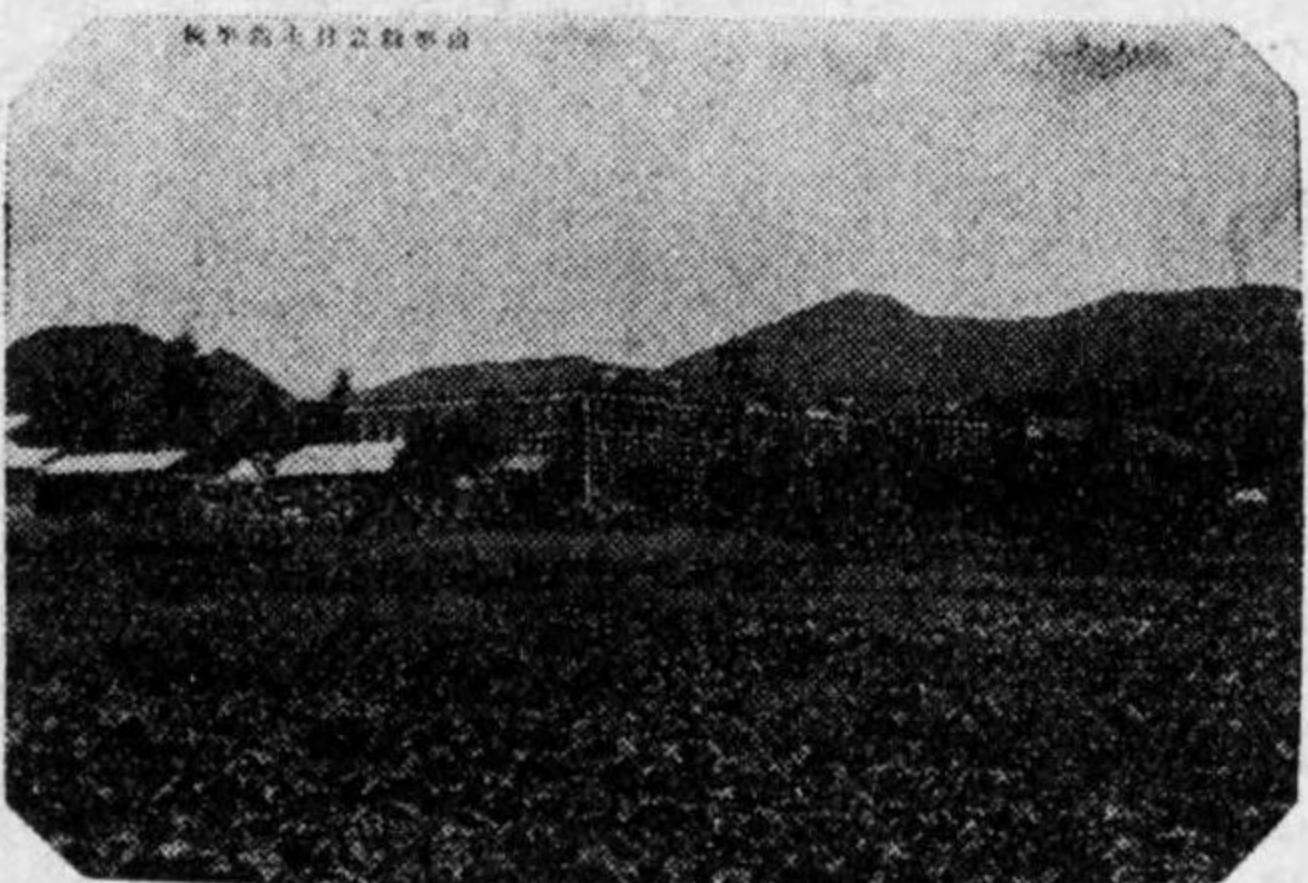
往古の起源は遼焉知る由なし。嘉吉年間按察使將軍源義家の居られし所なりと云ふ。嘉吉以降元和に至り、百七十餘年間事蹟の徴すものなし。元和元年より寛永五年まで鳥井家の領地となりしも、鳥井家沒收後更に幕領となり、寛永十三年より同二十年迄保科家の領地となる。同年保科氏會津若松移封後再幕領に歸し、寛政元年に至る百四十五年間代官廳を本村に置き、幕領の村落を管轄せり。同年十一月米津家の所領となり、維新に至り明治三年山形縣の管轄となり、第三大區第二小區となる。郡區政の際北村山郡に屬し、二十二年町村制實施と共に相澤村傳長新田を併せ、長瀨村となり、今日に至る。

楯岡町

楯岡町 村山農學校

最上川に近く村山平野を一時に收むる村山農學校は農村青年指導の抱負を以て設立された學校である。

本校は明治三十三年二月二日北村山郡



初め農科百二十名蠶科七十名、豫科三十名の就學入員であつたが漸次改革、昭和

十三年四月學則を改正し、曾て大正九年設立され、後甲種程度となつた林業科及農業科を綜合したる農蠶科養蠶科の二科とし、定員三百六十名と改めた。

勅語謄本は明治二十九年七月下賜を受け、昭和六年四月十八日、今上陛下及皇后陛下の御眞影を下附せらる。

立農學校 校地總坪數二萬六千三百坪、校舍建坪一千五百三十二坪、屋外體操場三千三百坪、一人當坪數十坪である。實習地田畑山林共十五萬六千六百五十九坪、他に十七名を收容する寄宿舎の設備がある。

- 一、村山平野一眸の中に收むる我が母校天高うして地は廣し國の基の農の道
- 二、國の楯たる楯岡の西は最上の川近し川を隔て、眺めやる葉山は雄々し漂渺の北は鳥海雲に入る
- 三、其雄麗の山と水
- 四、春秋移る三ヶ年

「希望」は高きつ「光榮に」

小田島村

小田島村役場



秋葉助役

本村は郡の南部に位し、東は東根町西は谷地町南は大富村、北は長瀬村に隣接する北に白水川、南に野川の流れを控へて、地勢概ね平地をなし、地味肥沃にして田畑が多い戸數六百五十、人口四千餘を算し、住民の多數は農業を営み商業及び工業に従事する者多少あり、おの／＼業務に勵んで平和境をなしてゐる。

主産物は、米、大麥、小麥、大豆、小豆等とし、副業として養蠶も盛んに行はれる。交通は國道通じて極めて便利よく教育、衛生その他の設備亦整つてゐる。村の經濟状態は良好にして、尙一層の發展に努めつゝあり、村長以下自治に携は

る者は献身の勞を致して、産業の振興に盡瘁してゐる。

當村には社寺多く、八幡神社、野田稻荷神社、島大堀稻荷神社、春日神社（以上いづれも村社）大昌寺、開源寺、天崇寺、長命寺、密藏院、常光寺、常福寺、正福寺、養運寺、延壽院等があり、その信徒の歸依、またなか／＼深いものがある。

建物には役場をはじめ、小田島郵便局等があり、村農會、信用購販組合などの機關またよく發達して、村民の利福に資してゐる。

戸澤村

戸澤村役場

當村は戸數八百二十七戸、人口男二千五百四十一名、女二千五百八十六名、計

五千二百二十七名を算する。當村は比較的地味豊饒ならず、而も天候に恵まざる時は、不作の困苦を怗むる事まゝあり。昭和十二年度に於ける氣候不良、また開花期降雨多量、且冷害の氣味にして米作收穫高少く、更に財界不況のため出稼者が多かつた。滿洲南米等に移動する者亦少くない。

作付反別を見るに粳米三百三十一町餘收穫高十千九百七石、一反歩收穫高二石三斗餘、作付糯米十九町餘、收穫高四百二十一石、一反歩收穫高二石一斗餘でありその總收穫高八千八百八十一石、二十六萬四千五百圓、單價二十九圓九十三錢を示す。他主要生産物として蠶繭五萬五千六百八十一圓、木炭一萬一千百七十五圓がある。

更に菓製品二萬一千二百五十三圓を數へ、その他家畜家禽の類がある。而して人口動態を見るに生三百二十五人に對し死亡百十三人を數へ、中八名は傳染病チフテリア患者たるは考ふべし。

また救護法該當者七戸その金額四百四十五圓 貧困患者施療券下附八十三枚であつた。

かゝる村勢にして尙就學兒童尋常科八百二十九名、高等科百六十二名、尋常科に於て男女約半々なるも高等科に至つては男百四名に對し女五十七名を算する。委託兒童百二十三名、青年學校普通科計三十四名男八名に對し女 十四名は珍らしき現象ながら、本科に至つて男百一人に對し女四十九人、研究科に於ては男九人に對し女五人を數ふ。

斯の如く村勢の發展當局の思ふ如くならず、村長齋藤源之進氏初め村會議員、學務委員諸氏、小學校建設に、土木事業に納稅督促に、産業開發に、銃後の團結に、孜孜として奮勵、その苦心膽に銘するものが多い。

高崎村

高崎 郵便局長

佐藤好之

同郵便局は明治十六年七月一日に開設

して以來同地方の郵便通信の爲めに太く

貢獻して來たが、現局長佐藤好之氏は既に三十五年の永きに亘つて勤續してゐる篤學俊敏の士である。即ち同氏は山形師範學校卒業後、青森縣營林局に勤務して山林に關する研究も積んだが、後歸省して郵便局長に就任したのである。

氏は常に通信網の擴充こそ村の發展に貢獻する重要な資であることを思念してその職責に盡瘁し、爲めに同局の事務は逐年増加して、その他年金、簡易保險等も異狀な好成绩に進んでゐる。現在氏の外に同局の事務員は三名であるが、何れも氏の主旨を體して勤勉努力にいそむ人のみにて、同局の名は名局長の名と共に高まるばかりである。

楯岡町

楯岡信用販賣購買組合

本組合は大正六年の創設にかゝる。組合員一千三百八十餘人、出資拂込總額、七萬四千二百五十餘圓、準備金四千九百

拾三圓餘である。

昨年度の事業狀況は、數年來の氣象の變調に伴ひ種々の災害起り、爲に自ら金の買控へとなり堆肥其の他割安なる肥料を購入するの狀勢にて、次に米價は年度内大體、俵拾貳圓を維持してゐたが年末には拾參圓を示した。當地方一般の生産額は豫期に反し、前年度より増收をなし、需用地に於ける市場の聲價は前年度に比し好評にて、四等米の賣行良好、販路も遠く名古屋、京都方面に進出するに至り、蕪市場は、尾花澤分場を開設したが晚秋蠶の不作は遺憾であつた。然し市場の取引は顧客の來場と價格の好調にて各期とも順調に推移し、取引、乾燥、保管の數量共に急増し、農村工業は第二年度に當面したが、昨年七月よりの支那事變に依る物價騰貴に伴ひ、絹製品の賣行好調にして加ふるに軍部の支持を受け特定品の注文を命ぜられ、その作業日數も相當永く好都合の経過を見たるも、組合員一同の協心努力の結果に依るものに

て、今後益々充實發展を期せんとしてゐる。

尙本年度總益金は四萬千八百拾餘圓、總損金は三萬七千四拾餘圓、剩餘金四千七百七拾餘圓にてその處分は、準備、配當次年度繰越金に當てられた。

組合長

大山利兵衛

氏は剛毅果斷また精勵なる努力家にて、組合長就任以來、その發展に多大の貢獻をなし、組合内の融和統一、組合員の擴張に勤め、衆望を擔つてゐる。

小田島村

小田島信用販賣購買組合

本組合は小田島村民一同の利用機關として、昭和十一年十二月の創建に係り創立以來日淺きも、その間よく堅實な發展を遂げ、現在組合員總數二百六十五名出資金額一口二十圓として總額八千四百圓に達し、利用區域は當村一圓に及んで、大いに村内の福祉に資し、業績累進の一

途を辿つてゐる。

當組合の設備として農業倉庫一棟その他がある。

組合長

石垣清藏

氏は先代吉藏氏の子息として明治二十年十二月の出生、家は土地の舊家として聲名高く、殊に嚴父吉藏氏は、現に村長として顯著な治績を擧げしを始め、數々の公職に歴任して徳望全村を蔽うてゐる人格者である。清藏氏も亦嚴父の教へに従つて早くより公共事業に獻身し、多くの功を樹てゐるが、殊に消防に關係すること深く、盡力二十年の久しきに及んで現在消防組頭の位置にあり、殊に小田島信用販賣購買組合の創立に當つては、多大の勞苦よく今日の鞏固なる基礎を築くに至り、名組合長としての譽れが高い。氏は趣味として釣を好んでゐる。

東郷村

東郷村長

太田幾右衛門

當家はその由緒正しき家統を傳ふる事既に三百年村切つての門閥の家として知らる。代々何れも村長の榮職に就いて來たと云ふ亦村内屈指の素封家資産家でもある。その偉業の一つを語るものとして、同家は最近村の小學校に金一萬圓也を寄附して、その費用で御眞影奉安殿を新築した外猶同家の所有田畑一町歩を提供して、生徒の實習地とするなど、その眞心よりなる村への貢獻實績は枚擧に遑がない。

村の代表者と云ふのが、最も同家に當て嵌つた言葉で、代々残して來た功勞は實に甚大である。

現戸主幾右衛門氏は、この名門に育つて先代の名を襲名した英邁の士であるが當年六十四歳の年長者として多年の經驗を村治に生かして現村長の地位に在り、政友會の地方名士に數へられて、その手腕力量と該博なる知識と圓滿なる思想は村諸般の上に反映し、名實共に村の中心勢力たる巨材である。

而も名家の當主として齊家修身に勉め村民に接しては懇切丁寧、その篤實なる人格は村の慈父として敬慕されてゐる。爲めに現村長の外に農會長、信用組合長を兼務し、極めて多忙なる日常を持つにも拘らず氏は常に「健全なる村にこそ健全なる發達がある」の信念を體して、常に村内の指導者たるの精神を過らない此の如き人材を擁してゐることは實に村治の爲めに喜ばしい。

小田島村

小田島村長 石垣 吉藏

當家は由來ある土地の舊家して、農を以て家業とし、歴代の人物業務に勵んでよく今日の家運隆盛の基礎を築くと共に廣く村の發達に、盡して來たが、殊に先代吉藏氏は當村長として徳



此の度村小學校火災に逢ふや、氏は逸早く私財一萬圓の多額にのぼる寄附をなして、校舍再築を迅速ならしめ、その奉公を村の内より讃へられてゐる。氏は亦眞言宗に歸依する事極めて篤い

望極めて厚き人格者であつた。

當主たる氏は、その長男として生を享け、襲名して吉藏を名乗るに至つたもので、頭腦秀抜にして天性熱意眞摯の人、父祖の血を繼いで公共犠牲の心深く、亦實行力に富み明敏な手腕の持主である。村山農學校を優秀な成績を以て卒業のち、その學識を農事耕作改良の上に齎らして、産業の振興に資すること多く、亦村政の整備を希つて種々肝膽を砕いてゐる即ち、農會長、村會議員に現任して功業少からざる他、衆望に應へて村長に就任よく村民の期待に副うて、名村長の名を擅にしてゐる。

此の度村小學校火災に逢ふや、氏は逸早く私財一萬圓の多額にのぼる寄附をなして、校舍再築を迅速ならしめ、その奉公を村の内より讃へられてゐる。氏は亦眞言宗に歸依する事極めて篤い

富本村

富本村長 大沼 潔

同家は村屈指の資産家であり、亦家門も古く、篤農家として同村に範を垂れてゐる。その名家に人となつた潔氏は明治十三年生れの經驗豊かな村の指導者で、今猶壯者を凌ぐ元氣をもつて村長の要職を果しつゝあるが、責任感が強く、何事に對しても至誠を披瀝して當る氏の自信力には、氏は身を軍籍に置き、嘗て日露戰役に出征し、奉天戰に轉戦して、名譽の負傷を受けた赫々勳六等歩兵中尉の榮譽に輝く閱歷の持主である。日本精神の實踐的體験者として村銃後の誘掖指導に貢献する處極めて多大である。又當村在郷軍人分會の設立に當つては率先して盡力し設立以來實に三十餘年間の長年に亘つて分會長に推されてゐる名譽の人である。更に氏は武人、政治家であるばかりでなく、村の産業振興にも絶大の盡力を惜しまず、就中同村の特産物である草履を村外に販賣させる爲めに設立された草履組合の組合長ともなり、現下農村經濟の打開進展に盡す處大である。氏は當村經

濟更生方針の参考書も著述して同地方切つての經綸の士として知名である。氏の存在こそ、眞に村にとつての重石、今後の富本村は氏の手腕に期待するものが實に多い。

楯岡町

楯岡町助役 伊豆倉精治

當家は土地の舊家にして、開祖は六代前に遡り、農耕を以て家業とする。傍ら養蠶を營み農村に於ける主要副業たる斯業の改良扶植に努め、寄與する處頗る多し。

當主精治氏は先代庄治氏の子息として明治二十三年六月十五日の出生、幼時より頭腦明晰にして周圍を驚かし、長じて楯岡農學校に入り、拔群の成績を以て卒業ののち、修得せし知識を郷里に齎らし養蠶の振興、農事耕作改良等に大いに盡す處あり、その熱意献身は廣く全町民より信望を受け、さきに郡農會長の要職に就いて功績甚大、よく地方の産業を興隆

に導いて賞讃されてゐる他、推されて町助役の樞位に立ち、町長を輔佐して職責を謬らず、よき女房役として村政運用の實を擧げてゐる。

因に當町は、往昔僧行基の基礎を拓けるに始まり、のち承元年間に至り前森氏楯岡城を築いて入城して以來、戸口累増の一途を辿り、明治維新後市町村制實施當時は村であつたが、明治二十五年三月町制施行、爾來發達著しく今日に及んでゐる。面積一方里、戸數一千五百、人口九千を數へ、衛生、教育、交通その他の設備よく、水道布設され、殊に財政状態よく、納税良好なるは、町長、助役以下の盡力多大なるに依るものとして、廣く縣下に讃へられてゐる。

長瀬村

長瀬村助役 小野 留吉

當家は代々農業に精勵せる家で、當主に、十代を重ね、當村有數の舊家である。嚴父文次郎氏は、區長に推擧されし

信望家で頭腦慧悟にして、敬虔な性格を持ち、頗る威望あり、村治にも尠からざる功績を残せし人である。

氏は明治六年五月二十三日に生である先代文次郎氏の長男で、夙に父君の指導の下に熱心に家業に従事した。其間、氏は村政に深き關心を寄せて、蘊奥を極め廣博なる知識を得た。

従つて村民はその篤學を惜みて、氏を收入役に推擧し、自由に、才腕を揮はしめしため、縦横に智略を逞しくして、見事、業績を顯し、二十三年間の久しきに亘つて勤績した。その功により、現在は助役に就任してをり、粘り強い意志と鋭利な智力とを以て、村長を輔佐し、農村の發展策を献言して、村長の穩れし智囊として存分の活躍をつとけてをり、當村知識階級の代表者と目されてゐる。氏は政友派に身を投じて、縣下の政界にその特異性を顯はれてをり、時宗の熱心な信仰家としても知られし人である。家庭は氏の人格を反映して圓滿である。

楯岡町

北町郵便局長

佐藤勉

氏は明治三十六年一月十九日に實父仲



造氏の長男として誕生

した。同家は代々英俊なる材幹を出して舊く

村は村礎の確立に貢献して來た傳統の舊家である。氏の祖父嘉集氏は村政に關與してその確乎たる手腕を謳はれた一方、元村山銀行の楯岡支店長として財政經濟に通じ事業家としても敏腕の名が高かつた人である。

その祖父及び實父の血を享けた勉氏は村山農學校を卒業後、篤農家として農事の改良開發に研究努力を積んで、村の産業に貢献し來たが、當年三十六歳の壯年を以て北町郵便局長の要職に就いてゐる俊器である。氏の面目はその卓越せる精

神力にあり、最も有望視されてゐる將來

の村治の重石であることは勿論であるが氏は一人一業主義を信條として郵便局長としての責任ある職責を遺憾なく遂行し銃後農村の安定の爲め大いに力を致してゐる。

北町郵便局は同地方の通信機能を掌握して同地方の發展に資すること甚大であるが、その局長としての氏の主宰振りには眞に敏活なる好成绩を擧げて粗漏がないその他方面委員の多忙なる仕事も兼務して土地の救済方面にも盡瘁し、その疲れを癒す趣味として植木を愛好する氏の一面は、又勤嚴なる神徒として、信仰も極めて篤い。

東根町

町會議員

横尾權三

産業組合長

七段歩に餘る廣大なる屋敷に、母屋の外倉庫も三ヶ所に在る豪壯なる邸宅を構へ素封家として近郷にきこえてゐる當家は、凡そ六代前に當地に分家創立したも

のにしてまた由緒ある家柄である。

先代權七氏は多年村會議員及町會議員に在職、當町の村時代より自治、産業の向上發展に貢献裨益せる處甚大にして、當町の功勞者として信望厚かりし人であつた。その後繼者として明治十六年八月十八日生を享けたる當主權三氏は自ら長者の風格をそなへたる温厚篤實にして、高邁なる精神を持つる活動家にして、幾多公職を歴任し頗る功績があつたが、現に産業組合長、町會議員、學務委員を兼任して農民に對し農業倉庫の使用獎勵を始めとし、町治、産業、教育に盡瘁して寧日なき傍ら、東根銀行監査役として實業界にも活躍し地方産業經濟界の指導者として敏腕を揮つてゐる。政治的には全く嚴正中立の立場にあり、事に當り社會の福祉増進の見地より批評行動せんとする町産業指導者として健實なる態度をとつてゐる。また氏は多趣味の人として知られ、謡、圍碁を良くする其家庭は頗る圓滿、十六名の大家族にして使用人も三名

ある。

因みに氏は曹洞宗に歸依すること深く信仰心極めて固く。

東郷村萬善寺

村會議員 奥山高三

氏は孝三氏を實父として明治三十六年四月十二日に呱呱を擧げた未だ三十六歳の壯者であるが、既に村會議員の一人として村治に携つてゐる有爲の士である。實父孝三氏も今猶健在で同村の專賣所出張所の所長として勤勉して居り、嚴父に仕へて孝養怠りない孝子としても氏の人望は隠れなきものあり村に重きを爲してゐる。

氏は現村會議員としては未だ一期目であり、その今後の手腕力量こそ期待される譯であるが、その他消防部長、青年團長の要職も兼ねて、氏の熱血なる愛郷心は、村の模範青年と讃へられて村青年子女の指導誘掖に力を致す處多大である。氏の村治に對する意見は、稍々ともすれ

ば偏狹に傾き易い村長の公選に對して、村民全體の投票でなければならぬ、と村長公選論を力説してゐること、これは村治の確立、引いては圓滿なる村の發展の爲めにも、絶対に必要なることで、この氏の意見は村民の拍手を博し、先づ

以て村政治の改革と云ふことが、氏の提唱によつて爲されることを皆期待してゐる。その公明なる思想を持つ氏にこそ、將來の村治を司る人として、絶對の信頼が置かれる譯である。誠實正義こそ現時日本の最も強き根柢たるべき事を認識せる處に氏の所論は存する。

小田島村

村會議員在郷軍人分會長

鈴木文助

當家は村内の舊家にして、家業として雜穀、肥料を營み代々業務に勵んで、よく今日の家運を築くに至り、當地方の資産家である。

嚴父文助氏は勇武濶達の人物で、日清日露の兩戰役に出征し、各地に轉戦、赫

赫たる武勳を樹て、凱旋ののち、勳八等に叙せられてゐる勇士であるが、郷にあつても亦、公共献身の勞を致し、村會議員、農會總代等の要職を勤めて、數々の治績を残し、廣く全村民より尊敬されてゐる。

當主文助氏は、その長男として、明治三十五年九月二日の誕生、尊父の血を享けて資性濶達豪毅志操頗る固く、亦至公至誠の人物である。さきに入營して砲兵少尉に任ぜられ、村に戻るや一身を捧げて郷軍の指導に當り、在郷軍人分會長を務めてゐる他、選ばれて村會議員に立ち村政に多々寄與してをり、學務委員として教育方面にも關心を寄せ、更に消防副組頭として、村内防火の重任に當り、如上の各職務にいづれも精勵努力その間の功勞淺からざるものあり、父君に次いでよく衆望を集めてゐる。

氏は曹洞宗を信仰すること篤く、亦好んで讀書を趣味としてゐる。家庭また圓滿を極める。

長 海 村

村會議員 奥山 惣助

當家は六百年前よりの舊家である。この地に來し時より代々開墾事業に盡し、



鬱蒼たる大樹を切り倒し、鋤鉞を入れ耕作し地味豊かな熟田とな

す等、並々ならぬ苦心を経て漸次今日の村勢開發の基を築いた篤農の家である。常に村の代表者となり、近隣との交り親子の如く、その關係今に至るまで變らぬ情宜を保つ。されば本邦古來の美風家族主義は自ら繼承され、氏族の上ならぬど、かゝる精神は村人の心に籠つて當家の指導力は不文律の如き習慣がある。

氏は先代喜市郎氏の男、本年五十五歳である。村山農學校卒業家を繼いで農を營む。在學時代より研究心旺盛なりし

氏は實地につきては更に加はり年一年その効果に見るべきものが多い。農村の發展は只々耕作の改良のみならず、その販賣の如きは實にその鍵を握るものとの意見を有してゐる。村政に對しても注意怠りなく、村會議員二期を通じ、學務委員三期 方面委員二期いづれも氏の敏腕に俟つ村民の衆望に依るものである。

温厚篤實、眞宗に歸依し同情心深き氏は特に方面委員の最適任者として知らる。氏は農民の生活安定を希む小作料の苦壓を免れしむるものとして制定されし自作農創定法を支持し、その實際的統計をとり、その實現に盡してゐる。

大 久 保 村

村會議員 仲島 作治

當家は作治氏の嚴父平治氏が初代として新たに一家を創立したるを以て始まるもの、平治氏は一家の創立者として家業たる農業に精進し幾多農事改善を企圖して實績多く篤農家として知られた人、仲

島家の基礎を確立し子孫の爲め計る處多かつた。當主作治氏は平治氏の長男として明治廿三年七月に出生、家督を受け繼ぎ耕作方法の改良、自給肥料増産、農産品種の撰擇研究また篤農家としてきこえ先頃村農會總代として村産業の向上發展に頗る顯著な功績を残し村民の信望を擔ひ推されて村會議員たること二期に及ぶ

村政に參畫して村民の福祉増進、村勢の發展に貢献する處甚大、漸く村會の中堅人物として氏の存在重きを加へてゐる氏は磊落明朗にして細事に抱泥せざる。努力家、政治的には政友會の系統に屬するも、事に當つては正義に基き批判行動し一黨一派に偏せず信頼し得る人として衆望あり、門徒宗に歸依し信仰心堅固なるを以て知らる。其家庭は和氣藹々として團樂の有様近隣の羨望する處である。

富 本 村

村會議員 松田 藤作

當家は祖父以來長く村政に寄與せる功



績は蓋し甚大なるものあり、特に嚴父職治氏は多年消防組頭を務め

て消防組織の發展には、非常なる役割を演じた人である。

當主は嚴父職治氏の男として生れ、現在四十五歳の動き盛りである。青年時代は豪放不羈の精神を以つて鳴らした、歩兵上等兵で、青年訓練の指導員として、農村の青少年に、堅忍不拔の精神の涵養に務め、協力一致を奨励して、村民よりその眞摯な態度を賞讃され、消防部頭の要職にあること二十數年に及び、表彰を受け、又在郷軍人會副分會長を十數年務めて、聯隊區司令官より表彰を受けしこともある。嘗て農會議員の要職にありて顯著なる功績を残し、現在は村會議員三期に就任してゐる。

尙、家では煙草小賣業と、駄菓子、酒

等の販賣を營み、夫人は淑やかな愛想好き人たるため家業も頗る繁昌してゐる。長男は、師範二部を卒業し小學校に奉職中で、次男は家業に精勵してゐる。又氏の令弟は中學校教諭で、令妹は二階堂體操學校第一期卒業生である。

戸 澤 村

村會議員 笹原 茂平治

當家の家臣は十四代前までは明らかにして、其以前は詳かでないが、部落隨一の由續久しき舊家である。歴代郷村の福祉増進に献身裨益する有爲の士を出して來たが、先代徳治郎氏もまた多年に亘り村會議員、學務委員の要職を歴任し村政の向上發展に功績があつた。殊に日露戰役當時村助役の職に在り、銃後農村の治績に顯著なる功績を擧げ、勳八等を賜はつた。村治功勞者であり、村民の信望實に厚いものがあつた。

當主茂平治氏は稀に見る圓滿高潔の人格者にして高邁なる精神の持主、推され

て村會議員の任に在ること既に四期に及び先代徳治郎氏の遺忠を繼ぎ、村政に參畫して貢獻裨益する處甚大にして村會議員中の元老組として、氏の存在益々重きを加へてゐる。氏はまた、稲下山林組合長稻下水利組合議員も兼ね村産業の向上發展に盡瘁し村民の福利増進に頗る顯著なる功績を残してゐる。

氏は元來政友系の人、さりながら一黨一流に偏せざる誠心雅量あり、また信仰心頗る篤く曹洞宗に深く歸依すると共に氏子總代として敬神觀念の振興に資する處あり、銃後國民精神總動員にも盡力しつゝある。氏は明治八年八月十八日の出生。

長男茂平氏は山形師範出身の廿二歳の秀才の譽高き人、現に楯岡小學校に奉職して子弟の訓育に精勵し其教育事業への眞摯なる精進は多大の信頼と囑望を以てせらる。

因に當笹原家は和合繁榮の一家と知られてゐる。

楯岡町湯澤

町會議員
勳八等

佐藤 才七

先代乗吉氏の長男に生れた氏をもつて六代目の當主とする當家は、代々町の功勞者として重きを爲して來たが、當年六十歳を數へる才七氏、亦町政に携つては非凡なる才腕を以て臨み、町の重石と尊敬されてゐる至誠篤實の人である。

日露戰役には衛生看護卒として隠れたる勳功を残し、爲めに勳八等の叙勳は氏の名譽を語るものであるが、その軍人精神を基體として町治に盡瘁しては良く町の發展町民の安寧を守つて遺憾なく、現在四期に亘つて町民一致の支持を受けて町會議員の職責を果しつつある。政友會に屬する誠實の人たり、地方政治家としての氏の手腕と人格とは好評嘖々たるものである。

その他大倉溜常設委員としてその方面にも貢献多く、氏の手腕に俟つ今後の町の發展こそ、村民の等しく望んでゐると

ころである。

東郷村泉郷

村會議員

留場 富太郎

同家は當主をもつて第九代目を數へ、代々農事に篤い至誠の人を生んで、同家の名は同村に重きを爲してゐる。

氏は明治三十一年七月十日生れの未だ前途多幸なる活動力に富む實踐者で、嘗て滿々たる抱負を提つ下げて滿洲方面の視察旅行をしたこともあり、その旺盛なる闘士をもつて村治に關係して數々の實績を残して來てゐる。現在村會議員の外は信用組合理事、農會評議員の肩書を有して多忙、寧日なく、政友會に屬して地方に重きを爲しつつ、其の眞摯の態度と清廉の人格は確固たる地盤を占めてゐる。氏の實父彌三郎氏も亦嘗て村治に携つて、村會議員たりし人、その實父の名を恥かしめず、家門を中興して烈々たる闘志に燃える氏の前途こそ、村治の中堅者として囑望され、家庭亦極めて圓滿であ

る。

小田島村

村會議員

前田 新藏



當家は開祖極めて古く、遠く四百年前の往昔に遡る村内屈指の舊家である。代々の人皆家業の農事に勵ん



で、よく今日の資産を築いてゐる。亦、村の發達に寄與する處多く、村内の人望を集めて來たが、殊に先代新藏氏は、天性業に勝れ識見卓抜にして自治公念厚く、選ばれて村會議員に立ち、更に興望を負うて村長に就任、寢食を忘れて村の福祉を圖るに努め

大いに經綸を行つて、全村民より畏敬讃仰を受けてゐる人格者である。その功業の如きも枚舉に遑なく、今日小田島村の隆盛に向ひつゝある基礎は、偏に氏の努力に依るものとして、その聲價廣く近郷一帯に聞えてゐる。

當主はその長男として、明治六年二月十日の出生、尊父の資質を繼いで質實重厚、公德心に富み、献身犠牲の精神深く村政に參画して多々功業を残し、村會議員に擧げられるや抱負の實現に熱意盡力現在尙その任にあつて愈々奉公の至誠を致してゐる他學務委員の要職を務めてよく職責を盡してゐる。

富本村

村會議員

布宮龜久四郎

當家は代々村政に甚大なる貢獻をなせるため、その赫々たる業績を以て、家名を謳はれてゐる。先代勝治氏は町村制布かれて以來、死去する迄、村會議員に當選した人で村治には秀れし識見を持ち、

その豊富なる經驗と、堂々たる貫祿を以て村會に君臨し、全生涯を擧げて、當村の開發に最善の、努力を重た當村の功勞者であり、第一回の郡會議員にも當選したことがある。

氏は當年四十六歳で、農事に精勵する傍ら、最近は大物難貨商を營み、開業の日淺きに拘らず、信用厚く、商賣は殷賑を極めてゐる、萬事に中正を得た人で、温厚なる性格を持ち、村民の名聲絶大なものがある。

現在は父君の後を襲ひて、村會議員に當選し、村會の中心勢力となつて活躍をなし、その卓見を謳はれてをり、又方面委員の要職にも就任して、遺憾なき努力を重ねてゐる。

家庭には六人の子供あり、皆秀れし才能に恵まれ、その將來には洋々たるものあるため、薰陶に熱心に意を注いでゐる

戸澤村

村會議員

井澤 茂



當村の由緒久しき家柄たる笹原茂吉氏の五男として明治二十年八月に出生したる、氏は井澤家に入つて家

統を繼ぎ其五代目の當主となる。

氏は資性豪放磊落、明朗潤達にして元來民政系の人と目されてゐるが事に當つては、終始公平無私正義感に従つて行動する人として信望篤く推されて村會議員たること二期、村會の中堅人物として其妥當公正なる論議を重ぜられてゐる。また經濟的才腕をうたはれる氏は、養蠶實行組合長、村農會評議員、稻下水利組合議員として村産業の發達、村民の福祉増進に貢献する處頗る顯著なる功績を擧げ長期聖戰下銃後農村に於ける其活躍に多大の期待を寄せられてゐる。

氏は時宗に私淑し、其信仰心厚きを以てきこえてゐるが、其家庭また頗る圓滿

にして常に和氣霽々として團樂の有様は人の羨望する處である。

東郷村西道

村會議員 前田 吉太郎

立忠傳中の人と云ふのが、前田吉太郎氏に對する村民一致の定評である。氏は



貧困の家庭に生れて、學を修むることさへ困難であつたが荷車曳き

などをして獨學力行し計數に長じ齋家修身の経程に努め遂に今日の地位を得た成功者である。本年七十一歳の高齡に達して、尙斐樂氏の仁徳に輝く風格は益々靜穩雅趣の境地を美しいものたらしめてゐる。苦勞人としての氏の後輩及び村人に對する指導振りは村の長老と思慕されるに充分なものである。而も家業に親しんでは、亦よく商才に

長じ、事業の機を捉るに明敏同村の産業の開發伸展に貢献し、村治に携つては現村會議員として既に三十五年の長きに亘つてよく實績を收め、及び學務委員としても、同村の教育界に並々ならぬ功績を残してゐるが、一見好々爺然たる氏の篤實なる風貌は、村の至寶として力強き存在となり、氏の立忠傳は村民に語り傳へて長く村の誇りとなるものである。

小田島村

村會議員 浪波 長治

當家は土地の舊家にして、代々米穀肥料を以て生業としてゐる。

當主長治氏は、先代長藏氏の子息として、明治二十二年十二月一日の出生、性格豪毅にして志操固く、さきに入營して歩兵上等兵たり、郷里に戻つて多々村政に献身、選ばれて村會議員となり、現在その二期目を務めてゐる他、農會評議員在郷軍人分會役員として功多く、尙、消防に深く關係して村内警火に努めること

十五年の久しきに及び、その功勞を廣く村民より感謝されてゐる。

氏の子息義男氏も亦、嚴父の血を享けて俊英の才幹、現に青年團長として、村内青年の範とされ、その前途を期待される人物である。

氏は眞宗を篤く崇敬し、亦、好んで讀書するを趣味としてゐる。

宮本村

村會議員 海老名 安度

當家は村内屈指の名望家で、又資産家でもある。屋根の高い眞白壁の土藏が、長く圍らした黒塀の中にそびえて村の中央にあり、海老名の村か、村の海老名かと評判される程の村内の有力者である。

昔時は代々庄屋を務めて、徳望高く祖父は藍綬寶章の持主で、嚴父は明治三十二年より、昭和十一年十二月、病を得て死去する迄、村長の要職を勤続し、當村第一の功勞者で、今日の隆盛の基礎を固めし人にして、其間當村の開發には献身

的努力をなして、幾多の貴重な功績を残した。

氏は先代千歳氏の長男として生れ、當年四十二歳で、青年團長として、明朗な意志強固な青年の養成に勵み、傍ら産業組合長として、組合の強化、擴張に盡力してゐる。尙村會議員、學務委員の要職にもあり、嚴父の遺志を繼ぎて、その實現に邁進してゐる。

氏は、丸顔で、極めて濃厚な人格者であり情誼にも厚く、優しい情愛の人なるため村民も深く敬慕してゐる。

東郷村

村會議員 今野 吉藏

勳八等功七級

氏は當村今野文次郎氏の男に生れたが分家して一家を起したのである。本家は代々の英邁なる戸主を誇る舊家で、氏も亦その本家の名を汚さぬ篤農家であるが氏の面目は半面軍人として武勳に輝く過去を持つてゐることに、その烈々たる闘志を知ることが出来る。

即ち氏は弘前騎兵聯隊に入隊した勇士で、日露戰役に從軍して非凡なる功勞は勳八等功七級となつて氏の胸間に輝いた現公職としては村會議員の列に在つて職責を粗漏なからしめてゐるが、過去消防小頭として十五年の永きに亘つて村内の治安を守つて來た功勞の士である。政黨は嚴正中立當年五十七歳の經驗を生かして専心後輩の指導に當つてゐる。剛毅なる人格の人として村民の輿が厚い。

楯岡町湯澤

町農會長 佐藤 昌三郎

先代孫市氏は當地方實業界に活躍し、特に蠶蠶製糸地方金融界の敏腕家として聞えてゐた。市價高動常なく、斯等人の金融事業は至難事の至難とさるゝ時期にさへ、氏の優れたる眼識はよくそれに處して誤らなかつたといふ、村山銀行楯岡支店長を最後として一般に惜しまれつゝ銀行界を退く。

氏は先代の長男にして本年五十八歳、

五代目を繼ぐ。

東京蠶業講習所に學び、蠶糸業指導者としての抱負の下に勉學に精進した。卒業後村山農學校教諭の職を勤め、二十五年間勤続す。次に二期を通じて町會議員學務委員、區長、更に縣養蠶業組合評議員郡養蠶業組合副會長に歴任、尙町農會長の要職に就く。會て昭和六、七年米國經濟界の動搖をうけて、我國蠶糸業も大打撃を受け、業者は政府の支援を要望して立つた折等、地方の業者救済を目指し生糸補償法發動のために盡す所多かつた人格謹嚴にして言を飾らず、高潔なる氏は村民の敬仰真に深く、爲に氏の抱負たる青年の指導と農林振興の方策は着々と實視を見つゝある。然してその熱心や人の認むる所である。

されば氏の長年の功勞を嘉され從七位を授けらる。

趣味は登山にして、今も尙若者を俱して潑瀾たる登山姿を見る。氣宇頓に開けたる山の巖は、氏の行仰する淨土宗の涅

繁の教へを聞く時と同じものがあるといふ。

西郷村

學務委員 矢口謙三郎

常家は村内屈指の舊家にして代々専ら農を以て業として篤農家として令名近郷に重きをなしてゐる。氏は明治四年先代今治氏の長男として出生、歴代の家風を受け継ぎ、専念家業に精進し來たり東北地方特有の冷害、病虫害の天災に打ち克ち、或は價なる化學肥料の農家經營への重壓に鑑み、耕作方法の改良、農産品種の選擇、自給肥料研究等農事改善を企圖し實績頗る擧り、その資性濃厚篤實にして研究心に富む勤勉と相俟つて村民の信望篤きを加へてゐる。推されて學務委員に就任するや多年に亘る實地の教訓體験に基き村教育に盡瘁する處、短時日にして頗る顯著なものがあつた。驚異とする處である。今や銃後國民精神總動員が重大國策とせられる秋、蓋し村教育界

の氏に待つべきものは多大である。また氏は曹洞宗に歸依し、其信仰頗る厚きものがある。

因みに次男謙治郎氏はかつて現役員として軍務に服し、其成績拔群にして品行方正歩兵伍長に累進したが、郷村に在つても先頃軍人分會班長として、郷軍の中堅として活躍し多大の功績あり、其齡いまだ四十歳の壯者にして今後村の中堅人物として各方面に期待せられてゐる。

戸澤村長善寺

學務委員 笹原伊太郎

常家は農を家業とし、農事に關しては研究改良家として知られて居る篤農の家柄である。

氏は笹原家を繼いで三代目、當年七十六歳である。既に古稀を過ぎ米壽に垂んとして尙壯者の概を見せ、接する者等しくその寶齡を壽ぐ所である。二期を通じて村會議員の要職につく。村會議事紛亂してその歸趨に人皆惑ふ時は、常に氏の

意見を聴き、よき解決を得る事は稀ではなかつた。

今學務委員會に溫容を表はし、村教育事業に對して諸種の提案を爲し、論議を豊ならしめてゐる。數多社會の起伏を経験したる氏は教育問題に對しても亦聽くべきもの多く、村民信望は誠に篤きものがある。

長男利男氏本年五十歳、山林組合長を勤めつゝ、嚴父の功績を完からしめん事を努力しつゝある。

楯岡町湯澤

元町會議員 渡邊彌右衛門

土地の長老として尊敬されてゐる氏は明治元年生れの高齡にも拘らず、躍々として未だ壯者を凌ぐ概を持つてゐる。同氏をもつて七代目を數へる當家は、綿綿として名門の家系を誇り、實父太兵衛氏も亦町治の改革に貢獻して數々の實績を残して來た人である。

氏はその先代の長男に生れ、家督を繼

ぎ、よくこれを生かして禍なく、中興の當主として譽が高い。而も外に出でては人材の名を誦はれ、爲に選ばれて區長、町會議員及び農事組合等の要職に兼任したが、他方の造林事業に意を用ひこれを改發し、同地方の産業の一つとして好成績を擧げさせたことで、その恩恵に浴した同地方の林業はその後逐年の向上發展を見せて、氏の功績を飾つてゐる。

現在はその公職を一切辭して、悠々自適の生活に入つてゐるが、猶門を叩く者にはその緒倫を披瀝して後輩の師導に當り趣味又多く、曹洞宗を奉じて信仰の念も篤い。

東根町花岡

消防組頭 菊池敬一郎

當家は土地の舊家にして、代々の人皆業務に勵み、よく家運を隆盛に導いて、今日の産をなしてゐる。亦土地の發展に寄與する處多く、廣く住民の信望を集めてゐるが、殊に嚴父弘右衛門氏は公益心

深く、二十年の久しきに亘つて消防組頭を務め、當町消防が今日の鞏固をなすの基礎を築きし功顯著にして、全町民の感謝の的となり七十歳の高齡に及ぶ今日愈々健在にして、町會議員に在任、一層町治に献身してゐる人格者である。

當主敬一郎氏はその長男として當年四十六歳の壯齡、資性誠實眞摯にして頗る職務熱心の人物である。嚴父の志を繼いで早くより消防に關係し、町内警火の任に當ること歲月あり、現在消防組頭として重責を双肩に擔ひ、その他方面委員を務めて町内の貧困救済に盡瘁し、亦學務委員として教育方面に資する處少くない。氏は家業として東根町内に精米業を営み、その熱心な營業ぶりは、よく繁榮して、今日の盛業を築くに至つてゐる。

小田島村

前助役 阿部貞吉

當家の開祖は四代前に遡り、代々農を營んで、篤農家の聞えが高い。もと村内



の由緒舊き名門として知られる阿部彦四郎氏の分家に當る。

先代五郎氏は、數々の公職に就いて功業多く、殊に村内の耕地整理に當つて、寄與すること甚大なるものあり、今尙村民の深く感謝して忘れぬ處となつてゐる。當主貞吉氏は、その長男として、明治十六年三月十五日の出生、早くより頭腦晰の稱あり、加ふるに誠實熱意、献身の心篤く、犠牲的精神に富み、人々の尊敬淺からざるものがある。山形中學校を優秀なる成績を以て卒業ののち、一身を捧げて村治に盡し村民の信望深く、選ばれて村會議員となり、引き続き四期に亘つて在任、その間功業顯著にして助役に推され、よく、村長を輔けて遺憾なく、大正十四年より昭和十二年に至るまで在職して、多々治績を残してゐる。後進に

道を譲つて勇退せし今日も、尙村を思ふの念篤く、一町二ヶ村の治水組合創設委員として、農村の生命線たる水利に献身してゐる。

氏の長男貞儀氏が當年三十二歳、山形師範學校を卒業して、理在東根小學校に奉職、名訓導として、兒童より慕はれてゐる。

尙、氏は趣味として園藝方面に造詣が深い。

楯岡町

區長 田中留藏

當家は土地の舊家にして、當主留藏氏を以て四代目とする。開祖以來染物商を營み、代々家業に勵んで、よく今日の家運隆盛を築くに至つてゐる。亦一方に於て土地の福祉發展に盡し、寄與する處甚大なるものあり、住民の信望頗る篤い。殊に先代徳治郎氏は公共心に富める人物にして、數々の陰徳を施し、餘慶今日に及んで、家運愈々繁榮してゐる。

當主留藏氏は、先代徳治郎氏の子息として生れ當年七十六歳の高齡である。資性濃厚篤實にして、醇良眞摯、而も内に毅然たる志操を成し、事に當つては熱意よく萬難を克服して必ず初志を遂げるの實行力あり、人々より深く畏敬されてゐる。亦公事公共に盡すの心篤く、早くより町勢の發展に多大の寄與を致し、選ばれて區長の要位に立ち、職務に精勵致々として倦まず、一層上下の信頼を増し、引き續き在任すること二十二年の久しきに及び、現在尙その任にあつて献身盡瘁、數々の功業を残して、好評嘖々、七十六歳の高齡に及ぶ今日、尙矍鑠壯者を凌ぐの元氣を以て、益々職務に精勵してゐる。

氏は信仰の念極めて深く、時宗に歸依してゐる。

東郷村泉郷

區長 安達善三郎

當家は約六代前に當村の留場家より分家して、代々篤農家としてその家業を勵

んで來たが、當主善三郎氏は明治六年五月五日の佳き日に生れた村の長老である。現在區長として約十六年間の長きに亘つて精勵これ勤めてゐるが、他に方面委員として、村の救濟方面に懇切なる手を延べてゐる。

而も過去に於ては同村の安寧を守る消防部長の要職に七年間在任した経歴も持ち、氏の濃厚なる性格は、反面烈々たる精神力を有する人として村民の受けも頗る良い。その精神力は方面委員としての繁多なる事務を携りながら、その老軀もいとす村民の良き相談相手となつて、畏敬をあつめ、家庭に歸れば家族十一人の團樂が常に氏を慰めてくれる。

高崎村間木野

區長 岡田新五郎

同家は當主新五郎氏をもつて數代に亘る舊家であるが、氏は實父新五郎氏の長男として生れ、よく父の薫育を生かして家業に専心してゐる實直至誠の人格者で

ある。

而も氏は若かりし頃第八師團に入營して、日露の戦役には勇躍戦地に赴いて赫々たる武功を樹て來た人、その勳功を永く飾る勳八等の榮譽は、此の人となり語るものである。篤農家として黙々として家業の振興及び農事の改良に努めて家門を立ててゐる氏は、過般選ばれて高崎村字間木野の區長の重職に就いたが、同時に氏の至誠はよくその重大なる責任を感じて、村銃後の指導者の一員としての勤勉精勵振りを見せてゐる。

家庭に在つてはよき佛徒として禪宗の修業を積み、趣味としては将棋の駒を握るのが唯一の楽しみである。

大久保村

區長 門脇市兵衛

當家は系圖譜詳かになつてから當主市兵衛氏で七代目である。代々篤農の家として知られ、近隣との交り睦まじく夏の日盛苦惱の勞働を終へて夕餉を濟まし、

共にする夕顔棚の下涼みは農村ならではの見られぬ一幅の名畫である。

氏は先代利助氏の次男、明治十八年八月三日の出生である。父祖の家業を繼いで農事に精進、また三期を通じて村會議員の要職に就く。

今また區長、農會評議員、信用組合理事、養蠶實行組合理事等を兼任、村治のために一意専念してゐる。

政友會の政策は多く共鳴する所あるが濃厚にして高潔なる氏は、常に是非々主義に立ち、村民の幸福を第一義におく事は氏の信念である。

曹洞宗に歸依し、佛敎の訓一を聞く事を最も楽しみとしてゐる。

東根町

區長 板垣六藏

當家は村内屈指の舊家で、代々農業に精勵して、徳望高き家柄である。

氏は嚴父米藏氏の男で、當年四十九歳になる。幼時より讀書を好み、豊富なる



知識を持ち寛厚な性格はよく、村民の信望を集めてゐる農事の改良

には卓抜たる手腕をみせ、優良なる品質の産出に成功して、村民の驚嘆するところとなり、現在區長の要職に推舉されてゐる。

多年村治に傾倒せる故、氏は種々の新企劃を抱いてをり、區長の職務にありてその實行策に熟慮を重ね、他日村會に雄飛せんとする素地の培養に努力してゐる。

嘗て、煙草實行委員に就任せる頃、犀利な批評眼をそなへて、目覚ましき活動となし、偉大なる功績をあげたため、煙草組合理長に推され、斯界の第一人者と目されて、尊敬されてをり、その行動は村民に少しの危懼さへも抱せない。又崇神の念深きため、郷社八幡神社の總代をも兼ね、眞宗を奉旨して、熱心に歸依し

てゐる。
趣味は各新聞を廣く愛讀すること、
家族は八人あり、その圓滿さは部落民の
模範とされてゐる。

長男權六氏は當年二十三歳で、滿洲守
備兵たりしが、今次事變に出勤して、果
敢なる奮戦をなし、遂に名譽の負傷をし
た。其後元氣回復し尙も活躍を續けてゐ
る。

東根町六田

方面委員 工藤正右衛門

當家は土地の舊家にして、代々農を營
み、正右衛門氏を以て四代の主とする。

歴代の人家業に努め、村の發展によく協
力盡瘁して、村民の徳望厚い家柄である
當主正右衛門氏は、尊父吉五郎氏の子
息として、明治二十七年四月二十日の出
生、幼少の頃より頭腦衆にすぐれ、而も
熱意献身の心深く、誠實眞摯、内に剛毅
の志操を藏し、廣く部落の住民より信任
されてゐる人物である。村山農學校に學

び、優秀なる成績を以て卒業ののち、修
得せる智識を齎らして郷土の産業振興に
盡瘁、甚大の寄與を致して衆望篤く、農
事實行組同副組長、農事組合長等の要職
にあり、養蠶實行組合長を務め殊に農村
の樞要な副業たる養蠶の改良増産に資す
る處少からず、亦消防部長として、村内
警火の重任を帯び、よく精勵して功績を
残してゐる他、方面委員に擧げられて、
村内の貧窮除去に至大の力を注いで、關
係方面より、感謝されてゐる。

氏は篤く眞宗を信仰する佛徒であり、
趣味として植木を愛し、殊に菊作りにか
けては、同好の士の嘆賞措かざるものが
ある。

宮本村

長松院 瀨古逸道

氏は伊勢桑名の産にして、其の生家は
地方の名望家であり、祖父は村長の要職
にありし人である。氏の兄弟はいづれも
實業界に入りて、卓抜なる手腕を揮ひ現

在は、工場長、支店長の顯職に就任して
鑽々たる偉材ぞろひであり、氏も若年の
頃は、海外に雄飛して一世の風雲児たら
んと志したが、周囲の状況に阻止されて
遂に實現しなかつた。
祖父は豫てより「一人出家すれば、九
族天に生ず」の宿願を抱いてゐたが、氏
は十一歳の頃奈良より名古屋に出で、名
古屋第三中學に學び、後駒澤大學を優秀
な成績を以て卒業し、遂に宗教界に身を
投じた。

現在長松院住職として名僧知識と謳は
れ、多大の信望を博してゐる。

才氣喚發の熱烈な氣概を持てる人格者
で、宗教界では郡宗務所長の要職にあり
村政にも參與して方面委員として活躍を
なしてゐる。既に村にあること二十有餘
年に及び、子弟の教育には特に意を注ぎ
て盡力してをり、困難なる生活を送れる
村民を見ては、率先して、その更生を圖
りし爲、村民に深く高德を仰がれて居り
當年五十歳になる。

戸澤村

長峯山 耕福寺

當寺は時宗派に屬し、其本尊は阿彌陀
如來、開山は詳かに傳へる處がないが明
らかに六百年以上を經過せる由緒久しき
ものである。その本山は滋賀縣坂田郡息
郷村蓮華寺にして、其寺堂並びに建造物
は不幸三十餘年前炎上し灰燼に來したが
直ちに復興せられた。現在の堂宇がそれ
である。檀家は近在の村々に渡り、百戸
餘に及んでゐる、現住職は三十一世長峯
智道師である。

住職

長峯智道

師は學識高邁にして
徳重厚、檀家の信仰
頗る篤きものがある。

暴支膺懲、東洋平和樹立の聖戰の勃發せ
らるゝや皇軍の勝利、郷土部隊の武運長
久を夙夜祈願すること篤く、又縣方面委
員にも在職し銃後軍事援護貧窮者の生活
救護のために東奔西走寧日なく、郷村民
より慈父の如く敬慕せられ、社會事業に

も顯著な功績がある。

富木村

縣會議員 青木周太



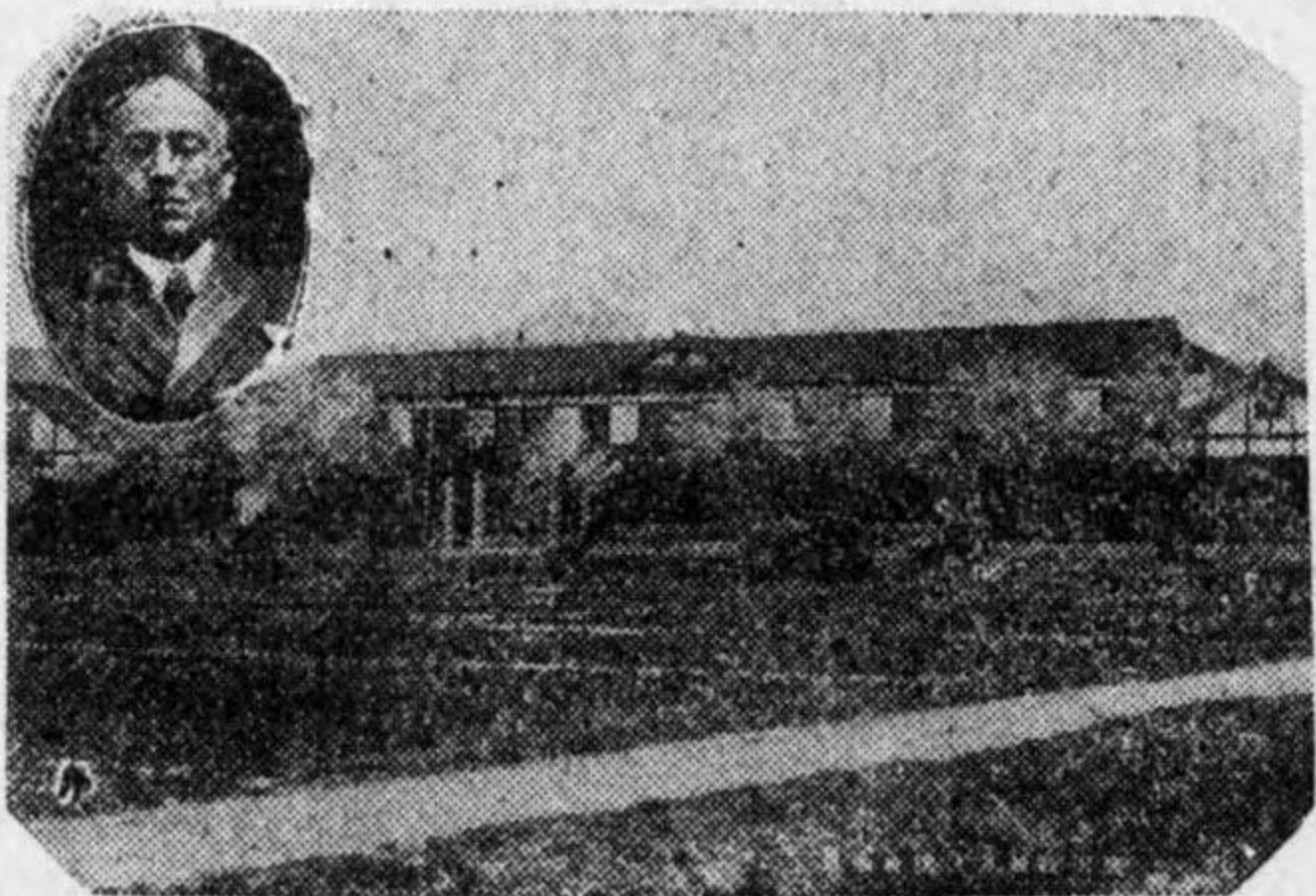
若年の頃は剛毅果斷、氣骨稜々たる人
物にて、村
政全般に亘
り、活躍盛
んであつた
政治方面に
も相當興味
を有し、農業耕作については勞を惜しま
ず、品評會にも再度入賞の腕を有してゐ
る氏は、今日六十二歳の高齡にて老ひた
りといへど尙壯年時代の氣風残り、當村
代表者として推しも推されもせぬ存在で
ある。

氏は縣會に出馬し、縣會議員に當選、
その外村會議員、學務委員、方面委員等
村治要職をも兼任し、又敬神崇祖の念に
厚く、鎮守社の總代をも勤めて居り、指
定村社となつたのも氏の盡力に依るもの

にて現在立派な記念碑が建つてゐる。更
に水利事業にも盡すなどそれらの業績赫
々たるものである。

楯岡町

縣立 楯岡高等女學校



振はず
殊に女
子教育
に於て
は高等
女學校
に進む
さへ稀
なる程
であつ
た。明
治三十
七年日

露戰役勃發するや男子の出征に伴ひ女子
教育の必要識者の間に痛感され、當町有

志婦人數名相謀り私立楯岡女學會を創設す。現楯岡高等女學校の濫觴である。次で四十年私立學校令により學科を定め授業料を徴収す。更に四十二年北郡女學校と改稱、大正九年三月十日北村山郡立實科高等女學校に組織變更、同十年四月一日縣令により山形縣立楯岡實科高等女學校と改稱、縣に移管新に選科を設置す。同十四年再び縣令により山形縣立楯岡高等女學校として組織變更定員四百名となり。以上の如き變遷を経て陣容整ひ、大正九年二月二十日を本校創立記念日とし同六月十七日勅語贈本下賜を受け、大正十年十月二十五日大正天皇、昭和六年四月十八日今上天皇陛下御眞影を下賜される。

本校は聖旨の下に生徒の實踐篤行、國民道徳の養成、女子の使命の自覺、婦徳の涵養、教育を時勢に適應せしめて其地方への實際化、健康なる身體、精神の鍛錬敬虔なる信念の獲得を校是とし、職員十九名、生徒現在數四百三十六名をよく

指導訓育す。

飯岳を望み最上川の流に沿ふ本校は三千八百九十一坪の校庭廣く、校舍建坪七百四十九坪餘、建築費十五萬圓設備費二萬圓を要し、堂々たるもの畑百坪花壇九十坪等生徒情操教育に資すべき施設さへ存す。生徒父兄の職業より見れば農學者最も多く、商業、官公吏之に繼ぐ。業費は授業料四ヶ年百七十六圓を最高とし教科書代旅行貯金校友會費等に至るまで總計三百五十二圓餘を要し、寄宿舎料概算三百三十圓を要す。

當校は成績採點多少の嚴格さに似たるも將來のために備へ、優等生全校を通じて四學年に僅に十二名、されど操行點全校二百七十八名全生徒の半數以上を算す以て職員諸氏の薰陶宜しきを見るべし。九月一日の健康週間、十五日の國防週間、十一月一日の讀書週間、更に常識教育、郷土社會教育等本校の特色として誇るべきものであらう。

曩に本校郡立實科高等女學校時代は銀

杏返しに竹長の髪を結び、筒袖モンペ姿なりしが、大正十年四月木綿縞の袖筒海老茶袴をつけ胸間深雪に野菊の徽章を用ふる事に制定、更に昭和六年和服を洋服とし制服、制帽、制靴の標準を定む。寺山英量氏を初代校長として虎石忠實氏、渡邊毅夫氏、五十嵐美作氏、高橋藤治郎氏、齋藤遊雲氏を経て廣川捨吉氏に至つてゐる。

本校に於ても他校と等しく校友會あり芷蘭會といふ。全卒業生及生徒職員を網羅して組織するものにて會員相互の知徳を磨き、友誼を厚くするを目的とす。

楯岡町

町會議員 奥山久治



氏は明治四年四月一日北村山郡大倉村の篤農家齋藤源藏氏の四男

として生る。

奥山家に入り先代岩吉氏を養父と仰ぎ嗣子となる。養家は古より開えし地主にして耕種の改良、灌漑、治水等に對して代々貢獻する所が多く、村民等しく敬仰する家柄である。

氏は重厚篤實の士、常に讀書に親しみ漢學の素養深く、言語明晰なる壯者の如き人、青年指導に當りて行動活潑と相俟ち企うせずして青年自ら信頼し來る人格者である。

氏は初め北村山郡書記に奉職し、次で北村山郡聯合教育會書記、楯岡町役場吏員に任じ、その事務的手腕は衆に擢んで適確なる處理は漸次信望を擔ふに至つた然るに氏は事務に對する才腕のみならず政治的手腕も亦冴え、昭和九年より區長に任じ更に町會議員に推さる。町會の樞機に參畫し、既に長年勤務の事務上の經驗より町政にも委しく、氏の參畫によつて議事一層圓滑に進行すと言はる。眞に清廉、邪惡に關して一步も假藉せず、一

般に見る官界人の如く事に處する劃一的ならず、臨機應變圓轉滑達なれば村民の爲人を敬し、親愛を覺ゆるが常である信念愈々厚く、二十四ヶ年間郡役所勤務により正八位勳八等を賜る。曹洞宗は當家信仰のものにして菩提寺への寄進、村社への勤め等も亦氏をよくする所である家庭清朗にして仲睦まじく談笑門外に洩れて聞く人をして自ら微笑せしむるものがある。

楯岡町

町會議員 高橋高治



電話楯岡一三八番
當主は本町有數の舊家高橋家から二代前に分家し材木商を生業となし、専心業務に精勵してゐる。

人となり恭謙にして篤實、私を減して

公共に盡すの博愛的思念に燃え、よく町民の信望を一身にあつめ、推輓されて町會議員に擧げられた。治政者としての氏の手腕は俊敏、果斷を以つて鳴り、町政各般の上に素晴らしい實績を收めつゝある。

又當町材木商組合長にも推されて、同業者の指導の任に當り、見事に職責を果してゐる。

更に氏は生命保險事業に對する關心深く、これの社會的意義を充分認識して、昭和十一年五月より第一生命保險會社我岡町事務所を一手に引受けるに至つた。未だ引繼ぎ以來短日月を経たるに過ぎないが、契約額は多額に上りつゝあり、これも一に氏の信憑に足る人格のしからしめる處と思はれ同慶に堪えない。因に氏は明治二十三月十九日の生れにして敬佛の念篤く、淨土宗に歸依してゐる。

家庭は又、團樂を極めて、本和靜謐である。

楯岡町

町會議員 森谷 忠七

明治十九年十二月、國運愈々興隆の機に向ひ、國民等しく東亞覇業の理想を抱いて各自社業に精進するの期に呱呱の聲を擧げた。時勢の影響は氏も亦受くる所資性潤達にして進取の氣象に富み、確々として怠る所なく學業に勵んだ。

滴齡に達して仙臺騎兵聯隊に入隊し日々の勤勉振りは一般の賞むる所、除隊後家郷にあつて繩製造を営む。

氏は町會議員に推されて町政の參畫に列し、熟々町勢の開發を見て一層商業の重要性を識り各種商工業の伸展に盡す所多かつた。且漸次工業製産發展につれて農村また現金の收支の多きを切望さるゝに及び、氏は農家の副業として繩製造を奨勵し、副業には必ずつき纏ふ販賣を自ら引受けて縣外へ移出し更に繩製製産業組合を組織し推されて長となり、益々農村收入増大に努めてゐる。今や氏は宿望

を遂げつゝあり、また成功者の範として好評を負ふ。

楯岡町

町會議員 齋藤 又七



草分けの家として名望高き齋藤仁平家の別れである。素封家の分けて當家また悠揚寛大の人多く隣人に對する同情的態度は一般に好評を得てゐる

氏は明治九年十二月十三日、先代金七氏の四男として生る。少年時代既に不羈の精神を持ち、克苦勉勵は氏の座右銘であつた。日露戰役に参加従軍しては率先して軍務に當り軍律を守り、戦友は御更に血盟の友たる程の信義を持ち、模範軍人として上下に親望されてゐた。その功によつて旭日章、勳七等に叙せられ、陸軍工兵准尉として凱旋す。

楯岡町

町會議員 草刈 正治

明治の大革新後の動搖未だ平穩ならざるその九年七月三日當町の舊家草刈家に生を受く。先代繁城氏は實直温厚にして只管家業を勵み家庭の礎彌々増し堅固ならしむべく精勵をさく怠る所なかつた



氏は當時二十四歳の若冠に於て明治三十二年當町唯一の金融機關

たりし、大石田銀行設立當初より、書記を勤め十七年間勤務、大正十二年村山銀行と改稱するに當り、氏も亦入りて重要な席に列し昭和十年楯岡支店長の重責を負ふ。この三十八年間の勤務は銀行に對しても偉大なる功勞にて今や監査役に昇進、同行の盛衰を双肩に荷負ふ人たるに至つた。

更に兩羽電氣會社相談役に任じ、氏の理財的才腕は年を経るに従ひ益々敏達を加へ、楯岡のみならず縣下に名聲囂々と響いてゐる。

斯の如く實業界にその盛業を謳はれ寧日なきを區長方面委員に推されて町民のよき世話人となり、且町會議員の樞要に列して町政の事に當る。氏の事業の經緯

はまた直接政治方面にも關係あり、その才能を要望される所多い。

忙中閑を得て朝顔、菊作りを娛しみ、浄土宗に信仰を寄せて隣時俗塵を拂ふ如き生活を營まる。

楯岡町

町會議員 富塚 岩藏

徳川時代初葉の頃より既に豪族として聞ゆる舊家である。この時代特に農村行政に對し有名なる奨勵法あり、農民等しく苦汗を惜めたる時代なるが、勤勉實直にして而も仁侠の相繼ぐ當家に小作する農民は安穩の生活を營む事が出来たのであつた。

氏は明治七年二月の出生仙臺工兵隊に入隊、日清日露の役に従軍す。轉戦幾度か重ね、殷々たる砲煙裡に數多の功勳を樹て、武運豊にして微傷だも負はず目出度く凱旋された。氏はまた多年專賣局に奉職し、祖父より受けし資性はこゝにまた強く發揮され、漸次人望を集むるに至

つたのである。

後氏は區長、方面委員を勤め、區民の安寧のために盡す所多かりしが、更に町會議員の重責を擔ひ、町勢伸展に盡す所些少なからず、村治の如何は以て氏の双肩にあるが如く村民より待望されてゐる。特に正七位勳七等に叙せられ、名譽また氏の頭上に輝く。

楯岡町

町會議員 菊地 政之助

歴史は遠く足利幕府の豪奢を極めたりし時代より、京の或は諸國の戰亂の時代を外に奥羽僻遠の地に靜に開墾の事に當り、農事に精進したる當家は今日まで既に五百五十年を閱して舊家である。代々農を家業とし耕種に對する研究は他に擢んで漸次當部落に移住し來る隣人のよき指導者となつて尊崇の的である。

氏は舊家に生を享けて産と共に更に父祖の仁慈を繼ぎ小作人に對しては時には利害を離れて世話する事あり良地主とし

て村内のみならず近隣にまで響いてゐる氏は讀書に唯一の趣味を持ち特に教育に關するを好み、村勢發展に對して學問の普及を重大なるものとして青少年の指導は一方ならず力を盡す。學務委員として町會議員として一として氏の俊敏なる手腕に俟たざるなく、その抱懐する處の思想意見は常に衆の首肯するものである。今次の日支事變に際しては日頃抱く盡忠の熱意は更に燃え上り、戦線の軍人に對して感謝してその慰問且激勵の事に夙夜努めてゐる。家にあつては家人を督して慰問袋の作製、一層の家計の緊縮等を行ひ、時に戦況を語り、感想を述べて家人の教養を高める事を怠らない。内に外に稀に見る人格者である。

津山 村

村會議員 結城 晃作

本年自治五十周年記念に際し、自治功勞者として表彰された氏は、長年村自治の發展の爲に生涯を埋めたる人物である。

村消防に關しては、育ての親ともいふべく十年間消防手を勤め、續いて後二十餘年間組頭を勤続した功勞者である。現在は氏の長男が後を繼いで組頭に就任、父子代々その功績は村内敬仰の的となつてゐる。

氏は明治十二年生をうけて、本年六十歳の長命にて、尙壯氣滿ち、霸氣に富み、現職村會議員、養蠶實行組合長、耕地整理組合會議員等にあり、その活動振りは壯者を凌ぐものがある。曾て農會評議員を四期勤めたこともあり、農事改良養蠶獎勵その他産業の發展に意を用ひ又細羊の飼育に就いて研究を重ねるなど、當村に重要な存在を示してゐる。穩健な人格と、世話好きにて骨身惜まぬ氏は、全村民より親愛されてゐる、人望家である。

楯岡 町

楯岡 町役場

本町は、農蠶業の旺んなどころである。

東根 町

東根 町役場

當町役場は、大字東根にある。教育に

と同時にまた工業、商業の盛なるところであり、町民のどの顔にも清新な活氣が躍動して喜々囂々、和樂團樂、自然平和なる町を造り成してゐる。清新にして活氣あるその氣風は、教育の上に、産業の上に、並にその他の上に及んですべてが潑刺たる。發展を見せ他の町村に模範を垂れてゐる、要するに町自治に與り來つた當路者の熱と汗とによる資である。

今、本町に推されて町長の要職に就き歴代町長の名と功績とを飾りつゝ、町政のために盡瘁、日夜鋭意してゐる佐藤直信氏の功勞、また大なるものあるを思はねばならない。氏は舊家に生れ、疾くより町政に參與、衆望をあつめてその存在をますます重からしめてゐる町の有力者である。

衛生警備に、交通に、産業その他にと潑刺たる清新の風を見せ、更新の町勢が躍動してゐる。

郷社若宮八幡神社、藥師堂、小田島城址、大森城址、東根温泉等があり、觀光遊覽の客なかくに多い。人口約一萬六千人、農業の最も旺んだ地である。

町は、次の人々によつて善處されてゐる。

町長	工藤修三
助役	小池友治
産業組合長	横尾權三
郵便局長	工藤恒太郎
農會長	小池友治
組頭	菊池敬一郎
軍人	横尾林吉
分會長	工藤恒太郎
青年團長	

町長 工藤修三

氏は、土地の舊家として知られた工藤家に生れて以來、父祖の業に精勵また力進、大に家業を興起すると同時に、夙に公共の方面にも進出して寄



與貢獻する處大なるものがあり、今、町民一致の推薦によつて町長に就任、鋭意努力、以て町民の期待に副はんとしてゐる。

富本村湯野澤

湯澤 山長松院

當寺は昭和十三年を去る四百六十七年前即ち文明三年の春、山形領主最上義光公の祖先斯波修理太夫兼頼の曾孫大久保殿右馬頭斯波滿頼公が谷地町龍口山定林寺五世玉叟眞通和尚の道譽高きを欽仰し湯野澤の地名を發生したる小字「湯の入」と稱する鑛泉湧出の所に一字を創設し、

勸請開山となすに初まる。爾來經過する事幾年、偶々祝融の見舞ふ所となり、全山烏有に歸す、依つて其時代比較的人家稠密し且つ將來發展性を有する地の利を

選んで、現在の小字矢木澤に移轉新築す中興の冠稱ある所より推測するに恐らくは九世孝勇義順和尚の事業なりしか。然るに弘化年間、又々不慮の失火に全伽藍は勿論、開基滿頼公の遺物、寶物を初め佛像佛體過去帳に至る迄焼失す。爲めに當寺として一物の寶物のなきは更なり。由緒の一端だに知る可き記録なし。其後十七世見龍和尚の代に本堂兼用の庫裡を新築し、十八世文明和尚不羈の霸氣を以て萬難を排して一氣に本堂を新築、二十世便乘和尚は山門を、二十一世爲橋和尚は觀音堂を、二十三世俊龍和尚は鐘樓を、二十四世現住は庫裡の大改築、書院の新設等、嚴具の完備を行ひ、茲に内外共に寺院としての面目を完了するに至つた。



長峰智道氏

佐藤好之氏



鈴木文助氏



佐藤才七氏



浪波長治氏



横尾権三氏



仲島作治氏



矢口謙三郎氏



瀬古逸造氏



奥山高三氏



笹原茂平治氏



浪波長藏氏



渡邊彌右衛門氏



内郷村

内郷村長 五十嵐嶺秀

卓冠せる頭脳と深い經驗を良く生かして村治の萬全を期して努力してゐる氏は現村長としてはまだ一期目であるが、早くも村民の期待を裏切らず、非凡の腕を示してゐる。

氏の持論とするところは、飽く迄村名の發揚充實且農業の改善發達にあり、そのためにはともすれば村を忘れて都會に走らんとする青年子女の浮薄思想を戒めて愛郷の念強く、爲に同村産業の進捗振りは、氏の村長としての就任日淺きに拘らず着々と好成績を収めつゝある。

過去幾多の村治の要職に就てその任を完うして來た氏は、勿論その政治的手腕には絶對の信用を置かれてゐるが、事に處しては飽く迄至誠を忘れず熱慮斷行の成果を見せる氏の今後こそ、その人格と共に充分に期待されるものである。家庭にあつては良く、家業を勵み信仰の念篤

く、又趣味豊富の人である。

一條村寺田

一條村長 土田兵治郎

土田家は村内に於ける舊家にして、藩政當時は武勇の聞え高き士分の出であるが一條村の人となつてのちは代々農を營んで今日に至つてゐる。歴代それづくに村政に寄與する處頗る厚い人物であつた當主兵治郎氏も、祖先の血を享け繼いで、至公至正、事に當つて誠意を傾け、献身の勞を致す人格者にして、又公共の素志深いものがあり、早くより村内の治政に力を注いで、顯著なる功績を残してゐる。即ちさきに、輿望を擔つて村會議員に選ばれること四回に及び、その眞摯適切なる經驗は、村會を導いて村内の治政産業を興隆、推されて助役に任せられること二期、その間村長を輔佐して内助の功を盡し、他にも村収入役の要責を四期に亘つて引き續き勤めし功淺からず、全村一致の信頼を背負うて村長の樞位に

のぼり、目下その任にあつて精勵、よく村政の運行に妙を得て、謬る處がない。氏は現在六十歳に達してゐるが、その意氣壯齡の者に譲らず、一意奉公愈々職務に勉勵して、村内の範と仰がれてゐる家庭は極めて平和で、氏は又曹洞宗を信心することが篤い。

西平田村大宮

西平田村長 和島喜與太郎

當家は古くより當村に住し、舊家である。祖先より村のために盡された功績は地熱の如くに断えず、その恩恵を今にして語り傳へられてゐる。

先代與之助氏は教育界に身を投じ、酒田高等女學校教諭に任せられた。教育に對しては豐なる抱負を持ち、特に躍進日本の女子教育には一家言を持ち、その實現に碎心の注意を用ひてゐた。惜しむべし、志半ばにして他界されたのである。氏は先代の長男にして當年五十歳、十代目を繼ぐ。六期を通じて村會議員、三

期を通じて村長に就任、尚信用組合理事を兼ねてゐる。先代の遺志を繼いで教育事業には特に指導改善を企て、青年團處女會の發展のために努力す。今日の日支事變には銃後の守りをさく／＼怠りなく前線への激勵、慰安等の企てが活潑に爲されてゐる。

氏の長年の村治に奔走された功勞空しからず、五十周年記念に際して自治功勞者として表彰をうけた。

一家宗教の心篤く、曹洞宗を信じ、祖先の忌日には一家を擧げて参拜する事を家憲とする。

夫人芳子氏國防婦人會、愛國婦人會分會長を勤め、家庭をよく修めると共に國家奉公の誠をも盡してゐる。快活にして社交性に富み、八面玲瓏の夫人は内外共に親しまれてゐる。

稻川村庄泉

稲川村長
産業組合長

石垣清三

石垣家はその創立以來今日に至るまで



實に三百餘年に達する舊家である代々農を業として篤農を以て稱せ

られ、勤儉力行家産を増大し豊澤を極めてゐる。先代權太郎氏は郡會議員に任ぜられてその功勞著大なるものがあり、また助役に任ぜられて功績燦然たるものがあつて、その遺徳今に至るもなほ追慕されてゐる。

當主清三氏は權太郎氏の三男として、明治二十六年五月二十二日に出生し、縣立莊内農學校を卒業した。さきに農會長の任に就いて前後二期間に亘つて盡瘁功勞尠からず、今や村長に推されて連續二期間に亘つて現任し拮据盡力甚だ努めの功績顯然たるものがある。また産業組合長をも兼ねて鋭意努力して充實發展の實績を擧げつゝある。

氏は政友會の最も重要な會員にして

敏活なる闘士として、有力なる指導者としてその聲望絶大である。趣味は圍碁に深く相當の技倆を有してゐる。かくして氏は當地に於ける政界の明星として重きをなし、舉村悉くその言行を指針として絶大なる信頼を寄せざるはない。

氏はその資性甚だ温厚にして篤實謹嚴にして綿密然も他に對しては寛大にして清濁を分たず、情誼に甚だ厚い。萬人氏を仰いで長老とし敬慕讃仰してやまず、兒孫の慈父に於けるが如くである。蓋し氏の人徳の以て然らしむるところでなければならぬ。老成渾熟の氏がその實力を發揮して思ふ存分の大活躍を試みるのも今後でありと、全村民が刮目して期待してゐるのである。

東平田村寺内

東平田村長

遠藤寅二郎

村の中老として村治の采配を振つてゐる遠藤寅二郎氏はの名は、村民一致の支持信望を擔つてゐるのは當然であるが、そ

の信頼を裏切らずに鋭意努力専心の實を擧げてゐる氏の實行力こそ、過去及び將來に於ける東平田村の發展向上に資して絶大なる貢獻を爲すものである。

氏はこれ明敏至誠の人、行つては良く快刀亂麻を斷つるの概をもつて事を處理しその豊富なる學才は村民の父と仰がれるに遺憾ないが、その手腕も故なきにしもあらずで、過去氏は村の青年團支部長農會評議員農會々長を歴任して數々の功績を残し來た上、選ばれて昭和九年以來現村長として、村民擧つての推薦によつて就任したのである。

政治家としては勿論、亦篤農家としての學才と經驗も、藤島農學校に學んで優秀なる成績をもつて卒業したことによつて證明される譯で、村の多幸は氏の今後の努力に期待して恵まれんとしてゐる。

西平田村

西平田村
助役

池田源助

暴支膺懲、東洋平和樹立の聖戰下の農

村指導者として、沈着温厚責任感が強く練達敏腕の定評のある氏は、村助役の重職にある外、産業組合長、村會議員を兼任して、努力並に物資動員下に於て村生産力を確保するのみならず更に其充實發展を計るべく、灌排水施設の完備、農事耕作方法の轉換等に夙夜盡瘁、舉村一致此難關を突破せんことを期し頗る顯著な功績を擧げつゝある。既に氏は從來産業組合長、村會議員として村治、産業の向上發展に貢獻裨益する處甚大なものがあり村民の信望は愈々厚きを加へてゐる。

因みに氏の嚴父も多年村會議員としてまた郡制廢止以前の郡會議員として地方自治に顯著な功績を残し自治功勞者として郷黨に畏敬せられてゐた人である。

田澤村田澤

村會議員 後藤善治

當家は村内の舊家にして、開祖以來八代を數へる。農を以て專業とし、代々の人物家業に勵んでよく家運を隆盛に導い



殊に先代藤吉氏は、村の福祉發展に生涯を捧げて、村民の感謝の的となり、數々の公職に歴任して、功業頗る顯著なるを認められてをり、分けても村會議員に立つての模範的人物であつた。

當主善治氏は、その次男として、明治二十三年二月二十七日の出生、性格温厚にして沈着、亦實行力に富み、確實な手腕を周圍より認められてゐる。さきに數々の公職に就いてよく職責を全うし、輿望を負うて村會議員に選出され、現在その二期目にあつて愈々献身の勞を致してゐる他、村農會總代として村内の産業發達に寄與すること多く、亦、衛生委員に任ぜられて村民の健康保全に鋭意努力してゐる。

北俣村海ヶ澤

村會議員 荒尾彦太郎

當家は草創の頃よりの家柄にして代々村民との和樂の聞えある家である。開墾事業に精勵、灌漑池なども率先して設け近隣またその恩恵に浴する事尠なからずされば夙くより肝煎等の職につき、村人の世話至らざるはなかつた。

先代伊作氏は二十ヶ年に近く収入役を勤め名収入役として信望篤かつた。尙村會議員に推薦され、その勤績振りまた賞讃の的であつた。

氏は伊作氏の長男にして本年五十一歳である。先に消防部長に就任、村の安寧に盡瘁し、區長を二期を通じて勤績、村民の要望黙し難く、村會議員の要責を負うてゐる。

長く政友會の政策に共鳴、時の権力に就くと否とに拘らず、常に支持し來り、その政策を普及し、區會、村會に亦實行を提唱する事が多かつた。



當主順七

氏は先代萬藏氏の養嗣子にして、當家の第八代目を相続し、當年六十四歳である老成圓熟の氏はその人格崇高にして識見一世に秀で、才幹學識群を抜ける傑士である。夙に村自治の第一線に活躍して功少からず村會議員に當選すること連續三期に及んで現任し、また選ばれて方面委員の任を擔ひそれら、全力を傾注して盡瘁してをり、その功績甚だ多大にして村民の敬仰するところである。氏は濃厚なる君子にして全村民の敬愛をその一身に集めてゐる。曹洞宗を奉じて信仰の心深く恭謙を極むる人である。

大澤村大平澤

村會議員 高橋與兵衛
村農會長

近來時局の變動により政黨互に勢力相争ふ状態は徒に國力を分散するものとして一部に排撃の聲あり、時には政黨解散時には一黨政治の提唱等、政黨論區々たるものがあるが、氏は依然として政友會を支持してゐる。

日支事變に際し逸早く名譽の應召に接じ、目下北支の野に轉戦、戦勝を期してゐる。氏一家深く歸依する曹洞宗に念じ武運豊かならん事の祈願を籠めてゐる。

日向村福山

村會議員 石川辰五郎
勳七等



當家は村内有數の舊家として聞え高く農を以て專業とし、代々の人物孜孜として家業に精勵、連綿として

る處となつてゐる。殊に先代龜治氏は種々公共に献身の勞を致せるを以て、今尙人々の感謝の的とされてゐる。
當主辰五郎氏は、その長男として、明治十六年八月五日の生誕、氏はさき日清戦役に際會して、名譽ある召集を受け勇躍出征して武勳を樹てたが、のち亦日露戦役に従軍し、一層の武功を勝ち得て凱旋、勳七等に叙せらるゝの光榮に輝いてゐる。
夷敵を征して勇武の氏は、郷に在つては献身犠牲の人として顯はれ、各種の公職に歴任して數々の治績を残したが、衆望黙し難く村會議員に立ち、引き続き四期を勤めて現在尙その任にあり、今回の自治制發布五十周年に際し自治功勞者として表彰されてゐる。
南平田村
村會議員 齋藤順七
齋藤家の創立は甚だ古くして代を重ねること八代にして今日に及んでゐる。代



高價なる化學肥料の過度の使用が、農家經濟を重壓する最も大きな原因の一たるを以て、自給肥料の研究

増産に意を注ぎ、其使用獎勵のために東奔西走寧日なく盡瘁し顯著な實績を擧げつゝある氏は、昭和五年より、村農會長の要職に在り農業産業の向上發展に貢獻裨益せる處甚大なものがある。他面氏は村會議員として村政に關與せること既に四期の永きに達し村會の重鎮として村治の充實伸張に絶大の功績を有せる村の功勞者である。氏はまた十餘年間區長としても隣住共助の美風を基調として部落の生活習慣の向上改善に努めると共に、方面委員としても日支事變下の銃後軍事授護に盡力し郷土部隊勇士に後顧の憂なからしめんことを期し、また貧窮者の生活救護更生の唯一の相談役として活動し、



屈指の舊家たる當家に入つて、養父圓三郎氏の後を襲ひ家統を繼いだ人である。

先代圓三郎氏は區長たること三十餘年村會議員として村政に參畫し、其抱負經

一條村北平澤
村會議員 土田仁作

氏は他家より四百年の家歴を有し村内

綸を餘す處なく、村治、産業の向上發展に盡し顯著なる功績を残した村の功勞者たる光榮を擔へる人で、今もなほその惠澤を感謝されてゐる。

當主任作氏は農事耕作改良に多大の蓄蓄と體験を持ち、農會總代たること三期に及び、村農産業に寧日なく盡瘁し、村民の福祉増進に貢獻裨益せる處甚大なものあり、質實謙讓、努めて倦まず人の難儀を見ては扶けざるはなき人情味と相俟つて、漸次農村指導者としての名望を確保し、先代養父の後を受けて村會議員に推されて村政に關與するや地味なれども健實なる正論は忽ち村會に重きをなし、眞摯の材幹としての定評がある。氏は當年とつて五十二歳、思慮分別共に圓満にして、長期聖戰下銃後農村に於ける。

氏の活躍に待つべきもの多大である氏の、家庭は人も羨望する和氣霽々たるもの、九名の家族團樂の談笑の絶ゆる時なく、禪宗に深く歸依し信仰心極めて堅固である。

東平田村矢流川

村會議員 土田 榮太

當年六十六歳の好々爺、土田氏に面接した人は、何人と雖も、その人徳に好感を持たざる者はあるまい。よく家業を興し、篤農家として長き經驗を積んで來た氏は、その經驗を披瀝して良く村の後輩を導く人でもある。爲めに永い間に亘つて區長を勤めてゐたが、今回固辭するを無理に推されて村會議員の席に列して活躍してゐる。

事實氏の如き人材はもつと早くから村治に携はるべき人であつたが、氏の性格としては、なるべく表面に立つを好まず陰徳の人として從來村是の確立に貢獻して來た譯で、今回村治に參與して職責を果さんには、その過去の經驗をもつて献身的の努力を盡す心算であると氏は語つてゐた。

氏その言葉の實現化こそ俟つべきものである。

上田村吉田

村會議員 板垣 長十郎
勳八等



板垣家は創家以來星霜を閱すること頗る久しく縣下屈指の舊家であつて板垣家一門の總本家である。先代長十郎氏は區長及び、村會議員として多年の間活躍してその功績多大なるものがあつた。

當主長十郎氏は先代の長男として出生し、當年五十九歳である。家憲に従つて同名を襲名したのである。日露戰役に從軍して赫々たる武勳を樹立し、勳八等を賜はつた勇士である。今や區長として四期目に留任し、方面委員として十箇年間に亘つて在職し、村會議員としては實に連續三期に亘つて重任して、それぞれ全力を傾けて盡瘁し、著々として實績を擧

げその功績甚だ甚大である。その功勞によつて自治制發布五十周年記念に際しては村當局より表彰せられた。

氏は民政黨に屬してその有力なる黨員として内外より信服せられてゐる。その言行は當地政界に重きをなしてゐるのである。氏の資性たるや濃厚にして篤實、その方面に機敏果敢旺盛なる意力と強烈なる闘志とを有し、加ふるに頭腦明晰にして熱辯宏辭よく敵の臟腑を抉ぐるものがある。一度起つて懸河の辯を振ふや向ふ所敵なく何人をして、その正義正論に説服せざるを得ざらしめるのである。氏は禪宗を奉じて熱心敬虔の人である。夫人は國防婦人會長の任にあつて熱心であり、會員の指導激勵に精勤してゐる一家はつねに春風駘蕩に圓滿隆昌を極めてゐる。

北平田村布目

村會議員 土門 甚助

資性磊落明朗、人情に厚く多方面の人

上田村上安田

村會議員 伊藤 半三郎
上安田區長

々に親まれてゐる一面、正義を以て一生を終始せんとする眞摯几帳面な人である。村會議員として強大の信望を擔へる。氏は、四期の永きに亘り區長の職にあり、村治の向上發展に貢獻裨益せる處甚大なりし先代五三郎氏の長男として五十八年前呱呱の聲を擧げた。かつて五三郎氏の後を繼ぎ區長の職にもあつたが現に村會議員たると共に、奉公義會評議員、區長代理氏子總代を兼任してゐる。今尙壯者をしのぐ程の壯健、長期聖戰下國家總動員の中堅銃後農村に於ける氏の存在は益々重きを加へてゐる。

生來信仰心に篤い氏は氏子總代として村社に仕へると共に、深く曹洞宗に歸依し、其家庭は頗る圓満にして近隣の羨望する處である。

東平田村

村會議員 遠田 帶刀
消防組頭

近郷切つての舊家にして、家統を連續

として繼承せること十有八代の當主として氏は、明治廿一年十二月廿日に生を享けた。資性明朗快活にして頭腦明晰なること群を抜き、郷土愛と自己犠牲の高邁なる精神の持主にして、縣立庄内農業學校に學び俊敏をうたはれ、優秀なる成績を以て卒業したる材幹である。

今尙廣く書籍に親み、識見を該博ならしむることに怠らない名望家である。村民の厚き信望を擔ひ、村會議員を勤続すること四期に及び村會の長老として、其先見の明を以てきこえた整然たる論議と相俟つて重きをなし村政の向上發展に顯著なる功績を残して來た。殊に消防組頭としては消防機具の整備、其機構の充實を計り消防事業に盡瘁せる功績は村民の忘れ難き處である。氏はまた、飽海郡、荒澤、平田十ヶ村聯合消防會長としても、其深き蘊蓄と體驗に基礎づけられた敏腕を振ひ、地方消防事業の向上發展に貢獻裨益せる處甚大、或は水害豫防組合會議員として地方民の生活を災害より安泰な

らしめること異常なものがあつた。かくて尙上田村外四ヶ村聯合傳染病組合會議員を兼ねたる。氏の存在は當地地方社會生活の安寧の確保の重要人物として絶大の聲望を加へつゝある。此等氏の活動の根據は曹洞宗に深く歸依して得たる確固たる信念に基き力強きものである。將來氏の大成が期待せられてゐる。

中平田村本川

村會議員 佐藤善治郎

燈火の下に坐して書に親しむの秋、氏は終日村政に活動したる多忙なる身を以て、夜は讀書に時を過すを樂しみにしてゐる篤學の人格者である。

當家は七代連綿と續いた家柄にして代々農を營み、當村の舊家と言はれてゐる。先代を健之助氏と稱し篤農家であつた。

その長男として、明治三十一年に生をうけ、當年四十一歳の壯年銳氣滿々として青年の發刺さを有してゐる氏は、村治

に盡しては村會議員に選ばれ、その他土木委員區長等を兼ね、その精勵格勤は實に自覺ましいもので、全村より今後の活躍を囑目されてゐる。

而して反面、讀書を好み、飽く迄研究心の深く、當村經濟の圓滑なる發展を目指して懸命の努力を爲し、村民より厚く敬愛され、大なる信望を得てゐるところである。

又氏は圓満平和なる一家をいとなみ、常に春風駘蕩としてゐるは、氏の明朗にして穩健なる人格の反映であらうといはれてゐる。

北俣村丸山

村會議員 高橋憲太郎

高橋家は當村に於ける舊家として、代々人望家を輩出してゐる。勤儉力行家産を造成し來り今や巨富を擁して隱然たる勢力を發揮してゐる。先代久太郎氏は精農家として顯はれ農事上の功勞甚だ多大であつた。

當主憲太郎氏は久太郎氏の長男として生れ、當年五十六歳である。老成渾成の

氏はその人格甚だ圓満にして、その識見は卓抜、その言行は一村の指針として信賴を博してゐる。先には擧げられて農會代議員に任じ、獻策寄與甚だつとめその功績顯著なるものがあつた。また村會議員に當選すること連續五期に及んで現任し正に村政界の大元老である。縣及び村郡等より表彰せられしこと頻繁にして、枚擧の遑がない。

氏はまた産業組合の創立者の一人にして、現に監事の重任を負ひ、公正嚴格大いに盡瘁してゐる。今日その組合の大をなし堅實なる發展をなせるも氏の努力の一事に依るといふも過言ではないとせられてゐる。氏は曹洞宗を奉じてその信仰甚だ熱心敬虔である。その性格は寡言にして果敢、明朗にして磊落、慎重にして謹嚴である。まことに君子人にして後進誘掖に任じ、全村の人心を一身に集めてゐる。

日向村

村會議員 富樫龜藏

氏は明治十年一月二十三日の生れにして、富樫家に養子入籍をなした人である

先代の次郎右衛門氏は、村會議員を十六年間勤続し、強靱な意志と忍耐力とを備へた重厚な風格の持主にして、自説を固持して、他を説得せねば已まぬといふ激しい氣性あり、その遠見老識を驅使して村會に活躍をなし、その功績は他の議員達を壓するものがあるため、自治五十周年記念には、自治功勞者として表彰を受けし人で、現在七十五歳の高齡にあるも今尙壯者を凌ぐ概をもつて、村政に盡力を續けてゐる。

當主龜藏氏は、日露戰爭には逸早く應召され、陸軍一等看護長として、滿洲の曠野を縦横に活躍を續けたため、勳七等に叙勳された。歸村後は、農業に精勵する傍ら、村政にも多大の關心を寄せ、村會議員の要職にありて、農村行政問題に

献身的な盡力をなす傍ら、副區長、學務委員、衛生委員、郷會組合副組合長の顯職を兼務してをり、特に、學務委員として、村童の教育に腐心し、諸設備の完備を圖りて、訓育の便をいたすなど、その功勞は特筆に價するものがある。

尙、氏は、徳義心深く、謙虚な心の持主なるため、村民一致の推擧をうけて、村社三神社の氏子總代を務めてをり、又曹洞宗にも深く歸依して、篤信家と謳はれてゐる。

南平田村

村會議員 新田嘉七

新田家は、村内に於ける由緒深き舊家にして、今日に至るまで十代を數へ、代々の人物皆献身村治に力を致して、村民の崇敬を受けること極めて篤い。

當主嘉七氏は先代喜右衛門氏の長男として出生、ひととなり温厚にして謙讓の心深く、常に陰徳を施し、人々の畏敬する處となつてゐる。先代喜右衛門氏は村

民の輿望を擔つて村會議員に立ち。數々の治績を残したが、嘉七氏も亦、村會議員に選ばれ、現在六十一歳の老齡を以て尙村の福祉の爲専心努力、その篤實無私の奉公ぶりは、村民感謝の的となつてゐる。

尙、氏は篤い信仰心を有し、深く曹洞宗に歸依してゐる。

大 澤 村

村會議員 丸藤 善次郎

氏は資性實直にして然も度量豊なる人物である。亦外面頗る柔和なれども、内心鋭き精神を藏し、全村の信頼を受けてゐる。早くより村治に意を注ぎ、村の産業振興に盡す處甚大で、選ばれて村會議員となり、數々の功業を樹てて引き続き職にあること五期、現在尙その任にあり六十三歳の今日愈々村の利福の爲に盡瘁その功業は廣く認められて、今回の自治制發布五十周年に際し、自治功勞者として内務大臣より表彰せらるるに至つてゐる。

此の光榮に感激せる氏は、餘生を公事に捧げんとする素志一層固く、村會議員中の長老として、多くの抱負經驗の實行に努めてゐる。

西平田村大宮

村會議員 齋藤 傳吉

農村は目下重大なる轉換期に來てゐる日本の工業發展の陰にあつて、兎角喘ぎの吐息をしつゞけて來た農村は、國勢振興のためにもその甦生が重要視されて來た。氏は當年五十六歳、先代政治氏の長男にして六代目である。先代の區長代理を勤めた後をうけて村の公共事業に盡す事が多い。

村の甦生に常に問題となるのは圓滑なる金融に關する事であり、村の收支の合理化である。即ち農村金融機關の一として勸業銀行農工銀行等があるが、その組織運用とても中小農業者のためのものなら

ず、その短を補うて組織されたのは、産業組合法による信用組合である。

氏はこの重要な信用組合に入つて理事となり、村民の味方となり、能ふ限り村民の要求を充す事に努めてゐる。またこの村政重大の秋に村會議員に推され、事務澁滞に對しては聊も借責する所がない。大宮區會の會計を受け持ち、怨嗟の聲を聞く事がない。この温厚にして篤實謹嚴なる氏はまた選ばれて方面委員となる。氏の最も適材の職務として村民の喜びや大きい。

曹洞宗を信じ、長男政治氏本年二十九歳にして家業に従事、更に消防組員として村の安寧のために働いてゐる。

上田村鶴田

村會議員 白幡甚右衛門

白幡家は當部落開拓者の一人として歴代村民の敬仰して措かざるところであつて、篤農家を輩出し勤儉以て家産を造成し來れる名門である。

當主甚右衛門氏は先代甚右衛門氏の長男として明治三十五年に生る。代々甚右衛門を襲名するは家憲である。氏も亦た公共に奉じ世務に盡力すること常に熱誠を盡し、政界に志して民政黨に屬し、最も有力なる黨員として信任を博し、現に村會議員として二期連続當選して盡瘁しつゝある。また産業組合を同志と共に創立してその理事に任じて活躍してゐる。

同組合の基礎やうやく確實となり、成績も甚だ優秀となり更に著々と發展を加へつゝあるは氏の貢献するところ少からざるものありといふ。今や村政界の中堅者として第一線に進出し、今後の活躍は期して待つべきものがある。

氏はその資性温厚にして堅實、實際的手腕家である。曹洞宗を奉じて極めて篤信である。氏は信念努力の人として經驗に富み、村民悉く敬仰信頼してゐる。

中平田村

村會議員 岡田 平太

當家は代々農を以て業とし氏は今より四十九年前仁吉氏の長男として生れ、五代目の當主として家統を繼いだ。

正義感を以て一生を終始せんとする眞摯几帳面な人として村民の信望の厚い氏は村會議員として二期在任してゐる外土木委員農會總代、統計調査委員の要職を兼任して村治、産業向上發展に盡し顯著な功績を残して來たが、殊に長期聖戰下の非常時局突破のために、勞力並びに物資の動員下に村生産力を確保し、更に發展せしめ銃後農村をして長期建設への負擔力を増進せしむべく、耕作方法の轉換、灌排水施設の完備を圖ることは勿論、水害、冷害に抵抗力ある農産品種の研究、選擇に寧日なく盡瘁し氏の存在は當村の中堅として益々重きを加へてゐる。氏また曹洞宗に深く歸依し、信仰心の篤きことを以て知られてゐる。

日向村新出

村會議員 阿曾 宇平



當家は土地の舊家にして、開祖以來八代を數へてゐる。農を以て家業とし、代々の人物よく業務に精勵す

る一方、村の發展を圖る處多く、村民の衆望頗る厚い家柄である。殊に先代宇平氏は、村收入役の重任を帯びるなど、信頼極めて深い人物であつた。

當主は先代の時、望まれて當家の養子に入り、宇平を襲名して今日に至れるもの、資性醇良實實にして、公事公共の念厚く亦内面剛毅勇健の氣象を有してゐる人物である。さきに日露戰役の時、名譽の召集を受けて、欣然征途に就き赫々たる武勳を樹てて凱旋、勳八等に敘せらるるの榮譽に耀いてゐる。郷里に歸るや献身して村の福祉發展に努め、各種の公職に歴任して數々の治績を残し、村民の信望を受けたが、今や六十二歳に及ぶ今

日も尙健在、村會議員、方面委員、區長等の要職にあり、老來愈々壯者を凌ぐの元氣を以て、精勵努力村治に盡瘁してゐる。

氏は亦、曹洞宗を信仰すること誠に篤い。

大澤村山添

村會議員 高橋 祐藏



氏は先代村會議員三十郎氏の次男にして明治三十二年二月四日の出生である。新進氣鋭の人に於ては時折見廻りたる田畑の事情を述べる意見を開陳して一層の改善に資する所が多い。

ついて一家の識見あり、國家の動きと村政の動向について注意する事がない。氏は神徒總代であり、農會總代となる。農會に於ては時折見廻りたる田畑の事情を述べる意見を開陳して一層の改善に資する所が多い。

特に消防組部頭に任ぜられて警備保安、防水消火の任に服し、多年に亘つてよくその使命を全うし、上下の悉く讃嘆敬仰してやまざるところであつた。

當主重三氏は重三郎氏の長男として明治十六年に生れ、當家第十二代を相續したのである。嚴父の志をついで氏もまた消防組に参加してその部頭に任ぜられ、敏活勇敢、義俠鄭重を以てその任務の敢行に努力し、全村民の絶大なる感謝と信頼とを博してゐる、村會議員にあげられて連續二期目に在任し、全力を傾けて奔走努力して倦まず、撓まず最も忠誠實直にその責務を盡し常に選舉區民の信頼に報ゆるところ厚く、稱讚信任を一身に鍾めつつある。氏は政友會の最も忠實にして有爲なる闘士としてその貫録を示し、愛郷の精神は燦然として中外に輝きわたつてゐるが、黨則に拘泥しこれを墨守するが如き盲従者流とその選を異にし黨臭を脱してよく公明正大を嚴守し、大處高所に立つて是々非々その出處をあやま

村會に推されて議員となり、農村の向上、村民生活の安定の件に就て問題を提出し、村會の議事を活潑にしそのよき決定を齎らす事に努めた。議事の決定を見れば直ちに實行に移す事を督勵し、村治に對して些の遲滞なき事を以て信念とした。曹洞宗を信じ宗教に對しても志が篤い。

西平田村

村會議員 本田長之助

かつての日露戦役に出征、曠漠たる滿洲の野に死線をくぐつて幾轉戦、赫々たる武勳を樹て、郷黨の輿望に應へて凱旋することを得た氏は、其勳功を嘉せられ勳八等功七級に叙せられた勇士である。剛毅果斷磊落明朗の資性を以て敬慕せられてゐる氏は郷土にあつても家業たる農事に營々として精勵、其子孫のために家運を興隆せしめた。政治的には嚴正中立一黨一派に偏せず専ら村民の福祉増進、村勢の發展に裨益せんとする氏の存在は

らざるは、まことに氏の人格識見の卓拔優秀なるを反映せるものといふべきである。その資性は頗る濃厚にして篤實、情誼に厚く、よく同輩を助け後進を誘掖し更に先輩古老に對して禮讓敬重は至らざるところなく、その至誠盡忠の性格を吐露して餘すところがなく、萬人悉く感服せざるはない。禪宗を奉じてその信仰懇篤敬虔にして、心膽を鍛鍊して人物益々渾熟され、今後の氏の雄飛は期して待つべきものがある。一家十一人圓滿裡に愈々繁榮を極めてゐる。

中平田村

村會議員 伊原文吉

磊落明朗の一面人情深く多方面の人々から親まれてゐる氏は當年とつて六十四歳、壯者をしのぐ矍鑠ぶりは近隣の驚異とする處である。

多年に亘り區長の要職に在つて、村民の福祉増進、村勢の發展に多大の功績のあつた先代重兵衛氏の長男として生を享

愈々深きを加へて現に村會議員、區長、信用組合監事の諸要職を兼任して活躍してゐるが、五十八歳にして壯者をしのぐ其壯健は尙將來を待望せしめるものがある。

父祖崇拜の念の厚い氏は、曹洞宗を其宗旨とし佛道に造詣が深い。其家庭は頗る圓滿にして、近隣の羨望する處、十人の大家族である。

上田村安田

村會議員 守屋 重三



守屋家はその創立以來星霜を閱するに頗る久しく、今日に至るまで代を重ぬること十二代である。代々

農を以て業とし篤農家の譽高く、勤儉力行を以て著聞し家産甚だ豊澤である。先代重三郎氏は染物業を營んで盛業を極め

けた文吉氏は當家の九代目に當り、代々の家業たる農事に精進、種々農事改良を企圖して實績多く篤農家として聞えがいが、また先考の遺志を繼ぎ區長、農會總代、衛生組委員、消防組部頭等を歴任して村治、産業の向上發展に貢献裨益する處甚大にして村民の信望を擔ひ推されて現に村會議員の要職に在り愈々暴支膺懲、東洋平和樹立の聖戦下の農村に山積せる難問題を克服し、國民總動員の實を擧ぐべく寧日なく活躍してゐるのである。また氏は信仰心篤く、曹洞宗に歸依することが深い。

日向村升田

村會議員 池田 善三

池田家は當地の舊家としてあらはれ、祖父の代まで肝煎役世話役を勤め來つた名門である。代々農を以て業とし篤農家を輩出してゐる。勤儉力行にして家産亦た豊澤である。

當主善三氏は猪之助氏の長男として生

れ、當年五十歳である。先には産業組合の成立を援助して功あり、その監事或は理事の任に就いて寄與貢獻少からず、遂に今日の盛大を得るに殊功をいたしたといふ。現に村會議員に當選し連続二期目に任じてゐる功勞極めて著大である。老成圓熟の氏は地方情勢に通曉して到らざるものなく、その言行は一村の指針として信任甚大なるものがある。氏は政友會に屬して當地方に於ける指導者的存在である。讀書に趣味深く、また諸國の農事視察を樂しみとしてゐる。

氏は資性温厚にして篤實、よく衆を容れ清濁を分たす、また禪宗を奉じてその信仰が極めて深い。親切鄭重の氏はつねに後進を啓發誘掖し、指導激勵し、かつまた顧問の任に當つてゐる。

西平田村大宮

村會議員 佐藤六右衛門

粒々辛苦とは誠に農家の勞苦より成された言葉の如くである。米の一粒／＼に

その勞苦を刻み込む農民や國民の安危を双肩に擔ふとも言へるであらう。

當家は今既に十代を閑する舊家にして代々村民との慈しみが深い家柄である。星を頂きて出で月を踏んで歸る、それは舊家として村民の範たり得る所以でもあつた。かくて氏は方面委員に推され、貸賃價格調査委員の職につき、更に村民の尊敬を厚くした。

現に村會議員に當選、區長となり、信用組合理事として活躍してゐる。目下日支事變に際會し、加へて日ソの關係陰雨を含みて西北を壓してゐる秋、農村の重大性は再び經世家の俎上にあつてゐる。この時期に村民の信望を擔つて村議に就任した氏は、それを空しうするなからん事を期し、汝々職務遂行に専念してゐる。積善の家に餘慶あり、一家代々の尊き營みに報いられて子孫相次いで秀いで、又六左衛門氏長男伊四治氏當年三十六歳父の志を繼ぎ、農事に専念する篤農家である。農事實行組合長、飽海郡養鶏組合

理事等に就任農村振興のために努力してゐる。家内誠に睦まじく、曾つて物荒い聲を聞いた事がないとは村人の話である

上田村吉田

村會議員 渡部 喜市

當家の祖先是當吉田部落の創始者たる由緒久しき最舊家にして祖父の代まで糶屋を營んでゐたが、先代萬吉氏は多年に亘り區長の職にあり部落の隣保共助の融和を計り絶大の信望を擔ひ村會議員として村政に關與してゐるが、其抱負經綸は村治の伸展に頗る顯著なる功績を残せし人物であつた。

當主嘉市氏は先代萬吉氏の次男として明治二十一年に呱呱の聲を擧げたが、當家の家統を繼ぐことになつた。氏は民政系の人、自治の發展に意を注ぎ事に當つては正義感に基いて行動する處、一黨一派に偏せざる雅量あり、信頼なし得べき人として衆望を集めて先代萬吉氏の後を繼ぎ村會議員に就任すること二期に及び

至誠以て鋭意村政に盡瘁し、適確整然たる論議と相俟つて村會の中堅人物として氏の存在は日々重きを加へ、今後の貢獻亦大いに期待せられてゐる。眞言宗に歸依して、其信仰心堅固なる氏は温和なる人情味溢るゝ、高邁なる精神の持主にして、其家庭は九名の大家族にて團樂の談笑絶ゆることなき、人も羨望する頗る圓滿なものである。

中平田村小牧

村會議員 鈴木 豊太



當鈴木家は當村に於ける舊家にして、代々農を業とし精農家を以て顯はれてゐる。勤儉力行家産を造成し

富裕なる名門である。先代豊吉氏は殊に勤勉精勵を以て聞え、篤農家として推稱せられ農事上の功績顯著なるものがある

當主豊太氏は豊吉氏の長男にして、當年四十六歳好個の紳士である。陸軍歩兵一等兵に任ぜられた。特に在郷軍人分會のために貢獻奔走すること甚だ熱誠を極めつねに村自治産業のために奔走すること多熱心堅實である。その人望を博すること多大にして村會議員に當選してその任に在り、益々任務のために盡瘁すること多く著々として實績を擧げつゝあるが更に土木委員、農會總代、同評議員及び區長代理の要職を兼任し全力を傾注して努力しつゝある。

氏はその資性極めて温厚にして篤實、深切にして鄭重、その抱負は遠大にして實際的である。しかもその半面は明朗にして磊落、頗る樂天的であり進取的である。氏は園藝に興味深く造詣が深い。常に社會情勢を先見明察して、品種改良、適種増殖等につとめ、研究調査に精勵して倦まず怠らず、その實績を得る毎に惜しむところなく、村民に公開傳授して全村のために寄與するところ決して少から

ざるものがある。氏は淨土宗を奉じてその信仰甚だ篤く、奇特なる人として推稱されてゐる。氏やその前途春秋に富んでゐる。今後の飛躍は期して待望すべきものがある。

一家は氏の人格性情の光被するところ厚く、つねに春風駘蕩として圓滿平安のうち繁榮を極めつゝある。

日向村

村會議員 富樫 彌平太



當家は村内の名門で、代々村會議員として、村政に盡力を續け、村民の絶大なる信望を集めてゐる家で當

主にて、六代を重ねる。氏は明治十五年十月二十五日に生れし先代彌吉氏の長男である。青年の頃には

先代が村會議員、區長等の公名譽職に就任して、熱心に精進を續けて赫々たる令名を馳せてゐた時代なので、氏も深く、その影響を蒙り、農村行政問題を深く究めて該博なる知識を持ち、父君の豊富なる體験を繼ぎて、次第に村民の間に將來の當村を牛耳るにたる有能なる逸材と喧傳され村會議員の要職に就任して、振へる敏腕には他の追従を赦さないものもあるため、現在は、村農會長、區長、方面委員、衛生委員、郷倉組合長の要職を兼任してをり、その高潔なる人格を敬慕されて村社三神社の氏子總代をもつとめてゐる。

西平田村大町

村會議員 住石 文太郎

當年四十七歳の達成期にある氏は、推されて現村會議員として第一期目に在る熱血の士である。その他村民等しく支持する人望は信用組合監事、農會總代、大町水利組合常設委員、西平田消防組副部

期待した。

今次の日支事變にはまた一層の誠を致し、東亞の盟主の速かならん事を祈る。出征兵士の戦勝を祈つて参拜する男女、戦死せる家族の冥福を祈り、今後の生活の神護を希ふ遺家族は、六十三歳の氏の嬰鑠として神に仕ふる姿を見て敬虔を覺える。

先代寅吉氏は長年區長として精勵したが、次男の氏は後繼者となりてまた神職にあつても區長、方面委員に就任、縣神職聯合評議員も兼任す。社會事業と宗教の連繫深きを念とする氏はよくそれを實現し、爲に村民崇敬して止まない。

田澤村

藥帝神社 小野寺重善

當家は先祖代々神職を勤める家で、奉仕の家柄を持ち、高潔なる人格を謳はれ村民の深き尊敬の的となつてゐる家である。

氏は現在六十一歳の高齢にあり、實父

長として、數々の公職に勉勵してゐる。而もその村は村礎に對する貢獻はひとり當主にとゞまらず、先代龜太郎氏も亦村會議員始め幾多の村の要職に就いて非常な努力を残して來た人である。文太郎氏はその先代に懇望されて養子に來たのであるが、よく先代の名を恥しめず家業の昂揚に盡瘁して今日に至つてゐる。

日向村升田

村會議員 村上助五郎

當家は開祖以來十二代を關してゐる。代々農事に従ひ、その改良を目指し、好成绩を擧ぐれば必ず近隣にそれを傳へ、共に喜ぶを常とする家柄である。

氏は明治十一年一月生れ、先代善吉氏に養はれて名跡を繼ぐ。

曾て木炭組合幹事、消防部長等に任じ産業の豊富、安寧のために盡瘁、現に推されて村會議員、實行組合長、郷倉組合長に就任した。

氏は農事に頗る熱心、その改良に見る

べきものあり、現在農事試験場水稻試作地の擔當者である。また區及村の農事改良に盡し、村會に於ては孜孜として農事の精勵發展に之努めてゐる。農業の村上氏として近隣に聞え、その蘊蓄の深さを激賞されてゐる。

醇朴温厚なる士にして曹洞宗を信じ、宗教的信念が眞に強い。

南平田村

縣社小物忌神社 佐藤 清治

氏は代々敬神の念篤き佐藤家に生る。

父祖の血をうけてまた氏も神を尊ぶ事が深い。我國は天照大御神の代より神護によつて安泰を保ち金甌無敵の國として國民の誇り高きものがある。氏は明治三十二年より縣社小物忌神社に社司として奉仕、義和團事件は元より一國の運命を賭したといはれる日露の役、歐洲大戰その他國家有事の場合には神に幣帛を捧げて祈願を籠め戦勝を期した。一方村民に敬神の念の尊ぶべき事を訓へ、常に協力を

有賢氏の長男にして、羽黒神社皇典講習所を卒業せる秀才で、在校中早くも、その將來を矚目されし人であり、英邁にして、端正な風格を備へその舉措は極めて洗練されてをり、その行動は、敏捷なるものがあり、才智の閃きが輝いてゐる。

卒業後は父君の許にありて、嚴格な薫陶を受けて精進せしめたため、人格も圓滿さを磨いて來た。

氏は、父君の後を襲ひて、藥師神社々掌に就任せし頃からは、村治に關しても目覺ましき活躍を初め、永年盡力を重ねたため、その功績も燦然たるものがあり村會議員に推擧を受ける様になつた。

氏の村政に對する經綸には、議員達も深く傾倒し、多數の共鳴者を見出し、期せずして、村會に、確乎たる地位をきづいた。又區長代理を勤め、衛生委員にも就任し衛生事業には、身を賭して活躍をせし爲、當村の衛生事業は、果敢なる躍進をなし、近隣を壓するものがある。

氏は村治に殉ぜんとするの誠意を持つ

てをり、六十一歳の老體を以て、尙も盡力を續けてゐる。

北俣村鹿島

學務委員 高橋 宗太郎

高橋家は當地方に於ける名門にして、その傳統古き家柄にして、代々精農家を以て顯はれてゐる。嚴父與左衛門氏は夙に公共の事に奉ずること甚だ篤く、區長村會議員、消防組合等の要職を擔ひて活躍し、その功勞顯著なるものがあつた。

當主宗太郎氏は與左衛門氏の長男として明治二十六年の出生である。郷里の小學校を卒へてより家業に勵み、嚴父の指導を受けて農業に力めること多年に亘つて令名を謳はれたが、父祖の志を奉じて政界に志を抱き、村會議員改選に出馬して見事に之に當選し、村治上に寄與したるその功績甚だ多大なるものがあつた。今や學務委員の任にあつて、國民教育の督勵監察に全力を傾けて盡瘁しつゝあるのである。

氏はその性格は抱擁力豊にして清濁併せ呑み徒に人を捨てず嫌はず、不偏不黨にして厳正中立を守つてゐる。則ちその人望の宏大を加ふる所以である。氏はまた曹洞宗を奉じて信仰甚だ篤く、心魂を陶冶し膽力を養つてゐる。すでにしてその人物の修練圓熟渾成まことに玲瓏たるものがある。

一家は代々傳へて勤勉節儉を以て知られ極めて貨殖の道に長じ巨富を造成してゐるが、情誼に厚き氏は公共の爲めに散じて吝む所なく、窮厄貧困を救恤して遺さず、その徳風に浴して更生一新の人々極めて多數に上る。氏の奇特の大なる以て敬嘆すべきである。既にこの信望あつて絶大、しかも人格優秀にして識見卓拔、氏の今後の活躍は全村民悉く期して待望にたへざるところなるはまことに所以ありといふべきである。

上田村安田

方面委員 島田 八五郎



本家島田家は當村の草分けにして累代の祖を祭るに際して今尙盛大である。當家はその分家當主は本年七十五歳の高齡にて。尙壯者を凌ぎ、古稀を過ぎたる人とも思へない。

會て郡會議員を三期を通じて貢献、郡參事をも勤めた。村會議員に四期を通じて區長十八年を勤む。民政黨に共鳴し、論議は如何に紛亂してもその蕃きの鮮かな事は人の知る所である。公私の混淆を嫌ひ、事務紊亂を忌み一意その善政の徹底する事に努めた。

村治の成績は見るべきものあり、現在方面委員に推され村人のよき相談相手、世話人である。若し家に病人あり、或は一家の事情思案に餘る時は氏を訪ひて意見を乞ふを常とする。水害豫防組合委員としてまた盡瘁す。水魔の襲來は村民の

心血を一朝にして屠り、生活を危殆に陥入れる。その豫防こそは收穫の萬全を期する事に必要である。氏は組合に盡力する事多年、村民の感謝する所が多い。自治制五十周年記念に村より感謝状を捧げたるは尤の事である。

家族三名。養嗣子は目下の日支事變に村民の歡呼の聲に送られて出征、家人は養嗣子の武運を願ひ、神社に祈願を籠め菩提寺に参拜す。宗旨は禪宗である。忙中閑を娛しみ盆栽の手入れは氏の唯一の趣味である。

西遊佐村藤崎

農會長 今野 源治

當家は開祖より百數十年を経、他村より來り住むと言はれてゐる。長く農事に邁進、年毎に加ふるその研究改良は村民を教へる所多い。

先考八十吉氏は村會議員、その他の公職に従事、村治に貢献する所が多かつた氏は先代の長男にして明治二十三年一

月の生れである。小學校卒業後只管農事に精進、左の如く種々の改良をなし農事に貢献する事多く、幾多の授賞ある篤農家である。

大豆、馬鈴薯、飽海根深種子の改良にて、大正博覽會、大日本農會、飽海郡長第九回山形縣農會等より一等賞、銀盃等を授與、特に葱種子の改良は美事なるものにて、昭和二年石川縣農會主催北陸四縣品評會次いで四年五年北海道及東北六縣品評會に出陳金牌等を授與された。

會て消防小頭、副組頭に從事する事三十餘年に及び、昭和七年よりその組頭に昇進、更に農會長の要職に推された。篤實溫厚、業務に熱心なる氏の眞摯は遂に一般の確認する所となり、大日本消防協會山形支部長、村青年團支部長その他より三回に及び表彰を受く。

宗教を深く信じ、曹洞宗に歸依し、趣味を園藝に持つ人である。氣の鬱する時不満を持つ時黒土のしめりに足を踏み、清澄の空氣に觸るれば自ら氣の清朗なる

を覺ゆるといふ。

家内誠に圓滿、農は國の基であり、和樂の基であると言はれる典型の家である。

西平田村大町

學務委員 齋藤 義一



當家は、土地でも相當の舊家として知られた、齋藤鐵五郎家から分家、獨立したもので、氏は鐵五郎氏の次男明治二十二年六月八日の出生、當家の初代である。農を業として精進、他面公共方面にも心を致して盡力、しかも公正無私の進退はいたく衆を動かし、早くも信望を双肩に擔つてゐる。

曩に信用組合評定委員として、陪審委員として、完全にその職責を果し、いよ／＼信望の度を高め、今二期目の學務委員に選ばれてゐる。常に銳意して教育方

面に奔走、素晴らしい功績を擧げ、氏本來の人格をして一層輝かしいものにしてゐる。

家庭は眞言宗の信徒、一家團樂、いつも和かなもの、他の羨望の的となつてゐる。

日向村

消防組頭 小野 準次

當家は、村内に於ける有數の舊家で、先代敬治氏は、生涯を農事に注ぎ率先して耕作の改良を試みる等、その眞摯な態度は、村民の範となりしもので、當主準次氏はその長男として、明治十一年二月に生れた。

日露戰爭には果敢なる奮戦をなして、各地に轉戦し、目覺しき活躍をなし、その功顯著なるため、勳八等に叙動された稟性、雄邁にして、強靱なる精神の持主であり、兼ねて、義理人情に厚きため村民の氏を尊敬する念、絶大なるものがある。氏は消防組頭の要職に就任するや

組織の強力に専心し、物的、人的兩方面に亘つて完備を急ぎしため、現在に於ては近村にその優秀さを誇つてゐる。

平田村山谷新田

産馬畜産
組合會議員
元村會議員
櫻田 農夫藏

當家は代々農を以て本業となし、既に九代間連綿と續いた舊家である。又村の世話役、村代表などをなし名望高い。

當主農夫藏氏は祖先の業を繼いで農に勵み、傍ら村勢の發展に意を用ひ、出で、は村會議員、區長の要職に推されて、献身的努力をなし、模範的村政者として村内の人望をあつめてゐる。

氏は資性温良篤實、圓滿なる人格者にて、村治上の業績尠なからざるものがある。殊に非常時下の農村に於いて、時局の認識を確持し、村民の團結に依る以外には村政諸般の發展を見るは難く、故に氏は率先して全村の協力を計り、銃後の國民的義務を遂行せんとしてゐる。

氏は現在産馬畜産組合會議員を勤め、

又村農會總代、氏子總代、檀徒總代等を兼任、其の各方面に氏の盡力甚大にして日夜の別なく勤勵恪務、よく職責を完うしてゐるは、特に出征勇士の後顧の憂を解消せんと決心からであるといふ。

斯くの如き優れたる一人の村政者を持つは、今後の當村の發達を期し得べく、村民の支持と囑望を一身にうけてゐる。

尙氏は曹洞宗を奉じ、敬神崇佛の念篤く、又よき家庭人として一家一心和協、圓滿なる良家庭と著聞される。

西平田村大町

縣方面委員 **今野 新助**

細民救済を目的として常に懇切なる事務を遂行しなければならぬ方面委員の職責は實に尊く又至難なる業である。氏は當年六十一歳の體軀を驅使しては寧日なき努力を続けつゝ、その慈父にも優る温かさは縣囑託の方面委員として畏敬されてゐる。

嘗ては區長一期、村會議員二期として

も並々ならぬ奮闘實績を残して來た氏は選ばれて方面委員となるや、その職責に殉ずるの意氣をもつて盡瘁することを誓ひ、その實行に向つて突進してゐる。氏の至誠や眞に偉とすべきで、その功勞や絶大である。

中平田村小牧

縣方面委員 **齋藤 甚藏**

謹嚴そのもので彩られた氏の一言一行



は、全く苟くもしない。當年五十歳人生は四十歳からを念頭に頻りと東奔西走の

活躍ぶりである。方面委員として既に十

ヶ年にわたり、この方面に於ける先輩、その職を重んじて救貧及び救濟事業に萬全を期してゐる。

長男に甚三郎氏がある、今、二十九歳乃父の血を承けて極めて眞面目、瓦製造を業として熱心に働きつゝあるが、その人となりは村の範と仰がれ、當地青年指導の上に大なる寄與をなしてゐる。蓋し今後、本村中堅人たるものとして望を囑されてゐる。

當家先代は甚次郎氏、家業の傍ら公共方面に進出、區長代理として貢献せる功勞も、決して尠少なものはなかつた。當主はその次男に生れた人である。

田澤村田澤

區長 **久松 徳七**
勳七等功七級

當家は家歴極めて舊く、遡つて十一代の祖に發する。代々農を營み、家業に努めてよく堅實な家産を積んだ一方、村内の荒蕪地を苦闘開墾し部落の草創として

深い信望を受けてゐる。

殊に嚴父徳左衛門氏は、篤農家として農事耕作改良に資する點尠からざるものあり、村民より齊しくその精勵を讃へられた人物であつた。

當主徳七氏は、その長男として、明治十二年十月一日の出生、性格勇健にして沈着志操頗る固く事をなすに當つては斷乎初志貫かすんば已まぬ氣概を有してゐる。

氏はさきに日露戦役に召集を受け、欣然として征途に赴き、滿洲の野に幾轉戦武動燦として四邊を壓するものあり、凱旋のち砲兵軍曹に任せられ、勳七等功七級を賜はるの榮譽に輝いてゐる。

郷にあつても亦、氏はよく村の福祉發展に努め、區長の任に在ること既に七年の久しきに及んでゐる他、さきに村會議員四期を重任して、村治に寄與する處甚大であつた。

氏は亦篤く曹洞宗を信仰してゐる。

中平田村大多新田

縣方面委員 **佐藤 門作**

剛健果敢なる氏は當村の舊家に生れ、幼より父萬藏氏訓育の下に勉學した。當年五十二歳である。

適齡に達して美事に合格、家人、村民の祝辭をうけて、勇んで入營、上官の命に之従ひ、友人との間相和して親愛の的であつた。除隊の期に及んで上等兵に昇進、下士適任證を受く。

歸郷後軍人分會役員に任せられ、勤むる事二十年、昭和五年十一月、一戸大將よりその精勵の表彰を受けた。

現在消防組副組頭、區長、統計調査員縣方面委員等に就任、よく公共の事に參與、氏の資性はこゝにも反映して職務の圓ぞの成果に見るべきものがある。

曹洞宗を信じ、佛事に對して誠心よく滑そ信仰厚き人である。家庭誠に靜慮である。

中平田村 荻島

縣方面委員 高橋 信太郎

天保年間に祖先の重次郎氏が三人の兄弟と共に親孝行の廉を以て、時の藩主酒井家より表彰され、褒美として米七俵、鳥目五貫文を授與された家柄である。氏は先代正治郎氏の長男で九代目を継いだ。當年六十三歳。

日露戦争當時、かの難攻不落の旅順攻撃に参加、砲彈彈雨の中に數多の苦戦をくぐつて凱旋した勇士である。爲に工兵軍曹勳七等を賜はる。

凱旋後分會長に就任、實戰の經驗を以てよく在郷軍人農村青年を指導し、一般の氣風實質の中に鋭氣激濁たるものを養はしめた。村會議員を経て衛生組合長に就任更に現在縣方面委員に就任してゐる。圓熟したる剛健の氣實は人を惹き込み包む事多く、法華宗に歸依する性質と相俟つて方面委員は誠に懸民の爲にも氏のためにも喜びとすべく、村民は限りなく氏

を愛仰してゐる。

北平田村 漆會根

元村會議員 鈴木 長市

明治三年生をうけた氏は、當年六十九歳の高齡であるが、未だ壯者を凌ぐ元氣を持つて、當村の長老と敬仰されてゐる。當家は開祖詳ならざれど、相當の舊家と著聞するところ、代々農業を以て本業となしてゐる。先代を勝治氏と稱し、精農家として督勵の傍ら、村治開拓者として村内の信望をあつめた人物である。

その長男として生れた當主長市氏は、村政上種々の功績を挙げ村政功勞者として重要な存在をなしてゐる。

先には村會議員を長年勤め、現在は新井田川水害豫防組合會議員の職にあり、尙氏の豊富なる經驗と惜しまざる努力は村民深く信賴して止まざるところにて、種々の相談に預つてゐる。

尙氏は曹洞宗に歸依して、信仰心篤く圓満平和なる一家をなして居り、温厚着

實なる資性は、よき家庭人として悠々自適の境に靜穩の朝夕を送つてゐる。

北俣村 海ヶ濱

方面委員 久松 作藏

當家は遠く歴史を遡り綿々と打ち續いた舊家なるも系圖記録いつの間にか逸散し不詳である。瞭かになつてより七代目作藏氏に至る。

先代良作氏は名だゝる篤農家にして農事の生字引として信賴が篤かつた。

氏は先代の長男にして本年四十九歳七代目を繼ぎ父祖の家業に従事、農事に熱心である。

日露の戦雲頻に去來する時、よう早くも出征に心を躍らし、聖戰に参加を希つた。日常益々農事に奮勵よく後顧の憂なき様用意怠りなく家人亦その命に従ふ。果して召集の命下り、勇躍出征、轉戰、また轉戰武運誠に目出度くして于載一遇の經驗を數多積んで凱旋した。勳八等の榮譽を擔ふて歡呼の聲に迎へられ、家郷

に落ちつく間もなく望まれて消防部長に就任、二十ヶ年の長きに亘つて今日に及ぶ。消防組は村の唯一の中堅團體にして村の青年間に影響力大にして、その責任眞に重きものがある。氏はよくその職責を全うし、信賴篤く、名消防部長の聞えあり、その人と爲りによつて方面委員に迎へらる。

その誠實勤勉消防協會より表彰されたる氏は方面委員に於ても亦懇切を極め、村民に喜ばれてゐる。植木を趣味として曹洞宗を信じ、醇朴の人である。

目下長男は日支の事變に出征、支那各地に激戦を續けてゐる。

南平田村

區長 阿曾 善藏

當家は土地の舊家にして、創家以來當主善藏氏を以て十代目とする。

善藏氏は先代兼太氏の長男に生れ、性格極めて醇良の人物にして、廣く村民の畏敬を受け、五十八歳の今日に及ぶも嬰

鑠として、尙壯者を凌ぐの意氣を有し、村政に愈々寄與せんと志してゐる奇特家である。先代兼太氏は區長、村會議員等を勤めて令名高かつたが、その血を享けし善藏氏も、區長に推さるること既に二回、現在その任にあつて土地の産業治政に盡す瘁る一方、方面委員に擧げられて村内に於ける貧窮を除く爲、老軀を提げて一意奉公の誠を致してゐる。

氏は亦信仰の心篤く、曹洞宗に歸依してゐる。

稻川村 社泉西谷地

稻川青年團長 繁田 源治郎

當家は遊佐町より移住し來り當部落に於て七十餘年を閑した家柄である。當部落は本村に於ても比較的近年の開拓にかゝる土地にして當家も亦部落開設と同時に移任したのであつた。

開設當初の村はまた農事の事も忙がしく農村として立派なる實を結ぶまでの移住者の困難は非常なものであつた。當家

北平田村

區長 土門 惣藏

我が郷土より出征の勇士が勇戰奮闘のことを思へば、日夜職を完ふし村民一致團結して、健全なる農村の更生に邁進せんとすることを銚後の報國なりとの決心を以て、氏は區長としてよく現時局を認識し、率先して實行に努めてゐる。氏は區長たるの外納稅組合長の職にあり、今日

我が郷土より出征の勇士が勇戰奮闘のことを思へば、日夜職を完ふし村民一致團結して、健全なる農村の更生に邁進せんとすることを銚後の報國なりとの決心を以て、氏は區長としてよく現時局を認識し、率先して實行に努めてゐる。氏は區長たるの外納稅組合長の職にあり、今日

まで種々の業績をあげて来たばかりでなく、強固なる意志と信念を以て、更に健全なる思想と、高潔なる人格は、村民より多大の信望と敬慕を擔つてゐる。當家は開祖不詳なれど、當部落有数の舊家と知られ、代々農を勵み精農家として著聞される家柄である。

先代圓次郎氏は、家業に督勵の傍、村治開拓に携はり、區長及び役場書記などを勤続した村政者である。

當主は養子として入家し、明治十九年呱呱の聲をなげた、當年五十三歳の壯氣満々たる人物である。

目下氏の活躍、灼然として村民一丸となりて出征兵士の後顧の憂ひを解消、銃後の護りを固めてゐるは、當村の誇りとするところである。

中平田村勝保關

方面委員 尾形 銳太郎

當家は代々農業を営む。勤勉精勵なるは人の知る所である。その農耕は村民の

模範として訓へを乞ふ事少くない。

氏は先代富藏氏の長男にして明治二十二年の生れである。氏も亦農耕については研鑽怠りなく、その研究實績頗る顯著であり、村の誇りである。されば村民は擧げて氏を農業實行組合長に懇望し、農耕の改良進歩を期した。

温厚にして着實、一意親切を旨とする氏はまた村民の愛仰の的であり、衛生委員にも推擧された。最近神奈川縣下の村を試験村とし、労働科學研究所が多額の費用と人員を動員して農民の保険状態を調査した所、殆ど全村の約半數がトラホームの罹病者である事が判明した。それに據るばかりでなく、以前から農村の保健状態が問題視され、殊に長期策戦を實行しつゝある今日に於て農民の保健問題が重要にして忽緒に附すべからざるものとの輿論が著しく擡頭して居るが、氏は衛生委員として國家の方針を體し、保健向上に銳意盡してゐる。農業實行組合より感謝状をうけ、且村民より感謝の誠をう

けてゐる。家族六人、質實なる家庭である。

日向村下黒川

區長 小松 三四郎



小松家は當村に於いて屈指の名門にして、代々勤儉力行して家産を増大し、特に精農の家として著聞せる

舊家である。歴代肝煎役、世話役等の名譽職を勤めて令聞が高かつた。先代三四郎氏は志を政界に立て、區長、村役場書記、村會議員等の任を擔ひ努力奔走したの功勞殊に顯著であつた。

當主三四郎氏は家風によつて先祖以來の三四郎を襲名したのであるが、先代の長男にして當年五十七歳である。皇軍に従ひ日露戦役に出征して武勳赫々たり、則ち勳八等を賜はつた。先きには衛生委

員に擧げられて防疫除災の大任を全うして功あり、今や區長の任に在つて活躍してゐる。

氏は夙に修理固成の神道を奉じ、皇典國籍を鑽研すること年あり、皇道國學に精通し、神道神興に曉達せざるはなきに至つた。今や神道教導の職にあつて、權少講義に任せられてゐる。

氏はその資性温厚篤實にして極めて鄭重深切、且つ慎重敬虔である。その一面甚だ明朗にして柔和謙讓、殊に情誼篤く憐憫の情仁慈の心に富んでゐる。今や皇國非常の時局にあつて多事多端の時氏は惟神元道に即して皇道精神の闡明とその發揚を期して東奔西走して已まず、醇乎たる神道精神による忠孝烈士を啓培養成しつゝあるは、隣里郷黨の悉く敬仰信服せずしては措かないところである。穩健にして堅實、中正にして妥當、よく皇國の歴史を正解し、世界の大事を正察し東西の時局の遠觀せる氏が、諄々として説いて倦まず、その至誠は萬人をして、感

泣感動して、純忠至孝の大國民たらしめずには已まないものである。

南平田村

區長 佐藤助右衛門

氏は明治二十七年九月七日に先代又太郎氏の甥として呱呱を擧げた。望まれて當家の養嗣子となつたが、よく家門を立て家運を興し、その誠實無二なる篤農家としての名は村内に噴々たる人望を有してゐる。村の治安に携つては先代又太郎氏も四十年の長きに亘つて區長を勤めた人であるが、その先代の徳を嗣いで當主となつた助右衛門氏も、現在區長として信頼を受けて、指導善導の途に餘念が無い。

一方敬神家としても他に範を垂れ、氏子總代の列にも加はつて居り、常に圓滿なる人徳をもつて人に接するを旨として評判のよい人である。

家庭また笑聲溢る々の平安明朗にして一家協力して家業に勵んでゐる。

北平田村久保田

久保田區長

土門 金吉

氏は本年十四年目勤續の久保田區長にて、清廉高潔の人格者として又長年の村政功勞者として、村民よく敬仰し畏服するところである。明治三年出生の氏は本年とつて六十九歳になる。高齡なれど尙錚々として村政に盡力、區長たるの外、納稅組合長、水害豫防組合會議員を兼任してゐる。各方面に於ける氏の足跡は歴然として、業績灼爾たるものである。

當家は既に七代目を數ふる舊家にして代々農を營み、先代石藏氏は篤農家として治著され、また村治にも種々功績を残して信望を得た人物である。

當主は養子として入家したもので、村政に於ける功勞と共に、一家の繁榮に努め、一族皆協心して平和に満ち、和氣霽々たる家庭を作つてゐる。尙氏は篤信家にして曹洞宗を奉じ、當村の重鎮として堂々たる存在を示してゐる。

中平田村勝保關

勝保關區長

池田 仁平太

當家は草分けの家として知られてゐる往時開墾事業に貢献し、村民の信望厚かつた事が未だに語り傳へられてゐる。

先代石藏氏村會議員として村政に携はり治績を擧げる事著しかつた。

氏は先代の長男に生れ當年七十歳、古稀を迎へて尙壯者を凌ぐ。若くして兵役に入り、國家を賭して火蓋を切つた日清日露の戦に出征し、東亞の平和を守る聖戦に参加したのである。殷々たる砲火をくぐり、血の屍を越え、幾山河馳驅したる氏の功勞は認められ、凱戦の曉勳七等を賜り歩兵軍曹に昇進した。

歸りて信用組合監事の重職に就き、區長二十年勤続して村民の人望が篤い。

宗教を奉ずる心深く曹洞宗を信じ、忙中閑あれば、盆栽の手入、花を植ゑ、庭の美觀を保つ事が唯一の趣味である。又家庭は圓滿なる定評を得てゐる。

日向村泥澤

方面委員

池田 源太

池田家は當村に於ける名門にして、代々農を以て



業とし、勤儉力行以て家産甚だ豊澤である。

當主源太氏は先代留之助氏の長男にして、當年四十三歳である。男盛りとして膏のつた働き盛の氏は、私生活の一切を顧慮するところなく、東奔西走して公益世務のため盡瘁し、その席は殆んど暖まるに暇がないといふ。氏は在郷軍人分會長として一期間同副分會長として二期間を勤めてより産業組合理事に任じて手腕を發揮し殊功を樹て、消防組部長に任じて十三箇年間勤続し警備保安の任務を全うして居る。今や區長として連續五期間に亘つて盡瘁し、また縣方面委員の任に就いて活

躍しつゝある。先に自治制發布五十周年記念に際し村當局よりその功勞を顯彰せられた。

氏はその資性頗る温厚篤實にして慎重謹嚴、然も豪放磊落にして甚だ寛大である。その思慮は周密にして遠大、一度自信を得るや正理正義を執つて奮起し、熱辯宏辭たゞ誠實の一念を以て説服せしめなくては已まないものである。氏は特に情誼に厚く仁慈の心に富み義侠心が強大である。氏の如き實行家を以て方面委員たらしめてこそ、その使命を完遂するものにして、適材を適所に就かしめたるものといふべく、早くも窮厄を起たしめ、貧困を激勵せしめ、隣保相扶けて苦艱を克服せしめ、その指導誘掖と激勵慰藉とはまことに適切功妙を極めてゐる。氏の人格識見の發露の然らしめるところたるのみならず、氏の實力實勢のその才幹學識を映發せるものでなければならぬ。又氏は常に新舊の典籍に頭腦を養ふ傍ら禪宗を信奉すること篤い。

南平田村天神堂

天神堂區長

佐藤 農夫太

當家は開祖以來六代目に至る土地の舊家である。

當主農夫太氏は、甚作氏の次男に生れ本年四十九歳、性格質實にして業務に頗る熱心の人物である。嘗て警視廳巡查を拜命し、十二年の久しきに亘つて勤勉精勵、よくその職責を全うし、郷に戻るやその手腕を村内の治政産業の爲に捧げ、現在區長に推されてゐる他、貧困者救護の任に當り、亦、産業統計調査員を勤めて顯著の功を擧げてゐる。氏の廉直高潔の人格は、村の人望を集めて期待せられる處甚大である。

氏は尙、曹洞宗に歸依し、讀書を趣味としてゐる。

北平田村會根田

會根田區長

佐藤 兵作

現非常時下の農村更生を目指して、心

ある愛郷家は團結して起ち、如何なる難局をも敢然と打破せんとする意氣あり、佐藤兵作氏もその一人として、六十七歳の高齡をも厭はず、献身的努力をなしてゐる。

氏は現在會根田區長として既に十年に餘り勤続中にて、尙納稅組合長をも兼任してゐる當村有力なる人物である。

その永年に亘る村政發展の功勞は、數ふるに遑なく、又謹直にして意志強く、半面人情に厚く、犠牲心に富む氏の資性は、全村の信任を一身にあつめ、敬愛をく能はざるところである。

當家は開祖のこと不詳なれど、農を営みて連綿と續きし家柄にて、舊家として知られてゐる。尙氏の人格は家庭にも反映して、淳良の家風と圓滿平安なる一家をいとなんでゐる。

中平田村中組新田

中組新田區長

佐藤 彌右衛門

當家は開祖を古きに遡り、年代詳か

ないが判明してより既に十一代、當主彌右衛門氏に至る。代々彌右衛門を襲名する。

氏は先代の長男にして本年七十六歳、正に米壽を迎へんとして尙強健である。

會て村長、助役の要職につき、村治に盡す所多くして村民讃仰する所篤かつた日清、日露の兩役に銃後の守りに功績を擧げ、勳八等を賜はる。

現在區長の職にあり、五十年の勤績は眞に珍寶とするに足るべく、村民の信仰を暗黙の裡に強く物語るかの觀がある。更に縣方面委員を兼ね、村民の事細大に拘はらず知悉する氏はまたその相談相手として殆ど完璧に近く、以てこの施設に充分の誠意を發揮してゐるものゝ如くである。家庭は常に和氣に充ち、村政に盡瘁之事とする氏は一面また齊家の人である

日向村福山

方面委員

加藤 民藏

加藤家は當村に於ける屈指の舊家にし

て、創始以來相傳へて代を重ねること今日まで十代目を算してゐる。代々地方の世話役、肝煎役等に擧げられて功勞少なからず、人望家として全村の敬仰をあつめてゐる。

當主民藏氏は明治二十七年の出生にして當年四十五歳の男盛りである。消防組頭に推されて警備保安の大任を擔ひ、衛生委員として防疫除災に努力して席暖まるに暇がない。氏は海軍機關兵として兵役を完了した。常に公益世務に努めること甚だ熱心にして、夙に政友會に屬して最も有力なる黨員として信任を博し、當地方政友會幹事として勢威甚だ盛大である。今や縣方面委員の任にあつて盡瘁中である。氏はその性格多血的にして極めて情誼にあつく、俠義の心に富み仁慈の情が深い。君の斯の任に在るは全く適材適所を得たといふべきである。すでにその成績甚だ優秀にして、斯界にその令名治く、その將來は囑望されること極めて篤いものがある。

氏はその資性温厚にして篤實、寡言にして深慮敢行の人である。敢て勢利名望に執着せず、恬淡たること水の如く、正義正理を執つて起たんか烈々たること火の如く、氏はまことに信念の士にして努力奮闘の實際家である。禪宗を奉じて機根鋭く信仰深大なものがある。弱者の味方としてその輔翼、誘掖、指導に力めて倦まず、深切鄭重を極めて鼓舞激勵して生活の改善更新を促して實蹟のみるべきもの著大である。

この精神を遺憾なく昂揚して強く、正しく、如何なる難事に直面しても毫も怯まずこれを打開して、その範を村民に垂れてゐる。即ち日露戦役には歩兵軍曹として従軍して、勳七等の名譽を授動され、その報國の心を村治に盡しては、水利組合議員及び區長としては現在六期目に當つてゐる。

就中、此の村の水利に盡した貢獻や甚大その恩恵に浴す村人の感謝は當然であるが、家に在つては亦信仰の徒として曹洞宗を奉じて勤儉である。

中平田村荻島

荻島區長

信太

氏は今や男盛り働き盛りである。誠實にして熱心、眞剣にして堅忍、すでに信望を博すること多大なるものあり、今後の雄飛は期して待つべきものがある。

南平田村石橋

石橋區長

小松 德太郎

今東亞を覆ふ黒雲を吹き拂つて明朗の天地を現出する事に國を擧げて戦つて居る日本の銃後の守りは重い、前線の兵士の勞苦を感謝激勵し、政治に經濟に安固を期し、次代の國民を健全ならしめるのは實に銃後の人の任務であらう。

軍人分會長の職、區長、消防組頭の職

に在る氏は専ら之等の事に奔走して寧日がない。

氏は先代繁藏氏の長男に生れ、七代目を繼ぐ。當年三十九歳である。歩兵一等兵であり、軍人としての生活を知悉してゐる故に、前線への心遣りもまた適切、温厚にして信望厚き氏の言行はよく村民を説得する。

曹洞宗を信じ、家庭圓滿。氏はまた家人を督勵して出征兵士遺家族を訪問し諸々の相談に當らしめ、相共に國家奉公の實を擧ぐるに専念してゐる。

南平田村山谷

山谷區長

齋藤 八百吉

明治三十二年一月九日呱呱の聲をあげた齋藤八百吉氏は、本年とつて四十歳になる。資性温順、着實然して誠實を以て知られてゐる人格者である。

昨今の農村全般に亘る疲弊状態には、氏深く心を痛め、戦時下の農村更生と、其の振興には身命を賭して盡すを厭はず

それこそ銃後農村の、前線にかはる報國なりとし、全村民團結協力の上、國策の線に沿はんと氏の念願である。

氏は先に分會の役員に選ばれ、地方青年の向上進展に貢献するところ甚大、現在推されて區長となり、名區長として人望を得てゐる。村政の發展、村民の福祉、村風の改良等に専心努力、氏の業績は赫々たる輝きを示してゐる。

當家は村内に於ける屈指の舊門として知られ、その開祖に就いては詳やかでないが、代々農を以て家業となし、又村の世話役などして信望高く、先代作助氏は精農家として家業に督勵する傍ら、村治拓の基礎を築いた人である。故に村民より敬慕されて區長となり、又村會議員に選ばれ、功勞多大であつた。

當主八百吉氏はその長男にて、歩兵上等兵の軍籍にある。一意當村の更生發展に献身、今後の農村は氏の如瀧刺錚々たる人物の双肩にかかるを期待され、囑望されてゐる。

尙氏は曹洞宗に歸依して、篤信の心あり、誠實なる人格を映して、一家團樂、和氣霽々たる家庭をいとんでゐる。

中平田村茨野新田

茨野新田區長

千葉 常治

三百五十年前に創設されたといふ當家は、現在當村に於ける最も舊家と數へられる家柄である、先代を友七氏と稱し當主は明治二年生れ、養子として入家したものである。

本年七十歳の高齢なれど、未だ嘖々として活躍、現在茨野新田區長として、既に三期目を勤續中である。その外區納税組合長、衛生委員を三期、村會評議員、村會議員等村政凡ゆる要職を歴任しました皇太神社の氏子總代を二十年の永年に亘つて勤めてゐる。

その業績は灼然として、村政史上に輝き氏の生涯は専念村政者としての道であつたといふも過言ではなく、全村より多大の信望をよせられ、敬仰的となつて

ある。

然も穩健・圓滿なる人格は相俟つて、
當村の有力者として堂々たる存在である
氏は尙曹洞宗に歸依し、敬神崇祖の念深
く、平和なる一家を構成してゐる。

南平田村山谷新田

山谷新田 區長 **三浦 作治郎**



氏は明治十三年八月六日生をうけ本年
五十九歳に
なる。濃厚
健全なる精
神と、高邁
なる人格は
當部落のみ



ならず近郷近在に響き、山谷新田區長と
して名望を
馳せてゐる
氏は區長
の外、氷雪
營業組合の
代表者に選

ばれ、深く信頼されてゐる有力な人物で
ある。

當家は五代目を繼續した家柄にて、先
代作右衛門は、家業精勵の傍、村政に参
與し、區長、村會議員等の要職に推され
て、當村開拓の礎石と成つた人物である
その勤勉なる努力と熱烈なる精神は、よ
く業績を挙げ、また村内の信頼と敬仰を
一身にあつめた。

當主はその次男にして、父子代々區長
を勤績飽くまで當村の圓滿なる發展と、
村民の福祉増進に専念盡瘁してゐる。

南平田村山谷

篤農家 勳八等 **阿部 惣太郎**

當家は開祖以來九代に及ぶ村内有数の
舊家にして、亦土地の尊敬篤き素封家だ
であるが、殊に祖父小太郎氏の代より家運
隆盛に向ひ、先代末太郎氏亦よく家業に
勵んで倦まず、今日の産を築いてゐる。
祖父小太郎氏は八十一歳の高齡を保つ
て逝去、存命中長くも時の大正天皇より

北俣村本宮

北俣村長 **阿部 永助**

阿部家は、土地に於ける舊家であり、
かねてまた名門の家柄でもある。代々農
業に精進、農耕上に貢献する大なるもの
あると同時に、他面公共方面に寄與して
その功をたゞへられてゐる。

先代永作氏は、夙に村治に力進、一村
の名望を双肩に擔つて村内に重きをなし
遂に推薦せられて村長の要職に就いた。
一度その任に就くや、多年の宿望をこの
方向に注ぎ、村治の改革に、刷新にと東
奔西走、一村の期待に副ふまことに大な
るものがあつた。その惠徳は今に及んで
感謝されつゝある。

當主永助氏はその長男、本年五十一歳
の働きざかり、父君の衣鉢をうけてこれ
までかす／＼の名、公職を歴任、その功
績父君に劣らぬものがあり、現に村長の
榮職に在つて村政のすべてに鞅掌、一村
百年の大計のために、文字通り寢食を

忘れての活躍ぶりには、村民一統の共に
感謝の念をさ／＼げつゝあるところで、父
子相繼いで自治功勞のいかに大なるも
のあるかを知るべきである。
氏のある限り、當村の安泰と村勢の發
展とは、決して間違ひなしである。

北俣村鹿島

村會議員 **浅井 善十郎**

浅井家の始祖はいつ頃の人か、相當の
年代を経てはゐるが、詳しく知ることの
出来ないのが遺憾である。代々農を本業
となして今日に至つたもので、曾ては篤
農家を出してゐる。

先代の喜代作氏は、家業大切と疾くか
らこの方面に勵精するところが、次
第に増産、現在の家礎を築き上げたもの
で、當主善十郎氏は明治二十七年に生れ
先代氏の懇望にまかせて當家を繼いだ人
である。

氏は事に當りて忠實であり、眞摯であ
り、且つ極めて責任感の強い性格の持主

木盃を下賜せらるるの光榮に浴してゐる
先代末太郎氏は、家業に精勵して周囲

より讃へられる一方、公事方面にも數々
の寄與をなし、區長を勤めて信頼篤く、
當年七十一歳にして、今尙矍鑠として壯
者を凌ぐの元氣あり、學務委員に任ぜら
れて既に三期、現在その任にあつてよく
職責を盡してゐる他、氏子總代等を勤め
て、老來愈々献身の勞を致してゐる。

當主惣太郎氏は、その長男にして、當
年五十歳の壯齡、さきに消防組頭、農會
獎勵委員、實行組合長を勤めて、いづれ
も過ちなく、殊に農事耕作改良に甚大の
力を傾けて、村内の産業發展に多くの寄
與をなしてゐる。

氏は亦、信仰の念頗る篤く、村内の神
社、寺院等に多くの寄進をなしてゐる。

であり、一事を達成するまでは倦まず撓
まず懸命の努力をなす人で、その性格が
衆望を博し、這回の村會議員の改選に際
し、推されて立候補、遂に榮冠を握つて
今、村會に於て村政の論議に參與しつゝ
あるの外、また區長を兼ねて部落のため
にも盡瘁してゐる。

氏は初めての村會登場の議員ではある
が、忠實にして正々堂々の論陣を張り、
村治政に對して先輩などいふ情實を排
しての全くの白紙、そこに氏の強味があ
り、一村の今後を託するに充分なる貫祿
を備へたものといへる。氏の健在を切に
祈る。



伊藤多三郎氏



加藤正英氏



阿部善吉氏



齋藤豊太郎氏



齋藤惣太郎氏



大井利雄氏



前田鶴隆師



金子清右衛門氏



澁谷多郎吉氏



小林與左衛門氏



菅原七郎兵衛氏

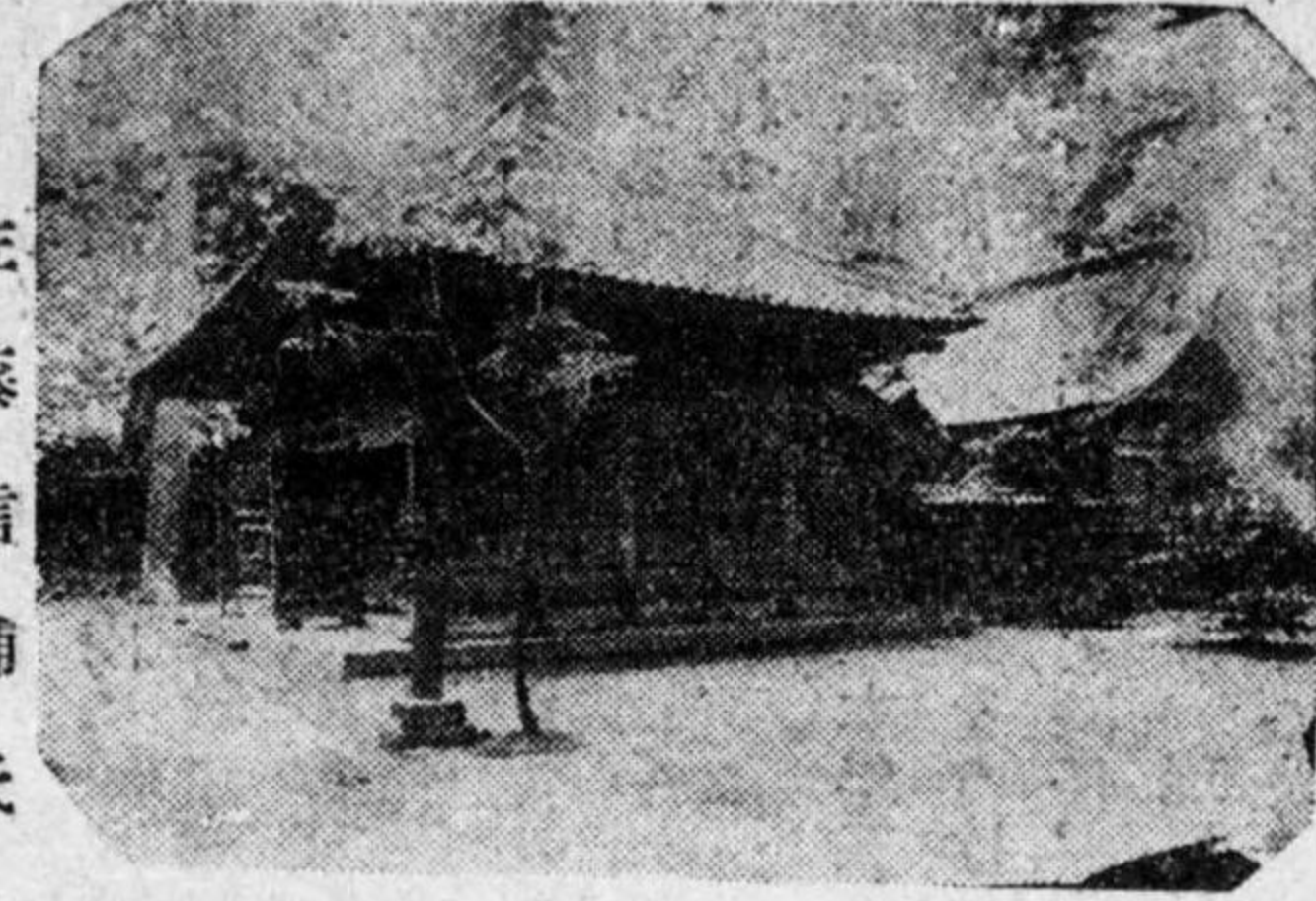


板垣武氏

「東田川郡の人々」



佐藤信輔氏



八幡神社



柿崎岩之助氏



土田正孝氏



伊藤高彦氏



池田康四郎氏



土屋善作氏



國井藤市氏



國井藤右衛門氏



橋本榮治氏

「海郡の々々」



千葉常治氏



久松徳七氏



堀信太氏



佐藤清治氏



佐藤兵作氏



齋藤傳吉氏



佐藤善次郎氏



佐藤彌右衛門氏



伊藤伴三郎氏



遠田帶刀氏



櫻田農夫藏氏



尾形鋭太郎氏

昭和十三年十一月五日印刷
昭和十三年十一月十日發行

(非賣品)

不許複製

東京市本郷區駒込富士前町一

著作兼發行 株式會社 内外通信社
兼印刷人 株式會社 内外通信社
代表取締役 佐藤億兆

東京市本郷區駒込富士前町一

印刷所 株式會社 内外通信社印刷部

發行所

東京市本郷區駒込富士前町一
振替口座東京八一二二番

株式會社

内外通信社

代表 電話大塚七四七〇番

384
502